

演習林年報

2016年度活動報告等

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
2017.6

はじめに

東京大学大学院農学生命科学研究科・附属演習林は、4 地方演習林、3 研究所、企画部・教育研究センターから構成されており、1894 年に千葉演習林が設置されてから 122 年になります。すでに 100 年を超えている千葉演習林、北海道演習林に続いて、2016 年度は秩父演習林が設置 100 周年を迎え記念行事が開催されました。

さて、附属演習林は、本学の教育と研究の支援、そのための森林の管理、社会貢献を基本的責務として活動しています。さらに、自らも本学の教育と研究、特に森林施業法の研究と実践や国際化に関わっています。また、地方演習林と研究所は設置された地域で、単独でまたは地域社会と共同で森林科学の普及などを行い、地方における東京大学の顔として活動しました。

教育関係では、本学の森林科学と林産科学関係の実習支援や教養学部の 1, 2 年生向けのフィールド体験学習に力を入れ、また、国立台湾大学やマレーシアサバ大学等の学生のサマープログラムやインターンシップを企画し、支援を行いました。本学の教養学部の 1, 2 年生向けには 31 科目の総合科目、自由研究ゼミナール、体験ゼミナールを開講しました。これからさまざまな学部に進学していく学生が演習林の体験教育を履修することによって自然に対する意識を高められると同時に、彼らが自然を理解する端緒になればと願っています。今年度、附属演習林には 3 名の 4 年生、11 名の大学院生、1 名の研究生が所属し、彼らに対して教育研究センターがサポートを行いました。研究支援では、本学を含む学生の卒業論文・修士論文・博士論文の研究支援を行い、16 件の卒業論文作成、10 件の修士論文作成、2 件の博士論文作成のために、附属演習林の森林や施設が利用されました。

森林の管理では、8 月に北海道演習林が台風襲われ、橋梁の崩落や林道の崩壊が起きました。また、秩父演習林でも台風による土砂流出が起り、林道に被害を受けました。これらの被害の影響はあったものの被害が著しかった一部を除くと、おおむね予定した森林の施業は順調に行われました。

社会貢献活動として、地方演習林と研究所は、それぞれの場所で公開セミナー等を開き、森林や森林施業の理解を深める活動を行っています。たとえば、北海道演習林では、初等中等教育支援として、校外研修の高校生を受け入れて指導を行い、富良野市と地域交流協定を結んで、小中学生のための森林学習プログラムに推進事業に協力しています。富士癒しの森研究所では、山中湖村と地域交流に関する協定を結びました。2 月には、生態水文学研究所の教員が参加している「矢作川森の健康診断実行委員会」の「森の健康診断～市民と研究者と森林ボランティア協働の森林調査と環境教育活動～」が「愛知環境賞」の銀賞を受賞しました。

国際化では、本年度、日本学術振興会の Core-to-core program として「Developing a network of long-term research field stations to monitor environmental changes and ecosystem responses in Asian forests」が採択されました。この資金を使って、10 月に北海道で、3 月にはマレーシア、サバ州でシンポジウムとワークショップを開催しました。また、12 月に台北市で戦略的パートナーシップ対象大学の国立台湾大学とのシンポジウムが開催され、附属演習林のスタッフも参加しました。さらに、中国の海南大学との部局間学術交流協定締結を記念して、12 月に両大学のジョイントシンポジウムを弥生で開催しました。そのほか、多くの教員が海外の調査に参加し、国際会議に出席しました。

附属演習林が 100 年以上の長きに渡って、本学の教育と研究の支援、森林の管理、社会貢献、附属演習林独自の長期研究を持続できたのは、本学の教員、事務職員、技術職員のお力だけでなく、地方演習林等が立地する地域の方々のお蔭だと感謝しております。今後とも大きなご支援をお願いいたします。

2017 年 6 月
東京大学大学院 農学生命科学研究科
演習林長 富樫 一巳

目次

はじめに

| | |
|----------------------------|----|
| 演習林の概要 | 1 |
| 組織図 | 3 |
| 全演での取組み | 4 |
| 演習林活動の統計 | 8 |
| 演習林規則に則って開催された委員会・会議 | 10 |
| その他委員会・会議 | 11 |

演習林の活動

各地方演習林活動

| | |
|-----------------|----|
| 千葉演習林 | 12 |
| 北海道演習林 | 14 |
| 秩父演習林 | 16 |
| 田無演習林 | 18 |
| 生態水文学研究所 | 20 |
| 富士癒しの森研究所 | 22 |
| 樹芸研究所 | 24 |
| 教育研究センター | 26 |

各常置委員会活動

28

資料

教育活動

| | |
|---------------------|----|
| 大学院講義等 | 44 |
| 学部講義等 | 46 |
| 他大学の非常勤講師 | 48 |
| その他の講義実習対応 | 49 |
| 4研究室の所属メンバー | 51 |
| 所属学生の学位論文 | 52 |
| 森林生態圏管理学大講座ゼミ | 53 |
| 演習林教育研究センターゼミ | 55 |
| 実習等 | 56 |

研究活動

| | |
|----------------------|----|
| 教職員の論文等 | 59 |
| 学会発表等 | 63 |
| 著書 | 70 |
| 演習林を利用して行った論文等 | 71 |
| 受賞・特許等 | 75 |
| 外部資金によって行われた研究 | 76 |

社会連携

| | |
|------------------|----|
| 学外各種委員会等委員 | 80 |
| 小中高等学校への対応 | 82 |

| | |
|------------------------------|-----|
| 公開講座セミナー等 | 84 |
| 学会, 研修, 市民教育等における講演(招待講演を含む) | 86 |
| 管理 | |
| 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種 | 90 |
| 立木伐採量 | 91 |
| 育林実行量 | 92 |
| 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況 | 94 |
| 予算配分収入 | 95 |
| 演習林林産収入細分表 | 95 |
| 演習林技術職員等試験研究・研修会議 | 96 |
| その他 | |
| 国際交流 | |
| 交流事業・国際シンポジウム・共同研究 | 100 |
| 海外渡航 | 104 |
| 外国人研究者の来訪 | 105 |
| 出版広報活動 | |
| 演習林報告・演習林 | 107 |
| 科学の森ニュース | 109 |
| 演習林出版物 | 110 |
| 新聞雑誌放送等 | 111 |
| 安全衛生 | |
| 安全防災のための講習会等 | 112 |
| 資格取得のための講習等 | 112 |
| 災害統計・山火事予防活動 | 113 |
| 研修 | |
| 技術職員 | 114 |
| 事務職員 | 114 |
| 組織図 | |
| 企画部・教育研究センター | 115 |
| 千葉演習林 | 116 |
| 北海道演習林 | 117 |
| 秩父演習林 | 118 |
| 田無演習林 | 118 |
| 生態水文学研究所 | 119 |
| 富士癒しの森研究所 | 119 |
| 樹芸研究所 | 119 |
| 人事異動 | 120 |
| 利用状況 | |
| 全利用者 | 121 |
| 各演習林所在地及び連絡先 | 171 |

東京大学演習林の概要

1890年に東京農林学校が帝国大学と合併して農科大学となり、1894年にはその附属施設として日本で初めての大学演習林が房総半島の南東部に位置する清澄に設けられた。これが、今日の東京大学千葉演習林の始まりである。引き続いて、教育研究目的や森林の生態的な特性を考慮しながら、北海道演習林(1899年)、秩父演習林(1916年)、生態水文学研究所(1922年)、富士癒しの森研究所(1925年)、樹芸研究所(1943年)、田無演習林(1929年(演習林への移管は1982年))が設置され、さまざまな森林帯にわたる約32,000haの広大な面積の、世界的にも貴重で多様な森林資源を守り育ててきた。さらに、2000年度には大学院重点化が行われ、従来から関係の深い森林科学専攻ならびに関連分野の研究者との教育・研究協力関係を一段と発展させながら、大学院農学生命科学研究科の他の附属施設(農場, 牧場, 水産実験所, 動物医療センター, 緑地植物実験所)とともに生圏システム学専攻の協力講座として新たなスタートを切り、大学院教育にも主体的に参画している。現在、東京大学演習林は7つの地方演習林と企画部・教育研究センター(旧研究部)で構成されている。各地方演習林は、演習林全体としての共通理念に立脚しつつ、独自の教育研究計画に基づいて活動を行っている。

千葉演習林は、暖温帯に位置する総面積約2,200haの日本で最初の大学演習林である。スギ、ヒノキ、マツ類などの主要造林木の育成技術と持続的森林施業に関する試験を120年余にわたって実施してきた。また、モミ、ツガや広葉樹からなる貴重な天然林を有し、学内外のさまざまな分野の研究・教育に大きく貢献している。近年では、特に自然史や生態系に関する調査・研究を幅広く行っている。

北海道演習林は、亜寒帯に位置する総面積約23,000haの、東京大学では2番目に古い演習林である。択伐施業の実証的・理論的研究によって、林学と北方林業の発展に寄与してきた。各種の試験林が造成される一方、奥地天然林には11,000haの鳥獣保護区が設けられるなど北海道の森林動植物に関する各種の調査・研究に利用されている。特に1958年以降、北海道演習林の天然林全域を対象として、北方林の持つ環境保全機能と木材生産機能との調和を図る一大森林施業実験「林分施業法」を実施しており、その成果は国内外から高い評価を受けている。

秩父演習林は、冷温帯に位置し、総面積約5,800haと東京大学では2番目、青森県以南の大学演習林では最大の面積を有する演習林である。険しく多様な山岳地形の中にあるため、森林植生は変化に富み、生物相も多様である。大面積にわたる貴重な天然林を対象に森林生態系に関する調査・研究を数多く行っている。また、急傾斜の山岳林における人工林施業法、映像情報による森林情報の収集・蓄積・利用などに関する研究も行っている。

田無演習林は、本学農学部にもっとも近い西東京市に設けられている総面積約9haの演習林である。アクセスの良さや、土地が平坦なことから造林学、森林植物学、森林動物学などの生物系の圃場実習や室内実験に多く利用されている。

2016年度 演習林の概要

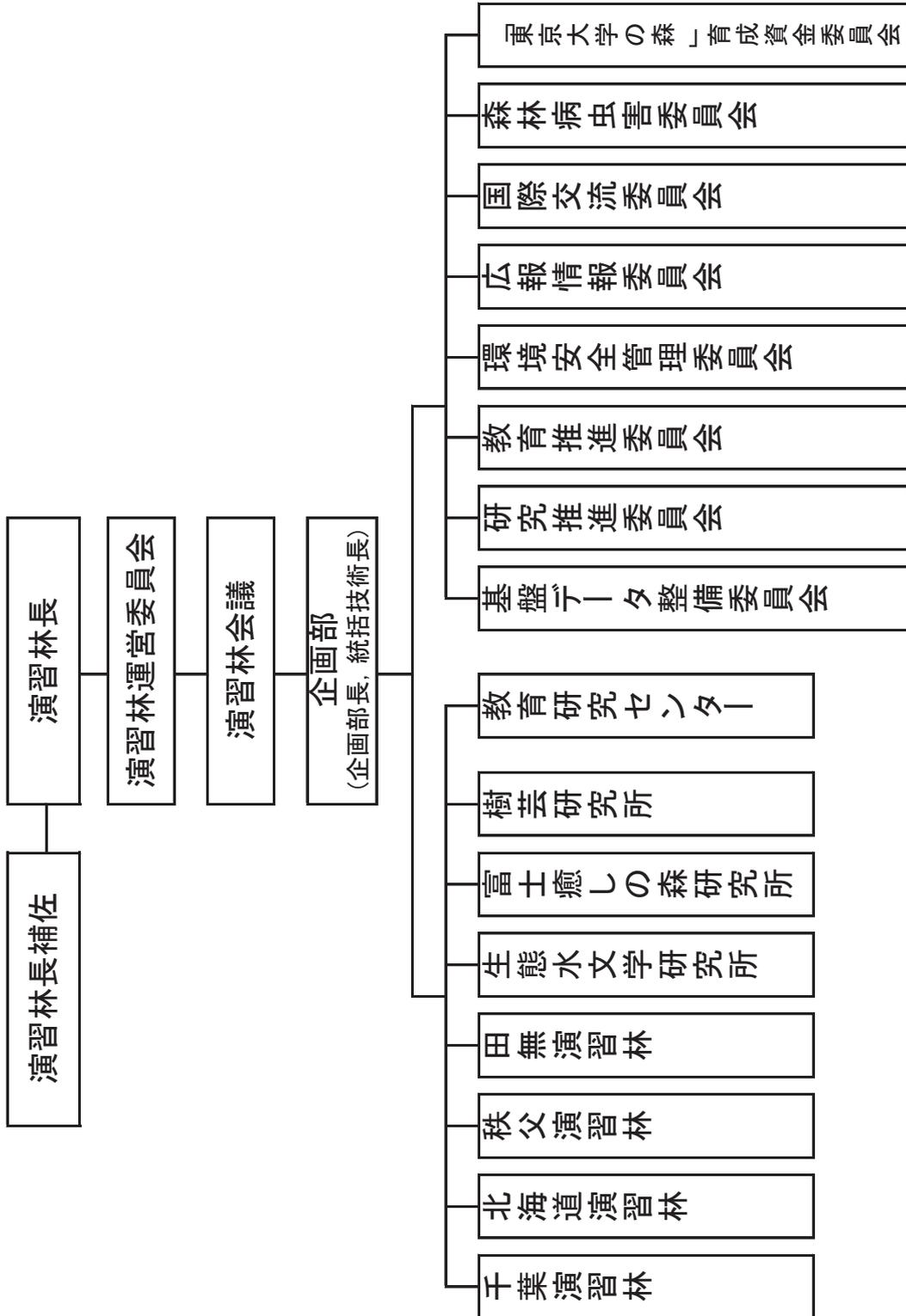
生態水文学研究所は、愛知県の尾張東部・北部丘陵に位置する総面積約1,300haの演習林である。林種は、荒廃山地(ハゲ山)から砂防植栽等により回復し、遷移した天然生林(76%)とヒノキやスギの人工林(24%)となっている。1922年の設置後まもなく、演習林内の山地流域からの水流出量の観測が順次開始され、3流域については現在まで観測が継続している。それらの長期水文データを基礎として、森林生態系に流入・循環・移動・流出する水、栄養塩、炭素、土壌、土砂、エネルギーの収支や時間変化、プロセス、メカニズムに関する様々な研究が行われている。また、森と水の自然科学教育、森と水と人の関係についての人文・社会科学教育の拠点となっている。

富士癒しの森研究所は、富士山麓山中湖畔に位置する総面積約40haの演習林である。立地条件を生かして森林の保健休養機能の解析や景観評価、環境教育に関する研究を行っている。また、演習林の一部には東京大学の学生・教職員の休養施設が設置され活用されている。

樹芸研究所は、伊豆半島南端の温暖な地にある総面積約250haの演習林である。特用樹木の利用と育成に関する基礎研究や演習林内に泉源を持つ温泉熱を利用した温室における熱帯・亜熱帯産樹木の育成と展示を行っている。

農学部(弥生)キャンパスに設置されている企画部・教育研究センターは、東京大学演習林の教育研究活動をつなぐ拠点として、演習林全体の試験研究計画の円滑な実行を支援している。さらに、多方面の演習林利用希望者の便宜をはかること、共同研究の企画調整、各演習林の気象等観測結果のデータベース化と観測・研究成果の公表の場としての「演習林報告」および「演習林」の編集・発行、インターネット等を利用した情報公開促進・広報等、東京大学演習林全体に関わるさまざまな役割を担っている。

組織図



全演での取り組み

2016年度は東京大学演習林の「教育研究計画 2011-2020」後半5年間の最初の年にあたる。2015年度に実施した外部評価の結果を踏まえて上記計画の部分的な見直しを行い、次期教育研究計画をも視野に置いた活動をスタートさせた。見直し結果の詳細は演習林59号に報告しているが、このうち「全演的な取り組み」に関する「見直しの基本方針」は表1に示した通りである。

基本的には計画前半の流れを維持しつつ、社会連携の強化、国際対応の強化、教員の研究活動活発化そして安全管理の強化をはかっていくことが主な見直し内容となる。具体的には、広報情報委員会の活動を効率的に活発化させ社会への発信力を高めること、海外からの研究者や学生の受入をより活発に行っていくために施設整備を進め受入プログラムを提供していくこと、教員のサバティカル制度の活用を促進すること、研究科の安全衛生管理に対応するだけでなく演習林独自の安全衛生管理の取り組みを強化すること、などがあげられる。

これまで取り組んできた基盤データ整備については、成果を順次公表していくとともに、得られた成果を基礎にした国際的な研究プラットフォームの立ち上げや共同研究の推進など、積極的に成果を活用する段階へと進めていく必要がある。2016年度にはJSPSの研究拠点形成事業に研究推進委員会を中心として「アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築」という課題で応募し採択された。この課題はまさに基盤データ整備活動の成果を国際的な研究ネットワーク作りに活用していこうという取り組みであり、研究推進委員会、国際交流委員会、基盤データ整備委員会という常置委員会をまたいだ活動として、3年間の活動期間の中で多くの成果が得られるものと期待される。

国際対応強化については、大学院農学生命科学研究科の施設整備（修繕）準備金により千葉演習林清澄宿泊施設、生態水文学研究所赤津宿泊施設のトイレ改修、シャワー設備の新設、北海道演習林山部国際宿泊施設の設置など受入施設の整備を進めた。また、例年数名の希望者がいる海外からのインターンシップ学生の受け皿として、国際短期プログラム「The University of Tokyo Forests Field Education Program」の実施を申請し認められた。これまでインターンシップ学生を受け入れる際に適当な受け皿がなかったため農学特定支援員などできるだけ実態に近いと考えられる形で受け入れていたが、今後は大学のプログラム受講生としてより望ましい形で受け入れることが可能となった。実施初年度となる2017年度にはこのプログラムによって3名のインターンシップ学生を海外から受け入れる予定である。

以上の演習林としての国際交流活動の他、演習林の教員が幹事教員の中心となって2015年度から進めていた中国海南大学園芸園林学院と大学院農学生命科学研究科との部局間学術交流協定締結が10月に無事調印の運びとなった。協定締結にあたっての立ち上げシンポジウムの実施や海南大学からの外国人教員の受入、演習林教員による海南大学における特別講義の実施など初年度から活発な交流を進めており、演習林として今後も交流活動を続けていく予定である。また、マレーシアサバ大学との部局間学術交流協定についても先方から交流内容の強化を含めた見直しの要請があり、演習林の教員が幹事教員の中心となって対応した。2016年度中の再締結には間にあわなかったが2017年度早々には新たな協定が締結され、こちらも活発な交流活動を行っていく予定である。

サバティカル制度の活用については、演習林長を座長とするワーキングを作って検討することが決まっている。研究科においても2005年に内規が制定されてから10年間でサバティカル

制度を利用した例は2例しかないといわれており、単純な「サバティカル取得の声かけ」では効果がないことは明白である。「演習林として取り組む教育研究」から一時的に離れて活動する機会を与える制度をいかに有効に活用してもらえるように制度設計するか、引き続き活発な議論を進め、早期に演習林としての制度を確立する予定である。

安全衛生管理については、環境安全管理委員会の委員長が地方演習林に出向いて視察および意見交換を行う活動を開始した。2016年度は所属する教職員数が最も多い北海道演習林を視察し、教職員と安全管理に関する意見交換を行った。2017年度以降も順次地方演習林を回り、各々の演習林ならではの安全管理の重要課題の洗い出しや対策に関する協議へとつなげていく予定である。

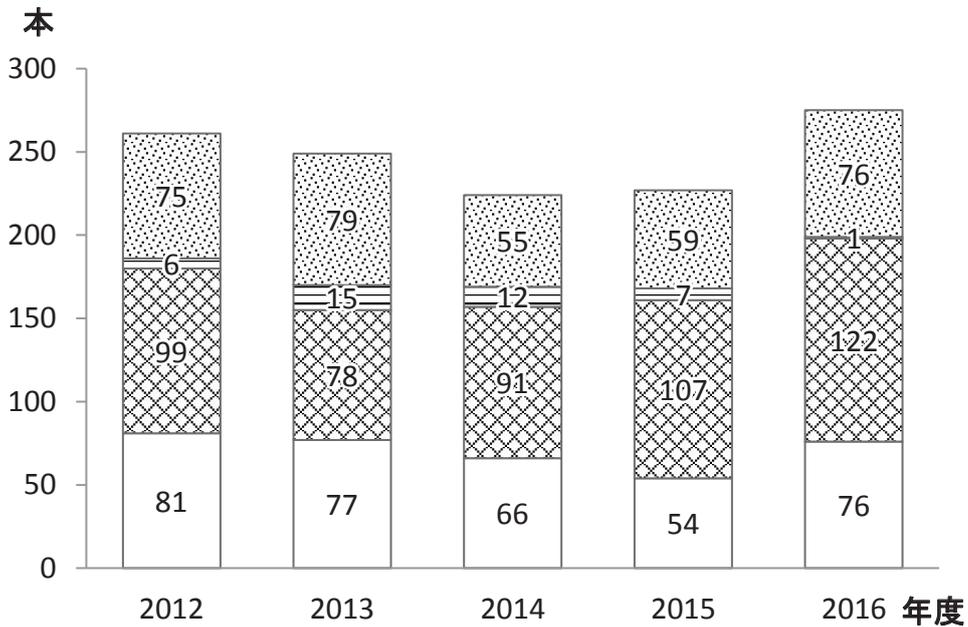
最後に、これまで「森林生物多様性教育研究施設」として概算要求にあげていた秩父演習林影森地区の教育研究施設の新築要求については、国際利用施設であることを明確にするため、2018年度の概算要求では「森林生物多様性国際教育研究施設」という名称で要求を提出した。

表1 「教育研究計画2011-2020」後半に向けての修正(全演の取り組み)

| 項目 | 見直しの基本方針等 |
|---------|---|
| 全体 | <p>○「基本的な理念」に掲げたミッション，キーワードを演習林運営の基本的な姿勢として後半5年間も堅持する。</p> <p>○7演習林体制を基礎に全演横断的な活動を常置委員会を中心として行っていく体制を後半5年間も維持する。</p> <p>○2011～2020年計画にのっとり水文・水質部門の基盤データ整備を行ってきた。後半5年間も計画に沿ってデータ取得，整備を進める。【基盤データ委員会水文・水質部門】</p> <p>○組織，バックアップを含む機器といった観測体制については整備が進んでいる。今後は，部門で確認した「気象観測指針」に基づき観測，機器および露場のメンテナンスを確実に実行し，精度の維持・向上を図る。また，データ保存状況を確認し，保存，公開，修正の体制を整える。【基盤データ整備委員会気象部門】</p> <p>○外部向けの発信力を高めるために，全演ホームページをさらに充実させる。また，研究科や大学本部の広報とも連携し，速報性のある情報をより外部に発信できる仕組みを検討する。【広報情報委員会】</p> <p>○演習林の活動をよりアピールするため，演習林年報の構成を変え，前半に当該年度の演習林全体のトピックス，視覚的な統計データなどが見えるようにする。【広報情報委員会】</p> |
| 教育 | <p>○これまで積極的に取り組んできた教養学部前期課程の全学体験ゼミナールや全学的に実施されている学生の体験活動プログラム等のフィールド体験教育を今後も推進する。</p> <p>○全国大学演習林協議会が行っている「公開森林実習」について，7番目の項目として位置づけ，企画部・教育研究センターと連携しつつ取り組む。【教育推進委員会】</p> <p>○アジア大学演習林コンソーシウムに参加している大学の学生等を対象とした国際トレーニングワークショップ，若手研究者育成プログラム等の企画・実施について，8番目の項目として位置づけて取り組む。【教育推進委員会】</p> |
| 研究 | <p>○国際交流への取り組みを積極的に進める。具体的にはアジア大学演習林コンソーシウムや台湾大学とのパートナーシップ強化などこれまで進めてきた国際交流活動をより活性化させ共同研究へと結びつけていく。また新たな国際共同研究のパートナーの開拓や共同研究者の受け入れ等の活動も他の業務とのバランスを考慮しつつ積極的に取り組んでいく。【国際交流委員会】</p> <p>○教員の研究活動の活性化に向けエフォート管理の充実やサバティカル制度の活用について検討する。</p> <p>○地方演習林がその役割分担を果たすべく核として行っている研究活動への全演的なバックアップ体制について検討する。</p> <p>○ホームページ等で研究成果を早く，アピールするための仕組みを検討する。【広報情報委員会】</p> <p>○昆虫分野については，当初は2008年度から2010年度までの3年間で公表する予定となっていたが，同一地点での採集を2012年度まで5年間続けているため，5年間でリストを公表することにした。しかし，現在のところ，後半2年分の同定が済んでおらず，同定終了後に公表する予定である。【基盤データ整備委員会生物部門】</p> <p>○研究推進委員会の活動方針を明文化する。【研究推進委員会】</p> |
| 社会連携・貢献 | <p>○研究成果の社会への発信を含め広報活動をより活発化させる。特に学外向けの広報には新たなメディアの開拓を含めコスト増をおさえつつ効果を上げられる広報活動を検討する。</p> <p>○科学の森ニュース編集委員会の役割を明確にし，より魅力的な記事が掲載できる仕組みを作る。【広報情報委員会】</p> <p>○利用実績の集計について検討を行い，よりの確なデータを効率的に取得できるようなシステムを構築する。【広報情報委員会】</p> |

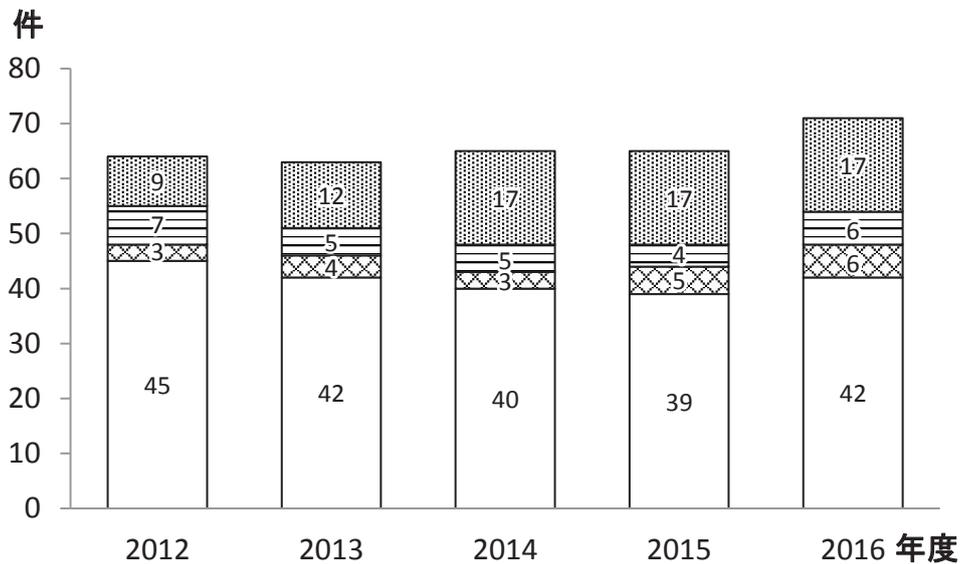
| | |
|-------|---|
| 管理・運営 | <p>○「技術職員削減」への対応についても附属演習林の任務を果たすために必要なポストや人材の確保に取り組んでいく。</p> <p>○特に安全衛生管理面からは必要不可欠な人員の確保に取り組んでいくとともに、災害を防ぐための活動をこれまで以上に進めていく。</p> <p>○観測精度維持のため、観測機器の定期的な更新や、観測方法の講習を検討する。【基盤データ整備委員会水文・水質部門】</p> <p>○今計画期中に千葉演習林で死亡事故が発生した。このことからこれまでの安全管理体制が完全なものではないことが明らかとなった。研究科環境安全管理室との連携の下、再発防止を含めたリスク管理の検討を行った。フィールドには危険があること、どういう所にどういった危険があるかについて演習林は利用者に対して注意喚起する責任があることが確認された。【環境安全管理委員会】</p> |
| その他 | <p>○教員総会に関する記述について、計画当時とは位置づけが変更されているので、必要な修正を行う。【教育推進委員会】</p> |

演習林活動の統計



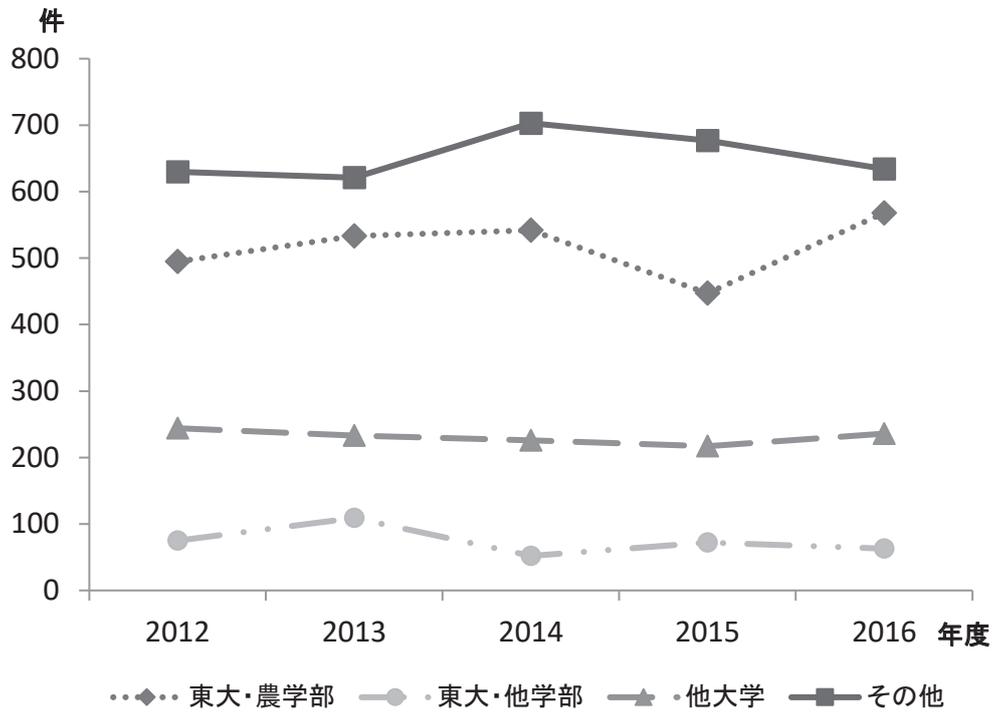
□ 教職員の論文等 ▨ 学会発表等 ▤ 著書等 ▩ 利用者の論文等

論文等の本数

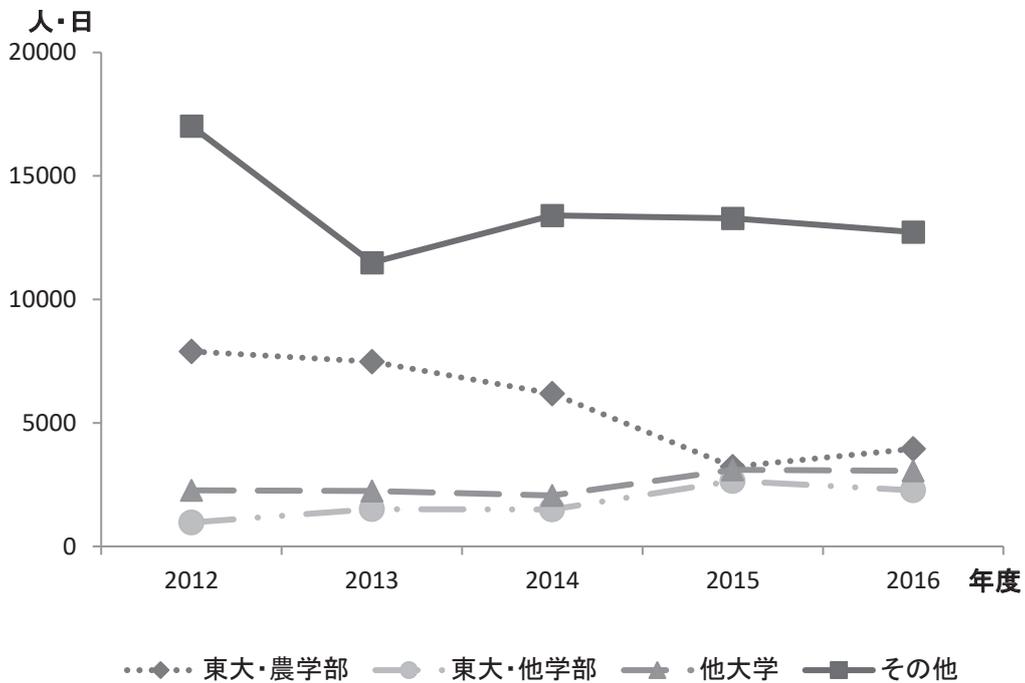


□ 科学研究費 ▨ 他機関との共同研究 ▤ 受託研究費 ▩ 奨学寄付金

外部研究費の獲得数



利用件数



利用者のべ人数

ただしロードレース大会利用人数(富士癒しの森研究所 2016年度は11823名)を除く

演習林規則に則って開催された委員会・会議

運営委員会

演習林規則第5条により設置されている演習林の管理および運営に関する最高議決機関である。委員は演習林の教授・准教授のほか研究科長が推薦する研究科の教授または准教授（10名以内）と演習林統括技術長、研究科事務部長であり、演習林長が委員長を務める。今年度は2017年3月14日（火）に開催し、地方演習林と常置委員会を軸とする演習林の管理および運営に関する重要事項の審議を行った。

演習林会議

演習林規則第6条により設置されている演習林の管理および運営の実務に関する事項を審議決定する期間である。議員は演習林長、演習林長補佐、演習林所属の教授、准教授、講師、演習林統括技術長のほか演習林長が必要と認めた者となる（今年度は研究科総務附属施設担当副課長が指名された）。演習林長が議長を務める。原則として毎月1回（8月をのぞく）教授会開催日の前日に開催する。今年度は11回開催した。

その他委員会・会議

技術主任会議

統括技術長と地方演習林技術主任により森林管理・技術主任組織等に関する諸問題を検討する。今年度は7月26日（火）に開催し、あわせて同日に事務担当者・技術主任合同会議を開催した。

事務担当者連絡会議

大学院農学生命科学事務担当者による会議であり地方演習林事務担当者を含めて事務処理遂行上の問題点等について報告、意見交換を行う。通常年1回、当初予算決定後に開催されていたが、今年度は研究科事務の意向により開催されなかった。

技術職員等試験研究・研修会議

技術職員等による研究報告と情報交換、技術研修等を目的に年1回開催する。今年度は10月6日（木）から7日（金）にかけて生態水文学研究所を会場に開催した。

演習林編集委員会

「東京大学農学部演習林報告」と「演習林」の編集発行を行っている。委員は演習林の教授・准教授のほか関連専攻から推薦された教授・准教授（7名）と編集委員長が指名する者となる。原則として奇数月に開催し、今年度は6回開催した。

科学の森ニュース編集委員会

広報誌「科学の森ニュース」の編集に当たっている。必要に応じて電子メールのやり取りを中心に編集作業を行ってきたが、今年度は科学の森ニュースの編集のタイミングに合わせ3ヵ月に1回合計4回のテレビ会議を実施した。

ネットワーク委員会

演習林内のネットワークに関する問題の対応、メールアドレス管理等の他、研究科マルチメディア委員会の対応等を行っている。

■各地方演習林活動■

千葉演習林

【教育】

教養教育として全学体験ゼミナール5科目(危険生物の知識(春編), フィールドで考える野生動物の保護管理, 危険生物の知識(秋編), 房総の森と生業(なりわい)を学ぶ, 君はスギとヒノキのことを本当に知っているのか?(入門編))を主体的に実施した。これらの現地実習は多様なフィールド学習や課題解決型学習を含む最長3泊4日の内容であり, のべ218人日が利用した。専門教育として, 農学部3科目(造林学実験, 森林植物学実験, 森林経理学実習), 理学部1科目(地球惑星環境学野外調査I), 大学院農学生命科学研究科1科目(生圏システム学特論)と新領域創成科学研究科2科目(地域自然誌論, 自然環境学実習)の計7科目を実施し, のべ248人日が利用した。また他大学の実習6科目(宇都宮大学, 京都大学, 千葉大学, 筑波大学)でのべ431人日が利用した。

学生の研究活動として, 卒論研究5件, 修論研究8件の利用があり, 安全管理, 観測補助, フィールド情報等提供, データ提供などの研究支援活動を行った。

【研究】

研究課題のうち①「持続可能な人工林経営を実践する理論と技術の高度化」では, 成長測定試験地の観測および地上レーザーによる詳細測量を行った。②「林木の育種と増殖技術の開発」では, 抵抗性クロマツ選抜では二次検定に2系統が選抜され林木育種センターにて検定を受けたが合格に至らなかった。ゴルフ場に配布された千葉演習林産抵抗性アカマツの苗木の現況調査を実施し, 順調に生育していることを確認した。露地苗からコンテナ苗への生産方法の転換の検討を行った。採種園の再評価および再整備の検討を開始した。また, さし木増殖方法の向上のため, ヒメコマツでは苗種による生存率の違いを調べ, キョスミツバツツジでは, 採穂位置, 徒長の有無, 葉の厚さと葉緑素の関係を樹齢の異なる母樹を用いて調べた。③「絶滅危惧植物の保全に関する研究」では, 千葉県ヒメコマツ保全協議会としての取り組みの他に, 独自に遺伝的多様性とマツ材線虫病抵抗性の検証を行い, 重要な知見を得ることができた。④「房総丘陵における暖帯林生態系の保全・管理」ではシカ生息数調査の方法について見直しを行った。

「基盤データ整備」として, 気象部門では, 札郷に観測タワーを新設した。清澄では観測装置の更新を行った。生物部門の植物部門では, 古いさく葉標本リストをまとめ, 『演習林』に投稿した。脊椎動物分野では, 各演習担当者コウモリ捕獲調査の講習会を行った。また, 自動撮影カメラによる鳥獣撮影リストを『演習林』に投稿した。今後, 様々な研究への利活用が期待できる。鳥類分野では, 4月から6月の繁殖シーズンにおいて早朝にポイントセンサスと日常業務中の任意調査を実施し, 12月までの合計で30科52種確認できた。今年度は千葉演習林基盤データとしては初観測であるミヤマホオジロの小群が確認された。昆虫分野では, ピットフォールトラップを用いた地表徘徊性甲虫調査を5月～10月の間で4回実施し, 採集したオサムシ科のタウ標本を作製した。また, これまで千葉演習林を利用した研究論文からの甲虫相のリスト化を進めた。GIS部門では, 他演への支援と森林情報士の資格を取得した。

【社会連携】

林道の安全確保面などから一般公開を中止していたが、当該林道の補修工事などは予算面から短期間での実施は不可能と考え、これまでとは別ルートでの一般公開について検討を行った。今年度は試験的に「清澄一郷台」ルートでの一般公開を秋に2日間実施し、その結果を見て次年度以降の一般公開開催の可能性について検討した。また千葉演習林初の試みとして東京大学の教職員を対象とした特別ガイド「千葉演習林で楽しむ紅葉とランチ」を11月に実施し、募集定員20名を超える応募があった。地域交流協定を結んでいる鴨川市において「野鳥の巣箱をかけよう」、「緑の教室」を開催した。「緑の教室」では、小学生が木登り、丸太伐り、森林散策などを通して森林の役割と生活への関わりについて学んだ。同様に地域交流協定を結んでいる君津市において「スクールミュージアム」を開催し、小学生が天然林、苗畑、森林博物資料館の見学や、水生生物、地層の観察を行った。その他、「清澄星フェスタ」、「鴨川ふるさと会」等の地域イベントの開催協力、清澄寺の節分会に合わせた森林博物資料館の公開、ボランティア団体 Abies と連携した観察会等を行った。

【施業管理】

伐採:主伐は下馬不動下(44林班 C11 小班)で実施し、2017年3月末に終了予定(表-1)。2018年度に相ノ沢(10林班 C4 小班)で主伐を予定しており、今年度は当該林分の測量を行った。新植、下刈り、除伐、保育間伐に関しては、表-2の林分を対象に直営で実施した。新植地では地拵えを行い、一部に防獣柵(総延長105m)を設置した。

(表-1)主伐実行量

| | |
|-----------------------|-------|
| 伐採面積(ha) | 1.70 |
| 伐採材積(m ³) | 999.6 |

(表-2)2016年度育林実行量(2017年2月現在)

| 作業種 | 地拵え・新植 | 下刈り | 除伐 | 保育間伐 |
|--------|--------|------|------|------|
| 林齢 | - | 1~5 | 5~17 | 38 |
| 面積(ha) | 0.13 | 1.43 | 1.68 | 2.35 |

【その他】

本年度、千葉演習林では2件の災害が発生した。1件は林道の刈り払い作業中のハチ刺されによるもの、1件は車両同士の接触であった。前年度の3月に発生した間伐作業中のかかり木処理道具の重りによる打撲事故は、重大事故には至らなかったが複数の要因が絡み合い発生した災害であったため、再発防止対策を講じるために十分な話し合いを行った。

配布されていたエピペンが使用期限を迎え、10名が更新を行った。1名は業務外でハチに刺されたためアレルギー抗体検査を行った結果、弱陽性反応が出たので新規にエピペンを配布した。

特定化学物質障害予防規則等の改正に伴う化学物質リスクアセスメントの実施を受け、現在保有している試薬等の再点検を行い、不要薬品をリスト化した。リストを環境安全管理室へ報告し指示を仰いだ(現時点では回答待ち)。

災害に備え備蓄してある非常食が賞味期限を迎えたため更新を行った。

北海道演習林

【教育】

学部・大学院の専門教育として、農学部授業科目「森林科学総合実習」を担当実施し、全演協の公開森林実習科目として他大学(岩手大, 信州大, 愛媛大)の学生も受け入れた。大学院の授業科目2件(農学生命科学, 新領域創成科学)を受け入れた。卒業論文研究6件, 修士論文研究7件, 博士論文研究5件を受け入れてこれらの実行を支援し, 卒業論文6篇(帯広畜産大4篇, 北海道教育大1篇, 玉川大1篇), 修士論文2篇(東京大, 帯広畜産大), 博士論文1篇(東京大)が作製された。他大学の授業科目2件(京都大, 同志社女子大)を受け入れ指導を行った。教養教育として, 教養学部授業科目「全学体験ゼミナール: 雪の森林に学ぶ～北海道演習林」を開講するとともに, 1件の全学体験ゼミナールの実施を支援した。体験的な機会の提供として, 本学の体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」を実施して教養学部生1名を受け入れたほか, カナダ・トロント大学のインターンシップ1件を受け入れた。ICT を活用したフィールド遠隔教育の取り組みとして, 弥生キャンパスで行う農学部授業科目等で3回の遠隔ライブ講義と2回のビデオ配信を実施したほか, 2回の遠隔ライブ講義デモンストレーションを実施した。

初等・中等教育支援として, 文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業による校外研修(札幌啓成高)を受け入れ, プログラムを作成・提供するとともに指導を行った。帯広農業高(森林科学科), とわの森三愛高(獣医進学コース)の2件の研修, 富良野高のインターンシップ1件を受け入れ, 指導を行った。技術者教育として, 国際協力機構(JICA)4件をはじめ, 官公署, 大学演習林, 林業会社等の研修会計 11 件を受け入れ, それぞれ指導を行った。

【研究】

「汎針広混交林帯における森林生態系の持続的・順応的管理」を課題として掲げ, 森林生態, 森林経営, 森林生態系保全の3分野のもと活動を行った。主なトピックは以下の通りである。

森林生態分野では, 微生物・昆虫の生態と生物間相互作用に関して, ウダイカンバー斉二次林とシラカンバ・ケヤマハンノキ造林地でキクイムシ群集の調査を行った。カラマツハラアカハバチの密度変動について継続調査した。野生動物の生態に関して, エゾシカのライトセンサスと自動撮影装置による野生動物モニタリングを継続した。コウモリ類の生息状況調査(捕獲)と音声情報の収集を開始するとともに, 音声モニタリングを 12 箇所で行った。大規模自然攪乱後の森林回復過程に関して, 施業区域図と標準地調査データから択伐施業と台風被害に伴う天然生混交林の長期的変化を把握した。施業に伴う攪乱と森林構造の変化に関して, 天然林施業試験地の測定を継続するとともに, 過去の測定データを用いて択伐施業林におけるトドマツの更新・成長・死亡を林分レベルで定量的に把握した。森林生態系の基礎情報の収集に関して, 全演基盤データ整備委員会の活動とも連携しながら, 気象観測, 水文・水質観測, 主要樹種のフェノロジー観測, および動植物相など生物情報の収集を継続した。

森林経営分野では, 林分施業法の科学的・技術的基盤に関して, 空中写真や航空機 LiDAR を利用した林種区分の省力化, タブレット端末を用いた標準地調査野帳と素材検知野帳の電子化, 施業区域図の GIS データ化を進めた。また, 腐朽判定技術の高度化を目指して非破壊機器診断に及ぼす冬季低温の影響を検討した。UAV に搭載したマルチスペクトルセンサによる資源量把握, 樹種判別, 健全性評価の可能性について検討を開始した。更新保育施業による天然林再生技術に関して, 帯状皆伐跡地の天然更新状況調査と, 択伐天然林の更新補助を目的とした精密植栽技術の実証試験を継続した。広葉樹優良木の管理・育成手法に関して, 樽材として有用なミズナラ優良木の形質と空間分布に関する調査を継続し, ハリギリの立木形質と腐朽に関するデータ収集を行った。エゾマツ苗生産

システムに関して、播種床据置苗に発生する未知の立枯症状が暗色雪腐病の一病態である可能性を見出した。

森林生態系保全分野では、移入種の生息状況に関して、アライグマが演習林内の広範囲に出没していることを自動撮影カメラによって確認するとともに、台湾固有種とされ近年東南アジアに分布が確認されているアンブロシアキクイムシの一種 *Scolytoplatypus blandfordi* を日本で初めて記録した。

【社会連携】

一般公開事業として、公開セミナー「森林環境の保全と持続的な木材生産を学ぶ」(富良野市市制 50周年記念行事と合同開催)、大麓山ハイキング登山会、および神社山自然観察路一般公開(春季・秋季に各1日)を開催した。富良野市との地域交流協定に基づき、教育委員会が市内の小中学校を対象に演習林内で展開する森林学習プログラム推進事業に全面的に協力し、試行プログラムを監修するとともに学習サポーターの養成研修を担当した。

【施業管理】

立木伐採は資材量で 24,387 m³(天然林 16,154 m³, 人工林 8,233 m³)を実行し、うち 1,714 m³について素材生産・販売を行った(直営 1,141 m³, 再生林請負 380 m³, 委託販売 193 m³)。立木および素材の販売額は合計 81,335,685 円で、立木が 40,708,150 円、素材(委託販売を除く)が 21,808,500 円、委託販売(銘木市売)が 18,819,035 円であった。山出苗生産本数は 24.2 千本(トドマツ 9.7, エゾマツ 8.8, アカエゾマツ 5.7 千本)、地拵、植付、下刈の実行面積はそれぞれ 24.6, 30.4, 50.0 ha、林道改良距離は 33.5 km であった。森林保護に関して、春期に山火予消防活動(監視および啓発)を、春と秋に野鼠発生予察調査を、冬期に北海道猟友会富良野支部および富良野市と共同でエゾシカの有害獣駆除(2回)を、森林被害巡林調査を計3回、それぞれ実施した。特定試験林(試験地)の測定を計画に則って実行した。特筆すべき事項として、8月の後半に相次いで上陸した4つの台風に伴う記録的な大雨の連続により各所の沢が氾濫し、全域で林道に崩落・流失等の深刻な被害が発生した。被害箇所数は 100 を超え、直営による復旧工事を進めるとともに、文科省に災害復旧事業の申請を行った。

不動産(土地)について、4件の土地売却を行った(国道用地、麓郷神社用地など計 9,639.23 m²)。2012 年度より開始された国土調査法に基づく地籍調査事業は、これまでに平沢地区と老節布地区で終了し、第4期分が東山地区で進められた。また、第2期分の管理下になかった本学所有地 28 筆(計 20,137 m²)の所有権保存登記、第3期分の管理下になかった本学所有地 45 筆(計 112,432 m²)、および登記済の本学所有地1筆(236 m²)と文科省所管地1筆(16,909 m²)の成果閲覧を行った。土地の貸借契約は、賃貸借 14 件(計 50,792.35 m²)、使用貸借 19 件(計 144,416.03 m²)を締結した。不動産(構築物)について、台風の影響で崩落した東山本流第2号橋の資産を除却し、架替工事で新設した奥の沢函渠を登録した。不動産(建物)について、職員宿舎2戸を宿泊施設(山部国際宿泊施設)に用途変更した。立木補償は、公共事業や土地売却に係わるもの2件、計 58 本であった。

【その他】

アジア大学演習林コンソーシアムの第7回国際シンポジウムおよびエクスカージョンの開催に現地担当演習林として尽力した。IUFRO ワーキングパーティーの国際会議(モミ属の生態・施業)を共催するとともに、エクスカージョンの一部を受け入れた。

環境安全管理について、事故災害発生件数は6件で前年度(8件)より減少した。ハチ刺傷災害が1件と前年度と同等に少なく、刃物や転倒による事故が無かったためである。一方で、大半が自動車やスノーモビルの関係する物損事故で5件発生した。これらは慣れによる安全確認の不徹底に起因するものが多く、引き続き基本動作の確認と励行の徹底が必要である。

秩父演習林

【教育】

1. 学位研究の受け入れ

本学の学部課程 2 名, 修士課程 4 名, 博士課程 1 名, 他大学の学部課程 8 名, 修士課程 1 名が学位取得のための研究を行い, 研究計画の助言, 研究地への送迎, 野外調査の補助, 試験地の維持管理などの協力を行った。

2. 大学実習の受け入れ

森林系専修 4 件(森林土壌学実験, 森林植物学実験, 森林政策学演習, 森林土壌学実験), 生物素材科学専修の実習 1 件(バイオマス科学実習・森林科学実習), 生圏システム学専攻 1 件(フィールド科学総論), 理学部生物学科 1 件(植物科学野外実習Ⅲ)の実習, 教養課程の全学体験ゼミナール 1 件と国際環境科学コース「環境科学フィールドワーク 2」現地講義を受け入れた。秩父演習林として全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」, 「秋の奥秩父を巡る」を開講した。他大学の実習として, 東京都市大学野外実習ではタイムテーブル作成と樹木測定, 日本女子大学環境生物学実験では植物調査の指導を補助した。他に首都大学東京動物系統学野外実習を受け入れた。また, 国外からインターンシップ学生 1 名を受け入れた。

【研究】

1. 冷温帯森林生態系に関する研究

成果として, 亜高山帯風害跡地試験地と亜高山帯老齢天然林試験地(17 林班り 1, へ 1 小班)の 2015 年の調査資料をそれぞれ演習林 59 号で公表した。定期調査として, 原生林固定試験地(15 箇所)および人工林固定試験地(8 箇所)の毎木調査, ライトセンサス, 気象観測, 水文水質観測, 落葉落枝及び落下種子(2 箇所), 環境省モニタリングサイト 1000 調査(毎木, 落葉落枝及び落下種子, 地表徘徊性昆虫)を実施した。また, 民間企業との連携による, シカ排除柵試験地(30 箇所×内外 2 調査区)の毎木調査や下層植生調査等, センサーカメラによる哺乳類相調査, 渓流水の水質モニタリングなど, 植生保護に向けた実証研究を行った。

2. 情報工学分野との融合研究

前年度に続き, ライブモニタリングシステムによる森林景観と樹木フェノロジーの映像・音声記録, 鳥類相の遠隔調査, 環境教育教材の開発に関する研究が行われた。

3. 山村社会に関する研究

前年度に続き, 山村社会の変化と資源, 山村振興に関する研究が行われた。

4. 基盤データ整備

気象部門では 2015 年の観測結果を, 水文水質部門では 2014 年の観測結果(流出量・水質)をそれぞれ演習林 59 号で公表した。GIS 部門ではタブレット端末の活用についての研修を受講し, その成果を富士癒しの森研究所での研修で講師として伝達した。植物分野では, 植物データ収集を継続したが, II種活動のフェノロジー調査を終了することとした。鳥類分野では繁殖期のポイントセンサス(I種)のほか, 越冬期のポイントセンサスとラインセンサス(II種), 通年で任意調査を実施した。昆虫分野では例年実施しているピットフォール調査および埼玉昆虫談話会と連携して行っているライトトラップ調査を実施した。脊椎動物分野では今年度は 2011~2015 年度(5 年間)に全演で収集した自動撮影カメラ調査成果報告を演習林 59 号で公表した。また, 例年実施している自動撮影カメラ調査およびライトセンサスのほか, 千葉演習林で開催されたコウモリ類捕獲講習会に参加した。

5. 利用者ガイダンス・利用者発表会

利用者ガイダンスと利用者発表会を開催し、教育・研究の促進と利用者間の調整を行った。

【社会連携】

公開講座「東大の森林で昆虫採集」(8月, 参加者 15名), 「秩父演習林の哺乳類」(1月, 参加者 9名)を行った。この他に, ガイドツアーを1回開催した(5月, 参加者 16名)。また, 秩父市木材加工業者主催の「木が香る秩父フェスティバル」(5月, 道の駅ちちぶ)に参加, 秩父演習林の恒例行事となっている「影森祭」(12月, 来場者約 124名)を秩父演習林ボランティア「しおじの会」と秩父演習林OB会の協力を得て実施した。また, しおじの会によるボランティア活動では, シカ防除柵の点検補修, 歩道巡視・修繕, お土産(木工品)づくり, リター仕上げなど, のべ 104名(1/31時点)が参加した。

学外各種委員会では, 埼玉県森林審議会, 関東山地カモシカ保護地域特別調査指導委員会, 埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会, 埼玉県レッドデータブック検討委員会, ユネスコエコパーク登録推進検討委員会, 秩父地域森林林業活性化協議会, 秩父地域獣害対策協議会幹事会, 関東山地ニホンジカ広域協議会, モニタリングサイト 1000 検討会, JaLTER 運営委員会など様々な活動を実施した。

【施業管理】

7林班から 14林班について, 8月に森林経営計画(平成 28~33年)を申請し, 認定された。立木伐採, 植栽は実施しなかった。育林実行量は枝打ちが 2.93ha(作業中)と獣害対策がクマ剥皮防除樹皮ガードの保守管理 1箇所(1.28ha), シカ防護柵の保守管理 5箇所(3.26ha)であった。シカ防護柵の保守管理はボランティアの協力を得て実施した。また, 樹木園に設置されているシカ防護柵の保守管理を 7回実施した(うち外注 6回)。

土木実行量は車道維持が 16,555m, 歩道維持が 36,654m, モノレールが維持 3,067m(3路線)であった。また, 民間企業との協定による森林整備で入山モノレールの動力車更新, バケモノ沢モノレールの 2車両運行化, 作業道の補修と法面緑化工事を実施した。工事としては和名倉沢歩道栈橋補修工事, 見黒沢吊橋補修工事を実施し, 東谷林道は 1,170m地点の拡幅工事中である。災害関連では台風 9号(8月)の豪雨による土砂流出被害で東谷林道 250m地点の復旧工事を実施した。土地資産に関する変動はなかった。

【その他】

環境安全管理について, 今年度は災害が 4件発生し, ヒヤリハットはなかった。災害の内訳はハチ刺されが 2件, 車両事故が 2件であった。ハチ刺されについては, 百葉箱の中, 竹ぼうきの柄の中にハチが潜っていたのに気が付かずに発生したもので, 更に身の回りの安全確認に取り組んでいきたい。4月に普通救命講習会, 11月に交通安全講習, 5・12月に公用車自主点検, 1月に消防訓練を実施した。また, 新たに東京大学育成資金に 2件の寄付をいただき, 1件について記念樹を設定した。2016年は秩父演習林創設 100年目にあたることから秩父演習林 100周年事業(11/5 記念式典 78名参加, 11/6 見学会 21名参加)を実施した。

田無演習林

【教育】

農学部の実習を5件、教養学部の実習(全学体験ゼミナール)を3件実施した。農学部実習のうち2件は連携する生態調和農学機構によるものである。全学体験ゼミナールの2件は田無演をはじめ千葉演、富士研の教職員が主体的に関わって実施した。小中学生に対する指導体験を通じて樹木に関する知識とコミュニケーション力の向上を図ることを目標とする「都市の緑のインタープリター」、森のエネルギーを体感し森林管理の観点からその流通利用における問題点について学ぶことを目標とする「森のエネルギーを使いこなす」である。なお、両講義とも東京大学が実施する「グローバルリーダー育成プログラム(GLP)」の2016年度指定科目に選定された。

卒業論文研究等では卒業論文3件(うち本学2件)、修士論文3件(うち本学1件)、博士論文2件(うち本学2件)の利用があった。

【研究】

単回・通年利用を含め42件の申請があり、のべ736人の研究利用があった。内容別には生物の生態的特性に関する研究が約5割、樹木の生理に関する研究が約3割、物質の動態に関する研究が1割、森林情報の収集技術等工学的研究が1割となっている。

分野の異なる利用者との交流を深め、研究可能性をさらに広げることを目的とした研究利用者交流会を6月29日に開催し、12題の口頭報告のほか、2件の要旨による報告がなされた。

【社会連携】

小中学生向け講座を2件、休日公開をのべ5日間実施した。近隣の中学校から5件のべ15日間職場体験を受け入れたほか、演習林資源を有効活用できるように学内教職員向けのリース作り講習会を1件実施した。地元小中学校による校外学習を4件指導したほか、地域の公民館、科学館、非営利団体による利用9件に対応した。

教職員による対応がない場合でも演習林や森林に対する理解を深められるように、第一苗畑と長期生態系観測プロットに案内看板を設置した。

樹木剪定作業により生じた枝葉を花材・園芸資材として東京都板橋市場にて販売した。

【施業管理】

実習および研究用としてアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキの実生苗の育成を行った。そのほか、研究者から委託された苗木育成のための苗畑管理(灌水や除草)を技術職員と技能補佐員で行った。また、試験地として実験用に植栽されたフィールドの適切な管理を行うため、下草刈り等の作業を行った。田無演習林は、年間を通して多数の一般利用者が来演するため、一般利用者の安全を考え、散策路沿いや樹木園の休憩場所の枯損木の伐採を、小径木については直営で、大径木については請負(アカマツ、スダジイなど)で行った。枯損枝、掛り枝は、スローラインや高所作業車を用いて直営で除去した。また、強風、台風、積雪時には一般見学を中止とした。

敷地境界からはみ出した枝の処理や境界沿いの小径木の伐採は直営で適宜行った。特に新築住宅建設地に接する北側境界では、ソメイヨシノ1本、コナラ3本を請負で伐採するなど重点的に整備した。また、第4期教育研究計画で示した、隣接する民地にかかる支障樹木の伐採を請負(シラカシ2本)で行った。伐採した樹木は、薪、椅子などに利用し、板にも挽く予定である。そのほか、散策路柵の修繕を定期的に行い、重機を用いて、雨水の溜りやすり場所への碎石敷や下草刈りの支障になる丸太の運搬を実施した。

【その他】

6月に開催した利用者交流会や、利用者が来演する都度、田無演から環境安全管理についての情報提供を行い、利用者の安全管理に努めた。5月に井戸水のくみ上げや炊き出しなど、災害時の訓練を兼ねた環境整備をアジア生物資源環境研究センターと共同で実施した。機構と防災訓練を共同で11月に実施し、消火器取扱い訓練や止血法講習などを行った。毎月定例会の前に行っている安全衛生マネジメントシステム会議では、他で発生した災害発生報告や、熱中症やハチ刺されの対策など季節に応じた注意喚起を行い、災害を未然に防ぐことができた。教職員や利用者の災害発生など緊急時に即応性高く対応するために、演習林内の位置と緊急連絡先を記した現在地標識を林内8箇所を設置した。

「東京大学の森」育成資金への寄附者は残念ながらいなかった。「武蔵野に大学の森をたずねて～東京大学田無試験地の80年～」を49冊、「森たび」東京大学演習林のみどころ100」を53冊販売した。



写真:第一苗畑に設置した解説看板



写真:演習林内の位置と緊急連絡先を記した現在地標識

生態水文学研究所

【教育】

農学部森林生物科学専修・森林環境資源科学専修の森林保全学実習、測量学実習の現地実習を、広島・田中らが代表教員の蔵治准教授(千葉演習林)と共に、それぞれ6月7～10日、8月22～26日に行い、それぞれ8名、10名の農学部生と引率教員が参加した。このうち森林保全学実習の6月8～10日について、全国大学演習林協議会の公開森林実習「森林と土砂と溪流の実習ー山から川に流れ出る土砂を測ろうー」と位置づけて行い、北海道大学、山形大学、京都大学から各1名の学生が参加した。

教養学部前期課程夏学期総合科目D 人間・環境「森林環境資源学」(ダムと森林)のフィールドワーク、冬学期主題科目全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」を、広島・田中らが代表教員の蔵治准教授と共に、6月4～5日と2月25～27日に行い、それぞれ24名、20名の教養学部前期課程の学部生が参加した。「ダムと土砂と海」には菊池准教授(附属水産実験所)にも参加いただいた。

南山大学(5月28～29日、21名)、名古屋大学(12月8日、40名)の講義、実習を受け入れ、教員、技術職員が対応した。田中が森林科学専攻博士課程の大学院生1名の博士論文研究を指導した。

【研究】

白坂・穴の宮・東山・犬山において気象、水文観測、雨水・溪流水サンプリング、水質分析を継続した。長期生態系プロットにおいて毎木調査、リター調査、種子調査、地上徘徊性昆虫調査、鳥類調査を継続し、またティーバッグの埋土分解実験を新たに開始し、それら結果を環境省モニタリング1000事務局、プロジェクト代表者等に提出した。

水文データを対象に、過去の記録紙の読み取り、マイクロフィルム化されていない最近の記録紙のPDF化、過去のデジタルデータをCD-Rと紙媒体で永久保存する作業を進めた。また長期生態系プロットの毎木調査データを対象に、過去の記録の保存作業やデータオリシティの再確認作業に着手し、一部結果を環境省モニタリング1000事務局に提出した。また研究所に保管されている古い写真・地図を対象に、デジタルアーカイブ化に着手した。

本研究所を主著者として、東山試験流域における1928～76年までの49年間の日降水量再計算結果、白坂小流域の地表・地中量水堰の水位ー流量関係の観測結果、また、秩父演習林における2010～11年までの溪流水質の分析結果が「演習林」に掲載された。白坂の2014年の日降水量・日流出量、降水と溪流水の水質データが、基盤データ整備委員会水文水質部門によって「演習林」に掲載された。

五名を主著者として、白坂小流域での対照流域法を用いたリター層が水収支と水流出に与える影響の解析結果が「水利科学」誌およびJournal of Forest Research誌に掲載された。また、田中指導の大学院生Chandratilakeを主著者として、白坂小流域内のカシノナガキクイムシの被害を受けたコナラ生残木の蒸散量の低下様式についての解析結果がEcohydrology誌に掲載された。第6回中部森林学会にて、東海地方の暖温帯二次林におけるナラ枯れ被害とコナラの種子落下数の関係について佐藤らが、ヒノキ人工林内でのヒノキ単木の樹幹流下量について田中らが、また、赤津研究林内の長期生態系プロットでの60年間の森林動態について高橋らが発表した。第128回日本森林学会にて、東海地方の暖温帯二次林におけるナラ枯れとコナラの種子落下数の空間変動の関係について佐藤が、ヒノキ人工林内でのヒノキ単木の樹幹流下量と枯れ枝数の関係について田中らが、国立公園と観光の関係性について水内が、都道府県別間伐量推定モデルの開発について広島らが発表した。富良野市で開催されたThe 7th Symposium of Asian University Forest Consortiumにおいて、田中らがカセツアート大学林学部との長期水文研究プロジェクトの成果の一部について、佐藤らがナラ枯れ被害を受けた暖温帯二次林における新規参入木の展開様式について、また

Chandratilake らがカンノナガキクイムシによるマサアタックを受けたコナラ生残木の蒸散量について発表した。技術職員等研究・研修会議にて、本研究所における最近の過去データの管理体制について梁瀬が、設置から 30 年が経過した本研究所のスギ間伐試験地の概況について高橋が発表し、梁瀬の発表課題については、弥生キャンパスにおける演習林ゼミでの発表演目を選定された。東京大学総合技術研究会 2017 にて、本研究所における最近の過去データの管理体制について梁瀬が発表した。水産実験所にて開催された「浜名湖をめぐる研究者の会 第 25 回ワークショップ」に佐藤らが参加し、赤津研究林におけるナラ枯れの実態について発表した。赤津研究林にて開催された、森林 GIS フォーラムミニセミナー「CS 立体図を作って森に行こうーCSMapmaker を使った CS 立体図の作製と現地実習ー」に広嶋らが参加し、レーザー計測データを使用して赤津宿泊施設周辺の詳細な地形図を作成した。

昨年度から引き続き、4 月 1 日に愛知県豊田市との受託研究「水源かん養機能モニタリング研究委託」を実施し、今年度は大洞試験地に加えて、新たに御内試験地の観測を開始した。

データ利用規則に基づき、森林総合研究所の今村氏、京都大学の岡野・糸数の各氏、東京大学の Chandratilake 氏、名古屋大学の岩下氏にデータ利用申請を許可した。5 月 13 日に利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会を開催し、15 件のポスター発表があった。

【社会連携】

犬山市立今井小学校および城東小学校で 4 回開催された「探鳥会」に梁瀬、高橋が講師として参加した。東京大学赤津研究林サポーターズクラブ「シデコブシの会」、「犬山研究林利用者協議会」による赤津研究林、犬山研究林での主催行事、見学団体ガイド等がそれぞれ 22 件、37 件行われた。瀬戸市との共催で、せと環境塾 2016 講座「サイエンスキャンプ in 東大演習林」を 9 月 3 日に開催し、26 名が参加した。犬山市の「平成 28 年度犬山市民総合大学」環境学部において蔵治准教授、田中らが講義を行った。この講座の受講生を対象として案内人補助者試験を行い、7 名中 5 名が合格した。瀬戸市環境審議会、「せと環境塾」運営委員会、犬山市環境審議会に広嶋が委員として、瀬戸市自然環境の保護及び保全特定地区選定委員会に田中が委員として、それぞれ参加した。リーフレット『犬山研究林の自然ー春・夏ー』を演習林出版局から出版した。

【施業管理】

第 5 期生態水文学研究所教育研究計画において 4 つにゾーニングした研究林を、それぞれの施業方針に従って管理した。愛知県の保安林整備事業で 10.18ha、小規模治山事業で 7.57ha の間伐を実施した。危険の未然防止の観点から、瀬戸市と犬山市の公道沿いに発生したナラ枯れおよびマツ枯れ木を伐採した。民有地との境界沿いの危険木を伐採した。74 林班においてマツ枯れ対策として湖西市と協働で地上からの予防散布(5 月 22 日)、年越し枯死木調査(4 月 21 日、被害本数 1 本、うち今年度被害 1 本、材積 0.24m³)、静岡県によるマツ枯れ被害木の伐採搬出(材積 5.84m³)、枯死木調査(11 月 21 日、被害本数 3 本、うち今年度被害 3 本、材積 1.70m³)を行った。

【その他】

フランスからのインターン生 1 名を 2 ヶ月間受け入れた。

富士癒しの森研究所

2016 年度は、事業内容の優先度を吟味しつつ、他演や地域住民との連携を図りながら癒しの森プロジェクトに関する各種事業をおおむね計画通り実行できた。

【教育】

大学の実習として、農学部の実習 2 件、大学院の実習 5 件、教養学部 5 件、工学部 1 件を受け入れた。研究科の留学生プログラム 1 件および海外からのインターンシップを 1 名受け入れた。学生体験活動プログラムを企画した。「癒しの森プロジェクト」にもとづく教養学部開講科目として、全学体験ゼミ「癒しの森をつくる(夏)(冬)」を開講・実施した。森林風致計画学研究室のゼミに参加し、卒業論文・修士論文の研究サイトとしての利用を呼びかけた。これまでに引き続き、山中寮と研究所の森林を活用したゼミ合宿を誘致した。運動会学生との共同作業として、カラマツ間伐材を用いて、山中寮入り口のチェーンゲートを作製した。当研究所を拠点として修士論文研究 1 件が行われた。ICT を活用した遠隔教育の実践を全学体験ゼミナール内で行った。

【研究】

実証林において、林内気象データを蓄積した。地域住民参加型で第 3 回下層植生調査を実施した。社会的仕組みづくりに関する研究として、安全作業講習会および薪の原木搬出による社会実験を行い、データを収集した。保健休養機能に関する研究として、実証林における生理心理調査の結果を学会で発表した。地域の森林を対象に地域の健康を支える資源としての森林資源ポテンシャルに関する研究およびヘルスツーリズム実証研究の計画を外部研究者とともに検討立案した。富士山科学研究所との共同研究として、林内活動の安全に関する研究について検討した。フットパスに関する情報収集をした。林内活動の楽しみに関するデータの蓄積として特別ガイドにおけるアンケート調査を行った。技術職員によって LTER の調査結果とりまとめを行い、技術職員等試験研究・研修会議で発表を行った。キノコ放射性物質調査に参加し、サンプリングを行った。森林学会で研究成果を発表した。

【社会連携】

地域公開企画として、地元住民向けのコミュニティスペースを提案し、地元住民参加による設備整備のためのグループ、癒しの森の会の立ち上げ準備をした。フットパスに関する住民との共同勉強会を 5 回開催した。公開講座として研究報告会を開催した。村の関係部署との懇談会を行い、研究所林内の現地見学を行った。山中湖村と研究所間の連携協定を締結した。やまなし木質バイオマス協議会、山梨県美しい県土づくり推進大会、相模川クリーンキャンペーン、山梨環境・健康ビジネス研究会、NPO 富士山自然学校など、外部の活動へ貢献および参画した。英語による Web ページ作製を計画したが実施できなかった。

【施業管理】

森林整備では、刈払いの一部を除き、おおむね計画通り実施した。除伐・間伐は III-13 の間伐を秩父演習林からの 2 名の技術職員の業務協力及び実務研修の参加者により実施した。その他の予定区では実施できなかった。II-8 小班周辺の危険枝処理は、市町村交付金相当額予算により外注にて実施した。その他の危険木について整備の緊急性にかんがみ予定外の区や風倒木処理作業を各所で行った。またグラウンドの獣害対策として、II 林班内に集積してある枯損枝などを周辺に移動した。その他、ツタウルシのつる切を林道沿いを中心に実施した。また、来年度の県有林の借地契約更新のための現地確認作業を行った。施設整備で

は、歩道、車道共に全線の整備を行った。山中寮およびグラウンド周辺の歩道沿いについては、特に寮宿泊者の安全な歩行のために危険な枝の撤去などの整備を行った。湖畔広場東屋の壁材丸太の入れ替えを行った。老朽化した富士山観測塔および物置の撤去について、市町村交付金相当額により外注にて実施した。なお、物置の移築については実現できなかったため、来年度以降新築として要求していく。講義室の庇延長工事について市町村交付金相当額により外注にて実施した。屋根の修繕と周辺的环境整備も行った。今後は、講義室建物全体の構造改善工事について要求していく。2014年度に実施したモニ1000サイト毎木調査の進界木個体へのタグ付けを行った。III林班のパネル式看板についてはパネルが用意できず未実施となった。また、II林班の看板について老朽化が見られたので、来年度以降更新を検討している。その他、周辺の道路状況に対応したミラーの設置の検討、村道へのカーブミラー設置要求、国道への横断歩道設置要求を行った。山梨県のカラマツ精英樹母樹を特定する作業として、III林班内で条件の合うカラマツを探索し、森圏管理学研究室へ遺伝子調査のためのサンプル採取と分析を依頼した。

【その他】

体育チームと緊密に連絡を取り合い、山中寮の2017年度からの運営体制検討に協力した。東大教職員向け特別ガイドを春・秋・冬の3回実施した。寄付者に対するサービスを実施した。研究科の予算で整備したICT講義室のお披露目を行い、教育、研究、社会貢献などに大いに活用した。講義室の屋根の修繕を行った。学会、国際会議やエクスカージョンなどの受け入れが3件あった。



地域住民対象の安全作業



完成したICT対応の富士癒しの森講義室



JST さくらサイエンスプログラム
による海外学生の受け入れ



教養学部全学体験ゼミナールの
一コマ:足湯の作製

樹芸研究所

樹芸研究所第4期教育研究計画の5年目の見直しを昨年度に実施したところ、幾つかの事業が手つかずとなっていることを確認した。計画の立案時に大胆なスリム化と資源の集中を念頭において立てた教育研究計画ではあったが、十分に手が回らない課題が生じた。今期計画では当初より樹芸研究所の技術職員数が一減とされていたので、これまで優先して実施してきた事業を更に推進することを選択して、教育と研究の特色がきらりと光る組織を目指すこととした。

第4期教育研究計画において樹芸研究所では教育分野にエフォートを大きく割くこととした。特に2006年度に開始した前期教養課程の主題科目・全学体験ゼミナールの実施に大きなエフォートを割いている。全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」シリーズは、人と自然のつながりや、人と人のつながり、そして現代社会においては見えにくい「プロセス」を、体験を通して気付かせる仕掛けであることを基本としながら、大学受験を終えたばかりの学部1、2年生に「学ぶ」ということの原点を問うことに重きを置く講義である。構想から8年越しの2014年度にようやく体験ゼミナール「伊豆に学ぶ—熱帯植物編—」の実施に漕ぎ着けた。その中のカカオノキからカカオを収穫してチョコレートを製造するというアクティビティを発展させる格好で、今年度よりチョコレート会社と共同研究を展開する運びとなった。樹芸研究所産カカオからチョコレートを製造し、UTブランドによる市販を実現する。今後より一層教育内容の充実と実施体制の効率化を計る。温室では、カカオ以外にも原料植物の現物を用いる教育プログラム開発に意欲的に取り組んでいる。バニラはその代表で、体験ゼミナール等の教育プログラムに供するために安定したキュアリング法を開発した。その方法は知財部に新規性・進歩性があると認められ特許申請を行うことになった。この手法に興味を示した香料会社と今後の発展的に研究計画を進める協議を行う予定である。

その他、研究ではおよそ30年前に実施したユーカリ適応試験の遺産を活かして材の加工特性や製品化の方向性を探る取り組みを進め、並行して林分単位での生産性を明らかにする目的であらたに植栽試験も進めている。この様に当所では利用方法を明らかにした上でユーカリを林業樹種として提案したいと考えている。これら植栽した有望なユーカリたちは非常に好い成長を示し、見学した学生に日本林業の可能性を示し関心を持ってもらう魅力的な教材となっている。この様にただデータをとって報告するばかりではなく、見せる「ユーカリ林分」を造成することの有意義さを訴えていく。

ユーカリ以外の樹種では、クスノキ合板を製造しその性能試験を行ったほか、これまで手が回らなかった油糧植物アブラギリに関して伝統工芸木炭生産技術保存会と安定供給に関する共同研究を昨年度に開始し、今年度はそれに加え桐油絞りの実験を行った。

昨年度実施した外部評価では、全学体験ゼミナール等の教育に特化した取り組みとあらたな林業を見据えたユーカリ事業に関して全ての委員から高い評価を受けた。演習林総体の中で、実験的な取り組みを行うことを樹芸研究所の使命の一つと捉えているので、第4期計画においては更にその役割を全うしたいと考えている。今年度の教育分野での大きな改革は、主力の全学体験ゼミナールを1年生専用としたことである。1年次の学生に演習林の存在を知ってもらうことは、特に重要なことである。

【教育】

- ・農学部 国際開発農学専修3年生
「森林実習」(他大学生に開放し、全演協「公開森林実習」とした。)
- ・教養学部前期課程1, 2年生 主題科目 全学自由研究ゼミナール
「伊豆に学ぶプラス1」, 「伊豆に学ぶプラス2」
- ・教養学部前期課程1, 2年生 主題科目 全学体験ゼミナール
「伊豆に学ぶ(夏)1」, 「伊豆に学ぶ(夏)2」, 「伊豆に学ぶ(夏)3」
「伊豆に学ぶー熱帯植物編ー」
「伊豆に学ぶ1」, 「伊豆に学ぶ2」, 「伊豆に学ぶ3」
「企画系さらに伊豆に学ぶ1」「企画系さらに伊豆に学ぶ2」
- ・東京大学体験活動「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」
南伊豆地域で竹林や獣害問題に向き合うNPOの方々と連携して実物の問題に当たる

【研究】

1. 適応試験で選抜されたユーカリ 10 種を林業樹種として再検討
 - ・*E. smithii*, *maidenii*, *bicostata*, *radiata* を伐採し、製材加工特性の試験(森林総合研究所)
 - ・2013年6月, 12月に実生苗を植栽した *E. saligna* の成長調査を継続して実施した。(王子製紙)
 - ・*E. elata*, *piperita* のクローン試験地の成長調査(日本製紙)
 - ・*E. smithii* の実生試験地の成長調査を継続して実施した。
 - ・*E. smithii* のクローン苗作成に着手した。
2. 樹芸研究所産カカオ・バニラの利用法の検討
 - ・カカオ・バニラの増殖
 - ・チョコレート製造・販売。(メリーチョコレートカンパニーと共同研究)
 - ・バニラのキュアリング新手法の開発(3月, 特許出願)
3. 油糧植物の植栽地整備と利用方法の検討
 - ・アブラギリの間伐試験を継続。(伝統工芸木炭生産技術保存会と共同研究)
 - ・桐油しぼり試験
4. シカ等野生生物の調査とその影響を定点観測(シカ増加の過渡期を捉えることができた。終了)

【社会連携】(市民向け公開講座)

- ・温室特別公開ー樹芸産カカオを使ったチョコレートー
- ・公開講座ー林業遺産・岩樟園クスノキ林見学会ー

【施業管理】

- ・2カ所の林道改修を市町村交付金相当額を充当し実施した。
- ・林道の危険箇所(物損事故現場)の安全対策をおこなった。
- ・青野作業所・加納事務所構内の危険木処理を市町村交付金相当額を充当して実施した。

【その他】

- ・2名の非常勤職員を障害者雇用枠で雇用している。

教育研究センター

【教育】

週1回のゼミ(演習林ゼミと教育研究センターゼミ)と指導教員との連携による個別指導を通じて、演習林に所属する学生(博士課程学生7名、修士課程学生5名、4年生3名、研究生2名、合計17名)の卒論、修論、博論研究等の指導・支援を行うとともに、学生生活全般のケアを行った。教育研究センターゼミでは、プレゼンの基本などに関する基礎的な演習・指導を行った。また、修士論文、学生が筆頭著者の投稿論文、学会発表ポスター、要旨等の英文チェックを行った。今年度は博士課程で1名、修士課程で3名が修了し、学部課程では3名が卒業した。学部・大学院のガイダンス等で演習林における教育研究の説明を行った。演習林教員で担当している講義のスケジュール調整、教養学部講義、演習林ゼミ等の教育推進に関わる経費管理等を通じて、演習林の教育活動を支援した。また、学内の各種委員会に出席した。

広報情報委員会と連携し、各演の教育利用実績を取りまとめた。また、教育目的での演習林利用希望者に対して、各地方演習林との連絡調整を行い、必要な情報を提供した。教育推進委員会と連携し、全国演習林協議会の公開森林実習の受付、諸手続きを支援した。

【研究】

演習林編集委員会と連携し、「演習林報告」、「演習林」の編集作業を行った。演習林内の委員会活動が円滑にできるよう、農学系事務との連絡調整を行うとともに、経費執行等の支援をした。広報情報委員会と連携し、各地方演習林の研究利用実績を取りまとめた。

研究目的で演習林を利用する利用者に情報を提供し、全演習林の研究活動を支援した。演習林教職員による投稿論文(英文要旨含む)の英文、演習林報告の目次、地方演習林の各種施設等の英文チェックを行った。

その他、所属する教員がそれぞれ関連するプロジェクト、および、そのデータ解析に向けた準備を行った。また、各自の科研費、運営費等で、個別テーマの研究に取り組んだ。

【社会連携】

広報情報委員会と連携し、ホームページ、科学の森ニュース、学内広報・弥生等の機関紙を通じて、演習林の社会貢献に関する広報活動を行った。また、各地方演習林の広報活動を取りまとめ、専攻長・附属施設長会議に毎月報告した。さらに、演習林の活動報告の情報を取りまとめ、演習林年報を発行した。一般公開、教職員向け特別ガイドの補助・支援を行った。

今年度は4月および5月より約3か月間、カナダからイーフェン・ペン(Yifeng Peng;通称、アキン)さん、フランスからレミ・セントリス(Rémy Saint-llys)さんの2名のインターンシップ生の受け入れに伴い、受入れ指導教員と連携して受入れ手続きを行い、教育研究センターにおいては演習林概要の説明およびインターンシップ終了報告会の開催を行った。10月中旬に国立台湾大学がSAUFC後に演習林を訪問する際、弥生での学生交流、研究室訪問を支援した。12月初旬に開催された海南大学-東京大学合同シンポジウム開催支援を行うとともに、来日された海南大学の教員および学生のエクスカージョンに同行した。12月から2月末まで、外国人教員として海南大学の徐詩濤准教授が演習林教員として12月1日付で着任した。近澤技術専門職員が9月末で育休を取得し、10月1日付育休代替職員として中山綾子が着任した。



図1. 国立台湾大学と東京大学の学生交流

【施業管理】

地方演習林の施業管理, 毎木・収穫調査, 苗畑作業への補助を行った。特に, 北海道演習林の災害復旧に丹羽技術専門職員が協力した。

【その他】

農学系事務からの各種問い合わせに対応するとともに, 連絡調整を行った。11月に学生相談ネットワークのコミュニケーションサポートルーム室長の渡邊慶一郎准教授を招き, 主に学生対象のメンタルヘルス講習を行った。安全衛生活動として, 地震時の緊急避難について, 教職員, 学生ともに緊急避難場所を1号館と2号館の間のヒマラヤスギの近くに一次避難した後, 農学部グラウンドに集合することを確認した。9月に行われた全演協総会に出席するとともに開催支援を行った。4月から7月末まで外国人教員としてアメリカのオクラホマ州立大学のクリス・ゾウ(Chris Zou)先生を演習林(主に生態水文学研究所に勤務)で受け入れるための手続きを行った。また, 4月にフランスからアクセル・フルーリー(Axelle Fluery)さん, 5月からフランスからローリー・ニノ(Laurie Nino)さんをインターンシップ生として受入れるための手続きを行った。

■各常置委員会活動■

【基盤データ整備委員会】

<気象部門>

東京大学演習林では、これまで最長で 100 年を超える期間気象観測を継続してきた。現在の観測システムは 2001 年から稼働し、7 地方演習林を網羅する合計 17 か所の観測地を基盤データ整備委員会気象部門で責任をもって観測を続けてきた。

2012 年1月1日からは「教育研究計画 2011～2020」に基づいた新体制の下での観測を継続している。すなわち、基盤データ整備委員会気象部門で責任をもつ I 種観測地は札郷(千葉), 前山(北海道), 小赤沢(秩父), 白坂(生態水文), 青野(樹芸)の5か所、観測項目は気温、湿度、降水量、日射量、風速、風向である。I 種以外の観測地はII種として各地方演習林の裁量で観測や全演でのデータ公開を行っているが、気象部門として各地方演習林で対応の困難な案件についてのサポートは継続している。

本年度は気象部門会議は開催しなかったが、観測機器やその部品についてはメンテナンス計画に基づいて購入、更新している。本年度は特に安全性や作業性の観点から、札郷、小赤沢における観測タワーの更新を行った。観測データの公開については、2013 年1月1日より演習林ホームページでの公開を大幅に早め、翌々月には公開するようにしている。2015 年のデータは観測体制とともに「演習林」59 号(2017 年3月発行)に 2015 年気象年報として掲載した。2016 年のデータは同様に「演習林」60 号に掲載する予定である。

2016年 各地方演習林の観測地と観測項目 (2016年末現在)

| 演習林名 | 千葉演 | | | 北海道演 | | | 秩父演 | | | | 田無演 | 生態水文学研 | | | 樹芸研 | |
|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|--------|------|------|------|------|
| | I | II | II | I | II | II | I | II | II | II | I | II | II | I | II | |
| 観測地 | 札郷 | 清澄 | 新田 | 前山 | 山部 | 山部事務所 | 小赤沢 | 栃本 | 大血川 | ワサビ沢 | 第一苗畑 | 白坂 | 東山 | 穴の宮 | 青野 | 加納 |
| 気温 | ○(○) | ○(-) | ○(-) | ○(○) | ○(-) | | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(-) | ○(-) | ○(○) | △(△) |
| 地温 | | | | | | | | ○(-) | | | ○(-) | ○(-) | | | ○(-) | |
| 湿度 | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | |
| 降水量 | ○(○) | ○(○) | ○(-) | ○(○) | ○(-) | | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(-) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | ○(○) | △(-) |
| 日射量 | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | | ○(-) | | ○(-) | △(-) | △(-) | ○(-) | |
| 風速 | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | | | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | |
| 風向 | ○(-) | | | ○(-) | ○(-) | | ○(-) | ○(-) | | | | ○(-) | ○(-) | ○(-) | ○(-) | |
| 降雪 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 積雪 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 降雪深 | | | | | | | | | | ○(-) | | | | | | |
| 積雪深 | | | | | | | | | | | | | | | | |

○観測公表項目、△観測しているが公表していない、()内代替観測の有無

<生物部門>

○植物分野

演習林内に生育する維管束植物(自生種・導入植栽種)をリストアップし、同時にさく葉標本を1種につき3点を作成する。2033 年度に全演の植物目録を更新することを目標に資料の収集にあたっている。

2016 年度は、未採取種の標本作成、デジタル画像撮影を継続して行った。

2016 年度の各演習林の活動

千葉演習林: I 種の活動は行っていない。II 種については、古いさく葉標本リストをまとめ、2016 年度末発行の雑誌「演習林」59 号に掲載された。

北海道演習林: I 種の活動は、標本整理を2日間・4人工行い、720 点の標本を麓郷森林資料館内の標本庫に入庫した。II 種の活動は行わなかった。

秩父演習林: I種の活動として、未採取分の標本採取を行った(表の通り)。II種の活動としては、2015年度に引き続き、自動撮影カメラによるフェノロジー調査(開芽・展葉・落葉)を行った。なお、フェノロジー調査は本年をもって中止することとした。

田無演習林: I種の活動は表の通り。II種の活動として、樹木園で自動撮影カメラによるフェノロジー調査を行った。

生態水文学研究所: I種の活動は保管された標本リストの見直しを行った。II種の活動は行わなかった。

富士癒しの森研究所: I種の活動は標本整理を行った。II種の活動は行わなかった。

樹芸研究所: I種の活動は標本整理 50種 50枚を行った。II種の活動は行わなかった。

| 演習林名 | 調査日数 | 調査人員 | 2016採取 標本種数 | 2016採取 標本点数 | 2016年度末 総標本種数 |
|-----------|------|------|----------------|----------------|------------------|
| 千葉演習林 | 0 | 0 | 0 | 0 | 693 |
| 北海道演習林 | 0 | 0 | 0 | 0 | 872 |
| 秩父演習林 | 1.0 | 2.0 | 23 | 40 | 942 |
| 田無演習林 | 14.0 | 14.0 | 28 | 84 | 242 |
| 生態水文学研究所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,202 |
| 富士癒しの森研究所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 416 |
| 樹芸研究所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 628 |

○昆虫分野

(1)全演共通の調査を実施

本年度もピットフォールトラップを用いた地表徘徊性甲虫相調査を実施した。2008年から各地方演習林共通の方法による定期的・定量的採集を行っており、採集された標本は北海道演習林に集められている。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、田無演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所では、2013年より調査地を移動した。富士癒しの森研究所では別の調査地がないため当初から同じ場所で調査している。

2016年度は5月12～13日に田無演習林で担当者会議と研修会を行い、甲虫相調査結果の公表時期と昆虫相のリスト化について話し合った。研修会では、ピットフォールトラップの設置・回収からタウ標本の作り方までの一連の作業を、各演習林担当者間で確認しながら行った。

2008～2010年の標本については同定結果が出ているものの、2011～2016年は未同定である。

2011～2012年、2013～2017年の同定が済んだところで、それぞれ、あるいはまとめて、雑誌「演習林」に投稿する。5年に一度の公表を目標とする。

(2)各地方演習林を利用した研究論文からの昆虫相のリスト化

各地方演習林を利用した研究論文からの昆虫相のリスト化は各地方演習林で進めている。今年度、共通のリスト様式が完成し、各地方演習林担当者により随時整備している。

○脊椎動物(鳥類を除く)分野

今年度は2011～2015年度(5年間)に全演で収集した自動撮影カメラ調査成果報告を雑誌「演習林」に投稿し、2017年3月発行の雑誌「演習林」59号、および東京大学学術機関リポジトリに掲載された。

2016年度 各常置委員会活動

8月17日～19日に千葉演習林においてコウモリ類捕獲講習会を行った。講師に福井大助教(北海道演習林)を招き、里見技術専門職員(千葉演習林), 相川技術専門職員(田無演習林), 高野技術専門職員(秩父演習林), 丹羽技術専門職員(教育研究センター)が, トラップの設置・捕獲・同定等に関する実習・指導を受けた。

秩父演習林で開催された公開講座に際し, 補助およびセンサーカメラ調査・ライトセンサスで得られたデータの一部を提供した。

継続して行われている各演での自動撮影カメラ調査の成果, およびその他の調査の内訳と成果は以下の通りである。

| 演習林名 | センサーカメラ調査 | | | その他の調査 | | | |
|------|-----------|------|------|------------------|------|------|----------|
| | 設置場所 | 調査日数 | 確認種数 | 調査方法(実施月) | 確認種数 | 収集件数 | 備考 |
| 千葉 | 林内 | 365 | 7 | 目撃情報記録(通年) | 8 | | |
| | | | | コウモリ調査(8月) | 2 | 2 | 捕獲講習会 |
| 北海道 | 林道 | 365 | 10 | 自動撮影調査(6・10月) | 8 | 463 | 林道モニタリング |
| | | | | 目撃ノート(通年) | 5 | 67 | |
| | | | | エゾシカライトセンサス(11月) | 6 | | シカ189頭 |
| 秩父 | 歩道 | 365 | 11 | ライトセンサス(5月～6月) | 2 | 16 | 林道 |
| | | | | 目撃ノート(通年) | 10 | 27 | |
| 田無 | ヒノキ林内・苗畑内 | 365 | 3 | 動物観察ノート(通年) | 9 | 19 | |
| 生態水文 | 歩道・沢地 | 365 | 13 | 目撃情報シート | 4 | 8 | |
| 富士 | 林内・歩道 | 365 | 11 | 目撃情報記録(通年) | 4 | 4 | |
| 樹芸 | 青野研究林内 | 365 | 5 | 目撃情報記録(通年) | 19 | 34 | |
| | | | | ニホンジカ区画法調査(4月) | 2 | | シカ13頭 |



千葉演習林で行われたコウモリ捕獲講習会時に捕獲されたキクガシラコウモリ

○鳥類分野

本年度も各演習林でみられる鳥類のリストアップとモニタリングを目的に教育研究計画のⅠ種, Ⅱ種の調査項目を実施した。また, 今年度は調査担当者不在の田無演習林, 富士癒しの森研究所で, 他演習林職員の協力を得てポイントセンサスを実施した。2016年4月から12月までの確認種数, 調査回数等は下記表の通りで, 千葉, 北海道, 生水研, 田無の4演習林で計8種を新たに記録した(全演習林での初記録3種を含む)。千葉演習林では, 鴨川市との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」を4月と11月に実

施した他、生水研では、近隣小学校の探鳥会の講師を7回担当した。また、秩父演習林からは、技術職員等試験研究研修会議で、「巨木からの観察による樹上と地上での鳥類相の違いの評価」の発表が1件、ヨタカに関する論文1編が日本鳥学会誌に掲載された。5月には富士癒しの森研究所でのポイントセンサスに合わせて、各演習鳥類担当者の打合せ会議が行われ、教育研究計画の前半5年のまとめと後半5年の計画について確認した。I種項目として撮りためた鳥類の生態写真についても公開の方法を具体的に検討し、2017年度内に実行の予定となっている。引き続き、組織的に調査体制を維持していきながら、計画を実行していく予定である。

| 演習林名 | 確認種計 | | 調査回数 | | 調査人員 | | 確認種数 | |
|------|------|----|------|------|------|------|------|------|
| | 科 | 種 | 公式調査 | 任意調査 | 公式調査 | 任意調査 | 公式調査 | 任意調査 |
| 千葉 | 30 | 52 | 4 | 124 | 8 | 124 | 20 | 51 |
| 北海道 | 32 | 89 | 12 | 83 | 24 | 87 | 42 | 85 |
| 秩父 | 30 | 62 | 16 | 70 | 16 | 71 | 37 | 59 |
| 田無 | 25 | 37 | 8 | 16 | 8 | 23 | 18 | 36 |
| 生態水文 | 32 | 61 | 4 | 28 | 12 | 59 | 28 | 50 |
| 富士 | 30 | 59 | 8 | 41 | 18 | 47 | 33 | 59 |
| 樹芸 | 25 | 49 | 4 | 21 | 4 | 21 | 28 | 30 |

確認種の分類は日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)に従った

確認種数は演習林隣接地域での記録も含む

任意調査は公式調査以外の野外業務の際、一時的に任意で行った調査、観察

<水文・水質部門>

千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所において、降水量と流出水量の観測を行うとともに、降水と渓流水の水質分析を行った。観測、分析は上記演習林で行っているが、千葉演習林での観測・分析は森林理水及び砂防工学研究室の協力を受けた。観測・分析結果を生態水文学研究所に集約し、雑誌「演習林」59号で公表した。データは各演習林と生態水文学研究所で保管・管理している。今年度の観測体制と観測地点、活動内容の詳細は以下である。

○降水量・流出水量観測

北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所では各演習林にて、千葉演習林では砂防工学研究室にて降水量と流出水量を観測し、日降水量・日流出水量へ整理したデータを生態水文学研究所に報告した。流出水量観測地点は袋山沢 A(千葉演習林)、丸山沢(北海道演習林)、バケモノ沢(秩父演習林)、白坂本谷(生態水文学研究所)、3号沢(樹芸研究所)、降水量観測地点は、新田(千葉演習林)、東郷ダム(北海道演習林)、ワサビ沢(秩父演習林)、白坂(生態水文学研究所)、青野(樹芸研究所)である。

○降水・渓流水の試料採取と分析

北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所では各演習林にて、千葉演習林では砂防工学研究室にて降水と渓流水を月に1度採取して pH と EC を計測し、分析担当者へ送付した。ただし秩父演習林では水試料の pH と EC の計測はサントリーグローバルイノベーションセンター株式会社水科学研究所で行った。降水、渓流水の採取地点は1の降水量と流出水量の観測地点とそれぞれ同じである。樹芸研究所では、加納観測地点での降水量1mm以上の降水を出勤日毎に採取するとともに、3号沢の渓流水を月に1度採取して pH と EC を計測し、分析に供した。

2016年度 各常置委員会活動

水試料の分析は次の研究室で行った。千葉演習林の水試料は森林理水及び砂防工学研究室で、北海道演習林と樹芸研究所のすべての試料と秩父演習林及び生態水文学研究所の降水試料は樹芸研究所で、秩父演習林と生態水文学研究所の渓流水試料は生態水文学研究所で行った。

分析項目は渓流水については Na^+ , K^+ , Mg^{2+} , Ca^{2+} , SO_4^{2-} , NO_3^- , Cl^- , pH, EC の9項目, 降水については, 上記9項目に NH_4^+ を加えた 10 項目とした。

分析結果については, 千葉演習林については砂防工学研究室から, それ以外の試料については水試料を採取した各演習林の担当者がとりまとめ, 生態水文学研究所に報告した。

○観測結果のとりまとめと公表

日降水量, 日流出水量, 降水と渓流水の水質分析結果を生態水文学研究所がとりまとめた。今年度は2014年1月～12月の観測結果を雑誌「演習林」59号で公表した。

○その他

水文・水質部門として北海道演習林の担当者1名の第4回分析グループ研修(田無地区及び弥生地区で開催)への参加を支援した。

基盤データ整備委員会 水文水質部門 データ公表進行状況

○2015年度までに公表済み ●2016年度公表

降水量・流出水量

| | | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 |
|----------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 千葉 | 袋山沢A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 千葉 | 袋山沢B | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 千葉 | 袋山沢C | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 北海道 | 丸山沢 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 秩父 | トウバク沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 秩父 | バケモノ沢 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |
| 生態水文学研究所 | 白坂(本谷) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 樹芸 | 1号沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 樹芸 | 2号沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 樹芸 | 3号沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |

水質(降水)

| | | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 千葉 | 新田 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |
| 北海道 | 東郷ダム | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |
| 秩父 | ワサビ沢 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |
| 生態水文学研究所 | 白坂 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |
| 樹芸 | 加納 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |

水質(渓流水)

| | | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 |
|----------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 千葉 | 袋山沢A | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 千葉 | 袋山沢B | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 北海道 | 丸山沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 秩父 | トウバク沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 秩父 | バケモノ沢 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |
| 生態水文学研究所 | 白坂南谷 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 生態水文学研究所 | 白坂本谷 | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ● |
| 樹芸 | 1号沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 樹芸 | 2号沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 樹芸 | 3号沢 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |

<GIS 部門>

演習林基盤データ整備委員会 GIS 部門は、本年度から第4期(2016~2018年度)の活動を開始した。前期の成果をさらに発展させるべく、①GIS データの整備と活用、②GIS 操作技術の向上、の2つを当期における GIS 部門の活動方針とした。

活動方針①に関して、当期はタブレット端末を利用した森林資源調査の効率化に取り組むこととし、本年度は千葉演習林と秩父演習林にタブレット端末(iPad)を配備した。千葉演習林では本年度新植地と立木販売予定物件をレーザー距離計により測量し、ArcGIS で図面を作成した。また、GIS を用いて千葉演習林概要の掲載図を作成した。北海道演習林では8月の大雨による林道被害状況の Web 地図を ArcGIS Online で作成し、学内での情報共有に活用した。秩父演習林では林道・歩道等のシェープファイルを更新し内容の充実に努めたほか、CS 立体図の作成、大面積プロットの立木位置作成等を行った。田無演習林ではアカマツ採種園の採種木位置図、下刈り履歴の図面、境界の塀更新のための図面を作成した。生態水文学研究所では森林調査図をもとに林小班のポリゴン化を行い、一部区域(約 200 ha)で 2 m メッシュ数値標高データを整備した。富士癒しの森研究所では枯損木位置情報を更新した。樹芸研究所ではレーザーコンパスを用いて新たに開設した作業道を測量し、GIS データを作成した。

活動方針②に関して、11月28~30日に弥生キャンパス内で GIS 技術指導者養成研修会を開催した。北海道演習林の中川雄治技術専門職員が講師を務め、「フィールドでのモバイル端末を使用した GIS データ収集と編集、ArcGIS Online の活用」をテーマに研修を実施した。千葉演習林・秩父演習林・生態水文学研究所・教育研究センターの技術職員計4名が受講した(写真1)。ArcGIS Online を中心に、Suevey123 for ArcGIS や Collector for ArcGIS の基本操作に関する講義を行った。また、タブレット端末を用いたサンプルデータの収集と集計、データ共有方法の実習を行った。さらに、ストーリーマップの作成や、各演で GIS の利用が見込まれる業務について意見交換を行った。12月8~9日には富士癒しの森研究所の職員2名を対象とした GIS 技術研修会を開催した(写真2)。秩父演習林の原口竜成技術専門職員が講師を務め、「モバイル端末を用いた危険木情報の収集と編集」をテーマに研修を実施した。Survey123 for ArcGIS を用いたフィールドデータ収集(調査票の設計とフィールド調査)、ArcGIS Online を用いたデータ編集・共有について実習を行った。また、ArcGIS Pro の基本操作、ArcGIS Online でのストーリーマップ作成、オフラインマップの活用例について講義を行った。1月24~26日には田無演習林と生態調和農学機構の職員3名を対象とした GIS 技術研修会を開催した(写真3)。千葉演習林の軽込勉技術専門職員が講師を務め、フィールドでのモバイル端末の応用と GIS との連携について実習を行った。Survey123 Connect for ArcGIS による調査フォームの作成と現地調査、ArcGIS Online によるデータ共有と編集、ArcGIS Desktop による下刈り管理履歴の作成を行った。



写真1 弥生キャンパスで行われた GIS 技術指導者養成研修会の様子



写真2 富士癒しの森研究所で行われた GIS 技術研修会の様子



写真3 田無演習林で行われた GIS 技術研修会の様子

<固定試験地部門>

東京大学の7地方演習林には数多くの試験地が設定され測定が行われている。試験地部門では、2011年度に決めた「試験地データの整備と公開に向けての具体的なスケジュールと方法についての基本的な方針」に基づいて一部のデータのデジタル化とデータ公開を順次進めている。2016年度は、2015年度にデジタル化を進めた千葉演習林吉田成長試験地データの附属資料の一部についてスキヤニングを行った。安野1号、郷台1号、2号、女滝1号、2号、3号、南澤3号、4号の試験地について1916年から2011年までの測定野帳321点と樹高曲線計算表、幹材積計算表など当時の附属資料264点をデジタル画像として蓄積した。

2016年度にデジタルデータ化した千葉演習林吉田試験地のデータ概要

| 試験地名 | 資料のある年 | 野帳 (点) | 附属資料 (点) |
|------|--|-----------|-------------|
| 安野1号 | 1921,1925,1930,1935,1940,1950,1957,1960,1965,1971,1976, 1981,1986,1991,1996,2000,2006,2011 | 29 | 24 |
| 安野2号 | 1921,1925,1930,1935,1940 | 10 | 0 |
| 大平1号 | 1921,1930 | 6 | 0 |
| 大平2号 | 1930,1940 | 4 | 0 |
| 郷台1号 | 1916,1921,1925,1930,1935,1940,1948,1950,1957,1960,1965, 1970,1976,1981,1986,1991,1996,2000,2006,2011 | 45 | 48 |
| 郷台2号 | 1916,1921,1925,1930,1935,1940,1946,1950,1957,1960,1965, 1971,1976,1981,1986,1991,1996,2000,2011 | 38 | 40 |
| 郷田倉 | 1921,1925,1930,1935,1940 | 6 | 0 |
| 二の台 | 1921,1930,1940 | 9 | 0 |
| 札郷1号 | 1921,1925,1936,1940 | 5 | 0 |
| 札郷2号 | 1921,1925,1935,1936,1940 | 6 | 0 |
| 南澤1号 | 1925,1930 | 4 | 0 |
| 南澤2号 | 1925,1930 | 3 | 0 |
| 南澤3号 | 1916,1919,1921,1925,1930,1933,1935,1940,1949,1957,1965, 1970,1976,1981,1986,1991 | 33 | 48 |
| 南澤4号 | 1916,1921,1925,1930,1935,1940,1945,1949 | 17 | 27 |
| 女滝1号 | 1916,1921,1925,1930,1935,1940,1950,1955,1957,1960,1965, 1970,1976,1981,1983,1986,1991,1996,2000,2006,2011 | 49 | 36 |
| 女滝2号 | 1916,1921,1925,1930,1935,1940,1950,1957,1960,1965,1970, 1976,1981,1983,1986,1991,1996,2000,2006,2011 | 44 | 39 |
| 女滝3号 | 1921,1925,1930,1935,1940,1976,1981 | 13 | 0 |
| その他 | | 0 | 2 |
| 合計 | | 321 | 264 |

【研究推進委員会】

第1回委員会を2016年4月22日に開催し、当委員会の活動方針と活動体制(前年度から変更なし)を確認した。また、本年度の活動計画について議論を行った。

当委員会内に設置された企画班と評価班において、それぞれ活動計画に従い、以下の活動を実施した。

企画班では、前年度に作成したメタデータ(基盤データ整備委員会各部門が収集するデータ、および各地方演習林の試験地等データを対象としたリスト)の定期更新を行い、演習林の教職員・学生が一覧できるようにした。

評価班では、演習林教員の外部資金獲得および論文・学会発表等業績の情報を収集・リスト化し、演習林年報に掲載する研究活動資料として広報情報委員会に情報提供した。

その他、日本学術振興会(JSPS)研究拠点形成事業(B. アジア・アフリカ学術基盤形成型)における長期データ解析研究会の活動を当委員会として支援した。3つの研究分科会(RG1:水・気候, RG2:生態系, RG3:管理)にサポート要員を配置し、分科会運営を支援した。また、研究分科会が開催した打合せ会議(計3回, RG1:9/15・11/17, RG3:6/24)にかかる参加旅費を支弁した。さらに、同事業のウェブサイト(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/c2c/>)を新たに開設し、その更新・保守を行った。

【教育推進委員会】

1. 委員会の開催

2016年5月20日(金)、10月21日(金)、2017年2月17日(金)の3回開催した。

2. 活動報告

2-1. 教養学部講義の組織的取り組み:演習林では、2006年度より、教養学部における講義の開講に積極的に取り組んできた。近年は、年に20以上の科目が開講され、2016年度は31科目が開講された(図-1)。これらの講義を通じて演習林を訪れ、森林・農山村の現状を学ぶ機会を持った学生は毎年300~400人にのぼり、2016年度も過去の水準と同様であった(図-2)。学事暦の変更が学年別の履修状況に影響を与えている可能性があり、今後、分析と対応が課題となる。

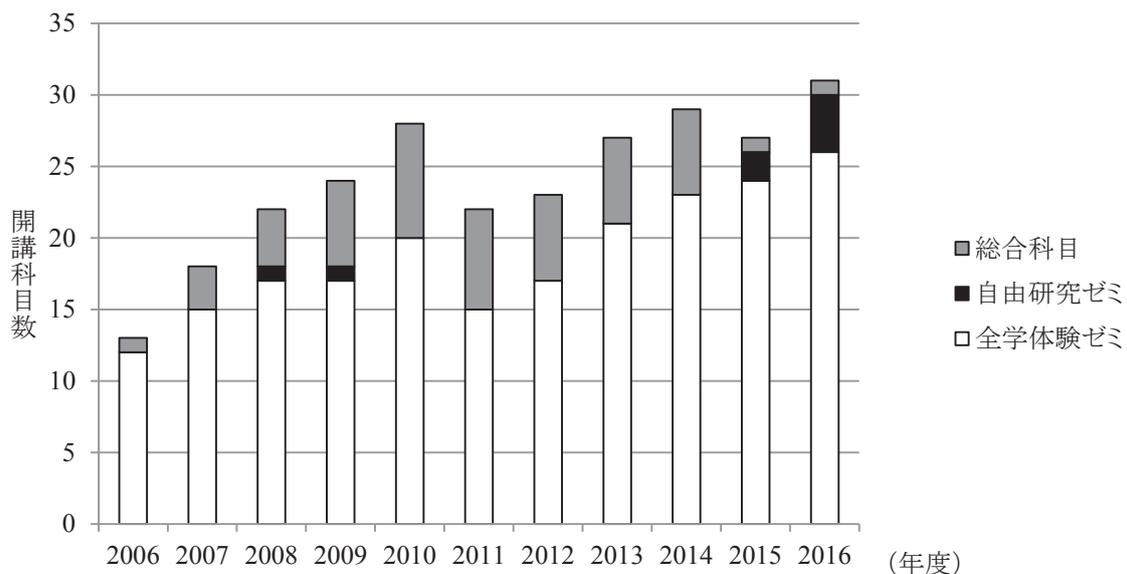


図-1. 演習林における教養学部開講科目数の推移

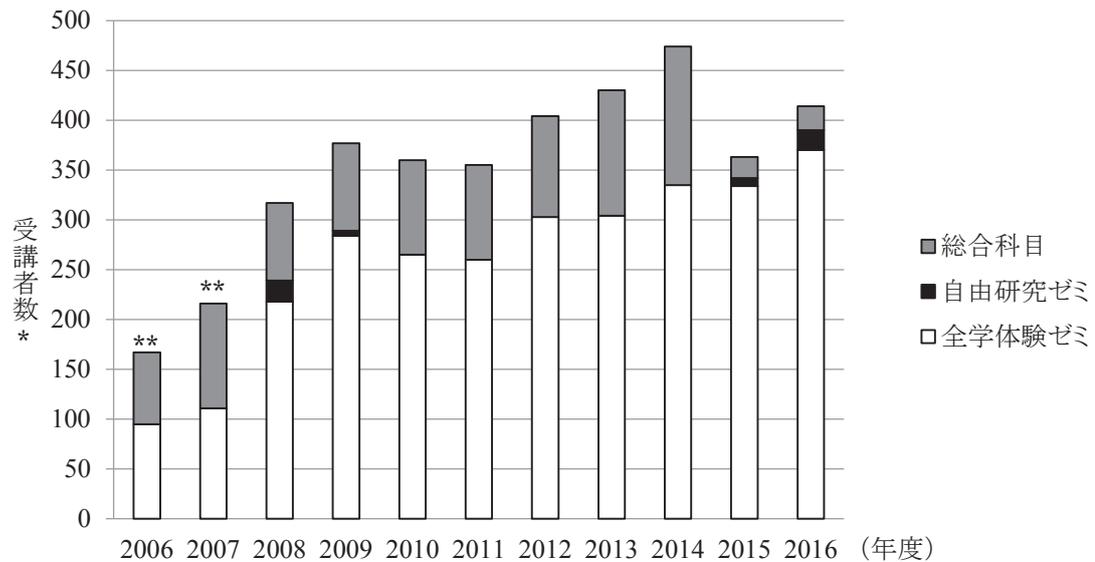


図-2. 演習林における教養学部開講科目受講者の推移

注) *受講者数は、履修登録者数ではなく、実際に講義を受けた学生数。**2006年度、2007年度の全学体験ゼミは集計されていない科目が含まれる。

これに加えて、「教育研究計画 2011～2020」に例示された「演習林として戦略的な題目の設定」を目指して検討した。その結果、2015～2016年度に総合科目「森林環境資源学」(ダムと森林)として開講してきた科目を、2017年度は総合科目「森林環境資源学」(ダムと森林、森と癒し、森の最終形)という科目名に変更し、これまで生態水文学研究所で行ってきた現地講義を、千葉演習林、富士癒しの森研究所でも行うことで、講義内容の充実と受け入れ可能学生数の増加を図ることとした。

また、教養学部前期課程2年次の学生向けに開講されている農学総合科目および農学基礎科目の講義は、研究科の教養学部学生教育に対する演習林の組織的な貢献という意味で、演習林として組織的に取り組む必要がある講義等に該当すると判断し、2017年度から旅費支弁対象とすることとした。

教養学部講義・ゼミの受講生に、演習林で学ぶためにはどのような学部・専修を選択すればよいかをわかりやすく示した資料として「森林のことを専門的に学ぶには？」を2014年度より作成しており、2016年度も改訂の上で引き続き受講学生に配布した。

2-2. 教育推進委員会予算: 演習林として組織的に取り組む教育活動に関わる費用負担が職種、指導学生の多少、講義数の多寡等によって大きく偏らないようにするために、教育推進委員会予算として、現有教員の教員経費の2%と欠員教員の教員経費の半額を原資とし、運営費からの補てん分を加え、教養学部前期課程の教育(全学体験ゼミ等)にかかる経費(遠隔地教員が駒場キャンパスで行う講義のための旅費については研究科負担)、演習林ゼミに出席するための最低限の旅費、「演習林」として講義の担当を受け持っているオムニバス講義のための旅費、助教の教育技術の向上をはかるうえで重要な学部実習の担当に必要な旅費等を支弁した。

2-3. 広報情報委員会との連携: 公開森林実習について、演習林ホームページの専用ページで情報発信するとともに、ポスターを作成して農学系の大学に送付した。

2-4. 演習林ゼミ: 演習林ゼミは、教育目的で卒業論文、修士論文および博士論文の作成に必要な指導を行うための「特別演習」「特別実験」等の科目の一部として行われている。2016年度は例年通り4研究室ごとのアレンジおよび卒論、修論、技術職員の発表で計11回開催した。

2-5. **学生の確保**:「森林のことを専門的に学ぶには？」を教養学部の講義・ゼミで受講生に配付した。また進学・大学院受験等のガイダンスの場で「科学の森で学ぼう」パンフレット(PDFで発行)を印刷して配布した。

2-6. **公開森林実習**:全国大学演習林協議会(全演協)では、各大学が持っている演習林相互の有効活用を促進することを目的に教育関係共同利用として「公開森林実習」を実施している。東京大学は、他大学の学生に東大演習林で学ぶ機会を提供するとともに、本学学生に他大学の演習林で行われるさまざまな「公開森林実習」に参加する機会を提供するため、単位の取得にかえて「成績証明書・履修証」を発行することで、「公開森林実習」に参加している。

2016年度は、関連専修の実習の全部ないし一部を「公開森林実習」として位置づけ、昨年度と同様に3つの公開森林実習を開講した。その結果、「森林科学総合実習」(北海道)は岩手大、信州大、愛媛大から計3名、「森林と土砂と溪流の実習」(生態水文学研究所)は京都大、北海道大、山形大から計3名、「伊豆の公開森林実習」(樹芸研究所)は京都大、東大(経済学部)から計2名の学生が受講した。このうち山形大では、受講証明書の提出により単位と認定された。

2-7. **「演習林」として講義の担当を受け持っている農学部の科目**:演習林として農学部に出講している「森林生態圏管理学」について、3年生に対する演習林の教員の顔見せという位置づけとし、12人の講師以上の教員が1回ずつ講義を行った。

【環境安全管理委員会】

毎月開催される農学部の環境安全管理室会議に出席して、情報の収集にあたり、演習林会議を通して情報の共有をはかっている。特定化学物質障害予防規則等の改正への対応など組織で対応すべき事案が多くなっており、弥生キャンパスの研究室とは異なる立場・環境にある演習林の対応について環境安全管理室会議にて質問・説明すること、それらを演習林に持ち帰ることは本委員会の重要な活動の一つである。

教育研究安全衛生マネジメントシステムを2007年度より研究部(現教育研究センター)および各地方演習林をそれぞれユニットとして実施している。2016年度も継続して、各ユニットで安全衛生計画等の作成、定期的なミーティング、リスクアセスメントと対策の検討、安全衛生に関わる各種研修、講習を行った。演習林外部の研修・講習へ職員が参加するとともに、演習林内部でも実施している。教育研究安全衛生マネジメントシステムのまとめや機械等自主検査結果の報告等は各演習林で自律的に実施して、100%の提出率を達成している。100%の提出は当たり前のことではあるが、演習林は常に高い意識を持って安全に配慮していることを示すものである。

2014年2月4日に千葉演習林のシカ生息数調査に際して発生した死亡事故を機に、研究科環境安全管理室の全面的なバックアップを得て演習林を利用する様々な形態ごとに演習林が果たすべき安全配慮の範囲の明確にした。2015年度に実施した外部評価では、死亡事故が起きた現実を重視して、安全への一層の取り組みが必要であることと、人員削減によるリスク増があることから組織的に人材確保に取り組むべきことの重要性が指摘された。このことを受けて演習林独自の安全への取り組みを行うことを検討した。その一つとして地方演習林の安全管理体制の視察を行い、地方演習林職員と職場の安全環境に関する交流を行うこととした。今年度は強い台風の被害を何度も経験した北海道演習林の視察を行った。大きな被害の復旧に当たる負担増の影響について意見聴取を行った。短期間であったが他演から支援職員を派遣したことが所定の効果を上げたことが確認された。それと共に不測の事態に備えて日頃から重機オペレーターの養成に取り組むことの必要も唱えられた。これらの意見は演習林会議にて報告し、

全演習林で共有した。

昨年度におきたボール盤事故は重大事故になりかねない、看過すべきできない事故であった。重要な背景要因として作業手順書の不備に加え、所定の命令系統が遵守されなかったことが挙げられた。この情報は演習林会議を通して全組織で共有したが、これらは風化させずに安全に留意する道標にしなくてはならないと考えている。演習林独自の安全への取り組みのもう一つの柱としてその仕掛けを検討している。

【広報情報委員会】

演習林会議の前の週に、図書館会議室の TV 会議システムを利用して毎月1回の会議を行い、広報、情報、ネットワーク、ホームページ、会計等の各担当から報告を行うとともに、審議・議論を行った。

○広報活動

・演習林編集委員会と連携して、雑誌「演習林報告」135号・136号、「演習林」59号を編集・発行した。今年度は演習林の掲載論文数が23と多く、全てを印刷するのはコスト的にも難しかったため、演習林の附表の一部を印刷せず、東京大学リポジトリで Web 発行のみとすることを始めた。また、科学の森ニュース74号～77号、技術職員等試験研究・研修会議報告、「科学の森で学ぼう」の編集、印刷、出版と配布、全演ホームページの更新とコンテンツの管理を行った。特に、科学の森ニュース76号は、「国際交流活動特集」として、最近活発になっている国際交流にスポットを当てた記事を集めた。ホームページでは、研究成果(論文公表)を速やかに PR するために、一行ニュースの欄を作成した(図1)。また JSPS C2C のリサーチグループごとのホームページ開設を支援した。

・科学の森ニュースについては、科学の森ニュース発行の3か月前に広報情報委員会と科学の森ニュース編集委員会を合同開催することにより、掲載する記事の情報を各地方演習林から収集できるようにした。

・毎月の専攻長・附属施設長会議に演習林の活動を資料として提出したほか、各演習林と協力しながら、広報誌(学内広報、淡青、弥生など)への原稿の投稿、情報の提供を行った。また、研究科カレンダー2017に地方演習林から提供された画像が掲載された。

・2016年度の演習林出版局の出版物(ポストカード含む)の販売実績は、ジュンク堂池袋店67冊、同札幌店で3冊、農学部生協店で55冊、多摩六都科学館ミュージアムショップ12冊、神林書店13冊、地方演習林合計で929冊、全体では1,079冊、合計872,386円(消費税込)となった。出版物の販売を促進するため、取り扱い店舗を増やすために経理課、取り扱い店舗と交渉し、2017年4月1日から割引率を現行の85%から70%へと引き下げることにした。

○情報活動

・各演習林の利用実績の収集・報告およびデータベースの維持管理を行った。今年度は利用実績集計システムに外国人利用者数を入力できるよう改良した。それとともに利用実績集計システム実務担当者会議を実施し、地方演習林間の連絡を緊密にとれる体制を整えた。

・演習林年報のとりまとめでは構成と中身について検討し、構成を改良することで内容が分かりやすくなるように改善した。

・基盤データ整備委員会と連携し、試験地部門におけるデータベースの構築、公開についての作業分担協力、気象部門における各演で観測された気象データの収集と取りまとめ、公開支援、水文・水質部門における観測データの公開支援を行った。

・広報情報委員会の下部組織である演習林ネットワーク委員会では、メールアカウントの管理業務・演習

林サイボウズ・Web/データベースサーバの管理・部局 CERT における担当としてコンピュータセキュリティに関する業務，地方演習林のインターネット接続・コンピュータネットワークに対する支援などを行った。今年度は，無停電電源を購入し，旧来のものと交換した。演習林サイボウズの管理体制について検討を行い，組織・ファイル管理の構成を，現行の組織に沿ったものとなるよう整備を進めた。農学部全体として ICT を用いた遠隔授業を進めるための設備整備が進んでおり，ネットワーク担当が対応にあたった。学外へ公開する Web サーバの登録手続き，全学セキュリティファイアウォール整備の準備，リモートデスクトップポート解放の検出への対応など，UT-CERT 部局担当として対応にあたった。

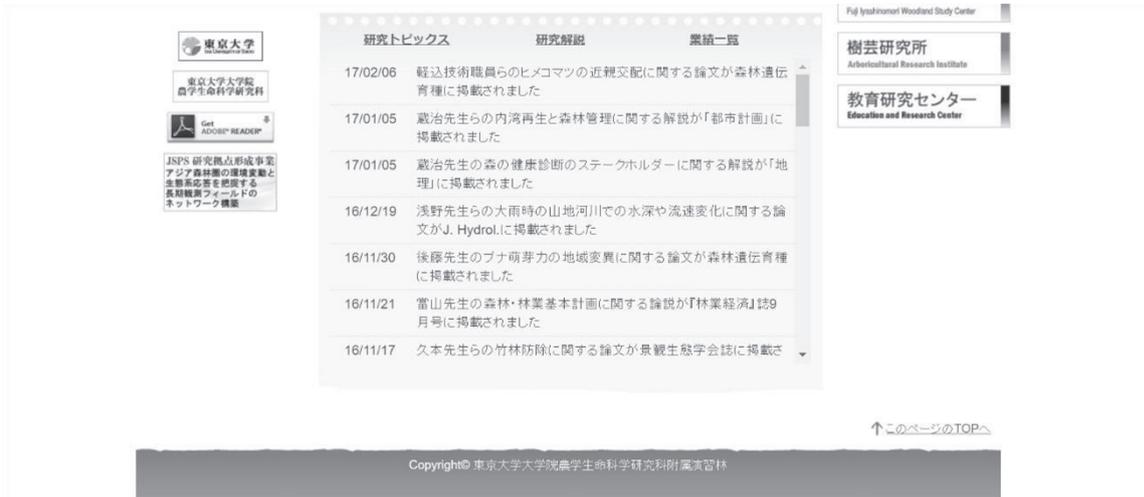


図1. ホームページで新たに設置した一行ニュース

【国際交流委員会】

演習林国際交流委員会は，おもに，各国の大学演習林との交流計画の作成・実施を任務としている。2016 年度には，研究推進委員会との協力により，日本学術振興会 (JSPS) 研究拠点形成事業 (B.アジア・アフリカ学術基盤形成型) に「アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築 (代表: 鎌田直人, 2016-2018 年度)」が採択された。2016 年 10 月に北海道演習林とその周辺において第7回アジア大学演習林コンソーシアムのシンポジウムを兼ねて JSPS C2C のシンポジウムを開催し，東大のほか，国立台湾大学・ソウル国立大学校・カセサート大学・マレーシアサバ大学から 64 名が参加した。また，2017 年3月には JSPS C2C のワークショップをマレーシアサバ大学とその周辺で開催した。第8回のアジア大学演習林コンソーシアムのシンポジウムは，2018 年秋にソウル国立大学校で開催する予定である。また，戦略的パートナーシップとして国立台湾大学でのフォーラムに参加した。また，戦略的パートナーシップの関連事業として，日本学生支援機構の奨学金により，国立台湾大学で開催されたサマースクールに森林科学専攻と生物材料科学専攻と関連専修の学生4名を派遣した。同様に，国立台湾大学の学生4名を第7回アジア大学演習林コンソーシアムのシンポジウムに招待し，その後，教育推進委員会との協力により，生態水文学研究所・富士癒しの森研究所の見学のほか，研究科キャンパスにおいて関係専攻・専修との交流会を開催した。マレーシアサバ大学とは，研究交流協定の発展的更新と学生交流協定の締結の手続きを進めている。

【森林病虫害委員会】

森林病虫害委員会は森林管理において支障となる病虫害が発生し各地方演習林で対応が困難な場合に専門的な立場から管理指針を助言することになっている。2016 年度は対応が必要な病虫害発生案件はなかった。

生態水文学研究所 74 林班で 2010 年度に実施したマツ枯れ予防樹幹注入試験地(注入木約 130 本)についても 2016 年度は枯死木がなかったため、調査は実施しなかった。本試験地では注入後数年間、予防効果について経過観察し、注入木で枯死が多発した場合には薬剤の分布調査を行うことになっている。

【「東京大学の森」育成資金委員会】

2016 年度の寄付受入状況は3月上旬までに6件、66 万円(本部取り分含む)であり、寄付件数、寄付額とも過去最低であった。2013 年度まで演習林で行っていた東大基金・渉外本部主催の東大寄付者フォローアップセミナーが 2014 年度以降、渉外本部の方針変更で開催されておらず、寄付の減少につながっていると考えられる。2016 年度は渉外本部に頼らず寄付を募るための準備として「東大の森」育成資金のパンフレットを改訂する予定であったが、2017 年度に先送りとなった。

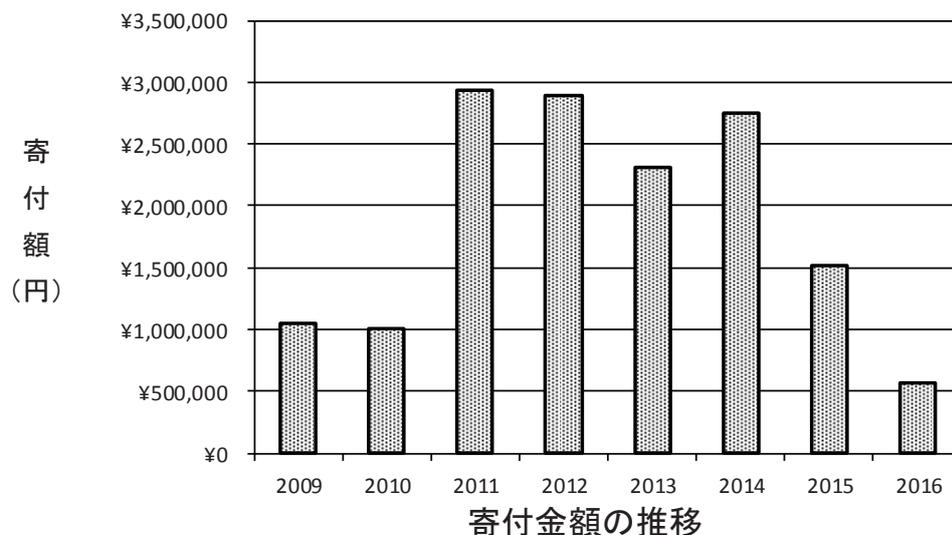
また、2015 年度に続き渉外本部の大口寄付を募る活動にも協力したが成果は得られなかった。

「東京大学の森」育成資金 寄付状況

| 年度 | 寄付件数 | 寄付額(演習林への配分 総額) | 1件あたりの寄付額 | 備考 |
|---------|------|--------------------|-----------|-------|
| 2009 年度 | 5 | 1,044,000 | 208,800 | 開始初年度 |
| 2010 年度 | 11 | 1,012,000 | 92,000 | |
| 2011 年度 | 30 | 2,936,750 | 97,892 | |
| 2012 年度 | 26 | 2,895,950 | 111,383 | |
| 2013 年度 | 42 | 2,312,000 | 55,048 | |
| 2014 年度 | 13 | 2,745,500 | 211,192 | |
| 2015 年度 | 11 | 1,521,500 | 138,318 | |
| 2016 年度 | 6 | 561,000 | 93,500 | |

(円)

(円)



■資料■

■教育活動■

大学院講義等

大学院農学生命科学研究科

生圏システム学専攻修士課程

| 教 員 名 | | | | | 講 義 名 |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 鎌田直人 | 後藤 晋 | 平尾聡秀 | 鈴木智之 | 前原 忠 | 森林圏生物動態学 |
| 久本洋子 | 福井 大 | | | | |
| 鎌田直人 | 後藤 晋 | 平尾聡秀 | | | 森林圏生態学演習 |
| 山田利博 | 嶋田重裕 | 楠本 大 | | | 森林遺伝子機能開発学 |
| 山田利博 | 嶋田重裕 | 楠本 大 | | | 森林生物機能学演習 |
| 石橋整司 | | | | | 森林生態圏管理学特論 |
| 安村直樹 | 藤原章雄 | | | | 森林圏管理システム学 |
| 石橋整司 | 蔵治光一郎 | 安村直樹 | | | 森林圏生態社会学演習 |
| 尾張敏章 | 廣嶋卓也 | 浅野友子 | 田中延亮 | 三浦直子 | 森林流域管理学 |
| 尾張敏章 | 廣嶋卓也 | 三浦直子 | | | 持続的森林圏経営論 |
| 尾張敏章 | 廣嶋卓也 | 浅野友子 | | | 森林流域管理学演習 |
| 大黒俊哉 | 山岸順子 | 高田まゆら | 松崎慎一郎 | 山本勝利 | |
| 石橋整司 | 山田利博 | 廣嶋卓也 | 當山啓介 | 久本洋子 | 生圏システム学特論 |
| 齊藤 修 | 菊池 潔 | 勝木俊雄 | 宮下 直 | | |
| 鎌田直人 | 山田利博 | 石橋整司 | 尾張敏章 | 蔵治光一郎 | |
| 嶋田重裕 | 後藤 晋 | 廣嶋卓也 | 平尾聡秀 | 浅野友子 | 生圏システム学実験・研究 |
| 安村直樹 | 楠本 大 | | | | |

森林科学専攻修士課程

| 教 員 名 | | | | | 講 義 名 |
|-------|------|------|------|-------|------------|
| 鎌田直人 | 後藤 晋 | 平尾聡秀 | 鈴木智之 | 前原 忠 | 森林圏生物動態学 |
| 久本洋子 | 福井 大 | | | | |
| 山田利博 | 嶋田重裕 | 楠本 大 | | | 森林遺伝子機能開発学 |
| 石橋整司 | | | | | 森林生態圏管理学特論 |
| 安村直樹 | 藤原章雄 | | | | 森林圏管理システム学 |
| 尾張敏章 | 廣嶋卓也 | 浅野友子 | 田中延亮 | 三浦直子 | 森林流域管理学 |
| 尾張敏章 | 廣嶋卓也 | 三浦直子 | | | 持続的森林圏経営論 |
| 鎌田直人 | 山田利博 | 石橋整司 | 尾張敏章 | 蔵治光一郎 | |
| 嶋田重裕 | 後藤 晋 | 廣嶋卓也 | 平尾聡秀 | 浅野友子 | 森林科学特別実験 |
| 安村直樹 | 楠本 大 | | | | |
| 鎌田直人 | 山田利博 | 石橋整司 | 尾張敏章 | 蔵治光一郎 | |
| 嶋田重裕 | 後藤 晋 | 廣嶋卓也 | 平尾聡秀 | 浅野友子 | 森林科学特別演習 |
| 安村直樹 | 楠本 大 | | | | |

農学国際専攻修士課程

| 教 員 名 | 講 義 名 |
|-------|---|
| 鎌田直人 | 森林昆虫生態学 |
| 尾張敏章 | International Forest Certification 国際森林認証論 |

生圏システム学専攻博士課程

| 教 員 名 | 講 義 名 |
|---------------------------|----------------|
| 鎌田直人 後藤 晋 平尾聡秀 | 森林圏生態学特別演習 |
| 山田利博 鴨田重裕 楠本 大 | 森林生物機能学特別演習 |
| 石橋整司 蔵治光一郎 安村直樹 | 森林圏生態社会学特別演習 |
| 尾張敏章 廣嶋卓也 浅野友子 | 森林流域管理学特別演習 |
| 鎌田直人 山田利博 石橋整司 尾張敏章 蔵治光一郎 | 生圏システム学特別実験・研究 |
| 鴨田重裕 後藤 晋 廣嶋卓也 平尾聡秀 浅野友子 | |
| 安村直樹 楠本 大 | |

森林科学専攻博士課程

| 教 員 名 | 講 義 名 |
|-----------------------------------|-----------------|
| 鎌田直人 山田利博 後藤 晋 鴨田重裕 平尾聡秀 楠本 大 | 森林生態圏管理学特別演習 I |
| 石橋整司 蔵治光一郎 尾張敏章 安村直樹 廣嶋卓也 浅野友子 | 森林生態圏管理学特別演習 II |
| 鎌田直人 山田利博 後藤 晋 鴨田重裕 平尾聡秀 楠本 大 | 森林生態圏管理学特別実験 I |
| 石橋整司 蔵治光一郎 尾張敏章 安村直樹 廣嶋卓也 浅野友子 | 森林生態圏管理学特別実験 II |

2016年度 教育活動

農学部講義・演習・実験実習

| 教員名 | | | 講義名 | 学部:課程(専修)等 | 開講年次・ターム |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------|---------------------------------------|-----------|
| 鎌田直人 尾張敏章 後藤 晋 浅野友子 | 山田利博 蔵治光一郎 廣嶋卓也 安村直樹 | 石橋整司 鴨田重裕 平尾聡秀 楠本 大 | 森林生態圏管理学 | 応用生命科学課程・環境資源 科学課程 | 3年次・A1 |
| 永田 信 | 古井戸宏通 安村直樹 | | 森林政策学 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・S1 |
| 蔵治光一郎 | | | 森林水文学 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・S1 |
| 後藤 晋 | | | 森林遺伝育種学 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・W |
| 福田健二 久本洋子 | 松下範久 鈴木智之 | 楠本 大 | 森林植物学実験 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・S1 |
| 富樫一巳 前原 忠 | 久保田耕平 加賀谷 隆 | | 森林動物学実験 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・S1-A1 |
| 丹下 健 久本洋子 | 益守眞也 楠本 大 | | 造林学実験 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・S1-A1 |
| 永田 信 齋藤暖生 | 古井戸宏通 安村直樹 | | 森林政策学演習 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・S1-A1 |
| 蔵治光一郎 | 田中延亮 小田智基 | | 測量学実習 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・S1-A1 |
| 丹下 健 鈴木智之 | 益守眞也 大澤裕樹 | | 森林土壌学実験 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 4年次・S1-A2 |
| 蔵治光一郎 田中延亮 | 浅野友子 小田智基 | | 森林保全学実習 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 4年次・S1-A2 |
| 酒井秀夫 | 鈴木智之 | | 森林土壌学実習 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 4年次・S1-A2 |
| 白石則彦 中島 徹 | 廣嶋卓也 當山啓介 | 藤原章雄 | 森林経理学実習 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 4年次・S1-SP |
| 白石則彦 坂上大翼 | 鎌田直人 福井 大 | 尾張敏章 | 森林科学総合実習 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修・フィールド科学 専修 | 3年次・SP |
| 下村彰男 | 藤原章雄 | | 森林風景計画学実習 | 森林生物科学専修・森林環境 資源科学専修 | 3年次・A1-A2 |
| 鴨田重裕 平尾聡秀 | 広嶋卓也 井上広喜 | | 森林実習 | 国際開発農学専修 | 3年次・SP |
| 高橋一生 久保成隆 | 浅野友子 古谷 研 | 木村伸吾 | 水の環境科学 | 農学総合科目 | 2年次・A1-A2 |
| 白石則彦 蔵治光一郎 | 酒井秀夫 尾張敏章 | 龍原 哲 広嶋卓也 | 森林環境科学汎論 | 農学基礎科目 | 2年次・A2 |

教養学部講義・演習

| 教員名 | | | 講義名 | 開講ターム・ セメスター |
|--------------------------------|-----------------------|----------------------|--|-----------------|
| 石橋整司 久本洋子 | 井上広喜 當山啓介 | 齋藤暖生 前原 忠 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」 | S1 |
| 石田 健 當山啓介 | 鈴木 牧 | 久本洋子 | 全学体験ゼミナール 「フィールドで考える野生動物の保護管理」 | S |
| 鴨田重裕 | 平尾聡秀 | | 全学体験ゼミナール「森に学ぶ(ふらの)」 | S |
| 鴨田重裕 | 井出雄二 | | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)1」 | S |
| 鴨田重裕 | 岡本 研 | | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)2」 | A1 |
| 鴨田重裕 | | | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)3」 | A1 |
| 鴨田重裕 | | | 全学体験ゼミナール「企画系さらに伊豆に学ぶ1」 | S |
| 楠本 大 | 安村直樹 | 竹本周平 | 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成 -子どもに伝える自然体験」 | S |
| 浅野友子 藤原章雄 | 石橋整司 齋藤暖生 | 後藤 晋 三浦直子 | 全学体験ゼミナール「癒しの森を創る(夏)」 | S2 |
| 山田利博 鈴木智之 | 平尾聡秀 | 浅野友子 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」 | S |
| 嶋田 透 勝間 進 高田まゆら 久保田耕平 | 石川幸男 東原和成 鎌田直人 | 松尾隆嗣 富樫一巳 宮下 直 | 全学自由研究ゼミナール「昆虫と節足動物の生物学」 | S |
| 鴨田重裕 | | | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス1」 | S |
| 石橋整司 廣嶋卓也 當山啓介 | 蔵治光一郎 藤原章雄 久本洋子 | 安村直樹 齋藤暖生 | 全学体験ゼミナール 「君はスギとヒノキのことを本当に知っているか?(入門編)」 | S |
| 蔵治光一郎 | 田中延亮 | 五名美江 | 総合科目D(人間・環境)「森林環境資源学(ダムと森林)」 | S |
| 富樫一巳 福田健二 益守眞也 | 丹下 健 久保田耕平 | 鎌田直人 松下範久 | 総合科目E(物質・生物)「森の生物学(共存する森林生物)」 | S |
| 石橋整司 久本洋子 | 井上広喜 當山啓介 | 齋藤暖生 前原 忠 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」 | A1 |
| 鎌田直人 福井 大 | 尾張敏章 | 坂上大翼 | 全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ～北海道演習林」 | A2 |
| 石橋整司 當山啓介 | 蔵治光一郎 | 久本洋子 | 全学体験ゼミナール「房総の森と生業(なりわい)を学ぶ」 | A2 |
| 鴨田重裕 | 下村彰男 | | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ1」 | A2 |
| 鴨田重裕 | 下村彰男 | | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ2」 | A2 |
| 鴨田重裕 | | | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ3」 | A2 |
| 鴨田重裕 | | | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス2」 | A |
| 鴨田重裕 | | | 全学体験ゼミナール「企画系、さらに伊豆に学ぶ2」 | A |
| 鴨田重裕 | | | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ-熱帯植物編-」 | A2 |
| 蔵治光一郎 廣嶋卓也 | 田中延亮 五名美江 | 菊池 潔 | 全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」 | A |
| 浅野友子 齋藤暖生 | 石橋整司 三浦直子 | 藤原章雄 | 全学体験ゼミナール「癒しの森を創る(冬)」 | A2 |
| 山田利博 鈴木智之 | 平尾聡秀 | 浅野友子 | 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」 | A |
| 石橋整司 | 露木 聡 | 藤原章雄 | 全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング ～GPSを使ったオリジナル地図づくり～」 | A2 |
| 安村直樹 山田 晋 | 齋藤暖生 | 當山啓介 | 全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」 | A2 |
| 石橋整司 | 露木 聡 | | 全学自由研究ゼミナール 「古典落語から知る江戸の自然・文化」 | A |

2016年度 教育活動

他大学の非常勤講師(委嘱あり)

| 教員名 | 講義名 | 対象学部 | 学科等 | 学年 | 大学名 |
|------|-----------|--------|--------|--------|--------|
| 石橋整司 | 環境論 | 電気通信学部 | 総合文化講座 | 1年 | 電気通信大学 |
| 石橋整司 | エコロジーA | 造形学部 | デザイン学科 | 2・3・4年 | 東京造形大学 |
| 齋藤暖生 | 地域資源管理論 | 文学部 | 社会学科 | 2・3・4年 | 都留文科大学 |
| 鈴木智之 | 生物環境論 | 社会情報学部 | 情報社会学科 | 2・3・4年 | 群馬大学 |
| 三浦直子 | 環境情報可視化技法 | 環境学部 | 環境創生学科 | 3・4年 | 東京都市大学 |

その他の講義・実習対応(学内で担当教員以外で対応した場合／他大学で委嘱のない場合)

| 教員名 | 講義名 | 対象学部等 | 学科等 | 学年 | 大学名 |
|---|---------------------------|---------------|---------------------|--------|--------|
| 當山啓介 | 造林学実験 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 東京大学 |
| 久本洋子 | 樹木学実習 | 農学部 | 森林科学科 | 1年 | 宇都宮大学 |
| 田中延亮・井上 淳・高橋功一 | 学外体験プログラムA | 総合政策学部 | 総合政策学科 | 1・2・3年 | 南山大学 |
| 井上 淳・梁瀬桐子 | 生物環境科学基盤実験実習 | 農学部 | | 2年 | 名古屋大学 |
| 藤原章雄 | 自然環境デザインスタジオ | 大学院新領域創成科学研究科 | 環境学研究系 | 修士課程 | 東京大学 |
| 井上広喜 | 森林遺伝子機能開発学 | 大学院農学生命科学研究科 | 森林科学専攻・生圏システム学専攻 | 修士課程 | 東京大学 |
| 齋藤俊浩・高野充広 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 東京大学 |
| 大村和也・五十嵐勇治・高野充広・吉田弓子・千嶋武・才木道雄 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 東京大学 |
| 高野充広・高德佳絵・才木道雄 | 森林土壌学実験 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 4年 | 東京大学 |
| 大村和也・吉田弓子 | 森林土木学実験 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 4年 | 東京大学 |
| 齋藤俊浩・大村和也・五十嵐勇治・千嶋武・高野充広・原口竜成・高德佳絵・才木道雄 | 森林植物学実験 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 東京大学 |
| 齋藤俊浩・五十嵐勇治・千嶋武・高野充広・吉田弓子 | フィールド科学総論 | 大学院農学生命科学研究科 | 生圏システム学専攻 | 修士課程 | 東京大学 |
| 齋藤俊浩・千嶋武・高野充広・高德佳絵・吉田弓子 | 環境生物学実験 I | 理学部 | 物質生物科学科 | 2年 | 日本女子大学 |
| 齋藤俊浩・千嶋武・五十嵐勇治 | 森林政策学実習 | 農学部 | 森林生物科学専修・森林環境資源科学専修 | 3年 | 東京大学 |
| 千嶋武 | 植物科学野外実習Ⅲ | 理学部 | 生物学科 | 3年 | 東京大学 |
| 齋藤俊浩・五十嵐勇治・高野充広・才木道雄 | バイオマス科学実習 森林科学実習 | 農学部 | 生物素材科学専修 | 3年 | 東京大学 |
| 大村和也・吉田弓子 | 事例研究(1), 東京都市大学知識工学部自然科学科 | 知識工学部 | 自然科学科 | 3年 | 東京都市大学 |
| 山田利博・原口竜成 | 「環境学フィールドワークII」現地講義 | 教養学部 | 学際科学科 | 2・3年 | 東京大学 |
| 齋藤暖生 | 共通教育 環境 | 全学部 | | 2・3・4年 | 富山大学 |
| 齋藤暖生 | 緑地計画論 | 農学部 | 森林科学専攻 | 3年 | 京都大学 |
| 齋藤暖生 | フィールド演習 | 工学部 | 社会基盤学科 | 3年 | 東京大学 |
| 藤原章雄・齋藤暖生 | 農林水畜産業と環境負荷 | 大学院農学生命科学研究科 | 環境調和農学特別コース | 博士課程 | 東京大学 |

2016年度 教育活動

| 教員名 | 講義名 | 対象学部等 | 学科等 | 学年 | 大学名 |
|---|--|-----------------------|---------------------------------------|------|-------------|
| 三浦直子 | 全学体験ゼミナール 「森の魅力をマッピング ～GPSを使ったオリジナル 地図づくり～」 | 教養学部 | | 1・2年 | 東京大学 |
| 三浦直子 | 持続的森林圏経営論 | 大学院農学生 命科学研究科 | 森林科学専攻・生圏シ ステム学専攻 | 修士課程 | 東京大学 |
| 水内佑輔 | 森林流域管理学 | 大学院農学生 命科学研究科 | 森林科学専攻・生圏シ ステム学専攻 | 修士課程 | 東京大学 |
| 坂上大翼・中川雄治・遠國 正樹・井上 崇・犬飼慎也・ 福岡 哲・木村恒太・天山 学 | 森林生態圏管理学 | 農学部 | 応用生命科学課程・環 境資源科学課程 | 3年 | 東京大学 |
| 坂上大翼・中川雄治・木村 恒太 | 森林環境科学汎論 | 農学部 | 農学基礎科目 | 2年 | 東京大学 |
| 楠本 大・坂上大翼・中川雄 治・木村恒太・福岡 哲 | 森林遺伝育種学 | 農学部 | 森林生物科学専修・森 林環境資源科学専修 | 3年 | 東京大学 |
| 坂上大翼・犬飼 浩・大川あ ゆ子・小池征寛・井上 崇・ 木村恒太・廣田善己・岡平 卓巳・江口由典・福岡 哲 | 陸域生態学実習 | 大学院新領域 創成科学研究 科 | 自然環境学専攻 | 修士課程 | 東京大学 |
| 坂上大翼 | インターンシップⅡ： 北海道における森林の あり方と開発 | 現代社会学部 | 社会システム学科 | 4年 | 同志社女子 大学 |
| 岡平卓巳・井口和信・江口 由典・廣田善己・小池征寛・ 遠國正樹・井上 崇・木村恒 太 | 森林科学総合実習 | 農学部 | 森林生物科学専修・森 林環境資源科学専修・ フィールド科学専修 | 3年 | 東京大学 |
| 犬飼 浩・磯崎靖雄・及川 希・木村恒太・大川あゆ子・ 木村徳志・小池征寛・松井 理生・三次充和・延 栄一・ 福岡 哲・遠國正樹・中川雄 治・犬飼慎也・岡平卓巳・井 口和信・廣田善己・江口由 典 | 全学体験ゼミナール 「雪の森林に学ぶ ～北海道演習林」 | 教養学部 | 全科類 | 1・2年 | 東京大学 |
| 犬飼 浩・及川 希・木村徳 志・磯崎靖雄・木村恒太 | 全学体験ゼミナール 「森に学ぶ(ふらの)」 | 教養学部 | 全科類 | 1・2年 | 東京大学 |

4研究室の所属メンバー

森林圏生態学研究室

| | |
|------|-----------------|
| 教授 | 鎌田直人 |
| 准教授 | 後藤 晋 |
| 講師 | 平尾聡秀 |
| 助教 | 前原 忠 |
| 助教 | 久本洋子 |
| 助教 | 鈴木智之 |
| 助教 | 福井 大 |
| 博士3年 | ティラック・チャンドラティラク |
| 博士1年 | サイフル・アムリ・サラギー |
| 博士1年 | 執行宣彦 |
| 博士1年 | 彭 勇 |
| 修士2年 | アヌット・ブランパニクパン |
| 修士2年 | 阿部智和 |
| 修士1年 | 川崎 満 |
| 学部4年 | 金道知聖 |
| 学部4年 | 小原 茜 |
| 研究生 | 尹 唯为 |

森林生物機能学研究室

| | |
|------|----------|
| 教授 | 山田利博 |
| 准教授 | 鴨田重裕 |
| 講師 | 楠本 大 |
| 助教 | 坂上大翼 |
| 助教 | 井上広喜 |
| 助教 | 竹本周平 |
| 博士1年 | アンヌ・カロリナ |

森林圏生態社会学研究室

| | |
|------|-----------|
| 教授 | 石橋整司 |
| 准教授 | 蔵治光一郎 |
| 講師 | 安村直樹 |
| 助教 | 藤原章雄 |
| 助教 | 齋藤暖生 |
| 助教 | 當山啓介 |
| 博士1年 | ムスリ・イスミニャ |
| 修士2年 | 笠原琢志 |
| 修士1年 | 五十嵐慶一 |
| 研究生 | 花 梦婷 |

森林流域管理学研究室

| | |
|-------------|--------------|
| 准教授 | 尾張敏章 |
| 講師 | 廣嶋卓也 |
| 講師 | 浅野友子 |
| 助教 | 田中延亮 |
| 助教 | 三浦直子 |
| 助教 | 水内佑輔 |
| IPADS博士1・2年 | サデーパ・ジャヤトゥンガ |
| 学部4年 | 平山偉之 |

所属学生の学位論文

博士論文

| 学生氏名 | 題目 |
|---------------------|--|
| ティラック・チャン ドラティラク | Influences of ambrosia beetle (<i>Platypus quercivorus</i>) attacks on evapotranspiration in a secondary warm-temperate forest |

修士論文

| 学生氏名 | 題目 |
|-------------------|--|
| アヌット・ブランパ ニクパン | Seasonal fluctuation of ambrosia beetles and factors influencing on colonization of ambrosia beetles |

阿部智和 冷温帯落葉広葉樹林における葉食性鱗翅目の群集集合決定要因

笠原琢志 山梨県山中湖村における薪の利用実態と薪の調達源としての森林
—世帯属性の違いからみた考察—

卒業論文

| 学生氏名 | 題目 |
|------|----------------------------------|
| 金道知聖 | 地下茎の状態の異なる竹稈伐採地におけるマダケの再生と木本種の更新 |

小原 茜 奥秩父山地の冷温帯における実生動態
—防鹿柵を用いた植生回復の評価—

平山偉之 山地河川における流域地形と洪水到達時間の関係

森林生態圏管理学大講座ゼミ

| | | |
|---|-----------------------|---|
| 第1回 (2016年4月22日 (金) 13:00-17:00/森林圏生態学研究室) | | |
| 川崎 満 | (森林修士1年) | 閉鎖林冠下における樹木群集の萌芽発生パターン ～外的環境および親木サイズ・成長の影響～ |
| 執行宣彦 | (森林博士1年) | 標高傾度に沿った下層植生と土壌細菌の多様性パターン |
| 鎌田直人 | (北海道演習林) | ナラ枯れの枯死率に関する要因 |
| 後藤 晋 | (教育研究センター) | トドマツにおける標高適応の遺伝的基盤を探る |
| 第2回 (2016年5月20日 (金) 13:00-17:00/森林圏生態社会学研究室) | | |
| 齋藤 馨 | (新領域・自然環境) | 世界中の自然ライブ音による全球感覚 |
| 藤原章雄 | (富士癒しの森研究所) | サイバーフォレストにおけるリアルタイム長期データ取得 フィールドシステムについて |
| 安村直樹 | (田無演習林) | 合法木材の現状と普及に向けた課題 |
| 齋藤暖生 | (富士癒しの森研究所) | 富士山および山麓域における保護制度と非木材林産物採取 |
| 第3回 (2016年6月24日 (金) 13:00-17:00/森林流域管理学研究室) | | |
| 遠藤いず貴 | (森林利水及び砂防工学 研究室) | 福島第一原子力発電所事故後の森林における 放射性セシウムの蓄積と移行 |
| 小田智基 | (森林利水及び砂防工学 研究室) | 山地小流域における森林伐採に伴う流量・水質の長期変動 |
| 田中延亮 | (生態水文学研究所) | 樹冠による降雨の再配分について |
| 三浦直子 | (教育研究センター) | 山地河川で取得した地上レーザデータの水面下補正方法の改良 |
| 浅野友子 | (秩父演習林/ 富士癒しの森研究所) | 大雨時の山地流域内での場所によるピーク到達時間の違いは 斜面ではなく河道のプロセスに由来する |
| 第4回 (2016年7月15日 (金) 13:00-17:00/森林生物機能学研究室) | | |
| 鳥居正人 | (田無演習林) | <i>Raffaelea quercivora</i> の病原性と枯死発生との関連 |
| 坂上大翼 | (北海道演習林) | 暗色雪腐病菌 <i>Racodium therryanum</i> が引き起こす夏季の立枯症状 |
| 楠本 大 | (田無演習林) | シカの嫌いな味の探索 |
| 鴨田重裕 | (樹芸研究所) | 日本におけるユーカリ植林の先駆的な事例の紹介 |
| 第5回 (2016年9月16日 (金) 13:00-17:00/森林圏生態学研究室) | | |
| 富樫一巳 | (森林科学専攻) | マツノマダラカミキリ台湾産亜種 <i>Monochamus alternatus</i> の 初期生息密度が幼虫休眠と成虫の形質に及ぼす影響 |
| Thilak Chandrathilake | (森林博士3年) | Variations of evapotranspiration in small forested catchments, before and after the Japanese oak wilt disease |
| Syaiful Amri Saragih | (森林博士1年) | Ambrosia beetles attacking maple trees and their ambrosia flora community in relation to branch dieback and wood rotting |
| 彭 勇 | (森林博士1年) | Soil biochemical responses to nitrogen addition in a secondary evergreen broad-leaved forest ecosystem |
| 福井 大 | (北海道演習林) | コウモリの移動生態 |
| 第6回 (2016年10月21日 (金) 13:00-17:00/森林圏生態社会学研究室) | | |
| 五十嵐慶一 | (生圏修士1年) | 気候変動が森林の流域サービスに及ぼす影響と その適応策の費用対効果に関する研究 |
| 蔵治光一郎 | (千葉演習林) | メーチャム流域における降水量観測の20年 |
| 當山啓介 | (千葉演習林) | 何を計画すべきか? - 日本の森林計画制度 - |
| 石橋整司 | (演習林企画部/ 千葉演習林) | 星の観察の森林体験学習への活用可能性 |
| 第7回 (2016年11月18日 (金) 13:00-17:00/森林流域管理学研究室) | | |
| 水内佑輔 | (生態水文学研究所) | 風景計画の歴史と研究方法 |
| 小林昂太 | (新領域・自然環境) | 都市近郊里山で活動する市民団体による樹木伐採及び バイオマス発生の特徴 |
| Sadeepa Senarath | (IPADS) | Inventory of small forest areas using Unmanned Aerial Vehicle |
| 広嶋卓也 | (生態水文学研究所) | 都道府県別間伐モデルによる利用間伐量のシミュレーション - 2020年国産材自給率40%の達成条件 - |
| 尾張敏章 | (北海道演習林) | トドマツが減っていく北海道演習林の択伐施業林 |
| 第8回 (2016年12月16日 (金) 13:00-17:00/修士論文発表・卒業論文発表) | | |
| 笠原琢志 | (森林修士2年) | 山梨県山中湖村における 薪ストーブの利用実態と森林利用 |
| 阿部智和 | (森林修士2年) | 葉食性昆虫の群集構造から、スペシャリスト・ジェネラリストを考える |
| Anut Burananichpan | (森林修士2年) | Factors influencing ambrosia beetles attack to alder and birch logs |
| 小原 茜 | (国際4年) | 奥秩父山地の冷温帯林における実生動態の標高変化: 防鹿柵を用 いた植生回復の評価 |
| 平山偉之 | (国際4年) | 山地河川の降雨に対する応答把握 |
| 金道知聖 | (森林4年) | 放置マダケ林の駆除方法の違いが竹の再生および広葉樹の成長に 及ぼす影響 |

2016年度 教育活動 森林生態圏管理学大講座ゼミ

| | | |
|------|--|---|
| 第9回 | (2017年1月20日 (金) 13:00-17:00/森林生物機能学研究室) | |
| 竹本周平 | (田無演習林) | 改良ポプラに対するスエヒロタケの病原性 |
| 竹本周平 | (田無演習林) | 日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加して |
| 井上広喜 | (樹芸研究所) | ユーカリのクローン増殖 |
| 山田利博 | (秩父演習林) | 東大演習林における野生キノコの放射性セシウム汚染 ー福島原発事故後5年間の変遷ー |
| 徐 詩濤 | (海南大学) | 海南自然保護区の溪谷林におけるオオタニワタリの着生特性 |
| 徐 詩濤 | (海南大学) | 海南大学の概要紹介 |
| 第10回 | (2017年2月17日 (金) 13:00-17:00/森林圏生態学研究室) | |
| 鈴木智之 | (秩父演習林) | 秩父演習林のスズタケの衰退と保全のための遺伝的解析 |
| 前原 忠 | (教育研究センター) | ミミズの話 |
| 久本洋子 | (千葉演習林) | ネパール北東部におけるレッサーパンダ保全の観点から見た タケの開花と住民の利用 |
| 平尾聡秀 | (秩父演習林) | ミトゲノミクス情報は動物集団の履歴推定を改善するか |
| 第11回 | (2017年3月10日 (金) 10:30-15:00/農学部1号館6番教室/技術職員研究発表) | |
| 笠原久臣 | (北海道演習林) | 北海道演習林における天然林施業試験地の管理 |
| 梁瀬桐子 | (生態水文学研究所) | 生態水文学研究所における先進的な過去データの管理体制 |
| 高德佳絵 | (秩父演習林) | 巨木からの観察による樹上と地上での鳥類相の違いの評価 |
| 辻 和明 | (富士癒しの森研究所) | 富士癒しの森研究所におけるLTERの林分動態 |
| 鶴見康幸 | (千葉演習林) | 千葉演習林のスギが鳥居となるまで |

※第11回 (農学部1号館1階6番教室) を除き第1～11回は農学部1号館2階森林科学専攻会議室で開催された。

演習林教育研究センターゼミ

| 月 | 日 | 発表者氏名 | 発表タイトル |
|------|----|-----------------------|--|
| 4 | 8 | 後藤 晋 | 教育研究センターゼミ・ガイダンス |
| | 15 | 全員 | プレゼンのミニ講習(自己紹介) |
| 5 | 6 | 笠原琢志 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用 ー山梨県山中湖村を事例としてー |
| | 13 | 三浦直子 | 演習林のGISデータとArc GIS活用例 |
| 6 | 3 | 平山偉之 | 山地河川の降雨に対する応答と洪水の実態把握 |
| | 10 | 執行宣彦 | 炭素・窒素循環にかかわる土壌微生物群集の標高変化 |
| | 17 | 阿部智和 | 論文レビュー"Degree of specialization is related to body size in herbivorous insects: a phylogenetic confirmation" |
| | | 金道知聖 | 放置マダケ林の駆除方法の違いが竹の再生および広葉樹の成長に及ぼす影響 |
| 7 | 1 | 小原 茜 | シカ排除柵が下層植生の初期回復過程に及ぼす影響 |
| | 8 | 五十嵐慶一 | 気候変動が森林の流域サービスに及ぼす影響とその適応策の費用対効果に関する研究 |
| | 22 | サイフル・アムリ・サラギー | Ambrosia Beetles Attacking Maple Trees and Their Ambrosia Flora Community in Relation to Branch Dieback and Wood Rotting |
| | | ティラック・チャンドラティラク | Estimation of evapotranspiration in Japanese oak wilt infested watershed by short-time period water-budget method |
| | 29 | レミ (Remy Saint Lys) | インターン生として行ったこと, 学んだこと |
| 8 | 31 | アキン(Akin) | インターン生として行ったこと, 学んだこと |
| 9 | 2 | 後藤 晋 | 論文執筆のための準備, 心構え |
| | 9 | 花 夢婷 (カ ムテイ) | 自己紹介 |
| | 23 | 阿部智和 | 食性幅を考慮した, 植食性昆虫のギルド集合 |
| | 30 | 笠原琢志 | 山梨県山中湖村における 薪ストーブの利用実態と森林の利用について |
| 平山偉之 | | 山地河川の降雨に対する応答と洪水の実態把握 | |
| 10 | 7 | 五十嵐慶一 | 土壌細菌の多様性の標高変化に対する土壌特性と植物多様性の相対的重要性 |
| | | 執行宣彦 | 気候変動が森林の流域サービスに及ぼす影響とその適応策の費用対効果に関する研究 |
| | 28 | 金道知聖 | 放置マダケ林の駆除方法の違いが竹の再生および広葉樹の成長に及ぼす影響 |
| 11 | 4 | 川崎 満 | 奥秩父山地におけるニホンジカ集団の遺伝構造の把握 |
| | 11 | 渡邊慶一郎 | メンタルヘルス講習(主に学生向け) *NW本部精神保健支援室長 & コミュニケーション・サポートルーム室長による講習 |
| | 27 | 小原 茜 | シカ排除柵が下層植生の初期回復過程に及ぼす影響 |
| | | ティラック・チャンドラティラク | Evapotranspiration from small watershed infested with Japanese oak wilt disease |
| 12 | 9 | サイフル・アムリ・サラギー | Ambrosia beetles in relation to tree weakening on maple in Tanashi forest |

2016年度 教育活動 実習等

実習等

| 演習林名 | 学校名 | 科目名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 学生数 | 実施月 | 日数 |
|------|----------------------|---|----------------|--------------------------|------------|-----|------|----|
| 千葉 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「危険生物の知識(春編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 26 | 5月 | 1 |
| 千葉 | 東京大学 | 地域自然誌論 | 新領域創成 科学研究科 | | 修士課程 | 9 | 5月 | 2 |
| 千葉 | 東京大学 | 自然環境学実習 | 新領域創成 科学研究科 | | 修士課程 | 12 | 5月 | 2 |
| 千葉 | 東京大学 | 造林学実験 | 農学部 | 森林系2専修 | 3・4年 | 13 | 6月 | 5 |
| 千葉 | 東京大学 | 森林植物学実験 | 農学部 | 森林系2専修 | 3・4年 | 11 | 6月 | 3 |
| 千葉 | 東京大学 | 森林経理学実習 | 農学部 | 森林系2専修 | 3・4年 | 6 | 6月 | 4 |
| 千葉 | 宇都宮大学 | 樹木学実習 | 農学部 | 森林科学科 | 1年 | 40 | 7月 | 2 |
| 千葉 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「君はスギとヒノキのことを本当に知っている のか?(入門編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 18 | 7月 | 2 |
| 千葉 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「フィールドで考える野生動物の保護管理」 | 教養学部 | | 1・2年 | 19 | 8月 | 4 |
| 千葉 | 東京大学 | 地球惑星環境学野外調査I | 理学部 | | 3・4年 | 8 | 8月 | 7 |
| 千葉 | 京都大学 | 地質調査実習 | 理学部 | 地質学 鉱物学教室 | 修士課程 | 11 | 8・9月 | 6 |
| 千葉 | 千葉大学 | 地質学野外実験Ⅱおよび地殻構造学野外 実験Ⅰ | 理学研究科 | 地球科学 | 3・4年 | 25 | 9月 | 5 |
| 千葉 | 千葉大学 | 野外生態学実験 | 理学部 | 生物学科 | 2・3年 | 18 | 9月 | 4 |
| 千葉 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「危険生物の知識(秋編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 25 | 10月 | 1 |
| 千葉 | 東京大学 | 生圏システム学特論 | 農学生命科 学研究科 | 生圏システム 学専攻 | 修士課程 | 14 | 11月 | 1 |
| 千葉 | 筑波大学 | 保全環境学実習 | 生命環境科 学研究科 | | 博士課程 | 18 | 11月 | 1 |
| 千葉 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「房総の森と生業(なりわい)を学ぶ」 | 教養学部 | | 1・2年 | 25 | 2月 | 4 |
| 千葉 | 千葉県立君 津青葉高校 | 校外実習(ヒメコマツ見学) | | | 高校生 | 3 | 3月 | 1 |
| 北海道 | 東京大学 | 持続的森林圏経営論 | 農学生命科 学研究科 | 生圏システム 学専攻 | 院生 | 3 | 7月 | 3 |
| 北海道 | 北海道 札幌啓成 高等学校 | S S H道内視察研修(自然環境) | | | 高校生 | 21 | 8月 | 3 |
| 北海道 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「森に学ぶ(ふらの)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 16 | 8月 | 4 |
| 北海道 | 東京大学 | 森林科学総合実習 | 農学部 | 森林系2専修 ・フィールド科 学専修 | 学部生・ 院生 | 24 | 9月 | 4 |
| 北海道 | 東京大学 | 公開森林実習「森林科学総合実習-北海 道の天然林生態系とその持続的管理-」 | | | 学部生 | 3 | 9月 | 4 |
| 北海道 | 同志社女子 大学 | インターンシップⅡ | 現代社会 学部 | 社会システム 学科 | 3年 | 10 | 9月 | 1 |
| 北海道 | 東京大学 | 自然環境学専攻陸域生態学実習 | 新領域創成 科学研究科 | 自然環境専攻 | 院生 | 14 | 9月 | 4 |
| 北海道 | 酪農学園 とわの森 三愛高校 | 道内研修 | | | 高校生 | 14 | 10月 | 1 |
| 北海道 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「雪の森林に学ぶ~北海道演習林」 | 教養学部 | | 1・2年 | 36 | 2月 | 3 |
| 秩父 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「危険生物の知識(春編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 26 | 5月 | 2 |
| 秩父 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 11 | 5月 | 2 |
| 秩父 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 10 | 6月 | 2 |
| 秩父 | 東京大学 | 森林土壌学実験 | 農学部 | 森林系2専修 | 4年 | 2 | 6月 | 3 |
| 秩父 | 東京大学 | 森林土壌学実習 | 農学部 | 森林系2専修 | 4年 | 3 | 7月 | 4 |
| 秩父 | 東京大学 | 森林植物学実験の野外実習 | 農学部 | 森林系2専修 | 3・4年 | 11 | 7月 | 3 |
| 秩父 | 埼玉県立 秩父農工 科学高校 | 樹木採集実習 | 森林科学科 | | 1年 | 41 | 7月 | 1 |
| 秩父 | 東京大学 | フィールド科学総論 | 農学生命科 学研究科 | 生圏システム 学専攻 | 院生 | 17 | 7月 | 4 |

2016年度 教育活動 実習等

| 演習林名 | 学校名 | 科目名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 学生数 | 実施月 | 日数 |
|------|------------|---|----------------|-----------------|------------|-----|-------------|----|
| 秩父 | 立正大学 | 秩父地域における地球科学図の作成 | 環境科学部 | | 学部生・ 院生 | 15 | 8月 | 4 |
| 秩父 | 首都大学 東京 | 動物系統学実習 | 理工学研究 科 | 生命科学専攻 | 3・4年 | 17 | 8月 | 4 |
| 秩父 | 日本女子 大学 | 専門科目授業「環境生物学実験I」による 植物分類学関連実習 | 理学部 | 物質生物 科学科 | 2年 | 19 | 8月 | 3 |
| 秩父 | 東京大学 | 森林政策学演習 | 農学部 | 森林系2専修 | 3・4年 | 14 | 8・9月 | 4 |
| 秩父 | 東京大学 | 植物科学野外実習Ⅲ | 理学系研究 科 | 生物科学専攻 | 学部生・ 院生 | 8 | 9月 | 4 |
| 秩父 | 東京大学 | バイオマス科学実習・森林科学実習 | 農学部 | 生物材料系 2専修 | 3年 | 21 | 9月 | 3 |
| 秩父 | 東京都市 大学 | 自然科学科事例研究(1) | 知識工学部 | 自然科学科 | 院生 | 10 | 10月 | 1 |
| 秩父 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 4 | 10月 | 2 |
| 秩父 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」 | 教養学部 | | 1・2年 | 4 | 10月 | 2 |
| 田無 | 東京大学 | 造林学実験 | 農学部 | 森林系2専修 | 3年 | 14 | 4・5・ 10月 | 3 |
| 田無 | 東京大学 | 緑地環境実地実習 | 農学部 | 緑地環境学 専修 | 3年 | 5 | 4・7・1 月 | 4 |
| 田無 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「都市の緑のインター プリター養成ー子どもに伝える自然体験 ー」 | 教養学部 | | 1・2年 | 3 | 5・6月 | 3 |
| 田無 | 東京大学 | 森林動物学実験 | 農学部 | 森林系2専修 | 3年 | 14 | 5・9月 | 2 |
| 田無 | 東京大学 | フィールド農学応用実習 | 農学部 | 応用生物学専 修 | 3年 | 21 | 7月 | 1 |
| 田無 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「森のエネルギーを使いこなす」 | 教養学部 | | 1・2年 | 9 | 2月 | 1 |
| 生態水文 | 南山大学 | 総合政策学部 学外体験プログラムA(国内) | 総合政策 | 総合政策 | 1・2・3年 | 15 | 5月 | 2 |
| 生態水文 | 東京大学 | 2016年度「ダムと森林」フィールドワーク | 教養学部 | | 1・2年 | 24 | 6月 | 3 |
| 生態水文 | 東京大学 | 森林保全学実習 | 農学部 | | 4年 | 7 | 6月 | 4 |
| 生態水文 | 東京大学 | 公開森林実習「森林と土砂と溪流の実習 ー山から川に流れる土砂を測ろうー」 | | | 学部生 | 3 | 6月 | 4 |
| 生態水文 | 東京大学 | 測量学実習 | 農学部 | 森林系2専修 | 3年 | 8 | 8月 | 5 |
| 生態水文 | 名古屋大学 | 生物環境科学基盤実験実習 | 農学部 | 生物環境 科学科 | 2年 | 38 | 12月 | 1 |
| 生態水文 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」 | 教養学部 | | 1・2年 | 20 | 2月 | 3 |
| 富士 | 東京大学 | 森林生態圏管理学特論 | 農学部 | | 院生 | 5 | 5月 | 1 |
| 富士 | 東京大学 | 森圏管理学実習 | 農学部 | フィールド 科学専修 | 3・4年 | 10 | 6月 | 3 |
| 富士 | 東京大学 | 環境設計演習 | 農学部 | | 4年 | 2 | 6月 | 1 |
| 富士 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「癒しの森を創る(夏)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 8 | 7月 | 2 |
| 富士 | 東京大学 | 森林動物学実験 | 農学部 | 森林系2専修 | 3・4年 | 12 | 8月 | 3 |
| 富士 | 東京大学 | 社会基盤フィールド演習 | 工学部 | 社会基盤学 専攻 | 3年 | 52 | 9月 | 4 |
| 富士 | 東京大学 | 自然環境デザインスタジオ | 新領域創成 科学研究科 | 自然環境学 専攻 | 院生 | 11 | 9月 | 5 |
| 富士 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「危険生物の知識(秋編)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 20 | 10月 | 2 |
| 富士 | 東京大学 | 農林畜水産業と環境負荷及び 農林水畜産業と生態系攪乱 | 農学生命科 学研究科 | 環境調和農学 特別コース | 院生 | 17 | 10月 | 1 |
| 富士 | 東京大学 | 森林圏管理システム学 | 農学生命科 学研究科 | 森林科学専攻 | 院生 | 1 | 11月 | 1 |
| 富士 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「癒しの森を創る(冬)」 | 教養学部 | | 1・2年 | 7 | 12月 | 2 |
| 富士 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「森の魅力をマッピング」 | 教養学部 | | 1・2年 | 2 | 12月 | 2 |
| 富士 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール 「森のエネルギーを使いこなす」 | 教養学部 | | 1・2年 | 9 | 2月 | 3 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学自由研究ゼミナール 「伊豆に学ぶプラス」 | 教養学部 | | 1・2年 | 1 | 8月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ1」 | 教養学部 | | 1年 | 16 | 8月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学自由研究ゼミナール 「伊豆に学ぶプラス」 | 教養学部 | | 1・2年 | 3 | 8・9月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ2」 | 教養学部 | | 1年 | 13 | 8・9月 | 5 |

2016年度 教育活動 実習等

| 演習林名 | 学校名 | 科目名 | 学部等 | 学科等 | 学年 | 学生数 | 実施月 | 日数 |
|------|------|------------------------------------|-------|-----------|----------|-----|------|----|
| 樹芸 | 東京大学 | 森林実習 | 農学部 | 国際開発農学専修他 | 3年 | 21 | 9月 | 4 |
| 樹芸 | 東京大学 | 公開森林実習「伊豆の公開森林実習ー人と森林のあり方について考えるー」 | | | 学部生 | 2 | 9月 | 4 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ3」 | 教養学部他 | | 1・2・3・4年 | 9 | 9月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 体験活動プログラム「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」 | 東京大学 | | 1・2・4年 | 4 | 10月 | 3 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | 教養学部 | | 1・2年 | 3 | 1・2月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶー熱帯植物編ー」 | 教養学部 | | 1年 | 17 | 1・2月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | 教養学部 | | 1・2年 | 3 | 2月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ1」 | 教養学部 | | 1年 | 23 | 2月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | 教養学部 | | 1・2年 | 3 | 2・3月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ2」 | 教養学部 | | 1年 | 25 | 2・3月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | 教養学部 | | 1・2年 | 2 | 3月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ3」 | 教養学部他 | | 1・2・3年 | 16 | 3月 | 5 |
| 樹芸 | 東京大学 | 体験活動プログラム「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」 | 東京大学 | | 1・2年 | 3 | 3月 | 3 |

■研究活動■

教職員の論文等

| | 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻-号 | 頁 | 年 |
|---|--|--|---|---------|-----------|------|
| ※ | Owari T, Okamura K, Fukushi K, Kasahara H, Tatsumi S | Single-tree management for high-value timber species in a cool-temperate mixed forest in northern Japan | International Journal of Biodiversity Science, Ecosystem Services & Management | 12(1-2) | 74-82 | 2016 |
| | Thwe-Thwe-Win, Hirao T, Goto S | Genetic composition of exotic and native teak (<i>Tectona grandis</i>) in Myanmar as revealed by cpSNP and nrSSR markers | Conservation Genetics | 17 | 251-258 | 2016 |
| | Torii M, Ito M, Nagao M, Matsuda Y, Ito S | Variations in virulence and hyphal growth of four <i>Raffaelea quercivora</i> isolates within <i>Quercus crispula</i> | Forest Pathology | 46 | 248-255 | 2016 |
| | Suzuki, SN | Non-equilibrium dynamics of a wave-regenerated forest subject to hierarchical disturbance | Journal of Vegetation Science | 27 | 969-979 | 2016 |
| | Miura N, Asano Y, Moribe Y | Improved correction method for water-refracted Terrestrial Laser Scanning data acquired in the mountain channel | The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences | XLI-B8 | 349-352 | 2016 |
| | Aizawa M, Yoshimaru H, Ogawa H, Goto S, Kaji M | Natural hybridization of Yezo and Sakhalin spruce in central Hokkaido, revealed by DNA markers with contrasting modes of inheritance | Plant Species Biology | 31 | 188-195 | 2016 |
| | Miura N, Asano Y | Effective acquisition protocol of Terrestrial Laser Scanning for underwater topography in a steep mountain channel | River Research and Applications | 32(7) | 1621-1631 | 2016 |
| | Niwa S, Toyota A, Kishimoto T, Sasakawa K, Abe S, Chishima T, Higa M, Hiura T, Homma K, Hoshino D, Ida H, Kamata N, Kaneko Y, Kawanishi M, Kobayashi K, Kubota K, Kuraji K, Masaki T, Niiyama K, Noguchi M, Nomiyama H, Saito S, Sakimoto M, Sakio H, Sato S, Shibata M, Takashima A, Tanaka H, Tashiro N, Tokuchi N, Torikai H, Yoshida T | Monitoring of the ground-dwelling beetle community and forest floor environment in 22 temperate forests across Japan | Ecological Research | 31 | 607-608 | 2016 |
| | Abell KJ, Gwiazdowski R, Normark BB, Kamata N, Van Driesche RG | The scale and parasitoid community on native hemlocks in Japan | Biological Control | 100 | 7-17 | 2016 |
| | Asano Y, Uchida T | Detailed documentation of dynamic changes in water depth and surface velocity during a large flood in a steep mountain stream | Journal of Hydrology | 541A | 127-135 | 2016 |
| | Gomyo M, Kuraji K | Effect of the litter layer on runoff and evapotranspiration using the paired-watershed method | Journal of Forest Research | 21 | 306-313 | 2016 |
| | Takemoto S, Akita K, Katayanagi N, Urata E, Ito T, Saito M, Okada H | Continuous effects of winter flooding on soil fauna, as revealed by community structure of soil nematodes in a paddy field in northern Japan | Nematological Research | 46(2) | 45-58 | 2016 |

2016年度 研究活動 教職員の論文等

| | 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|---|---|--|-------------------------------------|--------|-------------------|------|
| | Kitagami Y, Torii M, Matsuda Y | Characterizations of community and trophic structures of soil nematodes in a coastal Japanese black pine forest | Nematological Research | 46 | 71-78 | 2016 |
| | Owari T | Abies 2016: The 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir | IUFRO News | 45(12) | 3 | 2016 |
| | Kernasa N, Uraichuen S, Kamata N | Phylogenetic variation of the green muscadine fungus, <i>Metarhizium anisopliae</i> (Metchnikoff) Sorokin, and its virulence to larvae of the sugarcane longhorn stem borer, <i>Dorystenes buqueti</i> Guerin (Coleoptera: Cerambycidae) | Agriculture and Natural Resources | 50(6) | 427-431 | 2016 |
| | Stouthamer R, Rugman-Jones P, Thu PQ, Eskalen A, Thibault T, Hulcr J, Wang LJ, Jordal BH, Chen CY, Cooperband M, Lin CS, Kamata N, Lu SS, Masuya H, Mendel Z, Rabaglia R, Sanguansub S, Shih HH, Sittichaya W, Zong S | Tracing the origin of a cryptic invader: phylogeography of the <i>Euwallacea formicatus</i> (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae) species complex | Agricultural and Forest Entomology | | 10.1111/afe.12215 | 2017 |
| | Tanaka N, Levia D, Igarashi Y, Yoshifuji N, Tanaka K, Tantisirin C, Nanko K, Suzuki M, Kumagai T | What factors are most influential in governing stemflow production from plantation grown teak trees? | Journal of Hydrology | 544 | 10-20 | 2017 |
| | Chandratilake GGT, Tanaka N, Kamata N | Whole-tree sap flux in <i>Quercus serrata</i> trees after three levels of partial sapwood removal to simulate Japanese oak wilt | Ecohydrology | 10 | e1797 | 2017 |
| | Umebayashi T, Yamada T, Fukuhara K, Endo R, Kusumoto D, Fukuda K | In situ observation of pinewood nematode in wood | European Journal of Plant Pathology | 147 | 463-467 | 2017 |
| | Mitsugi M, Hisamoto Y, Suzuki H | An invasive freshwater shrimp of the genus <i>Neocaridina</i> Kubo, 1938 (Decapoda: Caridea: Atyidae) collected from Boso Peninsula, Tateyama City, Chiba Prefecture, eastern Japan | Crustacean Research | 46 | 83-94 | 2017 |
| | Volf M, Pyszko P, Abe T, Libra M, Kotásková N, Šigut M, Kumar R, Kaman O, Butterill PT, Šipoš J, Abe H, Fukushima H, Drozd P, Kamata N, Murakami M, Novotny V. | Phylogenetic composition of host plant communities drives plant-herbivore food web structure | Journal of Animal Ecology | 86(3) | 556-565 | 2017 |
| ※ | 當山啓介・梁瀬桐子・村川功雄・鶴見康幸・塚越剛史・里見重成・三次充和 | 皆伐地斜面上部に設置したスギ枝条による簡易筋工設置区の地表被覆要素の変遷 | 関東森林研究 | 67(1) | 61-64 | 2016 |
| ※ | 軽込 勉・米道 学・里見重成・梁瀬桐子・久本洋子 | ヒメコマツ実生苗におけるさし木発根でのオーキシン処理の効果 | 関東森林研究 | 67 | 179-180 | 2016 |
| ※ | 佐藤貴紀・松井理生・田中延亮・蔵治光一郎 | 東海地方の暖温帯二次林におけるカシノナガキクイムシ被害の経年変化 | 中部森林研究 | 64 | 47-50 | 2016 |
| ※ | 五名美江・高橋功一・蔵治光一郎 | 広葉樹二次林内および隣接表層崩壊地における表面流の比較 | 中部森林研究 | 64 | 105-106 | 2016 |
| ※ | 當山啓介・広嶋卓也・白石則彦 | 森林経営計画制度における更正期の概念と主伐量上限制約 | 森林計画学会誌 | 49 | 75-81 | 2016 |
| ※ | 広嶋卓也 | 全国自治体における「森林管理・環境保全直接支払制度」導入前後の間伐傾向の変化 | 森林計画学会誌 | 49 | 83-93 | 2016 |
| | 才木道雄 | 秩父山地におけるヨタカのさえずり頻度の季節変化 | 日本鳥学会誌 | 65(1) | 31-35 | 2016 |

| | 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|--|---|--|---------------------|---------|---------|------|
| | 久本洋子 | <報告> 第127回日本森林学会大会から<企画シンポジウム> 放置竹林問題の抜本的な解決とは? - 近年の新たな対策と利用から考える有効性と課題 - | 森林技術 | 890 | 22-23 | 2016 |
| | 安村直樹・立花 敏 | 北海道における苗木生産の現状と生産力拡大に向けた課題 - 苗木生産業者2社の実態調査を中心にして - | 林業経済 | 69(2) | 1-20 | 2016 |
| | 磯辺山河・逢沢峰昭・久本洋子・軽込 勉・齋藤央嗣・中山ちさ・遠藤良太・後藤 晋・大久保達弘 | 地域絶滅の危惧される関東地方のヒメコマツの遺伝的多様性と交配様式 | 日本森林学会誌 | 98 | 65-73 | 2016 |
| | 安田雅俊・上田浩一・福井 大 | 福江島におけるコテングコウモリの記録 | 長崎県生物学会誌 | 78 | 56-57 | 2016 |
| | 平林毅一郎・木村徳志・鴨田重裕・楠本 大 | 石綿鉱山跡地の土壌Niが発芽段階のシラカンバおよびケヤマハンノキに与える影響 | 東京大学農学部演習林報告 | 135 | 15-25 | 2016 |
| | 植木悠貴・秋元真也・寺田珠実・鮫島正浩・鴨田重裕 | <i>Eucalyptus robusta</i> におけるフェニルアラニンアンモニアアーゼ遺伝子の解析 | 東京大学農学部演習林報告 | 135 | 27-43 | 2016 |
| | 久本洋子・鈴木重雄・江上 浩 | 稗伐採および塩素酸ナトリウム・クロレートS全面土壌散布によって放置竹林から広葉樹林への早期転換は可能か? | 景観生態学会誌 | 21 | 69-74 | 2016 |
| | 當山啓介 | 計画の意義、目標、検証から考える森林・林業基本計画 | 林業経済 | 69(6) | 15-21 | 2016 |
| | 水内佑輔・野嶋太智・古谷勝則 | 明治の森高尾国定公園を事例とした自然公園における森林トレイル利用者の風景評価 | ランドスケープ研究(オンライン論文集) | 9 | 91-102 | 2016 |
| | 水内佑輔・古谷勝則 | 1930年代の国立公園の選定の経緯と田村剛の評価の枠組み | ランドスケープ研究(オンライン論文集) | 9 | 103-114 | 2016 |
| | 五名美江・蔵治光一郎 | リター層が流域スケールの水収支と流出に及ぼす影響 | 水利科学 | 351 | 31-45 | 2016 |
| | 浅野友子 | シリーズ「発想のたまご」ライフイベントと研究 | 水文水資源学会誌 | | | 2016 |
| | 尾張敏章 | 「モミ属の生態・施業に関するIUFRO国際会議(Abies 2016)」開催報告 | IUFRO-J NEWS | 119 | 11-15 | 2016 |
| | 坂上大翼・木村徳志・福岡 哲 | 東京大学北海道演習林におけるカラマツ属交雑育種試験地の現在(3) - カラマツと樺太系グイマツの二面交雑家系の植栽44年後の生育 - | 北海道の林木育種 | 59(1) | 21-26 | 2016 |
| | 福井 大 | 和歌山県におけるコウモリ類の記録 | 南紀生物 | 58 | 162-171 | 2016 |
| | 軽込 勉・久本洋子・米道学・山田利博・後藤 晋 | 房総丘陵のヒメコマツにおける集団サイズが近親交配を通じて実生苗サイズとマツ材線虫病抵抗性に及ぼす影響 | 森林遺伝育種 | 6 | 1-7 | 2017 |
| | 里見重成・米道学・軽込 勉・塚越剛史・梁瀬桐子・久本洋子・後藤 晋 | 70年生キョスミツバツツジのさし木増殖の試み | 森林遺伝育種 | 6 | 18-20 | 2017 |
| | 蔵治光一郎 | 三河湾再生と森林管理 | 都市計画 | 66(1) | 38-39 | 2017 |
| | 蔵治光一郎・洲崎燈子・丹羽健司 | 森林環境問題の解決における科学者の役割 | 地理 | 62(1) | 40-45 | 2017 |
| | 坂上大翼 | 暗色雪腐病菌 <i>Racodium therryanum</i> が引き起こすエゾマツ類1年生苗の夏季の立枯症状 | 北方森林研究 | 65 | 59-62 | 2017 |
| | 齋藤暖生 | 山菜・きのこにみる森林文化 | 森林環境2017 | | 12-21 | 2017 |
| | 齋藤暖生 | 森が秘める「癒し」のはたらき | 都市と森林 | | 29-46 | 2017 |
| | 高橋功一・田中延亮・松井理生 | 生態水文学研究所白坂小流域の林分構造の変化 - 1954年, 2007年, 2014年の調査結果より - | 中部森林研究 | 65 | 101-104 | 2017 |
| | 水内佑輔・古谷勝則 | 国立公園法成立をめぐる政治過程とその背景 | 日本建築学会計画系論文集 | 82(733) | 635-645 | 2017 |
| | 水内佑輔・栗野 隆 | 大正・昭和初期の京都府間人における東山公園設立経緯と谷源蔵の考え | ランドスケープ研究 | 80(5) | 419-424 | 2017 |
| | 久本洋子・三次充和・梁瀬桐子・大石 諭・天野 誠 | 千葉演習林森林博物館所蔵の1922~1990年に採集された維管束植物標本リスト | 演習林(東大) | 59 | 1-53 | 2017 |

2016年度 研究活動 教職員の論文等

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|---|---|---------|------|---------|------|
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | 生態水文学研究所東山試験流域における自記雨量計による日降雨量観測結果報告 | 演習林(東大) | 59 | 55-57 | 2017 |
| 里美重成・軽込 勉・米道学・久本洋子 | キョスミツバツツジのさし木発根条件の検討 | 演習林(東大) | 59 | 59-68 | 2017 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会生物部門脊椎動物分野 | 東京大学演習林自動撮影カメラ調査成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 69-72 | 2017 |
| 里美重成 | 千葉演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 73-84 | 2017 |
| 及川 希・松井理生 | 北海道演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 85-92 | 2017 |
| 高野充広・丹羽悠二・木村恒太 | 秩父演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 93-109 | 2017 |
| 相川美絵子 | 田無演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 111-115 | 2017 |
| 松井理生・才木道雄・高橋功一 | 生態水文学研究所自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 117-127 | 2017 |
| 辻 和明・村瀬一隆・西山教雄 | 富士癒しの森研究所自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 129-136 | 2017 |
| 小林徹行・村瀬一隆 | 樹芸研究所自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) | 演習林(東大) | 59 | 137-155 | 2017 |
| 五名美江・黒木里香・加藤敦美・川名美恵・蔵治光一郎 | 生態水文学研究所赤津研究林白坂流域 井戸水位観測報告(Ⅰ) | 演習林(東大) | 59 | 157-170 | 2017 |
| 五名美江・春田泰次 | 秩父演習林における渓流水質分析結果報告(自1998年7月 至2010年3月) | 演習林(東大) | 59 | 171-173 | 2017 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | 秩父演習林における渓流水質分析結果報告(自2010年4月 至2011年3月) | 演習林(東大) | 59 | 175-177 | 2017 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | 生態水文学研究所赤津研究林白坂北谷・南谷小流域の地表・地中量水堰堤の水位・流量曲線 | 演習林(東大) | 59 | 179-185 | 2017 |
| 齋藤暖生・藤原章雄・村瀬一隆・西山教雄・笠原琢志・浅野友子 | 山梨県山中湖村における薪需要把握一煙突等の目視踏査, アンケート調査, 薪原木販売実験一 | 演習林(東大) | 59 | 187-205 | 2017 |
| 原口竜成・大村和也・千嶋 武 | 秩父演習林における亜高山帯風害跡地試験地の毎木調査資料(2015年) | 演習林(東大) | 59 | 207-214 | 2017 |
| 原口竜成・大村和也・千嶋 武 | 秩父演習林における亜高山帯老齡天然林試験地の毎木調査資料(2015年) | 演習林(東大) | 59 | 215-222 | 2017 |
| 執行宣彦・梅木 清・平尾聡秀 | 東京大学秩父演習林における標高に沿った土壌特性と環境要因の関係 | 演習林(東大) | 59 | 223-233 | 2017 |
| 浅野友子・齋藤俊浩・木村恒太・原口竜成・千嶋 武 | 秩父演習林矢竹沢の沿山堰堤を用いた量水観測一副堤水通しの複断面切り欠き下段での水位と流量の関係 | 演習林(東大) | 59 | 235-243 | 2017 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会水文水質部門 | 東京大学演習林水文観測・水質分析報告(自2014年1月至2014年12月) | 演習林(東大) | 59 | 245-254 | 2017 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会気象部門 | 東京大学演習林気象報告(自2015年1月至2015年12月) | 演習林(東大) | 59 | 255-283 | 2017 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 東京大学演習林の外部評価結果と「教育研究計画2011-2020」の見直し | 演習林(東大) | 59 | 285-309 | 2017 |

※これまで発行の年報に未掲載の論文である。

学会発表等

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|--|---|--|------|-------|------|
| Takemoto S, Akita K, Katayanagi N, Urata E, Ito T, Saito M, Okada H | Continuous effects of winter flooding on soil fauna, as revealed by the community structure of soil nematodes in a rice paddy in Japan | International Conference on Conservation Agriculture and Sustainable Land Use 2016 | | | 2016 |
| Miura N, Asano Y, Moribe Y | Improved correction method for water-refracted terrestrial laser scanning data acquired in the mountain channel | XXIII ISPRS Congress | | | 2016 |
| Minoshima A, Kim S, Horie H, Takemoto S, Hosoya T, Walker AK, Walker DM, Hirooka Y | Pathogenicity and taxonomy of a new monotypic genus of Gnomoniaceae on <i>Styrax obassia</i> in Japan | 84th Meeting of the Mycological Society of America | | | 2016 |
| Hiroshima T, Kanomata H, Nakajima T | Simulating thinning volume utilized at national level: Conditions to achieve 40% self-sufficiency of timber in 2020 | Sustainable forest management in a rapidly changing world: Philosophy and technology for forest resource management (FORCOM2016) | | | 2016 |
| Toyama K | Timber production and timber price in Japan - Comparison of past record and national target- | Sustainable forest management in a rapidly changing world: Philosophy and technology for forest resource management (FORCOM2016) | | | 2016 |
| Fukui D | Current status of the wind energy-bat conflict in Japan | 17th International Bat Research Conference | | | 2016 |
| Nakajima T, Owari T, Tatsuhara S | An analysis to maximize Todo fir profitability through optimal silviculture system selection under economic and site condition uncertainties | Program and Abstracts of the 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir | | 37 | 2016 |
| Owari T, Peng Y, Kasahara H, Nakagawa Y, Ohkawa A, Tatsumi S, Suzuki M | Recruitment, growth and mortality of Sakhalin fir (<i>Abies sachalinensis</i>) in northern Japanese mixedwood stands managed under selection system | Program and Abstracts of the 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir | | 45 | 2016 |
| Miyamoto T, Owari T, Sakaue D | Effects of snow manipulation treatments on damage to <i>Abies sachalinensis</i> seeds by soil-born fungi | Program and Abstracts of the 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir | | 47 | 2016 |
| Kamata N, Owari T, Kuraji K | Introduction of the JSPS Core-to-Core research exchange project | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 18-19 | 2016 |

2016年度 研究活動 学会発表等

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|---|--|---|------|-------|------|
| Sato T, Tanaka N | Effects of <i>Quercus serrata</i> trees killed by Japanese oak wilt disease on the spatial distribution of recruited trees in a warm-temperate secondary forest in the Tokai District of Japan | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 64-65 | 2016 |
| Jayathunga S, Owari T, Tsuyuki S | Forest biophysical parameter estimation using UAV imagery and airborne LiDAR data: a study in a mixed conifer-broadleaved forest | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 70-71 | 2016 |
| Shigyo N, Umeki K, Hirao T | Elevational diversity patterns of understory vegetation determined by soil properties and light conditions | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 74-75 | 2016 |
| Sawada H, Murase K, Inoue H, Kamoda S, Kamata N | Annual increase of infestation by an ambrosia beetle <i>Platypus quercivorus</i> in a warm-temperate secondary forest in southern Izu Peninsula, Japan | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 80-81 | 2016 |
| Karukome T, Yonemichi T, Satomi S, Yanase K, Hisamoto Y | Conservation activities and research of an endangered population of <i>Pinus parviflora</i> var. <i>parviflora</i> in the Boso Hills, Chiba, Japan | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 82-83 | 2016 |
| Yoshida Y | Characteristic of flora in the University of Tokyo Chichibu Forest | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 84-85 | 2016 |
| Oikawa N | Use of camera traps in wildlife survey in the UTHF | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 86-87 | 2016 |
| Fukuoka S, Kimura N, Matsui M, Inukai S, Oikawa N, Tokuni M, Eguchi Y | Activities of bird research in University of Tokyo Forests | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 88-89 | 2016 |
| Kimura N, Fukuoka S | Long-term observation of phenology for forest tree species in UTHF | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program “7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium” | | 90-91 | 2016 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|---|--|--|------|---------|------|
| Toyama K, Hiroshima T | Tree mortality of old even-aged coniferous plantation in longterm experimental plots in UTokyo Chiba Forest, eastern Japan | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program "7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium" | | 92-93 | 2016 |
| Goto S, Hisamoto Y, Hirao T, Ihara T, Taneda H | Response of sub-boreal conifers translocated in warm sites simulated global warming | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program "7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium" | | 96-97 | 2016 |
| Kuraji K, Gomyo M | Long-term forest hydrology research in Ananomiya Experimental Watershed, Ecohydrology Research Institute, the University of Tokyo Forests | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program "7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium" | | 106-107 | 2016 |
| Mahali M, Kuraji K, Majuakim L | Hydro-meteorological monitoring & research in Crocker Range Park, Sabah, Malaysia | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program "7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium" | | 108-109 | 2016 |
| Owari T, Hiroshima T, Toyama K, Ishibashi S | Creating a network of long-term experimental plots within Asian University Forests | Abstracts of JSPS Core-to-Core Program "7th International Symposium of the Asian University Forests Consortium" | | 130-131 | 2016 |
| Owari T | Applying the stand-based silvicultural management system for close-to-nature forestry: 58 years of experience at the University of Tokyo Hokkaido Forest | Abstracts of IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 | | 185-186 | 2016 |
| Kamata N, Owari T, Kuraji K | Long-term monitoring and inventory data at the University of Tokyo Forests | Abstracts of IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 | | 187-188 | 2016 |
| Owari T, Hiroshima T, Toyama K, Oomura K, Ishibashi S | Long-term experimental plot observations of even- and uneven-aged stand growth at the University of Tokyo Forests, Japan | Abstracts of IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 | | 342-343 | 2016 |
| Tanaka N, Levina D, Igarashi Y, Yoshifuji N, Tanaka K, Tantasirin C, Nanko K, Suzuki M, Kumagai T | Factors governing stemflow production from plantation grown teak trees in Thailand | American Geophysical Union Fall Meeting 2015 | | | 2016 |
| Owari T | Recovering forest carbon storage in typhoon-damaged sites through silviculture treatments: A case assessment at the UTokyo Hokkaido Forest | Program Book of JSPS Core-to-Core Program "International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment" | | 13 | 2017 |

2016年度 研究活動 学会発表等

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一号 | 頁 | 年 |
|---|--|--|-----|-----------|------|
| Hiroshima T | Introduction of carbon offsetting credit projects in the University of Tokyo Forests | Program Book of JSPS Core-to-Core Program “International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment” | | 13 | 2017 |
| Toyama K | Growth pattern of even-aged coniferous plantation in long-term experimental plots of the UTokyo Chiba Forest | Program Book of JSPS Core-to-Core Program “International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment” | | 13 | 2017 |
| 浅野友子・三浦直子・内田太郎・西口幸希 | 大雨時の山地河川での表面流速と水深の観測 | 平成28年度砂防学会研究発表会 | | | 2016 |
| 三浦直子・浅野友子 | 山地河川における地上型グリーンレーザを用いた効率的な水面下河床地形計測方法 | 平成28年度砂防学会研究発表会 | | | 2016 |
| 宮田秀介・長谷川祐治・堀大三・今泉文寿・権田 豊・三浦直子・浅野友子・山野井一輝 | 山地溪流における河川地形変動・流砂観測手法の比較検討に向けてー現地給砂実験での同時計測ー | 平成28年度砂防学会研究発表会 | | | 2016 |
| 蔵治光一郎・洲崎燈子・丹羽健司 | 矢作川森の健康診断における森林ボランティア・研究者・行政・市民の協働 | 日本地球惑星科学連合2016年大会 | | HCG27-P05 | 2016 |
| Mizuuchi Y, Furuya K | Landscape perception of Takao Quasi-National Park using by visitor-employed photography and spatial information technology | Japan Geoscience Union Meeting 2016 | | | 2016 |
| Takayama N, Saito H, Fujiwara A, Horiuchi M | The effect of forest management of secondary coniferous forests on user's landscape appreciation and psychological restorativeness | Japan Geoscience Union Meeting 2016 | | HCG10-P10 | 2016 |
| 中村和彦・尾張敏章・坂上大翼・當山啓介 | 東京大学北海道演習林を対象とした天然林管理知識ベースの構想:特に地図情報の活用について | 日本地図学会平成28年度定期大会発表論文・資料集 | | | 2016 |
| 山田利博・原口竜成・平尾聡秀・太田祐子・山下香菜 | ナミダタケモドキによるサワラ根株心材腐朽における腐朽の進展と菌の分布との関係 | 第60回日本菌学会大会 | | | 2016 |
| 川崎 満・平尾聡秀・福井大・後藤 晋・山田利博 | 奥秩父山地におけるニホンジカ集団の遺伝構造 | 日本哺乳類学会2016年度大会 | | | 2016 |
| 福井 大・川田伸一郎 | 「骨盤！」 | 日本哺乳類学会2016年度大会 | | | 2016 |
| 笠原久臣 | 北海道演習林における天然林施業試験地の管理 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 1-5 | 2017 |
| 梁瀬桐子・加藤純子・黒木里香・加藤敦美・田中延亮・五名美江 | 生態水文学研究所における先進的な過去データ管理体制 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 7-10 | 2016 |
| 相川美絵子・栗田直明 | 田無演習林の全木調査の取り組みと課題 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 11-14 | 2016 |
| 大石 諭 | 吉田試験地と檜ノ木台試験地の測定と管理について | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 15-18 | 2016 |
| 高橋功一・井上 淳・梁瀬桐子 | 設定から30年経過した62林班スギ間伐試験地の現況 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 19-22 | 2016 |
| 千嶋 武・原口竜成・五十嵐勇治・大村和也 | 秩父演習林大面積プロットの測定・管理について | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 23-26 | 2016 |
| 渡邊良広・辻 和明・小林徹行・村瀬一隆・辻 良子 | 長期生態系プロット15年間の動態について | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 27-30 | 2016 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|--|---|------------------------|------|-------|------|
| 辻 和明・西山教雄 | 富士癒しの森研究所におけるLTERの林分動態 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 31-34 | 2017 |
| 鶴見康幸 | 千葉演習林のスギが鳥居となるまで | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 35-37 | 2016 |
| 米道 学・軽込 勉・里見重成・梁瀬桐子 | 目玉クリップを利用したマツ類の接ぎ木の試み | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 39-42 | 2016 |
| 井口和信 | 葉食性昆虫による連年被害を受けた山火事跡二次林に生育するウダイカンバの衰退状況および穿孔虫類による二次的被害 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 43-47 | 2016 |
| 小林徹行・村瀬一隆・渡邊良広・辻 良子・辻 和明 | 青野研究林におけるニホンジカ密度推定調査10年間のまとめ | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 49-53 | 2016 |
| 高德佳絵 | 巨木からの観察による樹上と地上での鳥類相の違いの評価 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 55-59 | 2016 |
| 丹羽悠二・五十嵐洋治 | 荒川源流域に生息するサンショウウオにおけるミトコンドリアDNAの遺伝子解析 | 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議報告 | | 61-64 | 2016 |
| 久本洋子・當山啓介・廣嶋卓也・山田利博・沖野滉一・江上 浩 | ヤマビル駆除用リンゴ酸液剤の植物に対する影響 | 第6回関東森林学会大会 | | | 2016 |
| 里見重成・米道 学・軽込 勉・梁瀬桐子・久本洋子 | キヨスミツバツツジのさし木における穂長と発根本数の関係 | 第6回関東森林学会大会 | | | 2016 |
| 軽込 勉・米道 学・里見重成・梁瀬桐子・久本洋子 | ヒメコマツさし木における発根時期の特定と根系の発達の促進 | 第6回関東森林学会大会 | | | 2016 |
| 原口竜成・平尾聡秀・山田利博 | 東京大学秩父演習林におけるサワラ腐朽被害の発生状況 | 第6回関東森林学会大会 | | | 2016 |
| 佐藤貴紀・田中延亮・鎌田幸子・広嶋卓也 | ナラ枯れによるコナラの枯死がシードトラップによって捕捉されるコナラ種子数に与える影響 | 第6回中部森林学会大会 | | | 2016 |
| 田中延亮・佐藤貴紀・五名美江・広嶋卓也・蔵治光一郎・北岡明彦・鈴木春彦・中島諒大 | ヒノキ人工林における単木の樹幹流下量のばらつきと個体差の影響 | 第6回中部森林学会大会 | | | 2016 |
| 蔵治光一郎・田中延亮・五名美江・佐藤貴紀・北岡明彦・鈴木春彦・中島諒大 | ヒノキ人工林における表面流の流出特性―豊田市水源涵養機能モニタリングの結果から― | 第6回中部森林学会大会講演要旨集 | | 46 | 2016 |
| 三次充和・鈴木廣志 | 北海道十勝川流域より確認されたカワリヌマエビ属の一種 | 日本甲殻類学会第54回大会 | | | 2016 |
| 執行宣彦・平尾聡秀・梅木清 | 土壌細菌の多様性の標高変化に対する土壌特性と植物多様性の相対的重要性 | 日本微生物生態学会第31回大会 | | | 2016 |
| 坂上大翼 | 暗色雪腐病菌 <i>Racodium therryanum</i> が引き起こすエゾマツ類1年生苗の夏季の立枯症状 | 第65回北方森林学会大会 | | | 2016 |
| 井口和信 | 葉食性昆虫による連年被害を受けた山火事跡二次林に生育するウダイカンバの衰退状況および穿孔虫類による二次的被害 | 第65回北方森林研究学会 | | P-25 | 2016 |
| 久本洋子・北村系子・上野真義・後藤 晋 | トドマツにおける開花およびストレス関連遺伝子発現の季節変動 | 森林遺伝育種学会第5回大会 | | | 2016 |
| 後藤 晋・久本洋子・平尾聡秀・伊原徳子・種子田春彦 | 温暖地域に移植した北方針葉樹3種のストレス応答プロセス | 森林遺伝育種学会第5回大会 | | | 2016 |
| 齋藤暖生 | 森林文化の継承のためのアーカイブ作成に向けた課題整理―山菜・キノコ採取活動を題材とした記録媒体の特性の検討― | 林業経済学会2016年秋季大会 | | C14 | 2016 |
| 鳥居正人・楠本 大・山田利博 | 分離由来による <i>Raffaelea quercivora</i> 菌株の病原力の比較 | 樹木医学会第21回大会 | | | 2016 |
| 山田利博・平尾聡秀 | シラカシのボタン材と腐朽材中の菌類群集組成 | 樹木医学会第21回大会 | | | 2016 |
| 水内佑輔・栗野 隆 | 大正・昭和初期に設立された私設公園の京都府間人・東山公園の設立の経緯 | 平成28年度日本造園学会中部支部大会 | | | 2016 |
| 本居和也・濱井郁弥・藤岡慧明・福井 大・飛龍志津子 | 3次元音響動態計測による野生コウモリの最適採餌戦略の検討 | 第35回日本動物行動学会 | | | 2016 |

2016年度 研究活動 学会発表等

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|--|---|--|------|-----|------|
| 當山啓介 | 木質バイオマス資源の利用可能性を森林現況から把握するための過去履歴の検討 | 第12回バイオマス科学会議 | | | 2017 |
| 久本洋子 | レッサーバンダ保全の観点から見たネパールにおけるタケの開花と住民の利用 | 竹林景観ネットワーク第19回研究集会 | | | 2017 |
| 尾張敏章・坂上大翼・中川雄治・木村恒太 | 厳寒期の樹木ー東京大学北海道演習林からのハイビジョンライブ遠隔講義 | 第6回サイバーフォレストシンポジウム | | | 2017 |
| 古家直行・平田泰雅・尾張敏章・坂上大翼・中川雄治・遠國正樹 | UAV・空中写真による針広混交天然林の針葉樹資源量推定 | 第25回生研フォーラム「宇宙からの地球環境・災害のモニタリングとリスク評価」 | | | 2017 |
| 芝野伸策・曾我竜一・澤田晴雄・鈴木祐紀・池田正則・遠藤麻衣子・城 夕香・佐々木潔州・堀 吉満 | 東京大学農学生命科学研究科技術部の業務 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 110 | 2017 |
| 辻 和明・西山教雄 | 地域循環型「癒しの森」プロジェクトの活動紹介 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 110 | 2017 |
| 澤田晴雄・鈴木祐紀・犬飼浩・齋藤俊浩・栗田直明・井上 淳・辻 和明・村瀬一隆・丹羽悠二 | 東京大学7つの演習林と技術職員の業務 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 110 | 2017 |
| 木村徳志・福岡 哲・井口和信・小川 瞳 | 東京大学北海道演習林における高木性落葉広葉樹の長期フェノロジー観測 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 110 | 2017 |
| 高德佳絵 | 巨木からの観察による樹上と地上での鳥類相の違いの評価 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 111 | 2017 |
| 米道 学・軽込 勉・里見重成・梁瀬桐子 | 目玉クリップを利用した簡易なマツ接ぎ木増殖の検討 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 111 | 2017 |
| 軽込 勉・米道 学・里見重成・三次充和 | 自作パソコンが千葉演習林にもたらす効果と問題点 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 111 | 2017 |
| 吉田弓子・五十嵐勇治 | 秩父演習林における基盤データ整備生物部門植物分野の取り組みと植物相 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 112 | 2017 |
| 梁瀬桐子・加藤純子・黒木里香・加藤敦美・田中延亮・五名美江 | 生態水文学研究所における過去データ管理体制 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 112 | 2017 |
| 佐々木潔州・堀 吉満・池田正則・澤田晴雄・高橋功一・白井深雪・曾我竜一・藤田真志・黒岩真弓 | 東京大学大学院農学生命科学研究科技術部分析技術グループ活動報告 | 総合技術研究会2017 東京大学 プログラム・予稿集 | | 130 | 2017 |
| 高木豊大・楠本 大・鈴木牧 | 旧薪炭林におけるシカの採食圧と林冠木の伐採が不嗜好性植物の成長と防御に与える影響 | 第64回日本生態学会大会 | | | 2017 |
| 執行宣彦・平尾聡秀・梅木清 | 植物の機能的多様性は土壌微生物の機能的多様性を高めるのか？ | 第64回日本生態学会大会 | | | 2017 |
| 角田智詞・鈴木智之・van Dam, Nicole | 総合対策外来種ハルザキヤマガラシの長野県・八ヶ岳周辺における分布・繁殖状況 | 第64回日本生態学会大会 | | | 2017 |
| Goto S | Genetic basis of altitudinal adaptation in <i>Abies sachalinensis</i> | 第64回日本生態学会大会 | | | 2017 |
| 氏野友裕・藤岡慧明・福井大・飛龍志津子 | コウモリの大規模・小規模空間における採餌行動時のソナー戦略の分析～GPSイベントロガーとマイクロホンアレイを用いた動態音響計測～ | 第64回日本生態学会大会 | | | 2017 |
| 濱井郁弥・本居和也・藤岡慧明・福井 大・飛龍志津子 | コウモリの最適採餌戦略の検討～マイクロホンアレイを用いた3次元音響動態計測～ | 第64回日本生態学会大会 | | | 2017 |
| 稲垣怜那・寺田珠実・井上広喜・鴨田重裕・鮫島正浩 | <i>Eucalyptus saligna</i> のもつPAL様遺伝子の解析 | 第67回日本木材学会大会 | | | 2017 |
| 鴨田重裕・寺田珠実・柳田優一・稲垣怜那・Anne Carolina | 道産トウヒ属樹木産生の4'-ヒドロキシアセトフェノンとその関連化合物が立枯れ病原菌に与える影響 | 第67回日本木材学会大会 | | | 2017 |
| 楠本 大 | シグナル物質によるヒノキ師部防御反応の制御 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 79 | 2017 |

| 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一号 | 頁 | 年 |
|--|---|--------------------|-----|-----|------|
| 石橋整司・當山啓介・齋藤暖生 | 大学演習林アンケートにみる教育・社会連携活動の実態 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 80 | 2017 |
| 齋藤暖生・石橋整司・當山啓介 | 大学演習林の教育および社会との関わりの変遷と多様性 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 80 | 2017 |
| 高德佳絵・千嶋 武・原口竜成・才木道雄 | 東京大学秩父演習林における近年の利用申込の特徴 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 81 | 2017 |
| 山田利博・村川功雄・井口和信・大村和也・五十嵐勇治・齋藤俊浩・才木道雄・高德佳絵・井上 淳・齋藤暖生・辻和明・小林奈通子・田野井慶太郎・中西友子 | 福島原発事故によるキノコ類への放射性セシウムの蓄積—東京大学演習林における5年間の調査結果 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 88 | 2017 |
| 平田泰雅・古家直行・尾張敏章・坂上大翼・鎌田直人 | 天然林の成長予測への航空機リモートセンシングの応用 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 99 | 2017 |
| Jayathunga S, Owari T, Tsuyuki S | Fixed-wing UAV imagery for forest structure classification and mapping: A study in a mixed conifer-broadleaved forest | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 112 | 2017 |
| 金道知聖・江上 浩・鈴木重雄・久本洋子 | 放置マダケ林の駆除方法の違いがタケの再生および広葉樹の成長に及ぼす影響 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 114 | 2017 |
| 小原 茜・岩崎末季・梅木清・楠本 大・平尾聡秀 | 奥秩父山地の冷温帯林における実生動態の標高変化:防鹿柵を用いた植生回復の評価 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 123 | 2017 |
| 川崎 満・平尾聡秀・福井大・梅木 清・山田利博 | 奥秩父山地におけるニホンジカの食性:遺伝構造と環境要因はどのような影響を及ぼすのか | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 130 | 2017 |
| 執行宣彦・平尾聡秀・梅木清 | セルロース分解に関わる真菌群集:環境と季節に対する応答 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 140 | 2017 |
| 浅野友子・高木正博・芳賀弘和・山川陽祐・小野 裕・沼本晋也 | 山地河川における増水時の量水観測精度の向上に向けた研究 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 164 | 2017 |
| 水内佑輔 | 黎明期の国立公園における観光資源とその位置づけ | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 179 | 2017 |
| 當山啓介・有賀一広 | 木質バイオマス需要と最適伐期・最適間伐体系の関係—栃木県北地域をモデルとして— | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 184 | 2017 |
| 安村直樹 | 島根県における植栽密度の地域別相違とその背景 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 196 | 2017 |
| 後藤晋・石塚 航・種子田春彦・河野 優・鐘ヶ江弘美・岩田洋佳・上野真義・内山憲太郎・久本洋子・津山幾太郎・北村系子 | トマツの標高適応に関連する生理形質の連鎖解析 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 210 | 2017 |
| 田中延亮・佐藤貴紀・五名美江・広嶋卓也・蔵治光一郎・北岡明彦・鈴木春彦・中島諒大 | ヒノキ人工林における単木の樹幹流下量のばらつきの説明要因 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 219 | 2017 |
| 蔵治光一郎・田中延亮・五名美江・佐藤貴紀・北岡明彦・鈴木春彦・中島諒大 | ヒノキ人工林における地表面流の観測—豊田市水源涵養機能モニタリングの結果から— | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 220 | 2017 |
| 坂上大翼 | 横打撃共振法によるシラカンバ生立木の腐朽判定に及ぼす季節の影響 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 229 | 2017 |
| 鳥居正人・高橋美里・中島千晴・松田陽介・伊藤進一郎 | 東・東南アジアで採取されたRaffaelea属菌の分子系統 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 230 | 2017 |
| 広嶋卓也・中島 徹 | 最適採材による用材・燃料材区分を考慮した都道府県別・間伐材生産量予測モデルの開発 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 237 | 2017 |
| 尾張敏章・サデーバ ジャヤトツンガ・鈴木智之 | 択伐施業と台風被害に伴う天然生混交林の長期的変化:東京大学北海道演習林の事例 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 238 | 2017 |
| 藤原章雄・齋藤暖生 | 癒しの森プロジェクト—実証林の設定と住民参加の調査研究 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 240 | 2017 |
| 佐藤貴紀・田中延亮・鎌田幸子・広嶋卓也 | ナラ枯れがコナラ種子散布の空間分布に与える影響 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 245 | 2017 |
| 丹羽悠二 | UAVを使った低コストな大型哺乳類の個体数カウント手法 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 266 | 2017 |
| 三木直子・藤本 尚・岩泉正和・楠本 大 | マツ材線虫病のアカマツ抵抗性品種数種における病徴進展初期の防御反応 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 271 | 2017 |
| 原口竜成・平尾聡秀・山田利博 | ナミダケモドキによる根株心腐が立木の成長に与える影響の検討 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | | 284 | 2017 |

2016年度 研究活動

著書

| 著者名 | 題 目 | 書名・編者 | 出版社名 | 頁 | 年 |
|-------------------------------------|--|---|----------------|---------|------|
| Fujii M, Hirao T, Kojima H, Fukui M | Planktonic bacterial communities in mountain lake ecosystems | Structure and function of mountain ecosystems in Japan: Biodiversity and vulnerability to climate change. Kudo G(ed.) | Springer Japan | 145-169 | 2016 |

演習林を利用して行った論文等

| | 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|--|-------------------|---|--------------|------|-------|------|
| | 小原 茜 | 奥秩父山地の冷温帯林における実生動態－防鹿柵を用いた植生回復の評価－ | 東京大学 卒業論文 | | 65pp | 2017 |
| | 平山偉之 | 山地河川における流域地形と洪水到達時間の関係 | 東京大学 卒業論文 | | 39-40 | 2017 |
| | 小西雄大 | 溪流河道沿いに断続分布するシオジ(<i>Fraxinus spaethiana</i>)の遺伝構造 | 東京大学 卒業論文 | | 53pp | 2016 |
| | デニス サヤ | 都市化による森林の孤立がヒサカキとヤブツバキの葉内生菌群集に与える影響 Effects of forest isolation with urbanization on the endophytic fungal community in tree foliage of <i>Camellia japonica</i> and <i>Eurya japonica</i> | 東京大学 卒業論文 | | 61pp | 2017 |
| | 斉藤広樹 | スギと共生するアーバスキュラー菌根菌群集の多様性 －スギの品種と斜面上の生育位置の影響－ | 東京大学 卒業論文 | | 29pp | 2017 |
| | 笠原琢志 | 山梨県山中湖村における薪の利用実態と薪の調達源としての森林 －世帯属性の違いからみた考察－ | 東京大学 修士論文 | | 39pp | 2017 |
| | Buranapanichpan A | Seasonal fluctuation of ambrosia beetles and factors influencing on colonization of ambrosia beetles | 東京大学 修士論文 | | 62pp | 2017 |
| | 稲垣怜那 | <i>Eucalyptus saligna</i> が生産するフェノール性成分に関する研究 | 東京大学 修士論文 | | 82pp | 2016 |
| | 田村繁明 | カゲロウ幼虫における体色斑の集団内多型, 集団間変異および隠蔽機能 | 東京大学 博士論文 | | 170pp | 2017 |
| | Chandratilake T | Influences of ambrosia beetle (<i>Platypus quercivorus</i>) attacks on evapotranspiration in a secondary warm-temperate forest | 東京大学 博士論文 | | | 2017 |
| | 森本 拓 | 房総半島小櫃川上流域の河床勾配に与える岩質の影響 | 立正大学 修士論文 | | 61pp | 2017 |
| | 酒見栄理子 | オオヒキガエル耳腺分泌毒の組成分析および他種両生類の発生に与える影響の評価 | 麻布大学 卒業論文 | | 38pp | 2017 |
| | Nakao K | Inverse analysis to reconstruct hydraulic conditions of non-steady turbidity currents considering multiple grain-size classes: Application to an ancient turbidite of the Kiyosumi Formation of the Awa Group, Boso Peninsula, central Japan | 京都大学 修士論文 | | 59pp | 2017 |
| | 藤巻素直 | 伊豆諸島におけるセルロース分解とその菌類群集組成 | 筑波大学 修士論文 | | 54pp | 2017 |
| | 宮崎 怜 | 都市景観と枯死木の中の大型節足動物群集 | 横浜国立大学 修士論文 | | 34pp | 2017 |
| | 井郷颯太 | ハイマツとゴヨウマツの葉内生菌の多様性評価 | 東邦大学 卒業研究報告書 | | 19pp | 2017 |
| | 橋本澤奈 | 北海道の山間部天然林における季節によるエゾモモンガの繁殖パターンの変遷について | 帯広畜産大学 卒業論文 | | 36pp | 2017 |
| | 盛 菜々美 | 北海道の山間部天然林におけるエゾモモンガの体サイズの性的二型について | 帯広畜産大学 卒業論文 | | 27pp | 2017 |
| | 乗附那摘 | 北海道山間部の針広混交林におけるエゾモモンガ個体数の年次変化 | 帯広畜産大学 卒業論文 | | 29pp | 2017 |
| | 土佐泰志 | 異なる資源選択性に着目した同所的に生息するエゾモモンガとヒメネズミの巣箱利用性の研究 | 帯広畜産大学 卒業論文 | | 24pp | 2017 |
| | 定梶さくら | 北海道山間部天然林における巣箱を用いたヒメネズミ <i>Apodemus argenteus</i> に関する基礎生態学的研究 | 帯広畜産大学 修士論文 | | 68pp | 2017 |
| | 中山みなみ | エゾマツ生育2年目における近交弱勢の顕在化 | 玉川大学 卒業論文 | | 21pp | 2017 |
| | 安座上音和 | カラクサンダ独立配偶体の微環境長期モニタリングと生殖器官形成に関する研究 | 日本女子大学 卒業論文 | | 41pp | 2017 |
| | 井上 彩 | 2 種のリボン形配偶体, カラクサンダとヒメサジランの成長比較解析 | 日本女子大学 卒業論文 | | 47pp | 2017 |

2016年度 研究活動 演習林を利用して行った論文等

| | 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|---|---|--|--------------------|--------|---------|------|
| | 橋本季巳江 | 共培養実験によるシダ類配偶体とAM菌の共生関係の解明 | 日本女子大学 修士論文 | | 50pp | 2017 |
| | 志村綱太 | ニホンジカ不嗜好性木本であるオオバアサガラの分布に影響する要因と他の植物の分布様式への影響の検討 | 首都大学東京 卒業論文発表 | | | 2017 |
| | 中村 遼 | 西東京市の森林・農地景観における植物相の解明 | 日本大学 卒業論文 | | 21pp | 2017 |
| | 岩下幸平 | ブナ科樹木萎凋病によって枯死したコナラ樹幹上におけるハカワラタケの状態と菌食性昆虫群集の時間的变化 | 名古屋大学 修士論文 | | 66pp | 2017 |
| ※ | 渡邊悠介 | 房総半島に生息するモミ針葉内生菌の種構成の季節変化と種構成に宿主の病害抵抗性が及ぼす影響 | 東京大学 修士論文 | | 47pp | 2016 |
| ※ | 坂本佳奈 | 南房総天然林におけるニホンヤマネの生息確認調査 | 千葉大学 卒業論文 | | 21pp | 2016 |
| ※ | 磯部山河 | 千葉県房総丘陵のヒメコマツ集団の遺伝的多様性と近郊弱勢および関東地方の数集団との比較 | 宇都宮大学 修士論文 | | 61pp | 2016 |
| | 杉原由加子・丹下 健 | スギコンテナ苗の形状と植栽当初の蒸散速度 | 日本森林学会誌 | 98 | 146-150 | 2016 |
| | 山田利博・村川功雄・井口和信・大村和也・五十嵐勇治・齋藤俊浩・才木道雄・高德佳絵・井上 淳・齋藤暖生・辻 和明・小林奈通子・田野井慶太郎・中西友子 | 福島原発事故によるキノコ類への放射性セシウムの蓄積—東京大学演習林における5年間の調査結果 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | T2-10 | 88 | 2017 |
| | 高山範理 | 中期滞在の都市近郊林滞在におけるストレスコーピング・レジリエンス・気分の変化 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | T9-2 | 188 | 2017 |
| | 中村和彦・齋藤 馨・藤原章雄・大塚啓太・奥山賢一 | 映像コンテンツによる森林フィールドワークの振り返りを軸とした小学校授業のモデル化に向けて | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | T10-12 | 192 | 2017 |
| | 中村英史・齋藤 馨・中村和彦・藤原章雄・小林博樹・瀬崎 薫 | 電源・情報インフラのない森林での定点撮影画像を用いた生物季節への気候変動影響評価 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | G4 | 214 | 2017 |
| | 藤原章雄・齋藤暖生 | 癒しの森プロジェクト—実証林の設定と住民参加の調査研究 | 第128回日本森林学会大会学術講演集 | P2-064 | 240 | 2017 |
| | 橋本澤奈・林 明日香・武市有加・押田龍夫 | 異なる繁殖期においてエゾモモンガ <i>Pteromys volans orii</i> の産仔数は異なるか？北海道の山間部天然林における10年間の長期観察結果から分かったこと | 日本哺乳類学会 2016年度大会 | P-011 | 142 | 2016 |
| | 鈴木陽己・吉村裕貴・押田龍夫 | 北海道の山間部天然林におけるエゾモモンガの巣箱利用に影響する環境要因の解析および検証 | 日本哺乳類学会 2016年度大会 | P-012 | 142 | 2016 |
| | 定禰さくら・吉村裕貴・佐藤大介・押田龍夫 | 北海道の山間部天然林においてヒメネズミが利用する巣箱の周囲環境要因の解明 | 日本哺乳類学会 2016年度大会 | P-025 | 149 | 2016 |
| | Tosa T | 北海道の山間部天然林における巣箱を用いた樹上性齧歯類の貯食活動に関する研究(予報) | 日本哺乳類学会 2016年度大会 | P-026 | 149 | 2016 |
| | 高山範理・齋藤 馨・藤原章雄・渡辺裕木 | 五日間の都市近郊林における滞在が生活の質と気分の状態に与える影響 | 人間・環境学会第23回大会 | | | 2016 |
| | 三輪 誠 | 埼玉県における県民参加を主体としたオゾンによるアサガオ被害調査—オゾン濃度とアサガオ被害度との関係— | 第57回大気環境学会年会 | 2F1115 | 443 | 2016 |
| | 橋本季巳江・今市涼子・鈴木絢子 | 共培養実験による、シダ類配偶体の形態とAM菌感染率の関係解析 | 日本植物学会第80回大会 | | | 2016 |
| | 杉原由加子・丹下 健 | 8月下旬に植栽したスギコンテナ苗の植栽当初の蒸散速度と成長 | 森林立地 | 58 | 25-28 | 2016 |
| | 石塚 航 | シリーズうごく森 長期移植試験が語る北方針葉樹トドマツの局所適応 | 森林科学 | 78 | 30-33 | 2016 |
| | 富樫一巳 | マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリ幼虫の片利共生関係 | 森林防疫 | 66 | 28-38 | 2017 |
| | 志水俊介・中島 徹・竹添勝俊・龍原 哲 | ヒノキ不成績造林地の林型区分 | GIS-理論と応用 | 24(1) | 13-22 | 2016 |

2016年度 研究活動 演習林を利用して行った論文等

| | 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|---|--|--|--|--------|-----------|------|
| | 斉藤明子・尾崎煙雄・鈴木勝 | 東京大学千葉演習林で採集した甲虫類 | 房総の昆虫 | 57 | 81-83 | 2016 |
| | 斉藤 修 | シロブホソハマキモドキとヘリグロホソハマキモドキを房総丘陵, 下総台地で採集 | 房総の昆虫 | 57 | 93 | 2016 |
| | 斉藤 修 | 清澄山系で採集した千葉県未記録, または記録の少ないナミシヤク亜科について | 房総の昆虫 | 57 | 95-96 | 2016 |
| ※ | 尾崎煙雄・斉藤明子・宮野伸也・村川功雄 | 清澄山で採集したシモブリクチプトカメシ属2種について | 房総の昆虫 | 55 | 20-21 | 2015 |
| ※ | 河辺訓受・大久保暁司・石部 彦・塩崎晴郎・須田明・細田 俊・川名美佐男・上島 励 | 東京大学千葉演習林並びに周辺(清澄寺)の陸貝調査結果 | ひたちおび | 121 | 18-24 | 2015 |
| | 水上久雄 | 東京大学秩父演習林にて2013年に採集した蛾 | 寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会誌) | 161 | 21-43 | 2016 |
| | 高杉 茂 | 入川溪谷でオオチャイロハナムグリを発見 | 寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会誌) | 161 | 66 | 2016 |
| | 田悟敏弘 | 埼玉県のオオマダラカスミカメ属(カスミカメシ科)の記録 | 寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会誌) | 162 | 21-25 | 2016 |
| | 田悟敏弘 | 埼玉県で比較的記録の少ない双翅類の記録 | 寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会誌) | 162 | 26-33 | 2016 |
| | 萩原 昇 | 東大秩父演習林(川俣・学生宿舎)で採集した蛾(2015年) | 寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会誌) | 162 | 45-47 | 2016 |
| | 萩原 昇 | 東大秩父演習林(秩父市大滝, 入川林道・小赤沢)で採集した蛾(2015年) | 寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会誌) | 162 | 47-51 | 2016 |
| | 河原 元 | 東京大学秩父演習林に棲息する <i>Favonius</i> 属について~埼玉県におけるジョウザンミドリシジミの確実な採集記録~ | 寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会誌) | 163 | 10-15 | 2016 |
| | 吹春俊光・腰野文男・服部力 | 東京大学千葉演習林の大型菌類相 | 千葉中央博自然誌研究報告特別号 | 10 | 393-400 | 2017 |
| | 伊左治鎮司・加藤久佳 | 千葉県鴨川市の東京大学千葉演習林内で発見された化学合成員化石群 | 千葉中央博自然誌研究報告特別号 | 10 | 45-50 | 2017 |
| | 南谷幸雄 | 秩父地方の大型陸棲貧毛類(ミズ)相 | 埼玉県立自然の博物館研究報告 | 10 | 45-52 | 2016 |
| ※ | 千葉県環境生活部自然保護課 | 平成26年度千葉県自然環境調査報告書 千葉県自然環境保全地域等変遷調査(平成26年度調査)三石山郷土環境保全地域 | 平成26年度千葉県自然環境調査報告書 | | | 2015 |
| ※ | 石井信夫 | ニホンジカが森林の生物多様性に及ぼす影響に関する研究 | 平成26年度「緑と水の森林ファンド」調査事業報告(要約) | | | |
| | Matsuo K, Takagi E | New host records of <i>Macrodasyceras japonicum</i> (Ashmead, 1904) (Hymenoptera, Torymidae), with notes of its morphology | Japanese Journal of Systematic Entomology | 22(2) | 175-178 | 2016 |
| | 尾張敏章 | Long-term experimental plot observations of even- and uneven-aged stand growth at the University of Tokyo Forests, Japan | IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 | | | 2016 |
| | Togashi K, Yamashita H | Effects of female body size on lifetime fecundity of <i>Monochamus urussovii</i> (Coleoptera: Cerambycidae) | Applied Entomology and Zoology | 52(1) | 79-87 | 2016 |
| | Kuribayashi T, Ogawa Y, Rochas C, Matsumoto Y, Heux L, Nishiyama Y | Hydrothermal transformation of wood cellulose crystals into pseudo-orthorhombic structure by cocrystallization | ACS Macro Letters | 2016,5 | 730-734 | 2016 |
| | Abell KJ, Gwiazdowski R, Normark BB, Kamata N, Van Driesche RG | The scale and parasitoid community on native hemlocks in Japan | Biological Control | 100 | 7-17 | 2016 |
| | Togashi K, Togashi I | Body size dependency of ovariole number and timing of reproductive maturation in <i>Semanotus japonicus</i> (Coleoptera: Cerambycidae) | Journal of Forest Research | 22 | 2-7 | 2017 |
| | Takayama N, Saito H, Fujiwara A, Horiuchi M | The effect of forest management of secondary coniferous forests on user's landscape appreciation and psychological restorativeness | International comparison of landscape appreciation | | HCG10-P10 | 2016 |

2016年度 研究活動 演習林を利用して行った論文等

| | 発表者全氏名 | 題 目 | 誌 名 | 巻一 号 | 頁 | 年 |
|--|-------------------------------|--|-----|---------|---------|------|
| | 久本洋子・三次充和・梁瀬桐子・大石 諭・天野 誠 | 千葉演習林森林博物館所蔵の1922～1990年に採集された維管束植物リスト | 演習林 | 59 | 1-54 | 2016 |
| | 里見重成・軽込 勉・米道学・久本洋子 | キヨスミツバツツジのさし木発根条件の検討 | 演習林 | 59 | 59-68 | 2016 |
| | 里見重成 | 千葉演習林自動撮影カメラ調査成果報告 | 演習林 | 59 | 73-84 | 2016 |
| | 齋藤暖生・藤原章雄・村瀬一隆・西山教雄・笠原琢志・浅野友子 | 山梨県山中湖村における薪需要把握－煙突等の目視踏査, アンケート調査, 薪原木販売実験－ | 演習林 | 59 | 187-205 | 2017 |

※これまで発行の年報に未掲載の論文である。

受賞

日本微生物生態学会第31回大会 ポスター賞(優秀発表賞)

| 受賞者氏名 | 題 目 |
|--------------------|------------------------------------|
| 執行宣彦・平尾 聡秀・梅木 清 | 土壌細菌の多様性の標高変化に対する土壌特性と植物多様性の相対的重要性 |

第64回日本生態学会大会 ポスター賞(動物群集)

| 受賞者氏名 | 題 目 |
|--|------------------------------|
| 阿部智和・ Kumar Rajesh・ Volf Martin・ Libra Matrin・阿 部 永・福島宏 晟・向後良亮・ Novotny Vojtech・村上正 志・鎌田直人 | 冷温帯落葉広葉樹林における樹種間の鱗翅目群集集合決定要因 |

第128回日本森林学会大会 学生ポスター賞(微生物分野)

| 受賞者氏名 | 題 目 |
|--------------------|-----------------------------|
| 執行宣彦・平尾 聡秀・梅木 清 | セルロース分解に関わる真菌群集:環境と季節に対する応答 |

2016年度 研究活動 外部資金によって行われた研究

外部資金によって行われた研究
科学研究費

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 | 研究代表者 | 代表者所属 |
|------------------------|----------------------|--|-------|---------|
| 福井 大 | 新学術領域研究 (研究領域提案型) | コウモリのアクティブセンシングによるナビゲーション行動の包括的理解 | 飛龍志津子 | 同志社大学 |
| 鎌田直人・ 楠本 大・ 竹本周平 | 基盤研究(A)(海外) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | 鎌田直人 | 東京大学 |
| 後藤 晋・ 久本洋子 | 基盤研究(A) | 気候変動の影響緩和を目指した北方針葉樹の環境適応ゲノミクス | 後藤 晋 | 東京大学 |
| 蔵治光一郎 | 基盤研究(B) | 学校教育における木材の生産技術と森林の多面的機能の指導内容と評価に関する研究 | 東原貴志 | 上越教育大学 |
| 當山啓介 | 基盤研究(B) | 長期的な森林バイオマス利用可能量算定モデルの構築とエネルギー収支分析 | 有賀一広 | 宇都宮大学 |
| 鎌田直人 | 基盤研究(B) | 葉食性昆虫の大発生に強い健全な森林生態系に関する研究 | 鎌田直人 | 東京大学 |
| 尾張敏章・ 藤原章雄 | 基盤研究(B) | インターネット森林観察サイトの拡充による自然学習授業案の開発 | 齋藤 馨 | 東京大学 |
| 鎌田直人・ 尾張敏章・ 坂上大翼 | 基盤研究(B) | マルチセンサを用いた天然林の持続的管理のためのモニタリング手法の開発 | 平田泰雅 | 森林総合研究所 |
| 山田利博 | 基盤研究(B) | 音響トモグラフィによる樹木の非破壊腐朽診断法の高精度化 | 山田利博 | 東京大学 |
| 楠本 大 | 基盤研究(B) | 樹木内生菌の伝播・繁殖機構および樹体内共生機構の解明 | 松下範久 | 東京大学 |
| 田中延亮 | 基盤研究(B) | 同位体年輪解析による落葉・常緑林の気象・生理的環境応答の長期変動履歴の解明 | 吉藤奈津子 | 森林総合研究所 |
| 藤原章雄 | 基盤研究(B) | 電源・情報インフラが存在しない森林環境に最適化した統合型の空間情報センシング機構 | 瀬崎 薫 | 東京大学 |
| 齋藤暖生 | 基盤研究(B) | 自然アクセス制度の国際比較ーコモンズ論の新展開にむけて | 三俣 学 | 兵庫県立大学 |
| 福井 大 | 基盤研究(C) | コウモリ類の音声モニタリングの汎用化に向けた音声データベースと識別方法の構築 | 福井 大 | 東京大学 |
| 楠本 大 | 基盤研究(C) | 樹木防御反応の誘導・調節に対する細胞間シグナル物質の機能解明 | 楠本 大 | 東京大学 |
| 楠本 大 | 基盤研究(C) | 上層木の管理は植生の被食耐性を高めるか？資源分配理論からの検証 | 鈴木 牧 | 東京大学 |
| 広嶋卓也 | 基盤研究(C) | 最適採材による用材・燃料材区分を考慮した都道府県別・間伐材生産量予測モデルの開発 | 広嶋卓也 | 東京大学 |
| 三浦直子・ 浅野友子 | 基盤研究(C) | 地上型レーザスキャンによる山地河川の河床地形計測手法の確立 | 三浦直子 | 東京大学 |
| 鎌田直人 | 挑戦的萌芽研究 | 食物網構造を組み入れた全球的な群集の多様性創出機構の解明 | 鎌田直人 | 東京大学 |
| 尾張敏章・ 坂上大翼・ 藤原章雄 | 挑戦的萌芽研究 | 圧倒的原生林ライブ配信・アーカイブが持つ国際的エンターテインメント価値の実証 | 齋藤 馨 | 東京大学 |

2016年度 研究活動 外部資金によって行われた研究

| 氏名 | 研究種目 | 研究課題 | 研究代表者 | 代表者所属 |
|----------------|----------|--|-------|-------|
| 尾張敏章・坂上大翼・當山啓介 | 挑戦的萌芽研究 | 情報技術を活用した天然林施業の知識ベース構築とその運用 | 尾張敏章 | 東京大学 |
| 齋藤暖生 | 挑戦的萌芽研究 | 再生エネルギー等利用促進のための法的小および社会的諸条件の検討—CPRsの視点から— | 神山智美 | 富山大学 |
| 藤原章雄 | 挑戦的萌芽研究 | 計算機を介した人と生態系のインタラクションによる野生動物の被曝モニタリング | 小林博樹 | 東京大学 |
| 後藤 晋 | 挑戦的萌芽研究 | 針葉樹更新初期に顕在化する近交弱勢遺伝子のゲノムワイド探索 | 後藤 晋 | 東京大学 |
| 平尾聡秀 | 若手研究(B) | シカ食害による森林植生と土壤微生物相の機能的変化がリター分解に及ぼす影響の解明 | 平尾聡秀 | 東京大学 |
| 竹本周平 | 若手研究(B) | モデル生物スエヒロタケの交配家系を用いた材質腐朽病の病原性関連遺伝子領域の同定 | 竹本周平 | 東京大学 |
| 五名美江 | 若手研究(B) | ハゲ山に森林が再生した流域における洪水緩和機能の回復メカニズムの解明 | 五名美江 | 東京大学 |
| 齋藤暖生 | 若手研究(B) | 自然資源採取・利用活動のアーカイブ化と地域における活用 | 齋藤暖生 | 東京大学 |
| 齋藤俊浩 | 奨励研究 | 下層植生衰退前後の環境音変化の評価と教育用デジタルコンテンツの作成 | 齋藤俊浩 | 東京大学 |
| 丹羽悠二 | 奨励研究 | UAVを使った大型野生哺乳類の直接観察による個体数カウント手法の開発 | 丹羽悠二 | 東京大学 |
| 鳥居正人 | 特別研究員奨励費 | <i>Raffaelea</i> 属菌の病原性発現機構の解明 | 鳥居正人 | 東京大学 |

その他補助金

| 氏名 | 補助金等名称 | 研究課題 | 研究代表者 | 代表者所属 |
|------|-------------------------------|--|-------|-------|
| 鎌田直人 | 研究拠点形成事業 (Bアジアアフリカ学術基盤形成型) | アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築 | 鎌田直人 | 東京大学 |

2016年度 研究活動 外部資金によって行われた研究

奨学寄付金

| 氏名 | 寄付目的 | 寄付者 |
|-------|--|------------------------|
| 蔵治光一郎 | 松くい虫防除に関する研究 | (公社)ゴルフ緑化促進会 |
| 鎌田直人 | 天然林におけるミズナラ優良木の単木管理及び樽材適性評価法の開発 | サントリースピリッツ株式会社 |
| 鎌田直人 | 研究助成のため | 山部'94 |
| 福井 大 | 研究助成のため | 旭硝子財団 |
| 福井 大 | 南西諸島におけるコウモリ類島嶼個体群の絶滅要因並びに現存個体群の保全に関する研究助成 | 公益財団法人 自然保護助成基金 |
| 山田利博 | 学術研究の経費 | サントリーホールディングス株式会社 |
| 浅野友子 | 鉄砲水や土砂流出による災害発生予測精度向上にむけた出水時の山地河川の水理特性解明 | サントリーホールディングス株式会社 |
| 浅野友子 | 山地河川における堰堤等を用いた量水観測精度の向上 | 砂防・地すべり技術センター |
| 平尾聡秀 | シカ食害による植生衰退が溪流の微生物群集の多様性と機能に及ぼす影響に関する研究 | 公益財団法人河川財団 河川基金 |
| 平尾聡秀 | 地球温暖化が土壌及びリター層のセルロース分解機能に及ぼす影響 | 公益財団法人 日本科学協会 |
| 安村直樹 | 林業用苗木生産工程の現状とその省力化に向けた経営上の課題に関する研究 | 公益財団法人 前川報恩会 |
| 広嶋卓也 | 炭素循環動態にかかる学術研究の経費 | 一般財団法人自然環境研究センター |
| 広嶋卓也 | 森林動態にかかる学術研究の経費 | 一般財団法人自然環境研究センター |
| 五名美江 | 中山間地域における治水対策に関する研究会ー持続可能な地域の在り方に関する検討ー | 水文・水資源学会平成28年度研究グループ助成 |
| 五名美江 | 上流域の森林荒廃が下流域の水害を拡大させるメカニズムの解明 | 公共財団法人住友財団 環境研究助成 |
| 嶋田重裕 | 地熱を活用した熱帯原産有用植物の国内生産とその利用に関する研究 | (株)メリーチョコレートカムパニー |
| 嶋田重裕 | 駿河炭原木, アブラギリに関する伐木調査研究 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 |

受託研究費

| 氏名 | 研究課題名 | 委託機関 |
|----------------------------------|---|--------------|
| 蔵治光一郎・ 田中延亮・ 五名美江・ 佐藤貴紀 | 水源かん養機能モニタリング研究委託 | 豊田市 |
| 蔵治光一郎 | タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究 | JST |
| 蔵治光一郎・ 五名美江 | 効果的な防災計画と連関させるべき科学的知見および地域文化の再発見・発信とこれらを踏まえた砂防総合対策技術の開発 | 国土交通省 |
| 當山啓介 | 広葉樹林を含む森林の経営戦略策定に係る調査・研究 | (株)アルファフォーラム |
| 當山啓介 | 山地災害リスクを低減する技術の開発 | 農林水産省 |
| 後藤 晋 | 北方森林生態系の温暖化に対するストレス応答プロセスの解明 | 三井物産環境基金 |

他機関との共同研究

| 氏名 | 研究課題名 | 共同研究機関 |
|------|--|--------------------|
| 久本洋子 | 造園植栽地を用いた植物の域外保全に関する研究 | 箱根植木株式会社 |
| 鎌田直人 | 環境変動下における森林生態系攪乱に対する北海道演習林の順応的管理に関する研究 | 王子木材緑化(株) 北海道支店 |
| 平尾聡秀 | 寒冷圏における生態系機能の評価に向けた微生物群集の機能プロファイリング手法の検討 | 北海道大学 低温科学研究所 |
| 鴨田重裕 | 本邦で生育可能なユーカリ種のクローン増殖に関する研究 | 日本製紙(株) |
| 鴨田重裕 | 本邦で生育可能なユーカリ種の加工特性と製品化に関する研究 | 森林総合研究所・京都大学 |
| 鴨田重裕 | 本邦で生育可能なユーカリ種の生産性試験 | (株)いしい林業 |

■社会連携■

学外各種委員会等委員

| 氏名 | 委員会等名称 | 委員会等所属機関 |
|-------|------------------------------------|---------------------|
| 石橋整司 | 学術著作権協会監事 | 一般社団法人 学術著作権協会 |
| 石橋整司 | 千葉県森林審議会森林保全部会 | 千葉県 |
| 蔵治光一郎 | 水循環基本法フォローアップ委員会 委員・地下水分科会長 | 水制度改革議員連盟 |
| 蔵治光一郎 | 矢作川流域圏懇談会 副座長・山部会部会長 | 国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所 |
| 蔵治光一郎 | 大阪府森林環境整備事業評価審議会 委員 | 大阪府 |
| 蔵治光一郎 | 長良川河口堰最適運用検討委員会 委員 | 愛知県 |
| 蔵治光一郎 | とよた森づくり委員会 委員 | 豊田市 |
| 蔵治光一郎 | 水循環推進協議会 委員・緑のダム部会長 | 岡崎市 |
| 蔵治光一郎 | 代議員 | 日本森林学会 |
| 蔵治光一郎 | 国際委員会 委員 | 水文・水資源学会 |
| 蔵治光一郎 | APHW対応小委員会 委員 | 水文・水資源学会 |
| 蔵治光一郎 | 理事 | 不知火海・球磨川流域圏学会 |
| 蔵治光一郎 | 編集委員会 委員 | 不知火海・球磨川流域圏学会 |
| 蔵治光一郎 | 顧問 | 猿投の森づくりの会 |
| 蔵治光一郎 | 共同代表 | 矢作川森の研究者グループ |
| 蔵治光一郎 | 監事 | NPO法人才の木 |
| 蔵治光一郎 | 理事 | ニッセイ緑の財団 |
| 久本洋子 | 英文誌編集主事 | 日本森林学会 |
| 久本洋子 | 運営委員 | 竹林景観ネットワーク |
| 久本洋子 | 千葉県ヒメコマツ協議会 | 千葉県 |
| 久本洋子 | 監事 | 森林遺伝育種学会 |
| 久本洋子 | ロゴマーク選考委員会 | 森林遺伝育種学会 |
| 久本洋子 | 樹木医技術部会 | 日本樹木医会 |
| 當山啓介 | 幹事(事務局) | 木材利用システム研究会 |
| 當山啓介 | 木質バイオマスエネルギー活用推進 協議会 | 南房総市 |
| 村川功雄 | 鳥獣保護委員 | 千葉県 |
| 里見重成 | 鳥獣保護委員 | 千葉県 |
| 米道 学 | 鳥獣保護委員 | 千葉県 |
| 鎌田直人 | 富良野市防災会議委員 | 富良野市 |
| 鎌田直人 | 富良野市総合戦略有識者会議委員 | 富良野市 |
| 鎌田直人 | 富良野市環境審議会委員 | 富良野市 |
| 鎌田直人 | 地域管理経営計画等に関する懇談会委員 | 北海道森林管理局 |
| 鎌田直人 | 日本昆虫学会英文誌編集部編集諮問委員 | 日本昆虫学会 |
| 鎌田直人 | 兼六園マツ等保全対策指導者 | 石川県 |
| 鎌田直人 | 北海道林木育種協会顧問 | 北海道林木育種協会 |
| 鎌田直人 | 埼玉県環境科学国際センター客員研究員 | 埼玉県環境科学国際センター |
| 鎌田直人 | 科学研究費委員会専門委員 | 独立行政法人日本学術振興会 |
| 尾張敏章 | 日本森林学会代議員 | 一般社団法人日本森林学会 |
| 坂上大翼 | 北海道林木育種協会評議員 | 北海道林木育種協会 |
| 坂上大翼 | 北海道林木育種協会編集委員 | 北海道林木育種協会 |
| 坂上大翼 | 北海道林木育種協会地方連絡員 | 北海道林木育種協会 |
| 坂上大翼 | 北方森林学会幹事 | 北方森林学会 |
| 福井 大 | 日本生態学会 Ecological Research 編集委員 | 一般財団法人日本生態学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員 | 一般社団法人日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会保護管理専門委員 | 一般社団法人日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会英文編集委員 | 一般社団法人日本哺乳類学会 |
| 福井 大 | 日本哺乳類学会代議員 | 一般社団法人日本哺乳類学会 |
| 山田利博 | 樹木医学研究編集委員会／評議員／監事 | 樹木医学会 |

| 氏名 | 委員会等名称 | 委員会等所属機関 |
|-------|---|--------------------------|
| 山田利博 | 千葉県土石採取対策審議会 | 千葉県 |
| 山田利博 | 埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会 | 埼玉県 |
| 山田利博 | 甲信秩父ユネスコエコパーク登録推進検討委員会 | 山梨県 |
| 山田利博 | 草加松原保全管理計画策定委員会 | 草加市 |
| 山田利博 | 関東山地ニホンジカ広域協議会専門委員会 | 関東地方環境事務所 |
| 山田利博 | 関東山地カモシカ保護地域特別調査指導委員会 | 群馬県・埼玉県・東京都・山梨県・長野県教育委員会 |
| 浅野友子 | 埼玉県森林審議会委員 | 埼玉県 |
| 浅野友子 | Hydrological Research Letters編集委員 | 水文・水資源学会 |
| 浅野友子 | 日本森林学会代議員 | 日本森林学会 |
| 平尾聡秀 | モニタリングサイト1000コアサイト検討会 | 環境省 |
| 平尾聡秀 | JaLTER代表者委員会 | JaLTER |
| 平尾聡秀 | JaLTER運営委員会 | JaLTER |
| 平尾聡秀 | 埼玉県レッドデータブック動物編改訂編集委員会 | 埼玉県 |
| 平尾聡秀 | 秩父地域森林林業活性化協議会幹事 | 秩父市 |
| 鈴木智之 | 日本生態学会キャリア支援専門委員会 | 日本生態学会 |
| 齋藤俊浩 | 秩父地域鳥獣被害対策協議会幹事会 | 埼玉県 |
| 齋藤俊浩 | 秩父地域森林林業活性化協議会分科会 | 秩父市 |
| 安村直樹 | リスク評価取組動向調査事業委員 | 一般社団法人 全国木材検査・研究協会 |
| 楠本 大 | 理事 | 樹木医学会 |
| 竹本周平 | 理事 | 樹木医学会 |
| 竹本周平 | 市民スタッフ | 我孫子市鳥の博物館(教育委員会委嘱) |
| 相川美絵子 | 技術部会 | 一般社団法人日本樹木医会 |
| 広嶋卓也 | 環境審議会鳥獣部会ニホンジカ小委員会委員 | 千葉県 |
| 広嶋卓也 | 狩猟事故防止会議 | 千葉県 |
| 広嶋卓也 | 文化財保護審議会委員 | 鴨川市 |
| 広嶋卓也 | カーボン・オフセット推進ネットワーク タスクフォースチーム | カーボン・オフセット推進ネットワーク |
| 水内佑輔 | 学術委員会 | 日本造園学会 |
| 水内佑輔 | 関東支部運営委員会事務局 | 日本造園学会 |
| 水内佑輔 | 風景計画研究推進委員会 | 日本造園学会 |
| 齋藤暖生 | 公募助成事業選考委員会 | 公益財団法人栗井英朗環境財団 |
| 齋藤暖生 | 顧問 | やまなし木質バイオマス協議会 |
| 鴨田重裕 | 第5号委員 | 一般財団法人東京大学運動会 |
| 後藤 晋 | 理事(総務委員長) | 森林遺伝育種学会 |
| 後藤 晋 | 科学研究費委員会専門委員 | (独)日本学術振興会 |
| 後藤 晋 | 農林水産業・食品産業技術研究推進事業 1次審査専門評価委員 | 農林水産業・食品産業技術振興協会 |
| 後藤 晋 | 交付金プロジェクト「有用遺伝子の特定に 向けたスギ全ゲノム走査」評価委員 | 国立研究開発法人 森林総合研究所 |
| 後藤 晋 | 農林総合研究センター研究等評価委員 | 埼玉県 |

小中高等学校への対応

| 教員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|---|---|----------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| 高橋功一・梁瀬桐子 | 探鳥会 | 犬山市立今井小学校 | 犬山市 | 4/15・ 6/18・ 11/2・ 1/19 |
| 高橋功一・梁瀬桐子 | 探鳥会 | 犬山市立城東小学校 | 犬山市 | 5/12・ 11/10・ 2/16 |
| 安村直樹・楠本大・栗田直明・相川美絵子 | 校外授業 | 実践学園中学校 | 田無演習林 | 5/27 |
| 浅野友子・齋藤俊浩・大村和也・吉田弓子・五十嵐勇治・高野充広・千嶋武・原口竜成 | 秩父市中中学生社会体験チャレンジ事業・秩父第一中学校「仕事発見DAY」 | 秩父市立秩父第一中学校 | 秩父演習林 | 7/6-8 |
| 安村直樹・竹本周平・栗田直明・相川美絵子 | 職場体験 | 東久留米市立南中学校 | 田無演習林 | 7/12-14 |
| 千嶋 武 | 樹木採集実習 | 埼玉県立秩父農工科学 | 秩父演習林 | 7/25 |
| 石橋整司・蔵治光一郎・久本洋子・當山啓介・藤平晃司 | 高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～ | 千葉演習林, 千葉大学海洋バイオシステム研究センター | 千葉演習林, 千葉大学海洋バイオシステム研究センター | 7/25-27 |
| 藤平晃司 | 夏季生物教室 | 東京大学教育学部附属中等教育学校 | 千葉演習林 | 7/28-30 |
| 坂上大翼・木村徳志・及川 希・犬飼慎也・木村恒太 | 平成28年度スーパーサイエンスハイスクール事業視察研修「北海道の針広混交天然林の構造」 | 北海道札幌啓成高等学校 | 北海道演習林 | 8/1-2 |
| 鈴木祐紀・大石諭・藤平晃司 | 安房理科教育研究部会郊外研修 | 安房理科教育研究部会 | 千葉演習林 | 8/2 |
| 千嶋 武 | ひらめき☆ときめきサイエンス平成28年度プログラム | 空間情報科学研究センター | 秩父演習林 | 8/19 |
| 遠國正樹・江口由典 | 東京大学北海道演習林の森林施業と研究活動 | 北海道帯広農業高等学校(森林科学科) | 北海道演習林 | 8/24 |
| 藤原章雄 | 社会科見学 | 甲斐市立竜王小学校 | 富士癒しの森研究所 | 10/6 |
| 安村直樹・楠本大・栗田直明・相川美絵子 | 職場体験 | 東久留米市立中央中学校 | 田無演習林 | 10/12-14 |
| 安村直樹・楠本大・栗田直明・相川美絵子 | 生活科見学 | 西東京市立住吉小学校 | 田無演習林 | 10/13 |
| 安村直樹・竹本周平・栗田直明・相川美絵子 | 職場体験 | 東久留米市立西中学校 | 田無演習林 | 10/18-20 |

| 教員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|---|--------------------------------|---------------------|--------|----------|
| 井口和信 | 北海道の天然林と生態系保全・野生動物管理に果たす獣医師の役割 | とわの森三愛高等学校(獣医進学コース) | 北海道演習林 | 10/20 |
| 楠本 大・竹本周平・栗田直明・相川美絵子 | 職場体験 | 西東京市立ひばりが丘中学校 | 田無演習林 | 10/25-27 |
| 栗田直明・相川美絵子 | 生活科授業 | 自由学園初等部 | 田無演習林 | 10/27 |
| 松井理生・三次充和・延 栄一・岡平卓巳・江口由典・廣田善己・犬飼 浩 | 1年次インターンシップ | 北海道富良野高校 | 北海道演習林 | 11/1-2 |
| 久本洋子・鈴木祐紀・村川功雄・大石諭・鶴見康幸・塚越剛史・軽込 勉・阿達康眞・藤平晃司・里見重成・米道 学 | 緑の教室 | 鴨川市立天津小学校 | 千葉演習林 | 11/16 |
| 楠本 大・竹本周平・栗田直明・相川美絵子 | 校外学習 | 西武学園文理小学校 | 田無演習林 | 11/16 |
| 浅野友子・齋藤俊浩・大村和也・吉田弓子・五十嵐勇治・才木道雄・原口竜成 | 秩父市社会体験チャレンジ事業・影森中学校 | 秩父市立影森中学校 | 秩父演習林 | 11/15-17 |
| 大石 諭・藤平晃司 | スクールミュージアム | 君津市立坂畑小学校 | 千葉演習林 | 11/18 |
| 楠本 大・竹本周平・栗田直明・相川美絵子 | 職場体験 | 東久留米市立下里中学校 | 田無演習林 | 1/31-2/2 |
| 軽込 勉 | 校外実習 | 千葉県立君津青葉高校 | 千葉演習林 | 3/27 |

公開講座・セミナー等

| 講座名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|---------------------------------------|--------------------------------|-----------|----------|
| 鴨川市共同事業「野鳥の巣箱をかけよう(巣箱観察会)」 | 鴨川市・千葉演習林 | 千葉演習林 | 4/9 |
| 千葉県森林インストラクター会 宿泊研修 | 千葉県森林インストラクター会 | 千葉演習林 | 4/9-10 |
| 里地里山認定地見学 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 4/17 |
| 春のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所 | 4/23 |
| 教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 4/23 |
| 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 4/24 |
| ウォークラリー | 東海大学付属相模高等学校 | 千葉演習林 | 4/27 |
| 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 5/1 |
| 利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会 | 生態水文学研究所 | 生態水文学研究所 | 5/13 |
| 春の植物調査会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 5/15 |
| ガイドツアー「演習林の試験地見学」 | 秩父演習林 | 秩父演習林 | 5/20 |
| 東大演習林を学ぶ会 | 千葉県インストラクター会 | 千葉演習林 | 5/22 |
| 神社山自然観察路春季一般公開 | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 5/29 |
| 子ども樹木博士認定会 | 田無演習林 | 田無演習林 | 6/5 |
| とよた森林学校2016「森林セミナー」 | 豊田森林組合 | 生態水文学研究所 | 6/18 |
| 公開セミナー | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 6/19 |
| 森づくり植生調査 | コープあいち | 生態水文学研究所 | 6/25 |
| 探鳥会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 6/26 |
| 大麓山ハイキング登山会 | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 7/10 |
| 初夏の植物観察会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 7/17 |
| 恵みの森づくりコンソーシアム第17回勉強会 | 岐阜県恵みの森づくり推進課 | 生態水文学研究所 | 7/22 |
| 高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～ | 千葉演習林 | 千葉演習林 | 7/25-27 |
| 附属中等教育学校「夏季生物教室」 | 附属中等教育学校 東大農場・演習林子どもサマースクール | 千葉演習林 | 7/28-30 |
| 東大農場・演習林子どもサマースクール | 2016実行委員会 | 田無演習林 | 8/1 |
| 校外研修会 | 安房理科教育研究部会 | 千葉演習林 | 8/2 |
| 運動会学生との共同作業(アルバイトゼンスト) | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 8/5 |
| 公開講座「東大の森林で昆虫採集」 | 秩父演習林 | 秩父演習林 | 8/5-6 |
| 「水」をテーマにした親子体験教室 | 愛知中部水道企業団 | 生態水文学研究所 | 8/13 |
| 瀬戸市小中学校社会科研究会フィールドワーク | 瀬戸市小中学校社会科研究会 | 生態水文学研究所 | 8/26 |
| 見学会 | 日本陸水学会東海支部会 | 生態水文学研究所 | 8/27-28 |
| せと環境塾2016 | 瀬戸市 | 生態水文学研究所 | 9/3 |
| 第2回癒しの森の植生調査隊 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 9/14 |
| 第2回癒しの森の植生調査隊 追加調査 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 9/29 |
| 東大教職員向け特別ガイド「きのこに親しむ」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 10/1 |
| 神社山自然観察路秋季一般公開 | 北海道演習林 | 北海道演習林 | 10/2 |
| 平成28年度JEAS中部支部野外セミナー | 日本環境アセスメント協会中部支部 | 生態水文学研究所 | 10/13 |
| お月見研修会としおじの会交流会 | 千葉演習林ボランティア会Abies | 千葉演習林 | 10/15-16 |
| 野鳥についての講演会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 10/16 |
| チョコレート作りを体験しよう! | 下田市・樹芸研究所 | 樹芸研究所 | 10/22 |
| 千葉演習林一般公開「郷台畑へ行こう!」 | 千葉演習林ボランティア会Abies | 千葉演習林 | 10/29-30 |
| 子ども樹木博士認定会 | 田無演習林 | 田無演習林 | 10/30 |
| 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をつくろう」 | 鴨川市・千葉演習林 | 千葉演習林 | 11/5 |
| 森林GISフォーラム2016年ミニセミナーin愛知 | 生態水文学研究所 | 生態水文学研究所 | 11/8-9 |
| 秋のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所 | 11/13 |
| 天津小学校「みどりの教室」 | 天津小学校 | 千葉演習林 | 11/16 |
| スクールミュージアム 坂畑小学校「東大千葉演習林見学会」 | 君津市 | 千葉演習林 | 11/18 |
| 秋の植物調査会 | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 11/20 |
| 東大演習林を学ぶ会 | 千葉県インストラクター会 | 千葉演習林 | 11/23 |
| 犬山市市民大学講座(案内人養成講座現地研修) | 犬山市 | 生態水文学研究所 | 11/26 |
| 薪づくりのための安全作業講習会 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 11/30 |
| 東大教職員向け特別ガイド「千葉演習林で楽しむ紅葉とランチ」 | 千葉演習林 | 千葉演習林 | 12/3 |
| 公開講座「林業遺産・岩樟園クスノキ林見学会」 | 樹芸研究所 | 樹芸研究所 | 12/3 |
| あいち自然再生カレッジ第3回講義 | 愛知県 | 生態水文学研究所 | 12/3 |

| 講座名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|--------------------------------|--------------------|-----------|---------|
| 休日公開 | 田無演習林 | 田無演習林 | 12/4 |
| 東大教職員向け「リース作り体験会」 | 田無演習林 | 田無演習林 | 12/4 |
| 標石を探そうツアー | シデコブシの会 | 生態水文学研究所 | 12/4 |
| 影森祭 | 秩父演習林 | 秩父演習林 | 12/11 |
| 薪づくりのための安全作業講習会 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 12/14 |
| 国連大学見学会 | 森林理水・砂防工学研究室 | 千葉演習林 | 1/17 |
| 公開講座「秩父演習林の哺乳類」 | 秩父演習林 | 秩父演習林 | 1/21 |
| 内浦山県民の森「新春・清澄山ハイキング」 | 内浦山県民の森管理事務所 | 千葉演習林 | 1/24 |
| 内浦山県民の森「新春・三石山ハイキング」 | 内浦山県民の森管理事務所 | 千葉演習林 | 1/25 |
| 千葉県勤労者山岳連盟「ロングハイク」 | 千葉県勤労者山岳連盟ハイキング委員会 | 千葉演習林 | 1/29 |
| 森林博物資料館一般公開 | 千葉演習林 | 千葉演習林 | 2/3 |
| 東大教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 2/4 |
| 「千葉演習林の新たな魅力を探る女子会インキュベーション合宿」 | 千葉演習林 | 千葉演習林 | 2/11-12 |
| せと環境塾「里山学習講座～野生動物との共存を目指して～」 | 瀬戸市 | 生態水文学研究所 | 2/18 |
| 内浦山県民の森「～早春のやまあるき～清澄八山をゆく2/21」 | 内浦山県民の森管理事務所 | 千葉演習林 | 2/21 |
| 内浦山県民の森「～早春のやまあるき～清澄八山をゆく2/22」 | 内浦山県民の森管理事務所 | 千葉演習林 | 2/22 |
| 東大演習林を学ぶ会 | 千葉県インストラクター会 | 千葉演習林 | 3/4 |
| 公開講座「富士癒しの森研究所研究報告会2016」 | 富士癒しの森研究所 | 富士癒しの森研究所 | 3/8 |
| 総会と演習林を歩こう | 千葉演習林ボランティア団体Abies | 千葉演習林 | 3/11-12 |
| 久留里城址資料館「川越藩の番所を歩く」 | 君津市立久留里城址資料館 | 千葉演習林 | 3/19 |
| 君津青葉高校「校外実習ヒメコマツ見学」 | 君津青葉高校 | 千葉演習林 | 3/27 |

学会, 研修, 市民教育等における講演(招待講演を含む)

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|---|--|-------------------------------------|--------------------|----------|
| 當山啓介 | 演習林と人工林の最近の研究・動向 | 千葉県森林インストラクター会 | 千葉演習林 | 4/9 |
| 田中延亮 | 春のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所犬山研究林 | 4/23 |
| 竹本周平 | 研修交流会 講義「森林をささえる土と微生物」 | 千葉演習林ポランティア会Abies | 田無演習林 | 5/10 |
| 相川美絵子 | 研修交流会 見学案内 | 千葉演習林ポランティア会Abies | 田無演習林 | 5/10 |
| 竹本周平 | 見学案内 | 練馬区立関町リサイクルセンター | 田無演習林 | 5/10 |
| 蔵治光一郎 | 環境と森林 みんなで環境にやさしい森林を育む(森づくり環境シンポジウム) | 鳥取県中部森林組合 | 三朝町総合文化ホール | 5/14 |
| 坂上大翼 | 森林学習プログラム推進事業 ガイド研修 神社山基礎学習会 | 富良野市教育委員会 | 北海道演習林 | 5/20 |
| 福井 大 | NACS-J市民カレッジ シリーズ35「夜空を支配するふしぎな生きもの コウモリ ～コウモリってどんな生きもの?～」 | 日本自然保護協会 | 三菱商事MC FOREST | 5/26 |
| 浅野友子 | ちちぶ学セミナー 講義「秩父地域の森林と水」 | 秩父市 | 歴史文化伝承館 | 5/28 |
| 相川美絵子 | 見学案内 | グランジオ武蔵野グランジオクラブ(西東京市・市民団体) | 田無演習林 | 6/5 |
| 竹本周平 | 探してみよう!コケの世界 | 我孫子市鳥の博物館 | 我孫子市鳥の博物館 | 6/11 |
| 三浦直子 | LiDARを用いた森林三次元構造の抽出ーオーストラリアで開発された方法は北海道の森林にも適用可能か? | 精密工学会大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術専門委員会 | 東京大学 | 6/13 |
| 楠本 大 | 見学案内 | 東大ワンダーフォーゲル部OB会 | 田無演習林 | 6/15 |
| 齋藤暖生 | 日本菌学会関東支部・菌類懇話会合同菌類観察会講演「菌類民俗学の可能性～地域を知る・興すアプローチとして～」 | 日本菌学会関東支部・菌類懇話会 | 富士癒しの森研究所 | 6/18 |
| 蔵治光一郎 | 森林の持つ公益的機能 (とよた森林学校 森林セミナー 第4回) | とよた森林学校 | 生態水文学研究所赤津宿泊施設 講義室 | 6/18 |
| 栗田直明・相川美絵子 | 竹採集作業補助 | 田無ひまわり保育園 | 田無演習林 | 6/28 |
| 齋藤暖生 | 森林インストラクター養成講習「山村と農林業」 | 全国森林レクリエーション協会 | 全林野会館 | 7/3・8/20 |
| 蔵治光一郎 | 東海豪雨と豊田市の森づくり (平成28年度第1回とよた森づくり委員会) | 豊田市 | 豊田森林組合会議室 | 7/7 |
| 広嶋卓也・田中延亮 | ヒノキ人工林試験流域の視察 | 岡崎市 | 生態水文学研究所犬山研究林 | 7/12 |
| 犬飼 浩・中川雄治・井上 崇 | 北海道演習林における林分施業法とGISデータベースの管理 | 帯広の森づくり協議会 | 北海道演習林 | 7/13 |
| 広嶋卓也・田中延亮 | 恵みの森づくりコンソーシアム第17回勉強会 | 岐阜県恵みの森づくり推進課 | 生態水文学研究所赤津研究林 | 7/22 |
| 楠本 大 | 東大農場・演習林子どもサマースクール2016「夏の田んぼと林を探検しよう」 | 東大農場・演習林子どもサマースクール2016実行委員会・多摩六都科学館 | 生態調和農学機構・田無演習林 | 8/1 |
| 坂上大翼・小池征寛・木村恒太 | 平成28年度第2回研究協議会 | 北海道生物教育会 | 北海道演習林 | 8/9-10 |
| 山田利博 | 腐朽診断, 特に音響波について(茨城県支部研修会) | 日本樹木医学会茨城県支部 | 長福寺(かずみがうら市) | 8/20 |
| 竹本周平 | 土壌生物クマムシを観察しよう | 我孫子市鳥の博物館 | 我孫子市鳥の博物館 | 8/21 |
| 田中延亮・佐藤貴紀 | 陸水サマースクール | 日本陸水学会東海支部 | 生態水文学研究所赤津研究林 | 8/27 |
| 蔵治光一郎 | 森林と水循環 (水循環基本法フォローアップ第8回委員会記念講演) | 水循環基本法フォローアップ委員会 | 衆議院第一議員会館 | 9/2 |
| 広嶋卓也・田中延亮・水内祐輔・五名美江・井上淳・後藤太成・高橋功一・梁瀬桐子・平野圭二 | せと環境塾2016「サイエンスキャンプin東大演習林」 | 瀬戸市 | 生態水文学研究所赤津研究林 | 9/3 |

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|--------------------------|--|---|------------------------|-------------------------------|
| 蔵治光一郎 | 森林と水循環と人間社会 | 科研費「学校教育における木材の生産技術と森林の多面的機能の指導内容と評価に関する研究」 | 森林総合研究所 | 9/13 |
| 當山啓介 | 広葉樹林からの木質バイオマス生産と森林経営について | あわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会 | あわら温泉美松 | 9/13 |
| 蔵治光一郎 | 第一回講義 犬山の森のこれまでとこれから (犬山市民総合大学環境学部 ～犬山の森と私たちとの長い付き合い～) | 犬山市 | 犬山国際観光センター“フロイデ” | 9/24 |
| 蔵治光一郎 | 森と水の恵み 第一回 水害、水資源、水循環 (『家康塾』白熱教室岡崎一講演・セミナーと「ワークショップ」受講者が交流:対話する) | コミュニティシンクタンク | 岡崎市南部市民センター 3階多目的室 | 9/25 |
| 坂上大翼・木村徳志・福岡 哲・犬飼 浩 | JICA キルギス国林産品による地方ビジネス開発プロジェクト | 北海道総合研究調査会 | 北海道演習林 | 9/29 |
| 蔵治光一郎 | 川上(生産者側)の事情 (スギの用途を広げるビジネスアイデアソン(1)インプット講座) | NPO法人木の木・(株)三菱総合研究所 | (株)三菱総合研究所 | 9/30 |
| 山田利博 | 幹の外科技術と機器による診断(樹木医研修) | 日本緑化センター | 筑波研修センター | 9/30・10/14 |
| 尾張敏章 | 平成28年度JICA課題別研修「認証制度やブランド化を通じた森林資源の総合利用による地域振興」コース | 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター | 北海道演習林 | 10/4 |
| 鎌田直人・犬飼 浩 | 平成28年度課題別研修「地域住民の参加による多様な森林保全」コース | JICA研修 | 北海道演習林 | 10/5 |
| 竹本周平 | 見学案内 | 健康ウォーク+1(羽村市・市民団体) | 田無演習林 | 10/7 |
| 蔵治光一郎 | 森林保全におけるステークホルダーとの協働(環境問題の現場における超学際研究の新展開) | 総合地球環境学研究所・千葉大学環境リモートセンシング研究センター | 総合地球環境学研究所 | 10/9 |
| 井上 淳・後藤太成・高橋功一・梁瀬桐子 | 平成28年度JEAS中部支部野外セミナー | 日本環境アセスメント協会中部支部 | 生態水文学研究所赤津研究林 | 10/13 |
| 鈴木祐紀 | 平成28年度附属施設実務研修(富士癒しの森研究所) | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 富士癒しの森研究所 | 10/17-20 |
| 鴨田重裕・村瀬一隆・渡邊良広・辻 良子・小林徹行 | 下田市中央公民館講座 東京大学樹芸研究所講座～チョコレートづくりを体験しよう!～ | 樹芸研究所・下田市教育委員会 | 樹芸研究所 | 10/22 |
| 蔵治光一郎 | 第二回講義 森林の緑のダムとしてのはたらき(犬山市民総合大学環境学部 ～犬山の森と私たちとの長い付き合い～) | 犬山市 | 犬山国際観光センター“フロイデ” | 10/29 |
| 蔵治光一郎 | 森と水の恵み 第二回 世界の森林、日本の森林 (『家康塾』白熱教室岡崎一講演・セミナーと「ワークショップ」受講者が交流:対話する) | コミュニティシンクタンク | 岡崎市南部市民センター 3階多目的室 | 10/30 |
| 犬飼 浩 | 天然林施業の研修会 | NPO法人森の生活 | 北海道演習林 | 10/31 |
| 齋藤暖生 | キノコの売り方、育て方 | 和泉地区特産物活性化協議会 | 大野市和泉総合福祉センター | 11/3 |
| 三浦直子 | LiDARを用いた森林三次元構造の抽出ーオーストラリアで開発された方法は北海道の森林にも適用可能か? | 東京大学 森林科学セミナー | 東京大学 | 11/10 |
| 山田利博 | 樹木木部の傷や菌に対する防御反応とその処理について(桜保全管理講座) | 日本花の会 | 日比谷コンベンションホール | 11/10 |
| 蔵治光一郎 | 大きく変わってきた日本の森林(NPO法人木の木10周年記念トークカフェ盛岡・第211回木を勉強する会(木勉会)) | NPO法人木の木 | いわて県民情報交流センター(アイーナ) | 11/12 |
| 広嶋卓也・田中延亮 | 「犬山の森」秋のふれあい自然観察会 | 犬山市 | 生態水文学研究所犬山研究林 | 11/13 |
| 當山啓介 | 広葉樹林からの木質バイオマス生産と森林経営について | 会津「The13」事業協議会 | 福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター | 11/15 |
| 田中延亮・佐藤貴紀 | 東京大学生態水文学研究所にみる森林の変遷 | 大阪市立大学理学部附属植物園 | 交野市星の里いわふね | 11/16 |
| 坂上大翼 | 森林学習プログラム推進事業 ガイド研修基礎講座「樹木の構造と機能」「森林植生の多様性」「森林の構造と動態」「森林の生態系とはたらき」「林分施業法による森づくり」「木材の生産と利用」 | 富良野市教育委員会 | 富良野市生涯学習センター | 11/17・12/15・1/19・2/9・3/2・3/23 |
| 齋藤暖生 | ブラチナ社会研究会インスピレーション合宿「スギと技術、技能」 | NPO法人木の木・(株)三菱総合研究所 | 富士癒しの森研究所 | 11/19 |

2016年度 社会連携

| 教職員名 | 講演名 | 主催 | 開催場所 | 日程 |
|--------------------------|---|-----------------------------|--------------------|----------|
| 竹本周平 | 植物の色で実験しよう | 練馬区立関町リサイクルセンター | 練馬区立関町リサイクルセンター | 11/19 |
| 蔵治光一郎 | 緑のダムがもたらす恵み～森と水の科学～（やまなし育水推進県民大会） | 山梨県 | バルクラシック甲府 | 11/24 |
| 高野充広 | 平成28年度小規模施設の機械総点検研修 | 東京大学 | 附属水産実験所 | 11/24-25 |
| 田中延亮・梁瀬桐子 | 犬山市民総合大学環境学部「東京大学犬山研究林～現地講義～」 | 犬山市 | 生態水文学研究所犬山研究林 | 11/26 |
| 蔵治光一郎 | 森と水の恵み 第三回 森林の保水力、水源かん養機能（『家康塾』白熱教室岡崎一講演・セミナーと「ワークショップ」受講者が交流・対話する） | コミュニティシンクタンク | 岡崎市南部市民センター 3階多目的室 | 11/27 |
| 相川美絵子 | 見学案内 | 練馬区立関町リサイクルセンター | 田無演習林 | 11/28 |
| 広嶋卓也・梁瀬桐子 | 研究林利用についての講義、犬山研究林案内人補助者認定試験 | 生態水文学研究所 | 犬山市民健康館さくら・さくら | 12/3 |
| 田中延亮・梁瀬桐子 | あいち自然再生カレッジ第3回講義「ハゲ山から再生し遷移している森林生態系での生態水文研究の現場の視察」 | 愛知県環境部自然環境課 | 生態水文学研究所赤津研究林 | 12/3 |
| 蔵治光一郎 | 水循環基本計画と森林の水源かん養機能（桂川流域フォーラム） | 桂川・相模川流域協議会 | 山梨県富士山科学研究研究所 | 12/4 |
| 井上 淳 | 標石ツアー | シデコブシの会 | 生態水文学研究所赤津研究林 | 12/4 |
| 齋藤暖生 | 森の文化を再興しよう～「癒しの森プロジェクト」の挑戦～ | 特定非営利活動法人富士山自然学校 | 山中湖交流プラザきらら | 12/4 |
| 相川美絵子 | 見学案内 | さんぶ木楽会（千葉県山武郡・市民団体） | 田無演習林 | 12/7 |
| 原口竜成 | 基盤データ整備委員会GIS部門平成28年度GIS研修会 | 東京大学 | 富士癒しの森研究所 | 12/8-9 |
| 佐藤貴紀 | 附属演習林（愛知県瀬戸市）における近年のナラ枯れ被害（第25回浜名湖をめぐる研究者の会） | 附属水産実験所 | 附属水産実験所 | 12/10 |
| 齋藤暖生 | 山村年交流研修「山菜・きのこを生かす道」 | 林野庁 | 森林技術総合研修所 | 12/15 |
| 蔵治光一郎 | 東海豪雨を忘れない（第2回あさひ森の健康診断報告会） | あさひ森の健康診断実行委員会 | 敷島会館 | 12/16 |
| 楠本 大 | 森が支える私たちの生活 | 都市計画道路田無3・4・7を考える会 | 田無演習林・西東京市緑町地区会館 | 1/11 |
| 竹本周平 | 見学案内 | ゆりの木クラブ（練馬区・市民団体） | 田無演習林 | 1/19 |
| 尾張敏章・坂上大翼・中川雄治・犬飼慎也・木村恒太 | 厳寒に生きる樹木ー東京大学北海道演習林からのハイビジョンライブ遠隔講義ー（第6回サイバーフォレストシンポジウム） | 東京大学新領域創成科学研究科・空間情報科学研究センター | 柏キャンパス・北海道演習林 | 2/12 |
| 井上 淳・梁瀬桐子 | せと環境塾「里山学習講座～野生動物との共存を目指して～」 | 瀬戸市 | 生態水文学研究所赤津研究林 | 2/18 |
| 蔵治光一郎 | 流域の森づくりの実践に向けて | 桂川・相模川流域協議会 森づくり専門部会 | びゅあ富士 | 2/23 |
| 竹本周平 | 見学案内 | NPO法人あるきんぐクラブ・ネイチャーセンター | 田無演習林 | 2/28 |
| 久本洋子 | 竹ってどんな植物？竹の種類・生態・管理について（竹炭シンポジウムin石岡） | NPO法人竹もりの里 | （株）つくば林業 | 3/3 |
| 齋藤暖生 | 富士癒しの森研究所公開講座「山中湖村における薪利用の特徴と課題ー地域の森を生かすためにー」、 「安全作業講習会と薪原木の提供について」 | 富士癒しの森研究所 | 山中湖村情報創造館 | 3/8 |
| 藤原章雄 | 富士癒しの森研究所公開講座「第2回癒しの森の植生調査隊の調査結果」 | 富士癒しの森研究所 | 山中湖村情報創造館 | 3/8 |
| 久本洋子 | 東京大学千葉演習林を事例とした野生動物被害の現状と対策（石灰石鉱業協会緑化セミナー） | 石灰石鉱業協会 | 石灰石鉱業協会会議室 | 3/17 |

■ 管理 ■

2016年度 管理

管理面積集計表

2016年4月1日現在 ha

| | 樹 林 地 | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|-------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|-----|---------|-------|-------|
| | 合 計 | 人 工 林 | | | | 天 然 林 | | | | 竹 林 | 伐 採 跡 地 | 未 立 地 | そ の 他 |
| | | 小 計 | 針 葉 樹 林 | 混 交 林 | 広 葉 樹 林 | 小 計 | 針 葉 樹 林 | 混 交 林 | 広 葉 樹 林 | | | | |
| 千 葉 | 2,170 | 858 | 826 | 17 | 15 | 1,302 | | 377 | 925 | 1 | | 9 | |
| 北 海 道 | 21,883 | 3,402 | 3,082 | 140 | 180 | 18,481 | | 15,194 | 3,287 | | 663 | 170 | |
| 秩 父 | 5,812 | 767 | 749 | | 18 | 4,986 | 199 | 778 | 4,009 | | | 59 | |
| 田 無 | 9 | 6 | 2 | 3 | 1 | | | | | | | 3 | |
| 生 態 水 文 | 1,292 | 304 | 302 | | 2 | 949 | | 949 | | | | 39 | |
| 富 士 | 38 | 38 | 34 | 1 | 3 | | | | | | | | |
| 樹 芸 | 246 | 109 | 50 | | 59 | 106 | | | 106 | | | 31 | |
| 合 計 | 31,450 | 5,484 | 5,045 | 161 | 278 | 25,824 | 199 | 17,298 | 8,327 | 1 | 663 | 311 | |

※2012年度より、北海道演習林の針葉樹林は混交林へ区分した

林相別蓄積集計表

2016年4月1日現在 m³

| 演習林名 | 計 | 人工林 | 天然林 |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 千 葉 | 810,611 | 252,212 | 558,399 |
| 北 海 道 | 5,101,134 | 686,291 | 4,414,843 |
| 秩 父 | 1,462,189 | 360,322 | 1,101,867 |
| 田 無 | 2,344 | 2,344 | |
| 生 態 水 文 | 239,026 | 84,928 | 154,098 |
| 富 士 | 11,462 | 11,462 | |
| 樹 芸 | 74,797 | 51,153 | 23,644 |
| 合 計 | 7,701,563 | 1,448,712 | 6,252,851 |

植栽樹種

本

| 千 葉 | スギ ヒノキ | | | |
|---------|---------------------------|-------|-------|-------|
| | 552 | 700 | | |
| 北 海 道 | トドマツ エゾマツ アカエゾ マツ グイマツ F1 | | | |
| | 9,999 | 8,861 | 5,722 | 2,090 |
| 秩 父 | | | | |
| 田 無 | | | | |
| 生 態 水 文 | | | | |
| 富 士 | | | | |
| 樹 芸 | | | | |

立木伐採量

m³

| | | 主伐材積 | | | 利用 間伐 材積 | 主伐, 間伐 合計 | |
|------|---------|-------|--------|-------|----------------|--------------|--------|
| | | 人工林 | | 小計 | | | |
| | | 針葉樹 | 広葉樹 | | | | |
| 千 葉 | 立木販売 | 1,000 | | 1,000 | | 1,000 | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | 1,000 | | 1,000 | | 1,000 | |
| 北海道 | 立木販売 | | 10,077 | 4,363 | 14,440 | 8,233 | 22,673 |
| | 素材生産資材量 | | 584 | 1,130 | 1,714 | | 1,714 |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | | 10,661 | 5,493 | 16,154 | 8,233 | 24,387 |
| 秩 父 | 立木販売 | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | |
| 田 無 | 立木販売 | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | |
| 生態水文 | 立木販売 | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | |
| 富 士 | 立木販売 | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | |
| 樹 芸 | 立木販売 | | | | | | |
| | 素材生産資材量 | | | | | | |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | | | | | | |
| 合 計 | 立木販売 | 1,000 | 10,077 | 4,363 | 15,440 | 8,233 | 23,673 |
| | 素材生産資材量 | | 584 | 1,130 | 1,714 | | 1,714 |
| | その他 | | | | | | |
| | 合 計 | 1,000 | 10,661 | 5,493 | 17,154 | 8,233 | 25,387 |

育林実行量②（枝打ち, 保育間伐, 獣害対策, その他）

| 演習林名 | 枝打ち | | | 保育間伐 | | | 獣害対策(シカ柵設置など) | | | その他 | | |
|------|-----|--------|------|--------|--------|--------------|---------------|--------|------|-------|--------|-----------------------|
| | 林小班 | 面積(ha) | 備考 | 林小班 | 面積(ha) | 備考 | 林小班 | 面積(ha) | 備考 | 林小班 | 面積(ha) | 備考 |
| 千葉 | | | | 36CS-1 | 2.35 | | 44C11-2 | 0.04 | | | | |
| 北海道 | 70 | A1 | アカエゾ | 98 | B | 4.31 | ※4 | 71 | D | 2.63 | 鼠毒餌散布 | |
| | | | | 98 | C | 10.69 | ※4 | 72 | D | 4.53 | 〃 | |
| | | | | | | | ※4 請負(補助金) | 73 | D | 2.85 | 〃 | |
| | | | | | | | | 74 | C | 2.66 | 〃 | |
| | | | | | | | | 74 | J | 0.91 | 〃 | |
| | | | | | | | | 75 | B | 3.09 | 〃 | |
| | | | | | | | | 87 | C | 4.24 | 〃 | |
| 秩父 | 3 | 29 | 2.93 | ヒノキ | 3 | 29 | 2.93 | ヒノキ | 3 | い30 | 0.70 | シカ柵補修 |
| | | | | | | | | | 20 | ち1 | | 〃 (樹木園周囲930m) |
| | | | | | | | | | 29 | い10 | 0.24 | 〃 |
| | | | | | | | | | 29 | い39 | 0.36 | 〃 |
| | | | | | | | | | 29 | い40 | 0.22 | 〃 |
| | | | | | | | | | 31 | い23 | 1.18 | 〃 |
| | | | | | | | | | 29 | | | 樹皮ガード取付, 矢竹沢第3作業道沿い |
| | | | | | | | | | 29 | | | 樹皮ガード補修, バケモノ沢モノレール沿い |
| | | | | | | | | | 18 | | | 樹皮ガード取付, バケモノ沢モノレール沿い |
| | | | | | | | | | 生態水文 | | | |
| | | | 10 | い10 | 4.23 | 〃 | | | | | | |
| | | | 14 | い1 | 0.99 | 愛知県小規模治山整備事業 | | | | | | |
| | | | 14 | い2 | | 〃 | | | | | | |
| | | | 14 | い3 | | 〃 | | | | | | |
| | | | 14 | い4 | | 〃 | | | | | | |
| | | | 15 | い4 | 0.15 | 〃 | | | | | | |
| | | | 16 | い2 | 0.1 | 〃 | | | | | | |
| | | | 16 | い3 | 0.4 | 〃 | | | | | | |
| | | | 16 | い4 | 0.45 | 〃 | | | | | | |
| | | | 26 | い1 | 0.55 | 〃 | | | | | | |
| | | | 26 | い2 | | 〃 | | | | | | |
| | | | 26 | い3 | | 〃 | | | | | | |
| | | | 26 | い4 | 0.57 | 〃 | | | | | | |
| | | | 26 | い5 | 0.27 | 〃 | | | | | | |
| | | | 26 | い6 | 0.18 | 〃 | | | | | | |
| | | | 27 | い1 | 2.81 | 愛知県保安林整備事業 | | | | | | |
| | | | 44 | い3 | 0.21 | 愛知県小規模治山整備事業 | | | | | | |
| | | | 44 | い4 | 0.21 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | い2 | 0.91 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | い3 | 0.42 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | い5 | 0.96 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | い6 | 0.28 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | い7 | 0.17 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | い8 | 0.36 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | い9 | 0.22 | 〃 | | | | | | |
| | | | 45 | ほ | 0.1 | 〃 | | | | | | |
| | | | 58 | い5 | 0.24 | 直営 | | | | | | |
| | | | 58 | い6 | 0.26 | 〃 | | | | | | |
| | | | 72 | い9 | 0.5 | ボランティア | | | | | | |
| 富士 | | | | III | 13 | 0.83 | 寒地性樹種試験地 | | | | | |
| 合計 | | | 3.27 | | | 40.89 | | | | 23.65 | | |

田無演習林, 樹芸研究所では該当する業務はなかった。

2016年度 管理

素材生産総括表

m³

| | 素材生産資材量 | | | 素材生産量 | | | 歩留(%) | | |
|------|----------|--------|----------|----------|--------|--------|-------|-------|-------|
| | 計 | 針葉樹 | 広葉樹 | 計 | 針葉樹 | 広葉樹 | 平均 | 針葉樹 | 広葉樹 |
| 千 葉 | | | | | | | | | |
| 北海道 | 1,714.19 | 583.81 | 1,130.38 | 1,136.98 | 393.40 | 743.58 | 66.33 | 67.39 | 65.78 |
| 秩 父 | | | | | | | | | |
| 田 無 | | | | | | | | | |
| 生態水文 | | | | | | | | | |
| 富 士 | | | | | | | | | |
| 樹 芸 | | | | | | | | | |
| 合 計 | 1,714.19 | 583.81 | 1,130.38 | 1,136.98 | 393.40 | 743.58 | 66.33 | 67.39 | 65.78 |

土木実行総括表

m

| | | | | | | | | |
|------|------|--------|-------|--------|---------|--------|---------|--|
| 千 葉 | 実行内容 | 林道維持 | 歩道維持 | | | | | |
| | 実行数量 | 52,710 | 1,707 | | | | | |
| 北海道 | 実行内容 | 車道手入 | 砂利敷均し | 砂利均し | 崩壊修繕 | 除雪 | 請負草刈り | |
| | 実行数量 | 33,500 | 1,275 | 11,400 | 12箇所 | 24,800 | 155,900 | |
| 秩 父 | 実行内容 | 林道維持 | 作業道維持 | 歩道維持 | モノレール維持 | | | |
| | 実行数量 | 11,395 | 5,160 | 36,654 | 3,067 | | | |
| 田 無 | 実行内容 | 砕石敷均し | 歩道草刈 | | | | | |
| | 実行数量 | 170 | 430 | | | | | |
| 生態水文 | 実行内容 | 林道維持 | 歩道維持 | | | | | |
| | 実行数量 | 4,500 | 3,700 | | | | | |
| 富 士 | 実行内容 | 車道草刈 | 歩道草刈 | | | | | |
| | 実行数量 | 600 | 900 | | | | | |
| 樹 芸 | 実行内容 | 車道草刈 | 車道整備 | 歩道草刈 | 歩道整備 | | | |
| | 実行数量 | 1,979 | 1,203 | 1,708 | 550 | | | |

道路現況

m

| | 車道延長 | | | | 歩道延長 | |
|------|---------|---------|-----------|----------|---------|----------|
| | 林道延長 | 作業道延長 | 計 | 密度(m/ha) | 延長 | 密度(m/ha) |
| 千 葉 | 31,436 | | 31,436 | 14.5 | 125,361 | 57.8 |
| 北海道 | 484,500 | 448,890 | 933,390 | 41.0 | 7,800 | 0.3 |
| 秩 父 | 11,395 | 7,302 | 18,697 | 3.2 | 182,371 | 31.4 |
| 田 無 | | | | | 1,590 | 176.70 |
| 生態水文 | 11,840 | 1,500 | 13,340 | 10.3 | 12,400 | 9.6 |
| 富 士 | 2,087 | | 2,087 | 54.9 | 3,009 | 79.2 |
| 樹 芸 | 3,486 | 3,657 | 7,143 | 29.0 | 11,753 | 47.8 |
| 合 計 | 544,744 | 461,349 | 1,006,093 | | 344,284 | |

予算配分

| | | 単位:千円 | | 単位:千円 | |
|--------------|-----------------|---------|-------------------------|---------|----------------------------|
| | | 2015年度 | | 2016年度 | |
| 配分 | 当初配分 | 256,186 | (前年繰越計14,306千円含む) | 286,684 | (前年繰越計39,433千円含む) |
| | 追加配分, 協力金等 | 2,215 | (専攻協力金, 学生経費, 他) | 5,668 | (専攻協力金, 学生経費, 学部教育改革事業費 他) |
| | 特別繰越枠 | 6,000 | (北海道5,000千円, 全演1,000千円) | | |
| 運営費 | 小計 | 264,401 | | 292,352 | |
| 事項指定経費 | 市町村交付金相当額 | 41,980 | | 41,980 | |
| | 借地料 | 7,824 | (秩父・富士借地料支払) | 7,822 | (秩父・富士借地料支払) |
| | 特殊雇用経費 | 9,238 | (障害者雇用対策費) | 8,774 | (障害者雇用対策費) |
| | 国大協保険金 H26年2月雪害 | 3,900 | (千葉, 秩父) | | |
| 合計 (当初および追加) | | 327,343 | | 350,928 | |
| | 収入不足戻し | 0 | | 0 | |
| | 指定経費残額, 他口座への移算 | -332 | | -166 | |
| 最終配分額 | | 327,011 | (収入超過戻し997千円を含んでいない) | 350,762 | (収入超過戻し[暫定]7,248千円を含んでいない) |

予算執行

| | | | | |
|----------------|---------|----------------------|---------|------------------------|
| 執行額 | 288,570 | 財務会計システムデータ | 313,296 | 財務会計システムデータ |
| 残額 | 38,436 | (預託申請額計16,000千円含む) | 38,677 | |
| 次年度への演習林全体の繰越額 | 39,433 | (H27年度収入超過戻し997千円含む) | 45,949 | (H28年度収入超過戻し7,272千円含む) |

収入

| | | | | |
|--------|---------|------------------------|---------|--|
| 林産物収入 | 88,731 | | 83,691 | |
| 損害賠償金 | 1,828 | 立木補償等 | 1,974 | 立木補償等 |
| 土地貸付料等 | 13,926 | 電線敷地貸, 宿泊施設利用費, 私費分等 | 14,632 | 電線敷地貸, 宿泊施設利用費, 私費分等 |
| その他収入等 | 1,983 | 刊行物販売, 講習料, 不用品, その他収入 | 9,660 | 刊行物販売, 不用品, その他売り払い収入, 手数料収入, 講習料, その他収入 |
| 合計 | 106,468 | H27経理課決算 | 109,957 | H28経理課決算 |

演習林林産物収入細分表

| 区分 | 立木 | 素材 | その他 | | | 合計 |
|-----|---------------------------|--------------------------|----------|-----|---------------------|--------------|
| | | | ヒサカキ | 苗木 | 残材等, その他 | |
| 千葉 | 999.640 m ³ | m ³ | 24 束 | 本 | m ³ | 2,355,100 円 |
| | 2,341,100 円 | 円 | 14,000 円 | 円 | 円 | |
| 北海道 | 24,604.250 m ³ | 1,136.981 m ³ | 束 | 本 | m ³ | 81,335,685 円 |
| | 40,708,150 円 | 40,627,535 円 | 円 | 円 | 円 | |
| 合計 | 25,603.89 m ³ | 1,136.98 m ³ | 24 束 | 0 本 | 0.00 m ³ | 83,690,785 円 |
| | 43,049,250 円 | 40,627,535 円 | 14,000 円 | 0 円 | 0 円 | |

演習林技術職員等試験研究・研修会議

場所 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 生態水文学研究所

日程 [2016年10月6日(木)]

12:45 赤津宿泊施設にて受付

13:00 記念撮影

13:15 開会挨拶 廣嶋卓也 生態水文学研究所所長

13:20 試験研究発表(○:発表者)

《共通テーマの部》『長期生態系プロット, 固定試験地等の測定・管理』

北海道演習林における天然林施業試験地の管理

○笠原久臣(北海道演習林)

生態水文学研究所における先進的な過去データ管理体制

○梁瀬桐子・加藤純子・黒木里香・加藤敦美・田中延亮・五名美江(生態水文学研究所)

田無演習林の全木調査の取り組みと課題

○相川美絵子・栗田直明(田無演習林)

吉田試験地と檜ノ木台試験地の測定と管理について

○大石 諭(千葉演習林)

設定から30年経過した62林班スギ間伐試験地の現況

○高橋功一・井上 淳・梁瀬桐子(生態水文学研究所)

秩父演習林大面積プロットの測定・管理について

○千嶋 武・原口竜成・五十嵐勇治・大村和也(秩父演習林)

長期生態系プロット15年間の動態について

○渡邊良広(樹芸研究所)・辻 和明(富士癒しの森研究所)・小林徹行・村瀬一隆・辻 良子(樹芸研究所)

富士癒しの森研究所におけるLTERの林分動態

○辻 和明・西山教雄(富士癒しの森研究所)

15:20 休憩

15:35 《自由テーマの部》

千葉演習林のスギが鳥居となるまで

○鶴見康幸(千葉演習林)

目玉クリップを利用したマツ類の接ぎ木の試み

○米道 学・軽込 勉・里見重成(千葉演習林)・梁瀬桐子(生態水文学研究所)

葉食性昆虫による連年被害を受けたウダイカンバの衰退状況および穿孔虫類による二次的被害化

○井口和信(北海道演習林)

青野研究林におけるニホンジカ密度推定調査10年間のまとめ

○小林徹行・村瀬一隆・渡邊良広・辻 良子(樹芸研究所)・辻 和明(富士癒しの森研究所)

つづく

巨木からの観察による樹上と地上での鳥類相の違いの評価

○高德佳絵(秩父演習林)

荒川源流域に生息するサンショウウオにおけるミトコンドリア DNA の遺伝子解析

○丹羽悠二(教育研究センター)・五十嵐洋治(水圏生物工学研究室)

17:15 講評 石橋整司 企画部長

17:30 懇親会

[2016年10月7日(金)]

講義・現地研修

9:00 富樫一巳 演習林長

「統計学の利用」

10:00 現地見学

12:00 昼食後解散

参加者

林長・企画部：富樫一巳・石橋整司・澤田晴雄

千葉演習林：鶴見康幸・大石諭・米道学

北海道演習林：井口和信・笠原久臣

秩父演習林：千嶋武・高德佳絵

田無演習林：相川美絵子

生態水文学研究所：廣嶋卓也・田中延亮・水内佑輔・五名美江・井上淳・高橋功一
梁瀬桐子・後藤太成・平野圭二

富士癒しの森研究所：辻和明・西山教雄

樹芸研究所：渡邊良広・小林徹行

教育研究センター：丹羽悠二・中山綾子

■その他■

■国際交流■ 交流事業

| 相手大学および機関名 | 国名 | 協定締結の有無 | 交流期間 | 目的 |
|------------|----|---------|------------------|-------------|
| 農業研究開発庁 | タイ | 有 | 2016/9/4-9/18 | 研究の指導を受けるため |
| 農業研究開発庁 | タイ | 有 | 2016/12/13-12/23 | 研究の指導を受けるため |

国際シンポジウム

| 参加者氏名 | シンポジウム名 | 主催 | 開催地 | 日程 |
|-------|---|--|-------------|------------------|
| 竹本周平 | International Conference of Conservation Agriculture and Sustainable Landuse | Geographical Research Institute of the Hungarian Academy of Sciences, Hungarian Geographical Society and the Szent István University | Budapest | 2016/5/31-6/2 |
| 藤原章雄 | Sense of Globe Conference 2016 Live Sounds of Natural Places Around the World | 東京大学大学院新領域創成科学研究科・東京大学空間情報科学研究センター・サイバーフォレスト | 東京大学 柏キャンパス | 2016/6/3-6/4 |
| 當山啓介 | IUFRO International Symposium FORCOM/SFEM/2016 | 森林計画学会 | 三重県津市 | 2016/8/30-9/2 |
| 広嶋卓也 | IUFRO International Symposium FORCOM/SFEM/2016 | 森林計画学会 | 三重県津市 | 2016/8/30-9/2 |
| 尾張敏章 | Abies 2016 The 15th International Conference on Ecology and Silviculture of Fir | 北方森林学会 | 北海道札幌市 | 2016/9/21-9/24 |
| 富樫一巳 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 石橋整司 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 澤田晴雄 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 蔵治光一郎 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 當山啓介 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/12 |
| 軽込 勉 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |

| 参加者氏名 | シンポジウム名 | 主催 | 開催地 | 日程 |
|-------|---|---|---------|------------------|
| 尾張敏章 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 坂上大翼 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 福井 大 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 木村徳志 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 福岡 哲 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 吉田弓子 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/12 |
| 竹本周平 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 広嶋卓也 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 田中延亮 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 水内佑輔 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 佐藤貴紀 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 藤原章雄 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |

2016年度 国際交流

| 参加者氏名 | シンポジウム名 | 主催 | 開催地 | 日程 |
|-------|--|---|--------------------|------------------|
| 齋藤暖生 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/14 |
| 後藤 晋 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/12 |
| 三浦直子 | The 7th Symposium of Asian University Forest Consortium | The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo | 北海道富良野市 | 2016/10/11-10/12 |
| 鎌田直人 | Invitation to IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 | 北京林業大学 | 中国北京 | 2016/10/24-10/27 |
| 尾張敏章 | Invitation to IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 | 北京林業大学 | 中国北京 | 2016/10/24-10/27 |
| 富樫一巳 | NTU-UTokyo joint Conference | 台湾大学 | 台湾台北市 | 2016/11/30-12/1 |
| 鎌田直人 | NTU-UTokyo joint Conference | 台湾大学 | 台湾台北市 | 2016/11/30-12/1 |
| 富樫一巳 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/6 |
| 石橋整司 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/8 |
| 安村直樹 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/7 |
| 竹本周平 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/6 |
| 藤原章雄 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/7 |
| 齋藤暖生 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/8 |
| 後藤 晋 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/8 |
| 前原 忠 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/8 |
| 三浦直子 | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 東京大学大学院農学生命科学研究科・海南大学園芸園林学院 | 東京大学 弥生キャンパス | 2016/12/5-12/8 |
| 蔵治光一郎 | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | マレーシアサバ大学 | マレーシアサハ州 コタキナバル | 2017/3/6-3/10 |
| 當山啓介 | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | マレーシアサバ大学 | マレーシアサハ州 コタキナバル | 2017/3/6-3/10 |
| 鎌田直人 | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | マレーシアサバ大学 | マレーシアサハ州 コタキナバル | 2017/3/6-3/10 |

| 参加者氏名 | シンポジウム名 | 主催 | 開催地 | 日程 |
|-------|--|-----------|--------------------|---------------|
| 尾張敏章 | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | マレーシアサバ大学 | マレーシアサハ州 コタキナバル | 2017/3/6-3/10 |
| 山田利博 | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | マレーシアサバ大学 | マレーシアサハ州 コタキナバル | 2017/3/6-3/10 |
| 鈴木智之 | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | マレーシアサバ大学 | マレーシアサハ州 コタキナバル | 2017/3/6-3/10 |
| 広嶋卓也 | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | マレーシアサバ大学 | マレーシアサハ州 コタキナバル | 2017/3/6-3/10 |

共同研究

| 氏名 | 研究課題 | 共同研究者所属 | 氏名 | 国籍 |
|-------|---|---|-----------------------|------------|
| 蔵治光一郎 | Impact of climate change on rainfall variability in Mae Chaem Watershed and Whole Mountainous Area in the Upper Chao Phraya River Basin | タイ王立灌漑局 | Nilobol Aranyabhaga | タイ |
| 蔵治光一郎 | Hydrological Monitoring in Mount Alab and Inobong, Crocker Range Park, Sabah | マレーシアサバ大学 | Maznah Mahali | マレーシア |
| 久本洋子 | Conservation of Red Panda (<i>Ailurus fulgens</i>) and vegetation of their habitat in Taplejung District, Nepal | ネパール国立トリブバン大学 | Prava Pandey | ネパール |
| 鎌田直人 | 食物網構造を組み入れた全球的な群集の多様性創出機構の解明 | 南ボヘミア大学・ チェコ科学アカデミー | Vojtech Novotny | チェコ |
| | | | Martin Volf | チェコ |
| | | 南ボヘミア大学 | Martin Libra | チェコ |
| | | インド養蚕研究所 | Rajesh Kumar | インド |
| 鎌田直人 | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の国際的なリスク評価に必要な基礎データの収集 | New Guinian Binatang Research Center | Roll Lillip | パプア・ニューギニア |
| | | インド養蚕研究所 | Rajesh Kumar | インド |
| | | Kassetsart University | Sunisa Sanguansub | タイ |
| | | Chaing Mai University | Sawai Buranapanichpan | タイ |
| 鎌田直人 | サトウキビを加害するカミキリムシ <i>Dorystenes buqueti</i> の微生物防除に関する研究 | タイ国王室局 | Sirin Kawla-ierd | タイ |
| | | カリフォルニア大学 リバーサイド校 | Richard Stouthamer | アメリカ合衆国 |
| | | Kassetsart University | Wiwat Suasa-ard | タイ |
| 鎌田直人 | | | Sopon Uraichuen | タイ |
| | | | Oraphan Kern-asa | タイ |

2016年度 国際交流

海外渡航

| 氏名 | 所属演習林 | 行き先 | 用務 | 出発日 | 帰着日 |
|-------|---------------|----------|--|------------|------------|
| 久本洋子 | 千葉演習林 | ネパール | ネパールにおけるレッサーパンダの生息地に関する調査 | 2016/4/25 | 2016/5/7 |
| 田中延亮 | 生態水文学 研究所 | カンボジア | ゴム林の水文調査, 研究打ち合わせ | 2016/5/18 | 2016/5/22 |
| 竹本周平 | 田無演習林 | ハンガリー | International Conference of Conservation Agriculture and Sustainable Landuse 参加・発表 | 2016/5/27 | 2016/6/4 |
| 竹本周平 | 田無演習林 | スイス | カタツブタケ属菌の分類に関する研究打合せ | 2016/5/27 | 2016/6/4 |
| 富樫一巳 | | 韓国 | ソウル国立大学での招待講義, 南部演習林視察 | 2016/5/30 | 2016/6/1 |
| 石橋整司 | 企画部 | 韓国 | ソウル国立大学での招待講義, 南部演習林視察 | 2016/5/30 | 2016/6/1 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | 韓国 | ソウル国立大学での招待講義, 南部演習林視察 | 2016/5/30 | 2016/6/2 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | タイ | キクイムシのデータ解析 | 2016/6/5 | 2016/6/12 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | タイ | 餌木に穿孔したキクイムシ類の調査 | 2016/6/25 | 2016/7/4 |
| 三浦直子 | 教育研究 センター | チェコ | XXIII ISPRS 2016 Congress 参加・発表 | 2016/7/11 | 2016/7/19 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | タイ | タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究 | 2016/7/14 | 2016/7/21 |
| 福井 大 | 北海道演習林 | 南アフリカ | 17th International Bat Research Conference 参加 | 2016/7/30 | 2016/8/8 |
| 田中延亮 | 生態水文学 研究所 | タイ | 科研プロジェクトの資料収集, 研究打ち合わせ | 2016/8/29 | 2016/9/2 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | タイ | タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究 | 2016/8/30 | 2016/9/2 |
| 竹本周平 | 田無演習林 | メキシコ | 日墨二国間交流協定に基づく研修プログラム「遺伝子資源コース」への参加 | 2016/8/30 | 2016/9/15 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | アメリカ | 2016 XXV International Congress of Entomology 参加 | 2016/9/25 | 2016/10/3 |
| 尾張敏章 | 北海道演習林 | 中国 | Invitation to IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 参加 | 2016/10/23 | 2016/10/28 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | 中国 | Invitation to IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016 参加 | 2016/10/24 | 2016/10/28 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | タイ | 誘引剤トラップに誘引された甲虫類の調査 | 2016/11/9 | 2016/11/14 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | インド | ナラ・カシ林のキクイムシ類の調査 | 2016/11/18 | 2016/11/29 |
| 藤原章雄 | 富士癒しの森 研究所 | 中国 | 学術交流協定に基づく海南大学との交流事業(講演等) | 2016/11/20 | 2016/11/24 |
| 安村直樹 | 田無演習林 | 中国 | 学術交流協定に基づく海南大学との交流事業(講演等) | 2016/11/20 | 2016/11/24 |
| 石橋整司 | 企画部 | 中国 | 学術交流協定に基づく海南大学との交流事業(講演等) | 2016/11/23 | 2016/11/26 |
| 齋藤暖生 | 富士癒しの森 研究所 | 中国 | 学術交流協定に基づく海南大学との交流事業(講演等) | 2016/11/23 | 2016/11/26 |
| 富樫一巳 | | 台湾 | NTU-UTokyo joint Conference 参加 | 2016/11/29 | 2016/12/5 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | 台湾 | NTU-UTokyo joint Conference 参加 | 2016/11/29 | 2016/12/5 |
| 田中延亮 | 生態水文学 研究所 | タイ | 科研プロジェクトの資料収集, 研究打ち合わせ | 2016/12/4 | 2016/12/9 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | タイ | タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究 | 2017/1/11 | 2017/1/17 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | タイ | タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究 | 2017/1/30 | 2017/2/3 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | タイ | トラップで採集したキクイムシ類の標本整理 | 2017/2/1 | 2017/2/10 |
| 齋藤暖生 | 富士癒しの森 研究所 | ドイツ, スイス | 入林権に関する調査 | 2017/2/25 | 2017/3/5 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | タイ | タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進に関する研究 | 2017/3/3 | 2017/3/5 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | マレーシア | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | 2017/3/3 | 2017/3/13 |
| 尾張敏章 | 北海道演習林 | マレーシア | International Workshop on Long-term Monitoring and Data Analysis of Forest Resources and Environment | 2017/3/4 | 2017/3/11 |
| 山田利博 | 秩父演習林 | マレーシア | 日本学術振興会研究拠点形成事業「森林資源・環境の長期モニタリングとデータ解析に関する国際ワークショップ」 | 2017/3/4 | 2017/3/10 |
| 鈴木智之 | 秩父演習林 | マレーシア | 日本学術振興会研究拠点形成事業「森林資源・環境の長期モニタリングとデータ解析に関する国際ワークショップ」 | 2017/3/4 | 2017/3/10 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | マレーシア | アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築 | 2017/3/5 | 2017/3/13 |
| 當山啓介 | 千葉演習林 | マレーシア | アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築 | 2017/3/5 | 2017/3/11 |
| 福井 大 | 北海道演習林 | ベトナム | ベトナム北部ハザン省における小型哺乳類の生息調査 | 2017/3/18 | 2017/3/30 |
| 鎌田直人 | 北海道演習林 | タイ | キクイムシ被害調査 | 2017/3/22 | 2017/3/25 |
| 蔵治光一郎 | 千葉演習林 | タイ | アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築 | 2017/3/23 | 2017/3/26 |
| 三浦直子 | 教育研究 センター | オーストラリア | 科研申請に関わる打ち合わせ | 2017/3/26 | 2017/3/31 |

外国人研究者の来訪

| 演習林名 | 来訪目的 | 日程 | 国籍 | 来訪人数 |
|------|--|--------------------------|---|------|
| 千葉 | <i>Viburnum</i> (ガマズミ属)植物の調査・採集 | 2016/9/12 | アメリカ | 1 |
| 千葉 | 学術交流協定に基づく共同研究の実施 | 2016/9/4-9/18 | タイ | 1 |
| 千葉 | 森林圏生態社会学研究室ゼミ | 2016/11/30-12/1 | 中国 | 1 |
| 千葉 | 学術交流協定に基づく共同研究の実施 | 2016/12/13-12/23 | タイ | 1 |
| 千葉 | 森林流域における水文観測 | 2017/1/17 | メキシコ, ミャンマー, スリランカ, インド, カ メルーン, ネパール | 7 |
| 千葉 | 教養学部全学体験ゼミナール 「房総の森と生業(なりわい)を学ぶ」 | 2017/2/6-2/9 | 中国 | 1 |
| 北海道 | 樹木に寄生するアンブロシアキクイムシ類の 攻撃性に関する研究 | 2016/4/1-12/31 | タイ | 1 |
| 北海道 | マルチセンサを用いた天然林の持続的 管理のための モニタリング手法の開発 | 2016/5/11 | スリランカ | 1 |
| 北海道 | 富良野地方におけるサケ科魚類の 保全生態学的研究 | 2016/6/23-7/1 | 不明 | 1 |
| 北海道 | バイオマス破壊調査(JICA研修) | 2016/7/4-7/8 | コンゴ民主共和 国, ハブアニューギ ニア, ブラジル, ペ ルー, マラウイ, ミヤ ンマー, モザンビーク, カンボジア, ケニア, ボツワナ, インドネシ ア | 13 |
| 北海道 | 葉食性昆虫カマツアカハラバチの 個体群動態の時空間解析 | 2016/7/6-7/23 | 中国 | 1 |
| 北海道 | 森林保全学インターンシップ | 2016/7/7-8/26 | 中国 | 1 |
| 北海道 | エゾサンショウウオ幼生による陸上 無性脊椎動物の 利用に関する研究 | 2016/7/12-7/13 | ギリシャ | 1 |
| 北海道 | 森林科学総合実習 | 2016/9/5-9/8 | 不明 | 1 |
| 北海道 | 北海道の森林に生息する小型哺乳類 および両生は虫類の 調査方法実習 | 2016/9/17-9/21 | 中国, タイ, ミャンマー | 3 |
| 北海道 | モミ属の生態・施業に関するIUFRO 国際会議(Abies 2016) ポストコンファレンスツアー | 2016/9/27-9/28 | イギリス, カナダ, スロ ベニア, オーストリア, スイス, ポーランド, フランス | 15 |
| 北海道 | JICA キルギス国林産品による地方 ビジネス開発プロジェクト | 2016/9/29 | キルギス | 4 |
| 北海道 | JICA研修「認証制度やブランド化」 を通じた森林資源の 総合利用による地域振興」コース | 2016/10/4 | エチオピア, フィ ジー, ガボン, イン ド, ミャンマー, 東ティ モール | 9 |
| 北海道 | 地域住民の参加による多様な森林 保全(JICA研修) | 2016/10/5 | ミャンマー, フィリ ピン, ソロモン諸島, スーダン, 東ティモ ール, ベトナム, エチオ ピア, インド, ケニ ア, マラウイ | 16 |
| 北海道 | 森林生態系への窒素負荷が昆虫群 集に及ぼす影響の解明 | 2016/10/6-2017/3/31 | 中国 | 1 |
| 北海道 | 第7回アジア大学演習林コンソー シアム国際シンポジウム | 2016/10/13-10/14 | タイ, 台湾, 韓 国, マレーシア | 32 |
| 北海道 | 第7回アジア大学演習林コンソー シアム国際シンポジウム | 2016/10/15 | タイ, 台湾, 韓 国, マレーシア | 26 |
| 北海道 | タイ山岳地帯におけるキクイムシ 類群集と樹木の関係の解析 | 2016/12/18- 2017/1/17 | タイ | 3 |
| 北海道 | Forest complexity analysis using airborne LiDAR and UAV-based aerial photography | 2017/1/25-1/27 | スリランカ | 1 |
| 北海道 | 北海道演習林でのUAV利用につい て、紹介と情報交換 | 2017/2/13-2/15 | 中国 | 1 |
| 北海道 | Forest complexity analysis using airborne LiDAR and UAV-based aerial photography | 2017/3/6-3/23 | スリランカ | 1 |
| 北海道 | 樹木に寄生するアンブロシアキク イムシ類の 攻撃性に関する研究 | 2017/3/1-3/14 | インドネシア | 1 |
| 秩父 | 山地・森林流域保全に関するイン ターンシップ | 2016/7/4-7/19 | フランス | 1 |
| 秩父 | 「森林昆虫-共生微生物の共進化と 温度反応及び 気候変動から予測される動態予 測」の研究のための データ抽出とサンプル採集 | 2016/7/8 | 不明 | 2 |

2016年度 国際交流

| 演習林名 | 来訪目的 | 日程 | 国籍 | 来訪人数 |
|--------------|---|---|---------------------|------|
| 秩父 | バイオマス科学実習・森林科学実習 | 2016/9/14-9/16 | 中国 | 1 |
| 秩父 | 樹木種子および標本の採集 | 2016/9/19-9/22 | 不明 | 2 |
| 秩父 | 樹木種子および標本の採集 | 2016/9/26-9/30 | 不明 | 3 |
| 秩父 | 総合文化研究科・国際環境科学コース 「環境科学フィールドワーク2」現地講義 | 2016/10/7 | 不明 | 11 |
| 秩父 | 秩父演習林と公開講座視察 | 2017/1/21 | 中国 | 1 |
| 田無 | Study on the properties of cellulose nano fiber from different plant species | 2016/4/19・ 2016/5/17・ 2016/6/29・2016/7/27 | ミャンマー | 1 |
| 田無 | Establishment of Quantitative real-time Polymerase Chain reaction (qPCR) Technique for Detection and Quantification of Entomopathogenic Fungi in Soil | 2016/5/17 | インドネシア | 1 |
| 田無 | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | 2016年6月から計39日 | インドネシア | 1 |
| 田無 | JST-国立環境研究所さくらサイエンスプラン | 2016/6/22 | | 12 |
| 田無 | 短期留学生の林業実習(苗畑) | 2016/7/26-7/27 | フランス | 1 |
| 田無 | 環境調和特別演習 持続可能な農林畜水産業 1, 環境負荷(さくらサイエンスプラン) | 2016/10/26 | 不明 | 15 |
| 田無 | 環境モニタリングロボットの長期運用に関する研究 | 2016/11/16・30 | 中国 | 1 |
| 生態水文 | 犬山研究林周辺に生息する食肉類の採食生態に関する基礎研究 | 2016/4/1・4-2017/1/8 2016/5/2・6・9・10 | 不明 | 1 |
| 生態水文 | ナラ枯れが蒸散量に与える影響 (今年度計画立案のための相談) | 2016/4/11-4/13 2016/5/10-5/14 2016/6/6-6/10 2016/7/4-7/7 | スリランカ | 1 |
| 生態水文 | 気象・水文・生態調査に関するインターンシップ | 2016/5/2-7/1 | フランス | 1 |
| 生態水文 | 総合政策学部学外体験プログラムA | 2016/5/28-5/29 | 不明 | 8 |
| 生態水文 | 森林保全学実習・公開森林実習「森林と土砂と溪流の実習 -山から川に流れ出る土砂を測ろう」 | 2016/6/6-6/10 | 不明 | 1 |
| 生態水文 | SAUFC post congress tour | 2016/10/15-10/17 | 不明 | 5 |
| 生態水文 | ナラ枯れが蒸散量に与える影響(計画立案のための資料収集) | 2016/9/27-9/30 | スリランカ | 1 |
| 富士 | 山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査 | 2016/5/27 | 台湾, タイ, ベトナム, カンボジア | 10 |
| 富士 | 山地・森林流域保全に関するインターンシップ | 2016/7/20-7/24 | フランス | 1 |
| 富士 | JASSOエクスカーション | 2016/10/18 | 台湾 | 4 |
| 富士 | 環境調和農学特別コース「農林畜産業と環境負荷」 | 2016/10/24 | 不明 | 19 |
| 富士 | 学生の体験活動プログラム「癒しの森の森林管理」 | 2016/12/23-12/24 | 中国 | 2 |
| 富士 | 研修 | 2017/2/23-2/24 | 中国 | 1 |
| 樹芸 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」視察 | 2017/1/28-1/30 | 中国 | 1 |
| 企画部・教育研究センター | 森林保全学インターンシップ | 2016/7/4・2016/8/29-8 | 中国 | 1 |
| 企画部・教育研究センター | 山地・森林流域保全に関するインターンシップ | 2016/7/26-7/29 | フランス | 1 |
| 企画部・教育研究センター | SAUFC post congress tour | 2016/10/17-10/19 | 台湾 | 5 |
| 企画部・教育研究センター | Start-up of new collaborative researches using diverse field characteristics | 2016/12/5-12/9 | 中国 | 4 |

■ 出版広報活動 ■

演習林報告

「演習林報告」135号, 136号を発行した。

演習林報告第135号 2016年8月23日発行

杉山杏奈・益守真也・丹下 健

シラカシとアラカシ種子の超低温凍結後の生理活性評価—英文— 1-14

平林毅一郎・木村徳志・鴨田重裕・楠本 大

石綿鉱山跡地の土壌 Ni が発芽段階のシラカンバおよびケヤマハンノキに与える影響 15-25

植木悠貴・秋元真也・寺田珠実・鮫島正浩・鴨田重裕

Eucalyptus robusta におけるフェニルアラニンアンモニリアーゼ遺伝子の解析 27-43

演習林報告第136号 2017年3月30日発行

齊藤陽子・井出雄二

長野県飯島町周辺に生育するクヌギとアベマキの葉裏の星状毛密度と浸透性交雑 1-13

演習林

「演習林」59号を発行した。

演習林第59号 2017年3月29日発行

久本洋子・三次充和・梁瀬桐子・大石 諭・天野 誠

千葉演習林森林博物館所蔵の1922～1990年に採集された維管束植物標本リスト 1-53

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所

生態水文学研究所東山試験流域における自記雨量計による日降水量観測結果報告 55-57

里見重成・軽込 勉・米道 学・久本洋子

キョスミツバツツジのさし木発根条件の検討 59-68

東京大学演習林基盤データ整備委員会生物部門脊椎動物分野

東京大学演習林自動撮影カメラ調査成果報告(2011年4月～2016年3月) 69-72

里見重成

千葉演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) 73-84

及川 希・松井理生

北海道演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) 85-92

高野充広・丹羽悠二・木村恒太

秩父演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) 93-109

相川美絵子

田無演習林自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) 111-115

松井理生・才木道雄・高橋功一

生態水文学研究所自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) 117-127

辻 和明・村瀬一隆・西山教雄

富士癒しの森研究所自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) 129-136

小林徹行・村瀬一隆

樹芸研究所自動撮影カメラ成果報告(2011年4月～2016年3月) 137-155

2016年度 出版広報活動

演習林第59号

2017年3月29日発行 つづき

五名美江・黒木里香・加藤敦美・川名美恵・蔵治光一郎

| | |
|---|---------|
| 生態水文学研究所赤津研究林白坂流域井戸水位観測報告(I) | 157-170 |
| 五名美江・春田泰次 | |
| 秩父演習林における渓流水質分析結果報告(自1998年7月至2010年3月) | 171-173 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | |
| 秩父演習林における渓流水質分析結果報告(自2010年4月至2011年3月) | 175-177 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 | |
| 生態水文学研究所赤津研究林白坂北谷・南谷小流域の地表・地中量水堰堤の水位－流量曲線 | 179-185 |
| 齋藤暖生・藤原章雄・村瀬一隆・西山教雄・笠原琢志・浅野友子 | |
| 山梨県山中湖村における薪需要把握－煙突等の目視踏査, アンケート調査、薪原木販売実験－ | 187-205 |
| 原口竜成・大村和也・千嶋 武 | |
| 秩父演習林における亜高山帯風害跡地試験地の毎木調査資料(2015年) | 207-214 |
| 原口竜成・大村和也・千嶋 武 | |
| 秩父演習林における亜高山帯老齡天然林試験地の毎木調査資料(2015年) | 215-222 |
| 執行宣彦・梅木 清・平尾聡秀 | |
| 東京大学秩父演習林における標高に沿った土壌特性と環境要因の関係 | 223-233 |
| 浅野友子・齋藤俊浩・木村恒太・原口竜成・千嶋 武 | |
| 秩父演習林矢竹沢の治山堰堤を用いた量水観測 | |
| －副堤水通しの複断面切り欠き下段での水位と流量の関係－ | 235-243 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会水文水質部門 | |
| 東京大学演習林水文観測・水質分析報告(自2014年1月至2014年12月) | 245-254 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会気象部門 | |
| 東京大学演習林気象報告(自2015年1月至2015年12月) | 255-283 |
| 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | |
| 東京大学演習林の外部評価結果と「教育研究計画2011-2020」の見直し | 285-309 |

科学の森ニュース



■第74号 ■ 2016年6月10日発行
 【表紙記事】防災シンポジウムを開催(生態水文学研究所)
 <記事>
 ・大学間里山交流会を開催しました(富士癒しの森研究所)
 ・第1回東京大学技術発表会が開催されました
 ・親子でビントゥパーのチョコレート作り体験(樹芸研究所)
 ・演習林のイベントダイジェスト 2016年6月～2016年8月
 <クローズアップ>
 演習林出版局の書籍、新刊本も続々
 <科学の森の動植物紹介>
 ギフチョウ(生態水文学研究所)
 <名所・名物紹介>
 富士癒しの森講義室(富士癒しの森研究所)



■第75号 ■ 2016年9月10日発行
 【表紙記事】富士癒しの森講義室お披露目会(富士癒しの森研究所)
 <記事>
 ・「つつこ」作り(秩父演習林)
 ・富良野市と合同で公開セミナーを開催しました(北海道演習林)
 ・絶滅をふせげ！房総丘陵のヒメコマツ保全活動(千葉演習林)
 ・演習林のイベント情報 2016年9月～2016年11月
 <クローズアップ>
 演習林ゼミ
 <科学の森の動植物紹介>
 ジャケツイバラ(千葉演習林)
 <コラム>
 多雪地産のブナは萌芽能力が高い!?(教育研究センター 後藤晋)



■第76号 ■ 2016年12月10日発行
 【表紙記事】演習林における国際交流活動(国際交流委員会)
 <記事>
 ・第7回SAUFCが開催されました(北海道演習林)
 ・海南大学園芸園林学院との学術交流協定締結(企画部)
 ・国際色豊か、演習林所属の留学生(教育研究センター)
 ・演習林のイベント情報 2016年12月～2017年2月
 <クローズアップ>
 演習林における研究推進の取り組みと国際交流(研究推進委員会)
 <科学の森の動植物紹介>
 北方樹木コレクション(北海道演習林)
 <コラム>
 演習林の教育活動における国際交流(教育推進委員会)



■第77号 ■ 2017年3月10日発行
 【表紙記事】秩父演習林創立100周年記念行事を開催(秩父演習林)
 <記事>
 ・東京大学教職員向けリース作り体験会(田無演習林)
 ・ドラム缶簡易炭窯リニューアル(樹芸研究所)
 ・海南大学と東京大学の合同シンポジウムが開催されました(教育研究センター)
 ・演習林のイベント情報 2017年3月～2017年5月
 <クローズアップ>
 エゾシカライトセンサス10年の歩み(北海道演習林)
 <科学の森の動植物紹介>
 ヤマネ(秩父演習林)
 <コラム>
 森林風景計画とは??(生態水文学研究所 水内佑輔)

演習林出版物

■ 犬山研究林の自然—春・夏— ■

2016年4月30日 発行

編集 犬山研究林利用者協議会・生態水文学研究所

発行 東京大学演習林出版局

定価 463円＋税 A5判 30頁

ISBN 978-4-903321-25-7

<目次>

森に入る前に

ふれあいゾーン見学ルート

1. 春(3月～4月)に咲く花
2. 春に舞うチョウ
3. 春の山菜
4. 初夏(5月～6月)に咲く花
5. 夏に飛ぶチョウ
6. 気を付けたい植物
7. ラン科の植物



新聞・雑誌・放送等

| 演習林名 | メディア | 日付 | 内容 |
|-------------|-----------------------|------------|--|
| 生態水文 | 読売新聞名古屋市内版・三河版 | 2016/4/1 | 森の健康診断10年支援 蔵治・東大准教授千葉へ |
| 生態水文 | 中日新聞豊田版 | 2016/4/6 | 「森の健康診断の10年」出版 豊田の市民団体矢作川流域の荒廃林調査 |
| 生態水文 | 矢作新報 | 2016/4/8 | 新刊「森の健康診断の10年」東海豪雨きっかけに始まった市民調査 |
| 樹芸 | 読売新聞都内版 | 2016/4/9 | 東大卒カカオのチョコ |
| 千葉 | 房日新聞 | 2016/4/10 | “マイ巣箱”を観察 親子26人が東大演習林で(鴨川市東京大学共同事業野鳥の巣箱をかけよう(巣箱観察会)) |
| 千葉・秩父・弥生・富士 | New Straight Times | 2016/4/13 | マレーシアサバ大学の過去の活動 2013年4月に4年生の海外実習で千葉, 弥生, 富士, 秩父を訪問 |
| 生態水文 | 広報いぬやま | 2016/6/1 | 東大演習林・犬山研究林 春のふれあい自然観察会 |
| 北海道 | 北海道新聞 | 2016/6/18 | 森林の役割, 研究を説明 山部小で東大演習林長が出前授業 |
| 北海道 | 北海道新聞 | 2016/6/21 | 東大の研究一端を拝見 演習林で公開セミナー |
| 北海道 | NHKワールドTV | 2016/7/4 | 2015.9.4に放送された「新日本風土記 富良野 夏」の改訂英語版 |
| 田無 | TOKYO MX 「東京クラッソ！」 | 2016/7/16 | たまらんフレンズの多摩ガイドPART3 いこいーなの西東京ガイド |
| 生態水文 | 広報せと | 2016/8/1 | 東京大学附属演習林生態水文学研究所ってどんなところ？ |
| 田無 | テレビ東京「すけっち」 | 2016/8/12 | 東京大学田無演習林「子ども樹木博士」認定会 小中学生の子どもたちが, 東大の教員や学生の案内で演習林を歩きながら樹木について学習し, 木の葉を見分けて樹木名を答える試験に挑戦 |
| 北海道 | 北海道新聞 | 2016/9/1 | 森林を育て伐採 環境保全も配慮 東大(北海道)演習林長が講演 |
| 北海道 | 北海道新聞 | 2016/9/9 | 森林学習プログラム市教委開発 富良野小児童に試行授業 ゲーム感覚, 笑顔で探検 |
| 千葉 | 中日新聞西三河版 | 2016/9/29 | 森林の保水力低下 災害対策 手入れ急務 |
| 北海道 | 北海道新聞 | 2016/10/3 | 秋の一般公開 演習林往復2.7kmキノコを観察し散策 |
| 秩父 | 旅の手帖 | 2016/10/8 | 「秋を歩く, むかし道」で特集「入川森林軌道」を紹介 |
| 北海道 | 北海道新聞 | 2016/10/12 | 国際シンポジウム 大学演習林連携の道探る |
| 秩父 | CBCテレビ 「旅ずきんちゃん」 | 2016/10/16 | 荒川を岩淵水門から秩父演習林内の荒川起点まで辿る |
| 樹芸 | 伊豆新聞 | 2016/12/6 | 公開講座クスノキ林見学会 |
| 千葉 | 矢作新報 | 2017/1/6 | あさひ森の健康診断報告会 |
| 田無 | FM西東京 | 2017/1/10 | 『食・農・森』～東大生態調和農学機構から |

■安全衛生■

下表のように安全・防災のための各種講習会を実施した。その他に各演習林の実情と必要性に応じ安全衛生のための定期的な会議や点検を実施,あるいは日常的な連絡・注意喚起のための態勢を整備している。

安全・防災のための講習会等

| 研修名 | 開催機関等 | 開催月 | 参加人数 |
|------------------------------------|------------------|-----|------|
| 教育研究安全衛生マネジメントシステム会議 | 田無演習林 | 毎月 | 8 |
| 平成28年度教育研究安全衛生マネジメントシステム説明会 | 農学生命科学研究科環境安全管理室 | 4月 | 2 |
| 普通救命講習I | 秩父消防本部 | 4月 | 2 |
| 普通救急救命講習 | 富士癒しの森研究所 | 4月 | 11 |
| 刈払機取扱作業安全衛生教育 | コマツ教習所株式会社静岡センター | 5月 | 2 |
| 教育研究安全衛生マネジメントシステム会議 | 秩父演習林 | 5月 | 16 |
| 利用者ガイダンス | 秩父演習林 | 5月 | 37 |
| 運搬車講習 | 田無演習林 | 5月 | 8 |
| 安全運転管理者講習会 | 北海道旭川方面公安委員会 | 6月 | 1 |
| 蜂対策講習会 | 北海道演習林 | 6月 | 36 |
| MS会議 | 北海道演習林 | 7月 | 39 |
| キャンパスクリーンデー | 北海道演習林 | 7月 | 38 |
| 北海道演習林安全の日(健康管理に関する講習会) | 北海道演習林 | 7月 | 33 |
| 機器等(遠心機,ドラフトチャンバー,オートクレーブ)取扱及び点検講習 | 環境安全本部 | 7月 | 1 |
| 化学物質リスクアセスメント実施についての説明会 | 農学生命科学研究科環境安全管理室 | 7月 | 2 |
| ハチ毒アレルギー検査受診 | 富士癒しの森研究所 | 7月 | 6 |
| 千葉演習林夏の研修会 | 千葉演習林 | 8月 | 16 |
| 安全運転管理者等講習 | 埼玉県安全運転管理者協会 | 8月 | 1 |
| 交通安全講習会 | 北海道演習林 | 11月 | 31 |
| 交通安全講習 | 秩父演習林 | 11月 | 16 |
| 防災訓練 | 生態調和農学機構 | 11月 | 8 |
| 普通救命講習 I | 樹芸研究所 | 11月 | 9 |
| 環境安全講習会 | 東京大学環境安全センター | 12月 | 1 |
| 消防訓練及びAEDを使用した救命法 | 千葉演習林 | 12月 | 10 |
| 環境安全見学会 | 東京大学環境安全センター | 1月 | 1 |
| スノーモバイル講習会 | 北海道演習林 | 1月 | 30 |
| 建物火災避難通報訓練 | 北海道演習林 | 1月 | 30 |
| 教育研究安全衛生マネジメントシステム会議 | 秩父演習林 | 2月 | 16 |

資格取得のための講習等

| 研修名 | 開催機関等 | 開催月 | 参加人数 |
|--------------------|-----------------------|-----|------|
| 車両系木材伐出機械等特別教育 | 林材業労働防止協会旭川分会 | 5月 | 1 |
| 伐採等の業務特別教育 | コマツ教習所株式会社静岡センター | 6月 | 1 |
| ベーシックツリークライマー講習会 | ツリークライミングジャパン | 7月 | 1 |
| 森林情報士 | 一般社団法人日本森林技術協会 | 8月 | 1 |
| はい作業主任者技能講習 | キャタピラー教習所(株)北海道教習センター | 10月 | 1 |
| 素材格付講習会 | 北海道林産物検査会 | 10月 | 5 |
| 車両系建設機械(解体用)運転技能講習 | キャタピラー教習所(株)埼玉教習センター | 2月 | 2 |
| 玉掛け技能講習 | 株式会社日立建機教習センター | 3月 | 1 |

災害統計

2016年度に発生した災害は、演習林全体で18件(千葉2, 北海道6, 秩父4, 田無1, 生態水文0, 富士2, 樹芸2, 教研セ1)であった。内訳は労働時の人的災害がハチ刺され5件(千葉1, 北海道1, 秩父2, 富士1), 植物によるかぶれ(接触皮膚炎)1件(田無), 重量物運搬による腰痛1件(富士)であった。また物損・接触事故は重機1件(樹芸), 中型(マイクロバス)車両1件(樹芸), 普通車両7件(千葉1, 北海道4, 秩父2), スノーモバイル1件(北海道), UAV1件(教研セ)であった。

その他に地方演習林で集計されているヒヤリハット等はダニ刺されが7件であった(職員:事故災害報告なし)。

| 災害種別 | 被災者 | | |
|------------------------------|--------|-------|--------|
| | 教職員(件) | 学生(件) | その他(件) |
| 重大災害 | | | |
| 設備災害 | | | |
| 通勤災害 | 1 | | |
| 人的被害あり | 7 | | |
| 人的被害なし (設備災害でない機器・施設損傷あり) | 9 | | |
| 人的被害・機器・施設損傷なし | 1 | | |

東京大学安全衛生管理業務月報に基づく演習林災害統計

| 休業種別 | 被災者 | | |
|------------|--------|-------|--------|
| | 教職員(件) | 学生(件) | その他(件) |
| 休業災害(4日以上) | | | |
| 休業災害(4日未満) | 3 | | |
| 不休災害 | 15 | | |
| 合計 | 18 | | |

山火事予防活動

| 演習林名 | 名 称 | 開催場所 | 日 程 | 参加人数 |
|------|----------------------|----------|----------------|------|
| 北海道 | 巡視及び注意喚起の幟, 設置と撤去 | 北海道演習林一円 | 2016/4/21-5/31 | 全職員 |
| 秩父 | 消火訓練(栃本管内) | 秩父演習林 | 2017/1/23 | 14 |

2016年度 研修

■研修■

技術職員

| 研修名 | 開催機関 | 開催月 | 参加人数 |
|--|---------------------------------|--------|------|
| 平成28年度新規採用職員研修 I | 東京大学 | 4月 | 1 |
| 平成28年度東京大学新任教職員研修 | 東京大学 | 4月 | 1 |
| 平成28年度技術職員研修「海洋観測技術研修」 | 東京大学 | 5月 | 1 |
| 第57回北海道地区中堅係員研修 | 人事院北海道 | 6月 | 1 |
| メラー・トレド アカデミー2016 | メラー・トレド株式会社 | 6月 | 1 |
| 第19回関東甲信越地区大学演習林技術職員研修 大学演習林における安全管理～安全・安心なフィールド作り～「生物編」 | 全演協 | 7月 | 13 |
| 第19回関東甲信越地区大学演習林技術職員研修 大学演習林における安全管理～安全・安心なフィールド作り～「作業編」 | 全演協 | 7月 | 12 |
| 平成28年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修 | 北海道大学 | 8月 | 1 |
| 基盤データ整備委員会生物部門脊椎動物分野 コウモリ捕獲調査講習会 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属演習林 | 8月 | 4 |
| 平成28年度附属施設実務研修(富士癒しの森研究所) | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 10月 | 2 |
| 平成28年度技術職員等試験研究・研修会議 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属演習林 | 10月 | 19 |
| 平成28年度中国・四国・近畿地区大学附属演習林技術職員研修 | 京都大学 | 10月 | 1 |
| 第25回九州地区農学部附属演習林等技術職員研修 | 琉球大学 | 10月 | 4 |
| 平成28年度国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション技術職員研修 | 北海道大学 | 10月 | 3 |
| 鳥獣被害対策地域リーダー(森林)育成研修会 【技術習得(防護専修)コース】 | 日本森林技術協会 | 10-11月 | 1 |
| 第23回東海地区大学演習林等技術職員研修 | 名古屋大学 | 11月 | 1 |
| 平成28年度農学生命科学研究科技術部機械技術グループ研修 「小規模施設の機械総点検」 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 技術部機械グループ | 11月 | 4 |
| 森林GISフォーラム | 東京大学生態水文学研究所 | 11月 | 1 |
| 基盤データ整備委員会GIS部門技術指導者養成研修 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属演習林 | 11月 | 3 |
| 平成28年度 東京大学教室系技術職員研修 ーコンピュータネットワーク研修ー | 東京大学 | 12月 | 1 |
| 基盤データ整備委員会GIS部門GIS整備指導研修 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属演習林 | 12月 | 2 |
| 基盤データ整備委員会GIS部門GIS整備指導研修 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属演習林 | 1月 | 2 |
| 第4回分析技術グループ研修 「フィールドにおける簡易分析とメーカーによる技術セミナー」 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 技術部分析技術グループ | 2月 | 6 |
| 平成28年度 東京大学教室系技術職員研修 ー地理情報とデジタル画像を活用した魅力的なマップづくりー | 東京大学 | 2月 | 4 |
| 東京大学総合技術研究会 | 総合技術研究会2017東京大学 実行委員会 | 3月 | 31 |
| 平成28年度(後期)教室系技術職員学外技術研修(第128回日本森林学会にて研究発表) | 東京大学 | 3月 | 2 |

事務職員

| 研修名 | 開催機関 | 開催月 | 参加人数 |
|------------------------|------|-----|------|
| 平成28年度東京大学係長級研修(5年経験者) | 東京大学 | 12月 | 1 |

■ 組織図 ■

企画部・教育研究センター

| 組織(主任職員) | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|--|--|-------------|
| 演習林林長 教授 富樫一巳 | | |
| 企画部 部長 教授 石橋整司 統括技術長 技術専門職員 澤田晴雄 | | 事務補佐員 柴田ゆう子 |
| 教育研究センター センター長 准教授 後藤 晋 | 准教授 鴨田重裕(兼) 助教 前原 忠 助教 三浦直子 技術主任・ 技術専門職員 丹羽悠二 技術専門職員 近澤静恵 2016/9/30まで (2016/10/1から産前・産後・育児休業) 技術職員 中山綾子 2016/10/1から(代替職員) | 事務補佐員 小林ひとみ |
| 農学系事務部 事務部長 吉田雅彦 総務課長 金子郁夫 経理課長 村岡 俊 教務課長 篠田恵美 | 研究支援チーム 副課長 根本浩三 係長 佐野浩幸 他事務部各係 | |
| 学生等 | 氏名 | |
| 博士3年 | ティラク・チャンドラティラク | |
| IPADS 博士1年/2年 | サデーパ・ジャヤトウンガ | |
| 博士1年 | サイフル・アムリ・サラギー | |
| 博士1年 | ムスリ・イスミニヤ | |
| 博士1年 | 執行宣彦 | |
| 博士1年(9月入学) | 彭 勇 | |
| 博士1年(9月入学) | アンナ・カロリナ | |
| 修士2年 | アヌット・ブランパニクパン | |
| 修士2年 | 阿部智和 | |
| 修士2年 | 笠原琢志 | |
| 修士1年 | 五十嵐慶一 | |
| 修士1年 | 川崎 満 | |
| 学部4年 | 金道知聖 | |
| 学部4年 | 平山偉之 | |
| 学部4年 | 小原 茜 | |
| 研究生 | 尹 唯为 | |
| 研究生 | 花 梦婷 | |

2016年度 組織図

千葉演習林

| 組織(主任職員) | | | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|-----------------|--------|---------|-----------|---|
| 林長 | 教授 | 石橋整司(兼) | | |
| 林長補佐 | 准教授 | 蔵治光一郎 | | |
| 教育研究主任 | 助教 | 久本洋子 | | |
| 事務係長 | | 田山勝則 | | |
| 技術主任 | 技術専門職員 | 鈴木祐紀 | | |
| 副技術主任 | 技術専門職員 | 大石 諭 | | |
| 事務係 | 事務室係長 | 田山勝則 | 一般職員 | 根上昌久(再) |
| | 事務室主任 | 野山 智 | | |
| 施設係 | 事務室係長 | 田山勝則(兼) | 技術専門職員 | 鶴見康幸(兼) |
| | | | 技術専門職員 | 村川功雄(兼) |
| | | | 技術専門職員 | 米道 学(兼) |
| 管財係 | 事務室係長 | 田山勝則(兼) | | |
| 森林管理部門 部門長 | 技術専門職員 | 鈴木祐紀 | | |
| 土木係 | 技術専門職員 | 塚越剛史 | 技術専門職員 | 阿達康眞 |
| 森林管理係 | 技術専門職員 | 里見重成 | 技術専門職員 | 軽込 勉 |
| 作業所部門 部門長 | 技術専門職員 | 鶴見康幸 | | |
| 清澄作業所 | 技術専門職員 | 村川功雄 | | 特任専門職員 粕谷善廣 特任専門職員 岡田康則 特任専門職員 加瀬清巳 |
| 札郷・郷台作業所 | 技術専門職員 | 米道 学 | | 特任専門職員 宮原はな 特任専門職員 吉田龍三 特任専門職員 富川 勲 臨時用務員 糟谷育代 |
| 教育研究支援部門 部門長 | 准教授 | 蔵治光一郎 | | |
| 資料管理係 | 技術専門職員 | 大石 諭 | | |
| 試験係 | 助教 | 當山啓介 | 助教 | 久本洋子 |
| | | | 准教授 | 蔵治光一郎 |
| | | | 教授 | 石橋整司 |
| 利用促進部門 部門長 | 技術専門職員 | 大石 諭 | | |
| 社会連携係 | 技術専門職員 | 藤平晃司 | | |
| 利用調整係 | 助教 | 當山啓介 | 技術専門職員 | 藤平晃司(兼) |
| | | | 一般職員 | 根上昌久(兼) |
| | | | | 臨時用務員 糟谷育代(兼) 特任専門職員 羽若部理會 |

北海道演習林

| 組織(主任職員) | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|--|--|--|
| 林長 教授 鎌田直人 林長補佐 准教授 尾張敏章 教育研究主任 助教 坂上大翼 助教 福井 大 主査 安部秀明 技術主任 技術専門員 犬飼 浩 技術副主任 技術専門員 井口和信 | | |
| 庶務係 係長 横山和宏 | 主任 天山 学 | 事務補佐員 穴澤三恵子 |
| 会計係 係長 岡田教和 | 専門職員(係長級) 小川 理 | |
| 資産管理係 係長 米田久和 | | |
| 企画調整係主任 技術専門員 犬飼 浩(兼) | 技術専門職員 大川あゆ子 | |
| 調査資料係主任 技術専門職員 笠原久臣 | 技術専門職員 中川雄治 技術専門職員 大川あゆ子(兼) 技術専門職員 小川 瞳 (2016/6/30まで 育児休業) | 学術支援職員 犬飼雅子 2016/5/1から2016/10/31まで 学術支援職員 石崎敏幸 2016/5/1から2016/10/31まで |
| 種苗造林係主任 技術専門員 岡村行治 | 技術専門職員 宅間隆二 | |
| 生産販売係主任 技術専門職員 福土憲司 | | 特任専門職員 片平可奈 |
| 土木生産係(土木 担当)主任 技術専門職員 磯崎靖雄 | 技術職員 及川 希 | |
| 土木生産係(生産 担当)主任 技術専門職員 小池征寛 | 技術専門職員 井上 崇 技術職員 木村恒太 技術職員 遠國正樹 | |
| 調査第一係主任 技術専門職員 松井理生 | 技術専門職員 三次充和 技術職員 犬飼慎也 技術職員 算用子麻未 (育児休業) 延 栄一 (代替職員) | |
| 調査第二係主任 技術専門職員 岡平卓巳 | 技術専門員(兼) 井口和信 技術職員 江口由典 特任専門職員 廣田善己 (2016/6/30まで 代替職員) | |
| 試験係 | 教授 鎌田直人 准教授 尾張敏章 助教 坂上大翼 助教 福井 大 | |
| 山部樹木園主任 技術専門職員 木村徳志 | 技術専門職員 福岡 哲 | 技能補佐員 内芝和江 2016/4/1から2016/11/30まで 技能補佐員 安藤佳子 2016/4/1から2016/11/30まで 技能補佐員 中坪優子 2016/4/1から2016/11/30まで |
| セミナーハウス 施設長 鎌田直人 | 一般職員 横山和宏(兼) | 技能補佐員 飯沼芳子 特任専門職員 杉原時子 特任専門職員 松村裕美 2016/5/1から2016/10/31まで |

2016年度 組織図

秩父演習林

| 組織(主任職員) | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|--|---|---|
| 林長 教授 山田利博 | | |
| 林長補佐 講師 平尾聡秀 | | |
| 教育研究主任 講師 浅野友子 | | |
| 試験係主任 助教 鈴木智之 | | |
| 事務室 係長 本橋雅人 | 主任 亀原弥生 主任 渡邊幸司 | 特任専門職員 浅見美津子 |
| 技術主任 技術専門職員 齋藤俊浩 | | 特任専門職員 富沢貴志 |
| 森林管理 チーム 技術専門職員 大村和也 | 技術職員 吉田弓子 | |
| 利用促進 チーム 技術専門職員 原口竜成 2017/1/4～ 1/31育児休業 | 技術専門職員 千嶋 武 技術専門職員 高德佳絵 技術専門職員 才木道雄 技術職員 太田弘子 2017/1/4～ 1/31代替職員 | 特任専門職員 島崎雅美 特任専門職員 内田理恵 |
| 作業所 チーム 技術専門職員 五十嵐勇治 | 技術専門職員 高野充広 | 特任専門職員 山中五郎 特任専門職員 山中淑子 特任専門職員 浅見美津子(兼) |
| 影森苗畑 技術専門職員 齋藤俊浩(兼) | | |

田無演習林

| 組織(主任職員) | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|------------------|--------------|--|
| 林長 講師 安村直樹 | | |
| 林長補佐 講師 楠本 大 | 助教 竹本周平 | 特別研究員 鳥居正人 |
| 教育研究主任 | | |
| 技術主任 技術専門職員 栗田直明 | 技術専門職員 相川美絵子 | 特任専門職員 尾林文男 特任専門職員 石浦恭子 技術補佐員 小幡理恵 2016/12/1から 2017/3/31まで |

生態水文学研究所

| 組織(主任職員) | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|------------------------------|--------------------------|--|
| 所長 講師 廣嶋卓也 | 所長補佐 田中延亮 | |
| 過去データ管理室 特任助教 五名美江(兼) | 助教 田中延亮 | 学術支援職員 加藤純子 学術支援職員 黒木里香 特任専門職員 加藤敦美(兼) |
| 教育研究主任 助教 田中延亮 教育研究係主任 | 特任助教 五名美江 技術専門職員 高橋功一 | 特任研究員 佐藤貴紀 特任専門職員 加藤敦美 特任専門職員 鎌田幸子(兼) 学術支援職員 新實夏美 学術支援職員 黒木里香(兼) |
| 事務主任 事務室係長 平野圭二 | | 事務補佐員 加藤正勝 事務補佐員 大地泰子 |
| 技術主任 技術専門職員 井上 淳 研究林管理係主任 | 技術職員 梁瀬桐子 技術職員 後藤太成 | 特任専門職員 鎌田幸子 特任専門職員 渡辺平和 学術支援職員 橋本 聖 |
| 環境安全推進者 事務室係長 平野圭二 | 技術専門職員 井上 淳 | |

富士癒しの森研究所

| 組織(主任職員) | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|------------------|-------------|--|
| 所長 講師 浅野友子 | | |
| 所長補佐 助教 齋藤暖生 | | |
| 教育研究主任 助教 藤原章雄 | | |
| 技術主任 技術専門職員 辻 和明 | 技術専門職員 西山教雄 | 臨時用務員 高村洋子 2017/3/9まで 臨時用務員 高村史香 2016/4/15から 特任専門職員 齋藤純子 |

樹芸研究所

| 組織(主任職員) | 配置職員(教職員) | 配置職員(非常勤職員) |
|---|---|--|
| 所長 准教授 鴨田重裕 | | |
| 所長補佐 助教 井上広喜 | | |
| 教育研究係 教育研究主任 助教 井上広喜 | | |
| 技術係 技術主任 技術専門職員 村瀬一隆 教育研究支援チーム 森林管理チーム | 技術専門職員 辻 良子 技術職員 小林徹行 技術専門職員 渡邊良広 | 技能補佐員 大島浩子 技能補佐員 須田常仁 技能補佐員 土屋福江 2016/4/1から 2016/12/31まで 技能補佐員 大久保尚志 技能補佐員 高橋 誠 2016/4/1から 2016/6/30まで |
| 事務係 事務主任 (不在) | 技術専門職員 辻 良子(兼) | 事務補佐員 進士真理子 2016/5/1から |

2016年度 人事異動

■人事異動■

| 日付 | 異動 | 新職名 | 氏名 | 旧職名 |
|-----------|---------------|-------------------------------|-----------|-------------------------|
| 2016.4.1 | 命 | 附属演習林生態水文学研究所長 | 廣嶋卓也 | 附属演習林千葉演習林 講師 |
| 2016.4.1 | 勤務換 | 附属演習林千葉演習林 准教授 | 藏治光一郎 | 附属演習林生態水文学研究所長 |
| 2016.4.1 | 勤務換 | 附属演習林千葉演習林 技術専門職員 | 米道 学 | 附属演習林教育研究センター 技術専門職員 |
| 2016.4.1 | 勤務換 | 附属演習林北海道演習林 技術専門職員 | 松井理生 | 附属演習林生態水文学研究所 技術専門職員 |
| 2016.4.1 | 勤務換 | 附属演習林樹芸研究所 技術専門職員 | 渡邊良広 | 附属演習林北海道演習林 技術専門職員 |
| 2016.4.1 | 勤務換 | 附属演習林教育研究センター 技術専門職員 | 丹羽悠二 | 附属演習林北海道演習林 技術専門職員 |
| 2016.4.1 | 勤務換 | 附属演習林生態水文学研究所 技術職員 | 梁瀬桐子 | 附属演習林千葉演習林 技術職員 |
| 2016.6.30 | 任期満了 退職 | 附属演習林北海道演習林 特任専門職員 (特定短時間) | 廣田善己 | 附属演習林北海道演習林 技術職員 |
| 2016.9.1 | 採用 | 附属演習林生態水文学研究所 助教 | 水内佑輔 | 千葉大学大学院園芸学研究科 博士研究員 |
| 2016.10.1 | 臨時的採用 | 附属演習林教育研究センター 技術職員 | 中山綾子 | |
| 2016.12.1 | 採用 | 附属演習林 特任准教授 | XU SHITAO | 海南大学園芸園林学院 副教授 |
| 2017.1.4 | 臨時的採用 | 附属演習林秩父演習林 技術職員 | 太田弘子 | |
| 2017.1.31 | 任期満了 退職 | | 太田弘子 | 附属演習林秩父演習林 技術職員 |
| 2017.2.28 | 任期満了 退職 | 海南大学園芸園林学院 副教授 | XU SHITAO | 附属演習林 特任准教授 |
| 2017.3.31 | 任期満了 退職 | | 五名美江 | 附属演習林生態水文学研究所 特任助教 |
| 2017.3.31 | 再雇用職員 任期満了 | | 後藤太成 | 附属演習林秩父演習林 技術職員 |
| | | | | |

■利用状況■

全利用者

演習林名:千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|------------------------------------|-----|----|----|-----|-----|--|---------|
| 1 | 4 | 1 | 立正大学 地球環境学部 | 1 | | | 3 | 4 | 第三紀層における岩盤の侵食と風化 | 札郷宿泊施設 |
| 2 | 4 | 15 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 15 | 15 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 3 | 4 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 6 | 6 | (1)非汚染地域大気環境調査(4/4, 18) (2)化学物質大気環境調査(4/21-22) | 日帰り |
| 4 | 4 | 1 | 東大 農・生圏システム学生 生物多様性科学 | | | 1 | | 1 | 清澄作業所での薬品受け取り(エチレングリコール) | 日帰り |
| 5 | 4 | 1 | 東大 農・生圏システム学専攻 森園管理学研究室 | 2 | 1 | 2 | | 5 | 研究テーマの選定 | 日帰り |
| 6 | 4 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | 4 | | | 30 | 34 | 鴨川市東京大学交流事業「野鳥の巣箱を かけよう!(巣箱観察会)」実施 | 日帰り |
| 7 | 4 | 1 | 千葉県立中央博物館 地学 研究科 | 1 | | | | 1 | 演習林内(本沢)で発見された貝化石の 調査 | 日帰り |
| 8 | 4 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 2 | 2 | Abies活動「野鳥の巣箱を かけよう!」サポート | 日帰り |
| 9 | 4 | 2 | 千葉県森林インストラクター 会 | 2 | | | 43 | 45 | 千葉県森林インストラクター会 宿泊研修 | 清澄宿泊施設 |
| 10 | 4 | 2 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 12 | 12 | Abies活動「FICとの交流 研修会」開催 | 清澄宿泊施設 |
| 11 | 4 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機 管理科学研究科危機管理 学専攻 | 2 | 2 | 4 | | 8 | 房総半島天然林における樹上性 哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 12 | 4 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子 採取 | 日帰り |
| 13 | 4 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂 防工学研究室 | 1 | | 2 | | 3 | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 14 | 4 | 1 | 千葉県立中央博物館 地学 研究科 | 1 | | | | 1 | 千葉演習林内で発見された 貝化石の調査 | 日帰り |
| 15 | 4 | 1 | 東大 農・造林学研究室 | 1 | | | | 1 | 「造林学実験」にかかる下見 | 日帰り |
| 16 | 4 | 2 | 慶応義塾大学 経済学部生 物学教室 | 2 | | | | 2 | 音声・映像モニタリングによる カエル類の生息調査 | 郷台宿泊施設 |
| 17 | 4 | 2 | 麻布大学 獣医学部生理学 第1研究室 | 2 | 2 | | | 4 | イモリ食性調査, ヒキガエル 生息調査と採集 | 郷台宿泊施設 |
| 18 | 4 | 1 | 森林総合研究所 森林管理 研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異-「フェ ノロジー仮説」の検証- | 日帰り |
| 19 | 4 | 2 | 東大 農・森園管理学研究 室 | 2 | | 2 | | 4 | アサダの保全遺伝及びイチイ ガシの開花結実に関する研究 | 清澄宿泊施設2 |
| 20 | 4 | 1 | 東海大学付属相模高等学 校 | 23 | | | 573 | 596 | ウォークラリーの実施 | 日帰り |
| 21 | 5 | 19 | 鴨川市有害鳥獣対策協議 会 | | | | 22 | 22 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 22 | 5 | 5 | 千葉県環境生活部大気保 全課 | | | | 8 | 8 | (1)非汚染地域大気環境調 査(5/2, 16, 30) (2)化学物 質大気環境調査(5/23-24) | 日帰り |
| 23 | 5 | 1 | 麻布大学 獣医学部生理学 第1研究室 | 1 | 2 | | 1 | 4 | イモリ食性調査, ヒキガエル 生息調査と採集 | 日帰り |
| 24 | 5 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂 防工学研究室 | 2 | | 1 | | 3 | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 25 | 5 | 1 | 東邦大学 理・生物学科植 物生態学研究室 | 1 | 1 | | | 2 | ハイマツ葉内生菌の多様性 評価 | 日帰り |
| 26 | 5 | 1 | 東大 農・森林経営学研究 室 | | | | 1 | 1 | 持続可能な森林経営の研究, 森林経営計画について | 日帰り |
| 27 | 5 | 2 | 東大 新領域創成科学研究 科(千葉県立中央博物館) | 4 | | 18 | | 22 | 新領域選択科目「地域自然 誌論」 | 清澄宿泊施設 |
| 28 | 5 | 3 | 東大 新領域創成科学研究 科自然環境学専攻 | 15 | | 37 | | 52 | 自然環境学実習 | 清澄宿泊施設 |
| 29 | 5 | 1 | 首都大学東京 都市環境学 部自然・文化ツーリズムコ ース | 1 | | | | 1 | 照葉樹天然林におけるモチ ノキの存在様式と樹木-種 子食性昆虫-鳥類間相互作用 系の解明 | 日帰り |
| 30 | 5 | 1 | 横浜国立大学 大学院環境 情報学府小池研究室 | | | 2 | | 2 | 都市森林における中小型 哺乳類とその種間関係 | 日帰り |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----|-----|----|---|---------|
| 31 | 5 | 1 | 慶応義塾大学 経済学部生物学教室 | 1 | | | 1 | 2 | 音声・映像モニタリングによるカエル類の生息調査 | 日帰り |
| 32 | 5 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機管理科学研究科危機管理学専攻 | 2 | 4 | 4 | | 10 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 33 | 5 | 2 | 東大 新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 2 | | 4 | | 6 | 腺毛密度測定の前備実験に用いる葉のサンプリング | 清澄宿泊施設2 |
| 34 | 5 | 1 | 東大 農・演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 北方針葉樹3種の植栽 | 日帰り |
| 35 | 5 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 5 | 5 | 千葉県森林インストラクター会「東大演習林を学ぶ会」のガイドのための勉強会 | 日帰り |
| 36 | 5 | 3 | 森林総合研究所 遺伝資源部探索収集課遺伝資源収集係 | 12 | | | | 12 | コウヨウザンの成長特性、材質特性の解明、優良系統の選定 | 日帰り |
| 37 | 5 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 38 | 5 | 1 | 東大 農・森林植物学研究室 | 1 | 1 | | | 2 | 樹木内生菌の伝播・繁殖様式の解明 | 日帰り |
| 39 | 5 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | 4 | 26 | | | 30 | 教養学部全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」 | 日帰り |
| 40 | 5 | 1 | 千葉県森林インストラクター会 | | | | 9 | 9 | 自然観察会 | 日帰り |
| 41 | 5 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 1 | 1 | 千葉県森林インストラクター会「東大演習林を学ぶ会」のガイド | 日帰り |
| 42 | 5 | 1 | 森林総合研究所 森林管理研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異ー「フェノロジー仮説」の検証ー | 日帰り |
| 43 | 5 | 6 | 京都大学 大学院理学研究科地球惑星科学専攻 | | | 6 | | 6 | 房総半島清澄層におけるタービダイトの逆解析 | 札郷宿泊施設 |
| 44 | 5 | 1 | 君津市立久留里城址資料館 | 4 | | | 1 | 5 | 川越藩番所標柱の設置 | 日帰り |
| 45 | 5 | 1 | 東大 農・富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 危険な植物に関する実習の下見・打合せ | 日帰り |
| 46 | 5 | 3 | 東京女子大学 現代教養学部数理科学科 | 3 | 6 | | | 9 | ニホンジカが哺乳類の生息に及ぼす影響に関する研究 | 清澄宿泊施設2 |
| 47 | 5 | 2 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | 13 | 2 | 4 | | 19 | 森林流域における水文観測 | 清澄宿泊施設2 |
| 48 | 5 | 2 | 東大 農・千葉演習林 | 39 | 4 | 8 | 8 | 59 | 第21回利用者説明会開催 | 清澄宿泊施設 |
| 49 | 5 | 1 | 東大 農・森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 外生菌根菌の胞子発芽条件の解明 | 日帰り |
| 50 | 5 | 1 | 東大 農・生圏システム学専攻森園管理研究室 | 1 | | 1 | | 2 | 房総半島に隔離分布するアサダの保全遺伝 | 日帰り |
| 51 | 6 | 14 | 京都大学 大学院理学研究科地球惑星科学専攻 | | | 14 | | 14 | 房総半島清澄層におけるタービダイトの逆解析 | 札郷宿泊施設 |
| 52 | 6 | 18 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 18 | 18 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 53 | 6 | 3 | 慶応義塾大学 経済学部生物学教室 | 3 | | | 3 | 6 | 音声・映像モニタリングによるカエル類の生息調査 | 郷台宿泊施設 |
| 54 | 6 | 1 | 東大 農・森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 外生菌根菌の胞子発芽条件の解明 | 日帰り |
| 55 | 6 | 5 | 東大 農・造林学研究室 | 5 | 65 | | | 70 | 造林学実験 | 清澄宿泊施設 |
| 56 | 6 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 57 | 6 | 1 | 鴨川市観光課 | 10 | | | | 10 | グリーンツーリズム等への活用を検討するための施設見学のため | 日帰り |
| 58 | 6 | 3 | 東大 農・森林植物学研究室 | 5 | 36 | 3 | | 44 | 森林植物学実験の野外実習(植物採集) | 清澄宿泊施設 |
| 59 | 6 | 4 | 東大 農・森林経理学研究室 | 12 | 19 | | | 31 | 森林経理学実習 | 札郷宿泊施設 |
| 60 | 6 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機管理科学研究科危機管理学専攻 | 2 | 4 | 2 | | 8 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 61 | 6 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 6 | 6 | (1)非汚染地域大気環境調査(6/13, 27) (2)化学物質大気環境調査(6/15-16) | 日帰り |
| 62 | 6 | 1 | 首都大学東京 都市環境学部自然・文化ツーリズムコース | 1 | | | | 1 | 照葉樹天然林におけるモチノキの存在様式と樹木ー種子食性昆虫ー鳥類間相互作用系の解明 | 日帰り |
| 63 | 6 | 4 | パンフィックコンサルタンツ株式会社 | | | | 28 | 28 | 千葉県委託業務における自然環境調査(2. 詳細生態系調査) | 日帰り |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-----------------------------------|-----|----|----|-----|-----|---|---------|
| 64 | 6 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 7 | 7 | Abies活動「下草刈り」 | 日帰り |
| 65 | 6 | 1 | 慶応義塾大学 経済学部生 物学教室 | 2 | | | | 2 | 文系大学生対象の生物実習に利用す るゼニゴケ類の調査と採集 | 日帰り |
| 66 | 6 | 1 | 千葉大学 大学院理学研究 科 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学 的研究(機器メンテナンス) | 日帰り |
| 67 | 6 | 1 | 千葉県立房総のむら | 3 | | | | 3 | 平成28年度企画展「炭と暮らす」におけ る資料調査 | 日帰り |
| 68 | 6 | 1 | 森林総合研究所 森林管理 研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異－「フェノロジー 仮説」の検証－ | 日帰り |
| 69 | 6 | 4 | 東大 農・千葉演習林 | 56 | | | 2 | 58 | 「第19回関東甲信越地区技術職員研 修」開催のため | 清澄宿泊施設 |
| 70 | 6 | 1 | 東大 農・演習林教育研究 センター | 3 | | | | 3 | 基盤データ整備委員会脊椎動物分野コ ウモリ捕獲講習会の下見 | 清澄宿泊施設2 |
| 71 | 6 | 1 | 慶応義塾大学 経済学部生 物学教室 | 1 | | | 1 | 2 | 音声・映像モニタリングによるカエル類 の生息調査 | 郷台宿泊施設 |
| 72 | 7 | 2 | 東大 農・千葉演習林 | 18 | | | | 18 | 「第19回関東甲信越地区技術職員研 修」開催のため | 清澄宿泊施設 |
| 73 | 7 | 1 | 東大 農・演習林教育研究 センター | 3 | | | | 3 | 基盤データ整備委員会脊椎動物分野コ ウモリ捕獲講習会の下見 | 清澄宿泊施設2 |
| 74 | 7 | 1 | 慶応義塾大学 経済学部生 物学教室 | 1 | | | 1 | 2 | 音声・映像モニタリングによるカエル類 の生息調査 | |
| 75 | 7 | 17 | 鴨川市有害鳥獣対策協議 会 | | | | 17 | 17 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 76 | 7 | 1 | 横浜国立大学 大学院環境 情報学府小池研究室 | | | 1 | | 1 | 都市森林における中小型哺乳類とその 種間関係 | 日帰り |
| 77 | 7 | 2 | 宇都宮大学 農学部森林科 学科 | 5 | 80 | 10 | 2 | 97 | 樹木学実習 | 清澄宿泊施設 |
| 78 | 7 | 2 | 森林総合研究所 林木育種 センター遺伝資源部 | 4 | | | | 4 | コウヨウザンの成長特性、材質特性の解 明、優良系統の選定 | 日帰り |
| 79 | 7 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 80 | 7 | 13 | 千葉県環境生活部大気保 全課 | | | | 17 | 17 | (1)化学物質大気環境調査(7/5-7/6) (2)非汚染地域大気環境調査(7/11, 7/25) (3)ダイオキシン類大気環境調査 (7/12-7/20) | 日帰り |
| 81 | 7 | 2 | 東大 農・千葉演習林 | 9 | 36 | | | 45 | 教養学部全体体験ゼミナール「君はス ギとヒノキのことを本当に知っているの か? (入門編)」 | 清澄宿泊施設 |
| 82 | 7 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機 管理学研究科危機管理学 専攻 | | 6 | 2 | 2 | 10 | 房総半島天然林における樹上性哺乳 類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 83 | 7 | 2 | 東大 農・森林理水及び砂 防工学研究室 | 2 | 2 | 2 | | 6 | 森林流域における水文観測 | 清澄宿泊施設2 |
| 84 | 7 | 1 | こまたん | | | | 1 | 1 | 打合せ(アオバト生息状況調査) | 日帰り |
| 85 | 7 | 1 | 東大 農・森林植物学研究 室 | 1 | 1 | | | 2 | スギに共生するアーバスキュラー菌根菌 の種構成の解明 | 日帰り |
| 86 | 7 | 1 | 千葉大学 大学院理学研究 科 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学 的研究(機器メンテナンス) | 日帰り |
| 87 | 7 | 1 | 東大 農・生態水文学研究 所 | 1 | | | | 1 | 混交林試験地の観測 | 日帰り |
| 88 | 7 | 1 | (学)戸村学園コスモス幼稚 園 | 32 | | | 117 | 149 | 林間学校(一杯水林道ハイキング) | 日帰り |
| 89 | 7 | 9 | 立正大学 地球環境科学研 究科地理空間システム学専 攻 | | | 9 | | 9 | 小櫃川における穿入蛇行谷の横断形 状と下刻要因 | 札郷宿泊施設 |
| 90 | 7 | 2 | 立正大学 地球環境学部 | 2 | | | | 2 | 第三紀層における岩盤の侵食と風化 | 札郷宿泊施設 |
| 91 | 7 | 3 | 東大 農・千葉演習林 | 13 | | | 18 | 31 | 高校生のための森と海のゼミナール | 清澄宿泊施設 |
| 92 | 7 | 3 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 3 | 3 | Abies活動「高校生ゼミナールサポ ート」 | 清澄宿泊施設 |
| 93 | 7 | 1 | 森林総合研究所 森林管理 研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異－「フェノロジー 仮説」の検証－ | 日帰り |
| 94 | 7 | 3 | 横浜国立大学 大学院環境 情報学府小池研究室 | | | 3 | | 3 | 都市森林における中小型哺乳類とその 種間関係 | 清澄宿泊施設 |
| 95 | 7 | 3 | 東大 教育学部附属中等教 育学校生物部 | 6 | | 3 | 87 | 96 | 生物部合宿 人工林・天然林の毎木調 査、腐肉トラップ、植物採集、昆虫採集 等 | 清澄宿泊施設 |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|-------------------------------|-----|----|----|-----|-----|--|---------|
| 96 | 7 | 2 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | 4 | 8 | 2 | | 14 | 森林流域における水文観測 | 清澄宿泊施設2 |
| 97 | 7 | 2 | 千葉県昆虫談話会 | 2 | | | 32 | 34 | 千葉県における昆虫相の調査 | 札郷宿泊施設 |
| 98 | 7 | 1 | 千葉大学 大学院理学研究科 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究(機器メンテナンス) | 日帰り |
| 99 | 8 | 2 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 小櫃川における穿入蛇行谷の横断形状と下刻要因 | 札郷宿泊施設 |
| 100 | 8 | 18 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 19 | 19 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 101 | 8 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | 22 | | | | 22 | 平成28年度 夏の研修会 | 日帰り |
| 102 | 8 | 7 | 東大 理・地球惑星科学専攻 | 28 | 73 | 20 | | 121 | 環境学科3年生対象の野外調査実習1 | 清澄宿泊施設2 |
| 103 | 8 | 1 | 千葉県房総のむら | 2 | | | | 2 | 平成28年度企画展「炭と暮らす」における資料調査 | 日帰り |
| 104 | 8 | 1 | 千教研安房支会理科教育部会 | 34 | | | | 34 | 清澄地域の貴重な自然環境等についての理解を深める。 | 日帰り |
| 105 | 8 | 1 | 株式会社野生動物保護管理事務所 | | | | 6 | 6 | 千葉県発注「平成28年度森林植生衰退状況調査業務委託」のための調査 | 日帰り |
| 106 | 8 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 6 | 6 | (1)非汚染地域大気環境調査(8/5, 22) (2)化学物質大気環境調査(8/9-10) | 日帰り |
| 107 | 8 | 5 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 5 | | 5 | 小櫃川における穿入蛇行谷の横断形状と下刻要因 | 札郷宿泊施設 |
| 108 | 8 | 1 | 千葉県立中央博物館 | 1 | | | | 1 | ヒメコマツ調査, 野外生態学実験の下見 | 日帰り |
| 109 | 8 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 110 | 8 | 1 | 東大 農・演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 温暖地域に移植した北方針葉樹のストレス応答評価 | 日帰り |
| 111 | 8 | 1 | グリーン航業株式会社 | | | | 2 | 2 | 林野庁 森林生態系多様性調査業務(委託業務)実施 | 日帰り |
| 112 | 8 | 5 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 20 | | 20 | 小櫃川における穿入蛇行谷の横断形状と下刻要因 | 札郷宿泊施設 |
| 113 | 8 | 1 | 森林総合研究所 林木育種センター遺伝資源部・遺伝資源収集係 | 2 | | | | 2 | コウヨウザンの成長特性, 材質特性の解明, 優良系統の選定 | 日帰り |
| 114 | 8 | 4 | 東大 農・千葉演習林 | 16 | 73 | 18 | | 107 | 全学体験ゼミ「野生動物の保護管理」 | 清澄宿泊施設 |
| 115 | 8 | 8 | 東大 新領域創成科学研究科自然環境学専攻生物圏機能学研究室 | 5 | | 42 | 15 | 62 | 旧薪炭林における林冠木の伐採とシカの採食圧が植物の成長-防御戦略に与える影響 | 清澄宿泊施設 |
| 116 | 8 | 3 | 横浜国立大学 大学院環境情報学府小池研究室 | | | 3 | | 3 | 都市森林における中小型哺乳類とその種間関係 | 清澄宿泊施設2 |
| 117 | 8 | 1 | 森林総合研究所 森林管理研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異-「フェノロジー仮説」の検証- | 日帰り |
| 118 | 8 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機管理理学研究科危機管理学専攻 | 2 | 4 | 2 | | 8 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 119 | 8 | 1 | 千葉大学 大学院理学研究科 | 1 | | | | 1 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究(機器メンテナンス) | 日帰り |
| 120 | 8 | 3 | 日本地質学会 関東支部清澄フィールドキャンプ実行委員会 | 6 | 12 | 6 | | 24 | フィールド調査の継承・発展のための地質調査の基礎的訓練 | 清澄宿泊施設 |
| 121 | 8 | 3 | 京都大学 理学部地質学鉱物学教室 | 6 | 33 | 6 | | 45 | 課題演習E2(地質調査実習) | 清澄宿泊施設 |
| 122 | 8 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | 1 | 1 | | | 2 | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 123 | 9 | 3 | 日本地質学会 関東支部清澄フィールドキャンプ実行委員会 | 3 | 12 | 6 | | 21 | フィールド調査の継承・発展のための地質調査の基礎的訓練 | 清澄宿泊施設 |
| 124 | 9 | 3 | 京都大学 理学部地質学鉱物学教室 | 6 | 32 | 6 | | 44 | 課題演習E2(地質調査実習) | 清澄宿泊施設 |
| 125 | 9 | 15 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 15 | 15 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 126 | 9 | 2 | 東大 農・演習林教育研究センター | 2 | | | | 2 | UAVを使った大型野生哺乳類の直接観察による個体数カウント手法の開発 | 清澄宿泊施設2 |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|---|-----|-----|-------|---------|---------|--|---------|
| 127 | 9 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 6 | 6 | (1)化学物質大気環境調査(9/1-2) (2)非汚染地域大気環境調査(9/5, 25) | 日帰り |
| 128 | 9 | 1 | 東大 農・造林学研究室 | 1 | | | | 1 | 「造林額実験」にかかるコンテナ苗木の準備 | 日帰り |
| 129 | 9 | 6 | 千葉大学 理学研究科地球科学 | 36 | 138 | 12 | | 186 | 地質学野外実験2および地殻構造学野外実験1 | 清澄宿泊施設 |
| 130 | 9 | 15 | タイ王立灌漑局 Hydrologist Practitioner Level | | | | 15 (15) | 15 (15) | タイ農業開発庁(ARDA)と東大農学部との協定により論文博士研究の指導を受ける | 清澄宿泊施設2 |
| 131 | 9 | 6 | 東大 新領域創成科学研究科自然環境学専攻鈴木研究室 | 6 | | 12 | 2 | 20 | シカと土壤環境の劣化がもたらす下層植生の経年変化 | 清澄宿泊施設2 |
| 132 | 9 | 7 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 11 | | 11 | 小櫃川における穿入蛇行谷の横断形状と下刻要因 | 札郷宿泊施設 |
| 133 | 9 | 4 | 千葉大学 理学部生物学科 (千葉県立中央博物 | 4 | 72 | | | 76 | 野外生態学実験 | 札郷宿泊施設 |
| 134 | 9 | 1 | イェール大学 Department of Ecology and Evolutionary Biology | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | Viburnum (ガマズミ属)植物の調査・採集 | 日帰り |
| 135 | 9 | 1 | 東大 農・北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 東京大学演習林における同齢林と異齢林を対象とした長期固定試験地の林分成長測定 | 日帰り |
| 136 | 9 | 1 | 安房土木事務所 鴨川出張所 | | | | 2 | 2 | 県道清澄トンネル改修工事に伴う事前調査についての経緯説明 | 日帰り |
| 137 | 9 | 1 | 東大 環境安全本部産業医 | 1 | | | | 1 | 産業医による千葉演習林巡視 | 日帰り |
| 138 | 9 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | 1 | 1 | | | 2 | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 139 | 9 | 1 | 千葉県立房総のむら | 2 | | | | 2 | 平成28年度企画展「炭と暮らす」に係る資料借用 | 日帰り |
| 140 | 9 | 3 | 東大 新領域創成科学研究科 | | | 3 | | 3 | シカの採食圧による植生・土壌環境への影響 | 清澄宿泊施設2 |
| 141 | 9 | 7 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 7 | | 7 | 小櫃川における穿入蛇行谷の横断形状と下刻要因 | 札郷宿泊施設 |
| 142 | 9 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 6 | 6 | Abies活動 試験研究補助「どんぐり拾いと加工」 | 日帰り |
| 143 | 9 | 1 | 森林総合研究所 森林管理研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異ー「フェノロジー仮説」の検証ー | 日帰り |
| 144 | 9 | 3 | 横浜国立大学 大学院環境情報学府小池研究室 | | | 3 | | 3 | 都市森林における中小型哺乳類とその種間関係 | 清澄宿泊施設2 |
| 145 | 9 | 4 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | 2 | 4 | | | 6 | 森林流域における水文観測 | 清澄宿泊施設2 |
| 146 | 9 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 147 | 9 | 1 | 千葉県衛生研究所 医動物研究室 | 2 | | | | 2 | 千葉県におけるマガニ類の生息状況調査 | 日帰り |
| 148 | 10 | 17 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 17 | 17 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 149 | 10 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 7 | 7 | (1)化学物質大気環境調査(10/3-4) (2)非汚染地域大気環境調査(10/4, 17, 31) | 日帰り |
| 150 | 10 | 1 | (公財)ニッセイ緑の財団 | 1 | | | 4 | 5 | 森林づくりの見学 | 日帰り |
| 151 | 10 | 1 | 千葉県森林インストラクター会 | | | | 12 | 12 | 自然観察会 | 日帰り |
| 152 | 10 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機管理学研究科危機管理学専攻 | 2 | 4 | 2 | | 8 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 153 | 10 | 1 | 東大 農・森林植物学研究室 | 1 | 1 | | | 2 | 樹木内生菌の伝播・繁殖様式の解明 | 日帰り |
| 154 | 10 | 3 | 東大 新領域創成科学研究科鈴木研究室 | 2 | | 6 | | 8 | 旧薪炭林における林冠木の伐採とシカの採食圧が植物の成長ー防御戦略に与える影響 | 清澄宿泊施設2 |
| 155 | 10 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | 4 | 25 | | | 29 | 教養学部全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」 | 日帰り |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|------------------------------------|-----|----|------------|-----|------------|---|---------|
| 156 | 10 | 2 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | 4 | | | 36 | 40 | Abies活動 お月見研修会 | 清澄宿泊施設 |
| 157 | 10 | 1 | 千葉県森林インストラクター 会 | | | | 4 | 4 | 東大演習林一般公開サポートのための 下見 | 日帰り |
| 158 | 10 | 5 | 立正大学 地球環境科学研究科 地理空間システム学専攻 | | | 10 | | 10 | 小櫃川における穿入蛇行谷の横断形 状と下刻要因 | 札郷宿泊施設 |
| 159 | 10 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂 防工学研究室 | | 1 | 2 | | 3 | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 160 | 10 | 3 | 京都大学 大学院理学研究 科地球惑星科学専攻 | | | 3 | | 3 | 房総半島清澄層におけるタービダイトの 逆解析 | 札郷宿泊施設 |
| 161 | 10 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 162 | 10 | 1 | 東大 地震研究所総合観測 室 | 2 | | | | 2 | 地震観測機器点検 | 日帰り |
| 163 | 10 | 1 | 森林総合研究所 森林管理 研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異－「フェノロジー 仮説」の検証－ | 日帰り |
| 164 | 10 | 3 | 公益財団法人 目黒寄生虫 館 | 3 | | | | 3 | 陸貝採集のため | 清澄宿泊施設 |
| 165 | 10 | 3 | 横浜国立大学 大学院環境 情報学府小池研究室 | | | 3 | | 3 | 都市森林における中小型哺乳類とその 種間関係 | 清澄宿泊施設 |
| 166 | 10 | 2 | 東大 農・生圏システム学専 攻森園管理学的研究室 | 2 | | 2 | | 4 | イチイガシの開花結実に関する研究 | 清澄宿泊施設 |
| 167 | 10 | 2 | 東大 農・千葉演習林 | | | | 105 | 105 | 千葉演習林一般公開「郷台畑へ行こ う！」 | 日帰り |
| 168 | 11 | 19 | 鴨川市有害鳥獣対策協議 会 | | | | 22 | 22 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 169 | 11 | 1 | 東大 農・演習林教育研究 センター | 1 | | | | 1 | 温暖地域に移植した北方針葉樹のスト レス応答評価 | 日帰り |
| 170 | 11 | 2 | 東大 新領域創成科学研究 科自然環境学専攻鈴木研 究室 | | | 4 | | 4 | シカと土壤環境の劣化がもたらす下層 植生の経年変化 | 清澄宿泊施設2 |
| 171 | 11 | 1 | 首都大学東京 都市環境学 部自然・文化ツーリズムコー ス | 1 | | | | 1 | 照葉樹天然林におけるモチノキの存在 様式と樹木－種子食性昆虫－鳥類間 相互作用系の解明 | 日帰り |
| 172 | 11 | 1 | 君津市教育委員会 生涯学 習文化課 | 4 | | | 3 | 7 | 君津市立坂畑小学校スクールミュージ アム 自然観察会の下見 | 日帰り |
| 173 | 11 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | 3 | | | 44 | 47 | 鴨川市東京大学交流事業「野鳥の巣箱 をかけよう！」 | 日帰り |
| 174 | 11 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 2 | 2 | ボランティア活動「野鳥の巣箱をかけよ う！」サポート | 日帰り |
| 175 | 11 | 1 | 筑波大学 生命環境系生命 環境科学研究科 | 3 | | 18 (16) | | 21 (16) | 森林における生物多様性の保全(forum on sustainable environmental studies 2) | 日帰り |
| 176 | 11 | 1 | 樟の木会 | | | | 15 | 15 | 樟の木会会員の知識向上のため－自 然保護－ | 日帰り |
| 177 | 11 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 178 | 11 | 1 | 東大 農・森林科学専攻造 林学研究室 | 1 | | | | 1 | 「造林学実験」にかかるコンテナ苗育成 の準備・植付け実習場所の視察 | 日帰り |
| 179 | 11 | 1 | 千葉県森林インストラクター 会 | | | | 3 | 3 | 11/23実施予定のインストラクター会「東 大演習林を学ぶ会」の下見 | 日帰り |
| 180 | 11 | 4 | 千葉県環境生活部大気保 全課 | | | | 6 | 6 | (1)化学物質大気環境調査(11/9-10) (2)非汚染地域大気環境調査(11/14- 28) | 日帰り |
| 181 | 11 | 1 | 東大 農・附属演習林企画 部 | 2 | | 14 | | 16 | 生圏システム学特論 現地実習 | 日帰り |
| 182 | 11 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機 管理学研究科危機管理学 専攻 | 2 | | 4 | 2 | 8 | 房総半島天然林における樹上性哺乳 類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 183 | 11 | 1 | 筑波大学 大学院環境科学 専攻科 | 1 | | 1 | | 2 | 伊豆半島におけるセルロース分解とそ の菌類群集パターン | 日帰り |
| 184 | 11 | 1 | 鴨川市立天津小学校 | 3 | | | 55 | 58 | 天津小学校5年 緑の教室 | 日帰り |
| 185 | 11 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 5 | 5 | 緑の教室サポート | 日帰り |
| 186 | 11 | 1 | 君津市教育委員会 生涯学 習文化課 | 4 | | | 20 | 24 | 君津市立坂畑小学校スクールミュージ アム 自然観察会 | 日帰り |
| 187 | 11 | 4 | 東京女子大学 現代教養学 部数理科学科 | 4 | 4 | 5 | | 13 | ニホンジカが哺乳類の生息に及ぼす影 響に関する研究 | 清澄宿泊施設2 |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--|-----|----------|----------|------------|------------|---|---------|
| 188 | 11 | 1 | グリーン航業株式会社 | | | | 2 | 2 | 林野庁「平成28年度森林吸収源インベントリ情報整備事業」における現地調査 | 日帰り |
| 189 | 11 | 3 | 日本地下生菌研究会 | 10 | | 6 | 30 | 46 | 地下生菌(地下に子実体を形成するきのこ)の観察会 | 清澄宿泊施設2 |
| 190 | 11 | 1 | 千葉県森林インストラクター会 | | | | 10 | 10 | FIC 自然観察会 | 日帰り |
| 191 | 11 | 1 | 森林総合研究所 森林管理研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異-「フェノロジー仮説」の検証- | 日帰り |
| 192 | 11 | 3 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 6 | | 6 | 第三紀堆積岩地域における岩盤風化の状況 | 札郷宿泊施設 |
| 193 | 11 | 1 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 1 | | | | 1 | 野生グリの遺伝的多様性研究 遺伝資源収集 | 日帰り |
| 194 | 11 | 1 | 千葉県衛生研究所 医動物研究室 | 2 | | | | 2 | 千葉県におけるマダニ類の生息状況調査 | 日帰り |
| 195 | 11 | 1 | 東大 農・千葉演習林(森林生態社会学研究室) | 6 | 3 (1) | | | 9 (1) | 演習林 森林生態社会学研究室 研究室ゼミ合宿 | 清澄宿泊施設 |
| 196 | 11 | 1 | 東大 農・田無演習林 | 2 | | 1 | | 3 | 大学院講義「森林圏管理システム学」 | 日帰り |
| 197 | 11 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | | 1 | | | 1 | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 198 | 11 | 1 | フィールズ有限公司 | | | | 3 | 3 | 山岳マラソン「トレイルラン」のコース下見 | 日帰り |
| 199 | 12 | 1 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 1 | | 1 | 第三紀堆積岩地域における岩盤風化の状況 | |
| 200 | 12 | 1 | 東大 農・千葉演習林(森林生態社会学研究室) | 6 | 3 (1) | | | 9 (1) | 演習林 森林生態社会学研究室 研究室ゼミ合宿 | |
| 201 | 12 | 18 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 18 | 18 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 202 | 12 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | 13 | | | 7 | 20 | 学内特別ガイド「千葉演習林で楽しむ紅葉とランチ」 | 日帰り |
| 203 | 12 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機管理学研究科危機管理学専攻 | 2 | 2 | 3 | | 7 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 204 | 12 | 13 | 東北大学 理学部地圏環境科学科 | | 13 | | | 13 | 安房層群に含まれる凝灰岩層の年代決定 | 清澄宿泊施設2 |
| 205 | 12 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 206 | 12 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 3 | 3 | 内浦山県民の森催事「二日間川から養老川の源流をゆく」下見 | 日帰り |
| 207 | 12 | 1 | 千葉県立中央博物館 地学研究科 | 1 | | | | 1 | 演習林内(本沢)で発見された貝化石の調査 | 日帰り |
| 208 | 12 | 1 | 木更津市立岩根西公民館 | 2 | | | 24 | 26 | 森林散策と植物観察会 | 日帰り |
| 209 | 12 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機管理学研究科危機管理学専攻 | 2 | 6 | 2 | | 10 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 210 | 12 | 2 | 東大 工学系・情報理工学系等情報図書課情報総務チーム | 10 | | | 8 | 18 | 図書館・情報基盤センター職員による千葉演習林内自然観察会 | 札郷宿泊施設 |
| 211 | 12 | 1 | フィールズ有限公司 | | | | 5 | 5 | 山岳マラソン(トレイルラン)のコース整備・マーキング | 日帰り |
| 212 | 12 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 6 | 6 | (1)非汚染地域大気環境調査(12/12, 26) (2)化学物質大気環境調査(12/14-15) | 日帰り |
| 213 | 12 | 11 | タイ王立灌漑局 Hydrologist Practitioner Level | | | | 11 (11) | 11 (11) | タイ農業開発庁(ARDA)と東大農学部との協定により論文博士研究の指導を受ける | 清澄宿泊施設2 |
| 214 | 12 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | 1 | 1 | 2 (1) | | 4 (1) | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 215 | 12 | 1 | 東大 地震研究所技術部総合観測室 | 2 | | | | 2 | 地震観測機器点検 | 日帰り |
| 216 | 12 | 3 | 千葉科学大学 大学院危機管理学研究科危機管理学専攻 | 3 | 5 | 6 | | 14 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 217 | 12 | 1 | フィールズ有限公司 | | | | 475 (6) | 475 (6) | 山岳マラソン「トレイルラン」コースとして | 日帰り |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|----------------------------|-----|----------|----|-----|----------|--|---------|
| 218 | 12 | 1 | 東大 農・生圏システム学専攻 森園管理学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | イチイガシの開花結実に関する研究 | 日帰り |
| 219 | 12 | 3 | 横浜国立大学 大学院環境情報学府小池研究室 | | | 3 | | 3 | 都市森林における中小型哺乳類とその種間関係 | 清澄宿泊施設2 |
| 220 | 12 | 3 | 横浜国立大学 大学院環境情報学府小池研究室 | | | 3 | | 3 | 朽ち木性昆虫の調査 | 清澄宿泊施設2 |
| 221 | 12 | 1 | 森林総合研究所 森林管理研究領域資源解析研究室 | 1 | | | | 1 | スギの成長の地域変異-「フェノロジー仮説」の検証- | 日帰り |
| 222 | 12 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 2 | 2 | 内浦山県民の森催事「新春・清澄山ハイキング」下見 | 日帰り |
| 223 | 12 | 1 | 千葉大学 大学院理学研究科 | 1 | | 1 | | 2 | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究(観測機器メンテナンス) | 日帰り |
| 224 | 12 | 1 | 慶応義塾大学 経済学部生物学教室 | 1 | | | 1 | 2 | 郷古池および猪ノ川の両生類モニタリング調査 | 日帰り |
| 225 | 12 | 1 | 住化グリーン株式会社 | | | | 1 | 1 | タケ研究打合せ | 日帰り |
| 226 | 1 | 13 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | | 13 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 227 | 1 | 12 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | | 16 | (1)化学物質大気環境調査(1/17-18) (2)ダイオキシン類大気環境調査(1/4-12) (3)非汚染地域大気環境調査(1/10, 23) | 日帰り |
| 228 | 1 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 3 | 3 | 内浦山県民の森催事「新春・清澄山ハイキング」下見 | 日帰り |
| 229 | 1 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 3 | 3 | 内浦山県民の森催事「新春・清澄山ハイキング」下見 | 日帰り |
| 230 | 1 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 2 | 2 | 内浦山県民の森催事「新春・三石山ハイキング」下見 | 日帰り |
| 231 | 1 | 2 | 千葉科学大学 大学院危機管理学研究科危機管理学専攻 | 2 | 2 | 2 | | 6 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 232 | 1 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | 1 | 8 (7) | | | 9 (7) | 国連大学学生による砂防試験地の見学 | 日帰り |
| 233 | 1 | 1 | 首都大学東京 都市環境学部自然・文化ツーリズムコース | 1 | | | | 1 | 照葉樹天然林におけるモチノキの存在様式と樹木-種子食性昆虫-鳥類間相互作用系の解明 | 日帰り |
| 234 | 1 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 1 | 1 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 235 | 1 | 4 | 千葉科学大学 大学院危機管理学研究科危機管理学専攻 | 5 | 6 | 4 | | 15 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 236 | 1 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 3 | 3 | 内浦山県民の森催事「新春・三石山ハイキング」下見 | 日帰り |
| 237 | 1 | 2 | 日本地質学会関東支部 | 9 | | | | 9 | フィールド調査の継承・発展のための現地研修・見学 | 清澄宿泊施設2 |
| 238 | 1 | 1 | 東大 農・附属演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | イグサの採取及び演習林内見学 | 日帰り |
| 239 | 1 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 30 | 30 | 内浦山県民の森催事「新春・清澄山ハイキング」 | 日帰り |
| 240 | 1 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 32 | 32 | 内浦山県民の森催事「新春・三石山ハイキング」 | 日帰り |
| 241 | 1 | 3 | 株式会社 森林再生システム | | | | 6 | 6 | 箕輪試験地 地上レーザー測量 | 清澄宿泊施設2 |
| 242 | 1 | 2 | 株式会社 アルファフォーラム | | | | 4 | 4 | 箕輪試験地 レーザー測量業務の見学 | 清澄宿泊施設2 |
| 243 | 1 | 1 | 千葉県勤労者山岳連盟 ハイキング委員会 | | | | 44 | 44 | 第33回ロングハイク(モミ, ツガ観察) | 日帰り |
| 244 | 1 | 1 | 千葉県立中央博物館 | 2 | | | | 2 | 蘚苔類相調査 | 日帰り |
| 245 | 2 | 15 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | | 17 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 246 | 2 | 1 | 慶応義塾大学 経済学部生物学教室 | 1 | | | | 1 | 郷古池および猪ノ川の両生類モニタリング調査 | 日帰り |
| 247 | 2 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | | | | 18 | 18 | 森林博物資料館「一般公開」 | 日帰り |
| 248 | 2 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 2 | 2 | 千葉演習林森林博物資料館「一般公開」サポート | 日帰り |
| 249 | 2 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | | 6 | (1)非汚染地域大気環境調査(2/3, 20) (2)化学物質大気環境調査(2/7-8) | 日帰り |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|-------------------------------|-----------|----|----------|-----|------------|--|---------|
| 250 | 2 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 3 | 3 | 内浦山県民の森催事～早春のやまあるき～「清澄八山をゆく(2/22)」下見 | 日帰り |
| 251 | 2 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 3 | 3 | 内浦山県民の森催事～早春のやまあるき～「清澄八山をゆく(2/21)」下見 | 日帰り |
| 252 | 2 | 4 | 東大 農・千葉演習林 | 25 (4) | 80 | | | 105 (4) | 全学体験ゼミナール「房総の森と生業(なりわい)を学ぶ」現地実習 | 清澄宿泊施設 |
| 253 | 2 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 3 | 3 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 254 | 2 | 1 | 君津市立久留里城址資料館 | 1 | | | 2 | 3 | 番所跡見学会下見 | 日帰り |
| 255 | 2 | 2 | 東大 農・千葉演習林 | 2 | | | 7 | 9 | 千葉演習林の新たな魅力を探る女子の会インキュベーション合宿 | 清澄宿泊施設2 |
| 256 | 2 | 5 | 千葉科学大学 大学院危機管理理学研究科危機管理学専攻 | 5 | 7 | 5 | | 17 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 257 | 2 | 2 | 森林総合研究所 森林管理研究領域資源解析研究室 | 2 | | | | 2 | スギの成長の地域変異ー「フェノロジー仮説」の検証ー | 日帰り |
| 258 | 2 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 6 | 6 | 千葉演習林ボランティア会Abies役員会 | 日帰り |
| 259 | 2 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 3 | 3 | 内浦山県民の森催事～早春のやまあるき～「清澄八山をゆく」下見 | 日帰り |
| 260 | 2 | 6 | 安房土木事務所 鴨川出張所 | | | | 24 | 24 | 県道測量業務のため | 日帰り |
| 261 | 2 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 24 | 24 | 内浦山県民の森催事～早春のやまあるき～「清澄八山をゆく1。」本番 | 日帰り |
| 262 | 2 | 1 | 内浦山県民の森管理事務所 | | | | 26 | 26 | 内浦山県民の森催事～早春のやまあるき～「清澄八山をゆく2。」本番 | 日帰り |
| 263 | 2 | 1 | 東大 農・森林理水及び砂防工学研究室 | | 1 | | | 1 | 森林流域における水文観測 | 日帰り |
| 264 | 2 | 1 | 横浜国立大学 大学院環境情報学府小池研究室 | | | 1 | | 1 | 都市森林における中小型哺乳類とその種間関係 | 日帰り |
| 265 | 2 | 1 | 千葉県衛生研究所 医動物研究室 | 2 | | | | 2 | 千葉県におけるマダニ類の生息状況調査 | 日帰り |
| 266 | 2 | 2 | 森林総合研究所 林木育種センター遺伝資源部・遺伝資源収集係 | 6 | | | | 6 | コウヨウザンの成長特性、材質特性の解明、優良系統の選定 | 日帰り |
| 267 | 2 | 1 | 千葉大学 大学院理学研究科 | 1 | | 2 (1) | | 3 (1) | 地震に関連する電磁気現象の観測学的研究(観測機器のメンテナンス) | 日帰り |
| 268 | 3 | 17 | 鴨川市有害鳥獣対策協議会 | | | | 17 | 17 | 有害鳥獣捕獲 | 日帰り |
| 269 | 3 | 1 | 東大 農・千葉演習林 | 19 | | | | 19 | 千葉演習林 冬の研修会 | 日帰り |
| 270 | 3 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 3 | 3 | 千葉演習林「冬の研修会」聴講 | 日帰り |
| 271 | 3 | 1 | 環境省自然公園指導員 | | | | 3 | 3 | 清澄八山への通路確認 | 日帰り |
| 272 | 3 | 8 | 安房土木事務所 鴨川出張所 | | | | 39 | 39 | 測量業務のため | 日帰り |
| 273 | 3 | 4 | 千葉県環境生活部大気保全課 | | | | 6 | 6 | (1)化学物質大気環境調査(3/2-3) (2)非汚染地域大気環境調査(3/6, 21) | 日帰り |
| 274 | 3 | 1 | 千葉県森林インストラクター会 | | | | 10 | 10 | 自然観察会 | 日帰り |
| 275 | 3 | 3 | 立正大学 地球環境学部 | 3 | | 3 | | 6 | 第三紀層における岩盤の侵食と風化 | 札郷宿泊施設 |
| 276 | 3 | 2 | 千葉県立中央博物館 | 4 | | | | 4 | 蘚苔類相調査 | 札郷宿泊施設 |
| 277 | 3 | 3 | 東大 農・森林経理学研究室 | 6 | 3 | 4 | | 13 | 人工林試験地(箕輪試験地)調査 | 清澄宿泊施設 |
| 278 | 3 | 9 | 東北大学 理学部地圏環境科学科 | | 9 | | | 9 | 安房層群に含まれる凝灰岩層の年代決定 | 清澄宿泊施設2 |
| 279 | 3 | 2 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 15 | 15 | Abies総会と演習林を歩こう | 清澄宿泊施設 |
| 280 | 3 | 1 | 箱根植木株式会社 | | | | 2 | 2 | 種子の採取地調査・種子採取 | 日帰り |
| 281 | 3 | 1 | 君津市立久留里城址資料館 | 3 | | | 17 | 20 | 番所跡見学会 | 日帰り |
| 282 | 3 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 5 | 5 | 君津市立久留里城址資料館主催「番所跡見学会」の案内 | 日帰り |

2016年度 全利用者 千葉演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|----------------------------|-----|----|----|-----|----|-------------------------------------|---------|
| 283 | 3 | 3 | 千葉科学大学 大学院危機管理科学研究科危機管理学専攻 | 6 | 6 | 3 | | 15 | 房総半島天然林における樹上性哺乳類の生息状況 | 清澄宿泊施設2 |
| 284 | 3 | 1 | 麻布大学 獣医学部生理学第1研究室 | 1 | 3 | | 1 | 5 | イモリ食性調査, ヒキガエル生息調査と採集 | 日帰り |
| 285 | 3 | 2 | 立正大学 地球環境科学研究科地理空間システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 小櫃川上流域の川床勾配に与える岩質の影響 | 札郷宿泊施設 |
| 286 | 3 | 1 | 千葉県立君津青葉高等学校 | 1 | | | 3 | 4 | 校外学習「ヒメコマツの見学」 | 日帰り |
| 287 | 3 | 4 | 京都大学 大学院理学研究科地球惑星科学専攻 | | 4 | 4 | | 8 | 房総半島清澄層におけるタービダイトの逆解析 後輩への案内(研究引継ぎ) | 札郷宿泊施設 |
| 288 | 3 | 2 | 東大 新領域創成科学研究科 | 2 | | | | 2 | イズセンリョウ野外実験の下見 | 清澄宿泊施設2 |
| 289 | 3 | 1 | 千葉県立中央博物館 環境教育研究科 | 4 | | 2 | 1 | 7 | 菌類調査 | 日帰り |

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 4838

利用件数 289

演習林名:北海道演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-------------------|-----|----|------------|-----|------------|-------------------------------------|----------|
| 1 | 4 | 30 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 30 (30) | | 30 (30) | 樹木に寄生するアンブロシアキクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 2 | 4 | 3 | 東京大学空間情報科学研究センター | 6 | | | | 6 | 情報技術を活用した天然林施業の知識ベース構築とその運用 | 山部宿泊施設 |
| 3 | 4 | 2 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 6 | 6 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 宿泊なし |
| 4 | 5 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 樹木に寄生するアンブロシアキクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 5 | 5 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 2 | 2 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 6 | 5 | 1 | 玉川大学農学部生物環境システム学科 | 1 | | | | 1 | 葉樹更新初期に顕在化する近交弱勢遺伝子のゲノムワイド探索 | 日帰り |
| 7 | 5 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | | | | 3 | 温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価 | 山部宿泊施設 |
| 8 | 5 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 7 | 4 | | 13 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 宿泊なし |
| 9 | 5 | 1 | 森林総合研究所 | 2 | | 1 (1) | | 3 (1) | マルチセンサを用いた天然林の持続的管理のためモニタリング手法の開発 | 日帰り |
| 10 | 5 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 2 | 2 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 11 | 5 | 1 | 北海道大学苫小牧研究林 | 1 | | 1 | | 2 | 池の生物間相互作用の空間変異に関する研究のための下見 | 日帰り |
| 12 | 5 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 1 | 3 | | 5 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 13 | 5 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 23 | 23 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 14 | 5 | 7 | 北海道地方環境事務所 | 21 | | | 35 | 56 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | 宿泊なし |
| 15 | 5 | 3 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 3 | | | 3 | 6 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 宿泊なし |
| 16 | 5 | 1 | 東京大学北海道演習林 | | | | 36 | 36 | 神社山自然観察路春季一般公開 | 日帰り |
| 17 | 6 | 30 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 30 (30) | | 30 (30) | 樹木に寄生するアンブロシアキクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 18 | 6 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 3 | | | | 3 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 19 | 6 | 5 | 金沢大学理工研究域電子情報学系 | 5 | | | | 5 | 葉食性昆虫カラマツアカハラバチの食害量推定 | 山部宿泊施設 |
| 20 | 6 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 1 | | | 1 | 2 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 21 | 6 | 1 | 森林総合研究所北海道支所 | 1 | | | | 1 | 葉樹更新初期に顕在化する近交弱勢遺伝子のゲノムワイド探索 | 日帰り |
| 22 | 6 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 12 | 12 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 23 | 6 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 7 | 4 | | 13 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 山部宿泊施設 |
| 24 | 6 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 1 | | | 1 | 2 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 25 | 6 | 2 | 東京大学樹芸研究所 | 2 | | | | 2 | エゾマツの立ち枯れ病等の病害防除に関する研究 | 宿泊なし |
| 26 | 6 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 1 | 3 | | 5 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 27 | 6 | 1 | 上川総合振興局南部森林室 | 8 | | | 10 | 18 | 指導林家連絡協議会現地研修 | 日帰り |
| 28 | 6 | 1 | 富良野市立東山保育所 | | | | 58 | 58 | 春の遠足 | 日帰り |
| 29 | 6 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 1 | | | 2 | 3 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 30 | 6 | 1 | NPO法人 トカブチの森 | | | | 8 | 8 | 演習林内見学 | 日帰り |
| 31 | 6 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 1 | | | 1 | 2 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 32 | 6 | 1 | 東京大学北海道演習林 | 12 | | | 36 | 48 | 公開セミナー | 日帰り |
| 33 | 6 | 1 | 北海道新聞社富良野支局 | | | | 1 | 1 | 公開セミナー同行取材 | 日帰り |
| 34 | 6 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 2 | 2 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 35 | 6 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 14 | 14 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |

2016年度 全利用者 北海道演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|---------------------------|-----|----|------------|------------|------------|--|----------|
| 36 | 6 | 8 | 北海道大学地球環境科学院 | 8 | | 40 (8) | | 48 (8) | 富良野地方におけるサケ科魚類の保全生態学的研究 | 山部宿泊施設 |
| 37 | 6 | 2 | 東京大学樹芸研究所 | 2 | | | | 2 | エゾマツの立ち枯れ病等の病害防除に関する研究 | 宿泊なし |
| 38 | 6 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 11 | 11 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 39 | 6 | 1 | 有限会社藤原造林 | | | | 15 | 15 | 天然林施業の見学 | 日帰り |
| 40 | 6 | 1 | 東京大学農学生命科学研究科森林利用学 | 1 | | | | 1 | 天然林施業の見学 | 日帰り |
| 41 | 6 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 1 | 3 | | 5 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 42 | 7 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 樹木に寄生するアンブロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 43 | 7 | 1 | 北海道大学地球環境科学院 | 1 | | 5 (1) | | 6 (1) | 富良野地方におけるサケ科魚類の保全生態学的研究 | 山部宿泊施設 |
| 44 | 7 | 5 | 公益財団法人国際緑化推進センター | | | | 88 (65) | 88 (65) | バイオマス破壊調査(JICA研修) | セミナーハウス |
| 45 | 7 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 16 | 4 | | 22 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 46 | 7 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 8 | 8 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 47 | 7 | 1 | 帯広市野草園運営委員会 | | | | 14 | 14 | 植物観察及び森林資料館見学 | 日帰り |
| 48 | 7 | 18 | 東京大学演習林教育研究センター | | | | 18 (18) | 18 (18) | 葉食性昆虫カラマツアカハラバチの個体群動態の時空間解析 | 山部宿泊施設 |
| 49 | 7 | 5 | 金沢大学理工研究域電子情報学系 | 5 | | | | 5 | 葉食性昆虫カラマツアカハラバチの食害量推定 | 山部宿泊施設 |
| 50 | 7 | 24 | トロント大学 | | | 24 (24) | | 24 (24) | 森林保全学インターンシップ | 山部宿泊施設 |
| 51 | 7 | 2 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 8 | | 2 | 4 | 14 | 森林学習プログラム推進事業 | 宿泊なし |
| 52 | 7 | 1 | 東京大学北海道演習林 | | | 1 | 25 | 26 | 大麓山ハイキング登山会 | 日帰り |
| 53 | 7 | 1 | 森を歩く会 | | | | 12 | 12 | 北海道天然林の見学及び樹木と林床植物の観察 | 日帰り |
| 54 | 7 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | | 2 | | 3 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 55 | 7 | 3 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 9 | 3 | | 6 | 18 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 56 | 7 | 2 | 北海道大学苫小牧研究林 | 2 | | 6 (2) | | 8 (2) | エゾサンショウウオ幼生による陸上性無脊椎動物の利用に関する研究 | 山部宿泊施設 |
| 57 | 7 | 3 | 東京大学森林科学専攻森林動物学研究室 | | | 3 | | 3 | 雑食者トゲマダラゲロウ属の体色斑による陰蔽効果と溪流食物網における役割の解明 | 山部宿泊施設 |
| 58 | 7 | 1 | 帯広の森づくり協議会 | | | | 18 | 18 | 林分施業法とGISデータベースの管理について | 日帰り |
| 59 | 7 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | | 2 | | 3 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 60 | 7 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 24 | 24 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 61 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 2 | | 2 | 房総半島に隔離分布するアサダの保全遺伝 | 日帰り |
| 62 | 7 | 2 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 4 | 4 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 宿泊なし |
| 63 | 7 | 3 | 東京大学北海道演習林 | 3 | | 9 (3) | | 12 (3) | 持続的森林圏経営論 | セミナーハウス |
| 64 | 7 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | | 2 | | 3 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 65 | 7 | 1 | 北海道応用地質研究会 | | | | 12 | 12 | 現地検討会 | 日帰り |
| 66 | 7 | 1 | 積水化学工業株式会社 | | | | 6 | 6 | 里親樹木の見学 | 山部宿泊施設 |
| 67 | 7 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 10 | 10 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 68 | 7 | 1 | 北海道大学森林圏北管理部 | 3 | | | | 3 | 苗圃での育苗作業見学 | 日帰り |
| 69 | 7 | 1 | 富良野市東部第一町内連合会 | | | | 19 | 19 | 林内見学(サロン活動) | 日帰り |
| 70 | 8 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 樹木に寄生するアンブロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |

2016年度 全利用者 北海道演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|------------------------|------------|----|------------|----------|------------|---|----------|
| 71 | 8 | 26 | トロント大学 | | | 26 (26) | | 26 (26) | 森林保全学インターンシップ | 山部宿泊施設 |
| 72 | 8 | 3 | 北海道札幌啓成高等学校 | 6 | | | 57 | 63 | 北海道札幌啓成高等学校SSH道内研修B(自然環境) | セミナーハウス |
| 73 | 8 | 7 | 東京大学教養学部 | | 7 | | | 7 | 東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」 | 山部宿泊施設 |
| 74 | 8 | 1 | 個人 | | | | 6 | 6 | 森林見学・里親木面会 | 日帰り |
| 75 | 8 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 6 | 4 | | 12 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 山部宿泊施設 |
| 76 | 8 | 5 | 金沢大学理工研究域電子情報学系 | 5 | | | | 5 | 葉食性昆虫カラマツアカハラバチの食害量推定 | 山部宿泊施設 |
| 77 | 8 | 4 | 東京大学樹芸研究所 | 8 | 56 | | | 64 | 全学体験ゼミ「森に学ぶ(ふらの)」 | 山部宿泊施設 |
| 78 | 8 | 2 | 北海道札幌啓成高等学校 | 22 | | | | 22 | 北海道札幌啓成高等学校SSH道内研修B(自然環境) | セミナーハウス |
| 79 | 8 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 3 | | | | 3 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 80 | 8 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 4 | | | | 4 | 温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価 | 日帰り |
| 81 | 8 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 1 | 2 | | 4 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 82 | 8 | 1 | 朝日カルチャーセンター | | | | 28 | 28 | 朝日野の花会 | 日帰り |
| 83 | 8 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 1 | | | 1 | 2 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 84 | 8 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 1 | 1 | | | 2 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 85 | 8 | 1 | 北海道帯広農業高等学校 | 3 | | | 40 | 43 | 帯広農業高校 森林科学科1年 見学 | 日帰り |
| 86 | 8 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 1 | 2 | | 4 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 87 | 8 | 3 | 北海商科大学商学部 | 21 | | 6 | 12 | 39 | アメリカ政治史研究富良野合宿 | 日帰り |
| 88 | 8 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 2 | | | 4 | 6 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 89 | 8 | 1 | 金沢大学理工研究域電子情報学系 | 1 | | | | 1 | 葉食性昆虫カラマツアカハラバチの食害量推定 | 日帰り |
| 90 | 9 | 1 | 東京大学新領域創成科学研究科 | 1 | | | 8 | 9 | 東京大学ワンダーフォーゲル部OB会 | 日帰り |
| 91 | 9 | 30 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 30 (30) | | 30 (30) | 樹木に寄生するアンブロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 92 | 9 | 1 | 北海商科大学商学部 | 7 | | 2 | 4 | 13 | アメリカ政治史研究富良野合宿 | 日帰り |
| 93 | 9 | 3 | 金沢大学理工研究域電子情報学系 | 3 | | | | 3 | 葉食性昆虫カラマツアカハラバチの食害量推定 | 日帰り |
| 94 | 9 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | 4 | 76 | 24 | 4 (4) | 108 (4) | 森林科学総合実習 | セミナーハウス |
| 95 | 9 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | | 3 | | 4 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 96 | 9 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 111 | 111 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 97 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | | | 1 | | 1 | こけ共生シアノバクテリアの窒素固定能と分布に関する研究 | 日帰り |
| 98 | 9 | 1 | 北海道新聞社富良野支局 | | | | 1 | 1 | 富良野市森林学習プログラム富良野小学校試行の同行取材 | 日帰り |
| 99 | 9 | 1 | 同志社女子大学現代社会学部 | 1 | 8 | | 1 | 10 | インターンシップ2 | 日帰り |
| 100 | 9 | 1 | 森林フォーラムの会 | | | | 18 | 18 | 森林フォーラムの会視察研修会 | 日帰り |
| 101 | 9 | 1 | 株式会社森林再生システム | | | | 1 | 1 | 森林3次元計測システムの計測デモ | 日帰り |
| 102 | 9 | 2 | NPO木の建築フォーラム | 2 | | | 22 | 24 | NPO木の建築フォーラム社会教育事業見学会 | セミナーハウス |
| 103 | 9 | 4 | 東京大学新領域創成科学研究科 | 12 | | 40 | | 52 | 陸域生態学実習 | セミナーハウス |
| 104 | 9 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 1 | 2 | | 4 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 105 | 9 | 5 | 京都大学総合博物館 | 20 (10) | 5 | 10 (5) | | 35 (15) | 北海道の森林に生息する小型哺乳類及び両生は虫類の調査方法実習 | 山部長期宿泊施設 |
| 106 | 9 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | | 1 | | 2 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |

2016年度 全利用者 北海道演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|------------------------|------------|------------|------------|------------|-------------|---|----------|
| 107 | 9 | 5 | 東京大学演習林教育研究センター | 5 | | | | 5 | 北海道演習林災害復旧業務支援 | 山部宿泊施設 |
| 108 | 9 | 2 | 北海道大学農学研究院造林学研究室 | 34 (22) | | 10 (6) | 2 (2) | 46 (30) | モミ属の生態・施業に関するIUFRO国際会議ポストコンファレンスツアー | セミナーハウス |
| 109 | 9 | 1 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | | | | 10 | 10 | 森林学習プログラム推進事業 | 山部宿泊施設 |
| 110 | 9 | 3 | 森林総合研究所北海道支所 | 6 | | | | 6 | マルチセンサを用いた天然林の持続的管理のためモニタリング手法の開発 | 山部宿泊施設 |
| 111 | 9 | 1 | 一般社団法人北海道総合研究調査会 | | | | 6 (4) | 6 (4) | JICA キルギス国林産品による地方ビジネス開発プロジェクト | 日帰り |
| 112 | 9 | 1 | 伝統工芸木炭技術保存会 | | | | 2 | 2 | 伝統工芸素材、伝統工芸研磨用木炭に使用するホウノキに関する調査 | 日帰り |
| 113 | 9 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | | 2 | | 3 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 114 | 10 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 樹木に寄生するアンブロシアキクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 115 | 10 | 9 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 31 | | | 31 | 62 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 116 | 10 | 1 | 東京大学北海道演習林 | | | | 22 | 22 | 神社山自然観察路秋季一般公開 | 日帰り |
| 117 | 10 | 1 | 北海道新聞社富良野支局 | | | | 1 | 1 | 神社山自然観察路秋季一般公開の取材 | 日帰り |
| 118 | 10 | 2 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 2 | 8 | 4 | | 14 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 山部宿泊施設 |
| 119 | 10 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 2 | 2 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 120 | 10 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 | 5 | | | | 5 | こけ共生シアノバクテリアの窒素固定能と分布に関する研究 | 山部宿泊施設 |
| 121 | 10 | 1 | 北海道国際交流・協力総合センター | | | | 11 (9) | 11 (9) | JICA研修「認証制度やブランド化を通じた森林資源の総合利用による地域振興」コース | 日帰り |
| 122 | 10 | 1 | 海外林業コンサルタンツ協会 | | | | 18 (16) | 18 (16) | 地域住民の参加による多様な森林保全(JICA研修) | 日帰り |
| 123 | 10 | 26 | 東京大学演習林教育研究センター | | 28 (26) | 6 (6) | | 26 (26) | 森林生態系への窒素負荷が昆虫群集に及ぼす影響の解明 | 山部宿泊施設 |
| 124 | 10 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価 | 日帰り |
| 125 | 10 | 2 | 株式会社森林環境リアイズ | | | | 12 | 12 | 森林生態系多様性基礎調査 | 宿泊なし |
| 126 | 10 | 2 | 東京大学富士癒しの森研究所 | 2 | | | | 2 | 圧倒的原始林ライブ配信・アーカイブが持つ国際的エンターテインメント価値の実証 | 宿泊なし |
| 127 | 10 | 3 | 東京大学北海道演習林 | 86 (56) | 28 (28) | 6 (6) | | 120 (90) | 第7回アジア大学演習林コンソーシアム国際シンポジウム | セミナーハウス |
| 128 | 10 | 6 | 東京大学千葉演習林 | 6 | | | | 6 | 北海道演習林災害復旧業務支援 | 宿泊なし |
| 129 | 10 | 1 | 住友林業株式会社 | | | | 8 | 8 | 北海道に生息する有用樹種の育成とその育成環境について | 日帰り |
| 130 | 10 | 1 | 帯広畜産大学生命科学研究部門 | 1 | 1 | 2 | | 4 | 北海道の広葉樹林におけるエゾモモンガの生態学的研究 | 日帰り |
| 131 | 10 | 4 | 東京大学新領域創成科学研究科 | 8 | | | | 8 | 圧倒的原始林ライブ配信・アーカイブが持つ国際的エンターテインメント価値の実証 | 日帰り |
| 132 | 10 | 11 | 北海道大学地球環境科学院 | | 3 | 22 | | 25 | 富良野地方におけるサケ科魚類の保全生態学的研究 | 山部宿泊施設 |
| 133 | 10 | 1 | 酪農学園とわの森三愛高校 | 2 | | | 12 | 14 | 道内研修 | 日帰り |
| 134 | 10 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 3 | 3 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 135 | 10 | 2 | 森林総合研究所北海道支所 | 2 | | | | 2 | マルチセンサを用いた天然林の持続的管理のためモニタリング手法の開発 | 山部宿泊施設 |
| 136 | 10 | 1 | NPO法人 森の生活 | | | | 5 | 5 | 天然林施業研修会 | 日帰り |
| 137 | 10 | 1 | 東京大学北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 択伐天然林の更新を補助するための精密植栽技術の開発 | 日帰り |
| 138 | 11 | 30 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 30 (30) | | 30 (30) | 樹木に寄生するアンブロシアキクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 139 | 11 | 30 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 30 (30) | | 30 (30) | 森林生態系への窒素負荷が昆虫群集に及ぼす影響の解明 | 山部宿泊施設 |
| 140 | 11 | 2 | 北海道富良野高等学校 | | | | 2 | 2 | 1年次インターンシップ | 宿泊なし |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|----------------------------|------------|-----|------------|-----|------------|--|----------|
| 141 | 11 | 3 | 金沢大学理工研究域電子情報学系 | 6 | | | | 6 | 葉食性昆虫カラマツアカハラバチの食害量推定 | 山部宿泊施設 |
| 142 | 11 | 2 | 北海道森林管理局 | 10 | | | | 10 | 森林資源調査に関する資料の確認 | 日帰り |
| 143 | 11 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 2 | | | 1 | 3 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 144 | 11 | 2 | 北海道森林管理局 | 16 | | | | 16 | 森林資源調査に関する資料の確認 | 宿泊なし |
| 145 | 11 | 1 | 北海道立総合研究機構林業試験場 | | | | 2 | 2 | 食葉性昆虫の大規模食害による樹木の応答ー成長と木質形成への影響ー | 日帰り |
| 146 | 12 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 樹木に寄生するアンブロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 147 | 12 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 森林生態系への窒素負荷が昆虫群集に及ぼす影響の解明 | 山部宿泊施設 |
| 148 | 12 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | | | | 3 | UAVを使った大型野生哺乳類の直接観察による個体数カウント手法の開発 | 山部宿泊施設 |
| 149 | 12 | 14 | カセサート大学 | 42 | | | | 42 | タイ山岳地帯におけるクイムシ類群集と樹木の関係の解析 | 山部宿泊施設 |
| 150 | 12 | 1 | 北海道立総合研究機構林業試験場 | 1 | | | | 1 | 食葉性昆虫の大規模食害による樹木の応答ー成長と木質形成への影響ー | 日帰り |
| 151 | 12 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 2 | | | 1 | 3 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 山部宿泊施設 |
| 152 | 1 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 樹木に寄生するアンブロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 153 | 1 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 森林生態系への窒素負荷が昆虫群集に及ぼす影響の解明 | 山部宿泊施設 |
| 154 | 1 | 17 | カセサート大学 | 51 (51) | | | | 51 (51) | タイ山岳地帯におけるクイムシ類群集と樹木の関係の解析 | 山部宿泊施設 |
| 155 | 1 | 1 | 帯広畜産大学地域環境学研究部門 | 1 | | | | 1 | 樹木の耐凍性に関する研究 | 日帰り |
| 156 | 1 | 2 | 東京大学樹芸研究所 | 2 | | | | 2 | 環境安全管理に関する意見交換 | 山部宿泊施設 |
| 157 | 1 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 2 | | | 1 | 3 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 158 | 1 | 1 | 森林総合研究所 | 1 | | | | 1 | カバノキ類の着花量・開花時期に関する研究調査 | 日帰り |
| 159 | 1 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科国際農業開発学コース | | | 3 (3) | | 3 (3) | forest complexity analysis using airborne LiDAR and UAV-based aerial photography | 山部宿泊施設 |
| 160 | 1 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | 2 | | | 1 | 3 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 161 | 2 | 28 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 28 (28) | | 28 (28) | 樹木に寄生するアンブロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |
| 162 | 2 | 28 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 28 (28) | | 28 (28) | 森林生態系への窒素負荷が昆虫群集に及ぼす影響の解明 | 山部宿泊施設 |
| 163 | 2 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 3 | 3 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 164 | 2 | 2 | 森林総合研究所北海道支所 | 2 | | | | 2 | マルチセンサを用いた天然林の持続的管理のためモニタリング手法の開発 | 山部宿泊施設 |
| 165 | 2 | 3 | 東京大学樹芸研究所 | 3 | | | | 3 | 林況調査における測量手法の習得 | 山部宿泊施設 |
| 166 | 2 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 3 | 3 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 167 | 2 | 2 | 東京大学演習林教育研究センター | 2 | | | | 2 | 気候変動の影響緩和を目指した北方針葉樹の環境適応ゲノミクス | 山部宿泊施設 |
| 168 | 2 | 2 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 1 | | | 11 | 12 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 169 | 2 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生態調和農学機構 | 9 (3) | | | | 9 (3) | 北海道演習林でのUAV利用について、紹介と情報交換 | 山部宿泊施設 |
| 170 | 2 | 2 | 東京大学演習林教育研究センター | 2 | | | | 2 | UAVを使った大型野生哺乳類の直接観察による個体数カウント手法の開発 | 山部宿泊施設 |
| 171 | 2 | 3 | 東京大学北海道演習林 | | 111 | | | 111 | 教養学部全学体験ゼミナール 雪の森林に学ぶ | セミナーハウス |
| 172 | 2 | 1 | 北海道立総合研究機構林業試験場 | 2 | | | | 2 | 千島系・樺太系グイマツの系統的ルーツの解明と育種利用の評価 | 日帰り |
| 173 | 2 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 4 | 4 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 174 | 2 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | H29年度林道修繕計画打合せ | 山部宿泊施設 |
| 175 | 3 | 14 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 14 (14) | | 14 (14) | 樹木に寄生するアンブロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部長期宿泊施設 |

2016年度 全利用者 北海道演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|----------------------------|-----|----|------------|----------|------------|--|--------|
| 176 | 3 | 31 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 31 (31) | | 31 (31) | 森林生態系への窒素負荷が昆虫群集に及ぼす影響の解明 | 山部宿泊施設 |
| 177 | 3 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | H29年度林道修繕計画打合せ | 山部宿泊施設 |
| 178 | 3 | 14 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 14 (14) | | 14 (14) | 樹木に寄生するアンプロシアクイムシ類の攻撃性に関する研究 | 山部宿泊施設 |
| 179 | 3 | 3 | 森林総合研究所北海道支所 | | | | 6 (3) | 6 (3) | オニグルミの材色決定要因の解明 | 山部宿泊施設 |
| 180 | 3 | 2 | 富良野市教育委員会生涯学習センター | 1 | | | 13 | 14 | 森林学習プログラム推進事業 | 日帰り |
| 181 | 3 | 3 | 同志社大学生命医科学部 | 6 | 3 | | | 9 | 野生コウモリの超音波ナビゲーション戦略の解明 | 山部宿泊施設 |
| 182 | 3 | 18 | 東京大学大学院農学生命科学研究科国際農業開発学コース | | | 18 (18) | | 18 (18) | forest complexity analysis using airborne LiDAR and UAV-based aerial photography | 山部宿泊施設 |
| 183 | 3 | 2 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 10 | 10 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 184 | 3 | 1 | 北海道地方環境事務所 | | | | 2 | 2 | 猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守 | 日帰り |
| 185 | 3 | 1 | 株式会社ルーラルエンジニア札幌支店 | | | | 4 | 4 | 富良野地区における猛禽類生息状況調査 | 日帰り |
| 186 | 3 | 1 | 東京大学大学院人文社会系研究科 | 1 | | | | 1 | 事務着任のため事務打合せ | 山部宿泊施設 |

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 2901

利用件数 186

演習林名:秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--------------------------------|-----|----|----|-----|---|--|--------|
| 1 | 4 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性 | 日帰り |
| 2 | 4 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 6 | 6 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベース構築(第3期) | 川俣自炊宿舎 |
| 3 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | | | | 1 | ミズナラ結実動態研究 | 日帰り |
| 4 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | | | | 1 | ミズナラ結実動態研究 | 日帰り |
| 5 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 2 | | | | 2 | ミズナラ結実動態研究/鳥類群集の長期動態等 | テント・幕営 |
| 6 | 4 | 1 | 埼玉県水産研究所 | 5 | | | | 5 | 在来魚の精子を導入したヤマメ放流用種苗の開発 | 日帰り |
| 7 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | 1 | | 2 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 8 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 9 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 自動撮影カメラのメディア交換とメンテナンス | 日帰り |
| 10 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | リターおよびシードトラップ落下物試料確認とデータとりまとめ | 日帰り |
| 11 | 4 | 1 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 1 | | | | 1 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 日帰り |
| 12 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 13 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 1 | | | 1 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 日帰り |
| 14 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | 1 | 2 | | 4 | ニホンジカが森林の生物多様性と生態系機能に及ぼす影響に関する調査下見 | 日帰り |
| 15 | 4 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 6 | | | | 6 | 茶の山間冷涼地育種 | 日帰り |
| 16 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | 1 | | 1 | | 2 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割 | 日帰り |
| 17 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割 | 日帰り |
| 18 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | リターおよびシードトラップ落下物試料確認とデータとりまとめ | 日帰り |
| 19 | 4 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 2 | | | | 2 | オープンデータの回収, ミヤマスカシユリの確認 | 日帰り |
| 20 | 4 | 7 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 7 | | 7 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 21 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明 | 日帰り |
| 22 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | | | | 1 | ミズナラ結実動態研究/鳥類群集の長期動態等 | 日帰り |
| 23 | 5 | 1 | 日本女子大学 理学部物質生物科学科 | 1 | 2 | | | 3 | シダ植物カラクサシダ配偶体の成長動態解析及び微環境の長期モニタリング | 日帰り |
| 24 | 5 | 2 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | 2 | | | | 2 | モニタリングサイト1000鳥類調査 | 川俣自炊宿舎 |
| 25 | 5 | 3 | 東京大学農学部 | 2 | 3 | | | 5 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 26 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割 | 日帰り |
| 27 | 5 | 2 | 横浜国立大学大学院環境情報学府 | 2 | | 6 | | 8 | カエデの微地形分布 | 川俣自炊宿舎 |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--------------------------------|-----|----|----|-----|----|--|--------------|
| 28 | 5 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性 | 日帰り |
| 29 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 8 | 52 | | | 60 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」 | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 30 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 自動撮影カメラのメディア交換とメンテナンス | 日帰り |
| 31 | 5 | 4 | 東京女子大学 数理科学科情報理学専攻 | 4 | 4 | | | 8 | シカの採食圧が小型哺乳類に及ぼす影響 | 外部宿泊 |
| 32 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | | | | 4 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」下見 | 影森自炊宿舎 |
| 33 | 5 | 1 | 埼玉県水産研究所 | 5 | | | | 5 | 在来魚の精子を導入したヤマメ放流用種苗の開発 | 日帰り |
| 34 | 5 | 2 | 埼玉県昆虫談話会 | | | | 6 | 6 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベース構築(第3期) | 栃本自炊宿舎 |
| 35 | 5 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 3 | | 3 | 実験室利用のガイダンスと基礎的な分子生物学実験の指導 | 影森自炊宿舎 |
| 36 | 5 | 1 | 埼玉県立川の博物館 | 1 | | | | 1 | 埼玉県絶滅危惧動物生息確認調査(対象種:タゴガエル) | 日帰り |
| 37 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 2 | | 2 | 実験室利用のガイダンスと基礎的な分子生物学実験の指導 | 影森自炊宿舎 |
| 38 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 2 | | 2 | 実験室利用のガイダンスと基礎的な分子生物学実験の指導 | 影森自炊宿舎 |
| 39 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | | | | 1 | ミズナラ結実動態研究/鳥類群集の長期動態等 | 日帰り |
| 40 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 2 | | | | 2 | ミズナラ結実動態研究/鳥類群集の長期動態等 | テント・幕営 |
| 41 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 11 | | | 11 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」現地講義 | 日帰り |
| 42 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 43 | 5 | 1 | 職業能力開発短期大学校東京建築カレッジ | 10 | | | 23 | 33 | 地域住宅研修(樹木園の見学) | 日帰り |
| 44 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | | 18 | 18 | ガイドツアー「演習林の試験地見学」 | 日帰り |
| 45 | 5 | 2 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 2 | | | 2 | 4 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 影森自炊宿舎 |
| 46 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | 1 | | | 2 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 47 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 2 | 2 | | | 4 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 栃本自炊宿舎 |
| 48 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 1 | | 1 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 49 | 5 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | 3 | | | | 3 | ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環利用システム技術の確立 | 日帰り |
| 50 | 5 | 14 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 14 | | 14 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 51 | 6 | 2 | 東京大学農学部 | | 2 | | | 2 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 52 | 6 | 3 | 東京大学農学部 | | 3 | | | 3 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 53 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 自動撮影カメラのメディア交換とメンテナンス | 日帰り |
| 54 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 22 | | | 22 | 全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」現地講義 | 外部宿泊 |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--|----------|----|----|-----|----------|--|------------------|
| 55 | 6 | 2 | 特定非営利活動法人 バードリサーチ | 2 | | | | 2 | モニタリングサイト1000鳥類調査 | 川俣自炊宿舎 |
| 56 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレスト のための現地情報記録転送システム の開発と運用試験 | 日帰り |
| 57 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレスト のための現地情報記録転送システム の開発と運用試験 | 日帰り |
| 58 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 59 | 6 | 6 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | | | 6 | | 6 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を 通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 60 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科造林学研究室 | 3 | 6 | | | 9 | 森林土壌学実験 | 川俣学生宿舎 (食事あり) |
| 61 | 6 | 2 | 横浜国立大学大学院環境 情報学府 | 2 | | 2 | | 4 | カエデの微地形分布 | 川俣自炊宿舎 |
| 62 | 6 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 8 | 8 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相 データベース構築(第3期) | 川俣学生宿舎 (自炊泊) |
| 63 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科森林利用学研 究室 | 1 | | | | 1 | 森林土壌学実習下見 | 日帰り |
| 64 | 6 | 1 | 東京大学大学院新領域創 成科学研究科 | 6 (2) | | 1 | | 7 (2) | サイバーフォレスト景観モニタリング | 日帰り |
| 65 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | 1 | | | | 1 | シカ植食圧による不嗜好性植物の急速 な適応進化に関する調査地下見 | 日帰り |
| 66 | 6 | 1 | 三峯山博物館 | | | | 2 | 2 | 野生動物調査 | 日帰り |
| 67 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 68 | 6 | 1 | 新潟大学農学部附属フィ ールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性 | 日帰り |
| 69 | 6 | 2 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 4 | | | | 4 | ニホンジカによる森林植生への影響 評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 70 | 6 | 1 | 東京大学大学院新領域創 成科学研究科自然環境学 専攻 | 1 | | 1 | | 2 | ハクビシンの生態調査 | 日帰り |
| 71 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | 2 | | | | 2 | ササ類の衰退と回復に関する生態遺伝 学的解析 | 日帰り |
| 72 | 6 | 4 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | | 4 | | | 4 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動 態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 73 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | | 2 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動 態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 74 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | 6 | 12 | 3 | | 21 | シカによる植生衰退がリター分解と栄 養塩循環に及ぼす影響 | 川俣学生宿舎 (自炊泊) |
| 75 | 6 | 1 | 三峯山博物館 | | | | 1 | 1 | 野生動物調査 | |
| 76 | 6 | 1 | 埼玉県水産研究所 | 5 | | | | 5 | 在来魚の精子を導入したヤマメ放流用 種苗の開発 | 日帰り |
| 77 | 6 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 6 | | | | 6 | 茶の山間冷涼地育種 | 日帰り |
| 78 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 79 | 6 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | 2 | | | | 2 | 鳥類標識調査 | テント・幕営 |
| 80 | 6 | 1 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 2 | | | | 2 | オゾンデータの回収, 調査用アサガオ の移植, ミヤマスカシユリの確認 | 日帰り |
| 81 | 6 | 1 | 埼玉県寄居居林業事務所 | 3 | | | | 3 | ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環 利用システム技術の確立 | 日帰り |
| 82 | 6 | 1 | 特定非営利活動法人 バードリサーチ | 1 | | | | 1 | モニタリングサイト1000鳥類調査 | 日帰り |
| 83 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 84 | 6 | 2 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 3 | | | | 3 | ニホンジカによる森林植生への影響 評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|---|----------|----|------------|------|------------|---|------------------|
| 85 | 6 | 1 | 東京女子大学 数理科学 科情報理学専攻 | 1 | | | | 1 | シカの採食圧が小型哺乳類に及ぼす 影響 | 日帰り |
| 86 | 6 | 10 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 10 | | 10 | シカによる植生衰退がリター分解と栄 養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 87 | 7 | 1 | 埼玉県立秩父農工科学高 等学校 | 2 | 41 | | | 43 | 樹木採集実習 | 日帰り |
| 88 | 7 | 3 | 東京大学農学部 | | 3 | | | 3 | 山地河川における洪水流出の実態解 明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 89 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレス トのための現地情報記録転送システ ムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 90 | 7 | 1 | 東北大学川渡フィールドセ ンター | | | | 46 | 46 | 秩父演習林における変形菌類相の解 明 | |
| 91 | 7 | 1 | 三峯山博物館 | | | | 2 | 2 | 野生動物調査 | 日帰り |
| 92 | 7 | 1 | (一社)秩父観光協会大滝 支部 | | | | 1032 | 1032 | 入川渓谷ハイキング(秩父トレイルハイ キング) | 日帰り |
| 93 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科森林動物学研 究室 | 1 (1) | | 2 (1) | 1 | 4 (2) | 「森林昆虫-共生微生物の共進化と温 度反応及び気候変動から予測される動 態予測」の研究のためのデータ抽出と サンプル採集 | 日帰り |
| 94 | 7 | 1 | 新潟大学農学部附属フィ ールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性 | 日帰り |
| 95 | 7 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | 6 | 33 | 6 | | 45 | 森林植物学実験の野外実習 | 川俣学生宿舎 (食事あり) |
| 96 | 7 | 1 | 埼玉森林管理事務所 | 29 | | | | 29 | 会議 | 日帰り |
| 97 | 7 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | 3 | 15 | 3 | | 21 | シカによる植生衰退がリター分解と栄 養塩循環に及ぼす影響 | 栃本自炊宿舎 |
| 98 | 7 | 1 | 千葉大学園芸学部緑地環 境学科 | 1 | | 1 | 1 | 3 | 都市化が緑地生態系に及ぼす影響に 関する研究 | 日帰り |
| 99 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | | | 2 | | 2 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を 通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 100 | 7 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 12 | 12 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相 データベース構築(第3期) | 川俣自炊宿舎 |
| 101 | 7 | 1 | 東京大学 空間情報科学 研究センター | 1 | | | | 1 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄 塔に関する機材設置作業他 | 日帰り |
| 102 | 7 | 1 | 東京大学大学院新領域創 成科学研究科自然環境学 専攻 | | | 1 | | 1 | 落葉広葉樹の紅葉日の将来変動予測 に関する研究 | 日帰り |
| 103 | 7 | 16 | Graduate School of Environment Engineering and Water Resource | | | 16 (16) | | 16 (16) | 山地・森林流域保全に関するインター ンシップ | 影森自炊宿舎 |
| 104 | 7 | 3 | 秩父市立秩父第一中学校 | | 12 | | | 12 | 職場体験 | 日帰り |
| 105 | 7 | 1 | 埼玉県立自然の博物館 | 1 | | | | 1 | 埼玉県秩父地域産カマアシムシ科カマ アシムシ類の分類と生物地理 | 日帰り |
| 106 | 7 | 1 | 埼玉県立自然の博物館 | 1 | | | | 1 | 埼玉県秩父地域産カマアシムシ科カマ アシムシ類の分類と生物地理 | 日帰り |
| 107 | 7 | 1 | 首都大学東京 理工学研究 科 生命科学専攻 | 1 | | 1 | | 2 | 研究調査地の下見(湿生攪乱環境下 における植物群集の動態解析) | 日帰り |
| 108 | 7 | 4 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科森林利用学研 究室 | 6 | 10 | | | 16 | 森林土壌学実習 | 川俣学生宿舎 (食事あり) |
| 109 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林企 画部 | 1 | | | | 1 | 自動撮影カメラの撤去 | 日帰り |
| 110 | 7 | 5 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 5 | | 5 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 111 | 7 | 1 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 1 | | | | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響 評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 112 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林北 海道演習林 | 1 | | | | 1 | 東京大学演習林における同齡林と異 齡林を対象とした長期固定試験地の林 分成長測定 | 日帰り |
| 113 | 7 | 1 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 1 | | 2 | | 3 | アサガオ及びミヤマスカシユリの確認 | 日帰り |
| 114 | 7 | 1 | 日本女子大学 理学部物 質生物科学科 | | 2 | | | 2 | シダ植物カラクサシダ配偶体の成長動 態解析及び微環境の長期モニタリング | 日帰り |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|------------------------------------|-----|----|----|-----|----|--|--------------|
| 115 | 7 | 1 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 1 | | 1 | | 2 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 日帰り |
| 116 | 7 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 19 | | 68 | | 87 | フィールド科学総論 | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 117 | 7 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | 3 | | | | 3 | ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環利用システム技術の確立 | 日帰り |
| 118 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 2 | | | | 2 | 鳥類標識調査 | テント・幕営 |
| 119 | 7 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 5 | | 5 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 120 | 7 | 13 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 13 | | 13 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 121 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 122 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 123 | 8 | 4 | 首都大学東京 理工学研究科 生命科学専攻 | 4 | 68 | 8 | | 80 | 動物系統学野外実習 | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 124 | 8 | 2 | 国立歴史民俗博物館 | 8 | | | | 8 | 林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可能性 | 川俣自炊宿舎 |
| 125 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 126 | 8 | 1 | 埼玉県水産研究所 | 5 | | | | 5 | 在来魚の精子を導入したヤマメ放流用種苗の開発 | 日帰り |
| 127 | 8 | 2 | 東京都立淵江高等学校 | 10 | 44 | | | 54 | 毎木調査の体験、水生生物調査体験 | 外部宿泊 |
| 128 | 8 | 1 | 日本女子大学 理学部物質生物科学科 | | 1 | 1 | | 2 | シダ植物配偶体の形態進化と菌共生 | 日帰り |
| 129 | 8 | 1 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 1 | | 3 | 1 | 5 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 日帰り |
| 130 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 2 | | | | 2 | ヒダナ沢原生林固定試験地調査区の下見 | テント・幕営 |
| 131 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | リターおよびシードトラップ落下物試料確認とデータとりまとめ | 日帰り |
| 132 | 8 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性 | 日帰り |
| 133 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | 1 | | 2 | | 3 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割・アサダの保全遺伝 | 日帰り |
| 134 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 3 | | | 3 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 135 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 利用促進チーム | 2 | | | 34 | 36 | 公開講座「東大の森で昆虫採集」 | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 136 | 8 | 1 | 日本大学生物資源科学部 | 1 | 5 | | | 6 | 溪畔林調査地の現地確認 | 日帰り |
| 137 | 8 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 5 | | | | 5 | 茶の山間冷涼地育種 | 日帰り |
| 138 | 8 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 5 | | 5 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 139 | 8 | 4 | 立正大学地球環境科学部 | 4 | 56 | 8 | 12 | 80 | 秩父地域における地球化学図の制作 | 外部宿泊 |
| 140 | 8 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 2 | | | | 2 | オゾンデータ回収, アサガオ被害調査, ミヤマスカシユリの確認 | 日帰り |
| 141 | 8 | 2 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 2 | | | | 2 | サイバーフォレスト景観モニタリング | テント・幕営 |
| 142 | 8 | 1 | 日本女子大学 理学部物質生物科学科 | 2 | | | | 2 | 「環境生物学実験 I」の打ち合わせと下見 | 日帰り |
| 143 | 8 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 5 | | 15 | | 20 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 栃本自炊宿舎 |
| 144 | 8 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 5 | | 5 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 145 | 8 | 3 | 日本女子大学 理学部物質生物科学科 | 7 | 54 | | | 61 | 「環境生物学実験 I」による植物分類関連実習 | 川俣学生宿舎(自炊泊) |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|---|--------|----|----|-----|--------|--|--------------|
| 146 | 8 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響評価と植生回復に関する研究 | 影森自炊宿舎 |
| 147 | 8 | 1 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 1 | 16 | 3 | 7 | 27 | 「ひらめき☆ときめきサイエンス」プログラムの実施 | 日帰り |
| 148 | 8 | 1 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 1 | | | | 1 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 日帰り |
| 149 | 8 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | | | 1 | | 1 | 落葉広葉樹の紅葉日の将来変動予測に関する研究(観測樹木への温度計設置) | 日帰り |
| 150 | 8 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 6 | 6 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベース構築(第3期) | 川俣学生宿舎(自炊泊) |
| 151 | 8 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | 3 | | | | 3 | ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環利用システム技術の確立 | 日帰り |
| 152 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 153 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 154 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 2 | | | | 2 | 鳥類標識調査 | テント・幕営 |
| 155 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 8 | 28 | | | 36 | 森林政策学実習の現地実習のため | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 156 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 1 | | | 1 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 日帰り |
| 157 | 8 | 15 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 15 | | 15 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 158 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 159 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 1 | | | 1 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 日帰り |
| 160 | 9 | 4 | 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 | 8 | 32 | 4 | | 44 | 野外の植物で生理生態学的測定を行う(植物科学野外実習2) | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 161 | 9 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻 | 3 | 63 | 6 | 3 | 75 | バイオマス科学実習・森林科学実習 | 外部宿泊 |
| 162 | 9 | 1 | 東京大学大学院総合文化研究科国際環境科学機構 | 1 | | | | 1 | 国際環境科学コース「環境科学フィールドワーク2」下見 | 日帰り |
| 163 | 9 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 2 | | | | 2 | ニホンジカによる森林植生への影響評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 164 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 1 | | 1 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 日帰り |
| 165 | 9 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 4 | | 4 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 166 | 9 | 1 | 千葉大学園芸学部緑地環境学科 | 1 | | 1 | 1 | 3 | 都市化が緑地生態系に及ぼす影響に関する研究 | 日帰り |
| 167 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 8 | 28 | | | 36 | 森林政策学実習の現地実習のため | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 168 | 9 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 4 | 4 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベース構築(第3期) | 川俣自炊宿舎 |
| 169 | 9 | 4 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 4 | | | 4 | 8 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 川俣自炊宿舎 |
| 170 | 9 | 1 | NPO法人スポーツエイド・ジャパン | | | | 247 | 247 | 第19回雁坂峠越え秩父往還144km開催のため | 日帰り |
| 171 | 9 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 1 | | | | 1 | 文化財の森景観モニタリング | 日帰り |
| 172 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用 | 日帰り |
| 173 | 9 | 2 | 埼玉県環境科学国際センター | 6 | | | | 6 | ニホンジカによる森林植生への影響評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 174 | 9 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性・サワグルミの形態生態調査 | 日帰り |
| 175 | 9 | 10 | University of Oxford Botanic Garden & Arboretum | 25(25) | | | | 25(25) | 樹木種子および標本の採集 | 栃本自炊宿舎 |
| 176 | 9 | 1 | 三峯山博物館 | | | | 2 | 2 | 野生動物調査 | 日帰り |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--------------------------------|-----|----|----|-----|----|--|--------------|
| 177 | 9 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | オープンデータの回収、ミヤマスカシユリの確認 | 日帰り |
| 178 | 9 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 5 | | | | 5 | 茶の山間冷涼地育種 | 日帰り |
| 179 | 9 | 1 | 埼玉県寄居林業事務所 | 3 | | | | 3 | ナラ枯れを防ぐ武蔵野の森再生・循環利用システム技術の確立 | 影森自炊宿舎 |
| 180 | 9 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 6 | 62 | 9 | 2 | 79 | シカ排除柵試験地の毎木調査 | 日帰り |
| 181 | 9 | 4 | 東京大学農学部 | | 4 | | | 4 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 182 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 2 | | | | 2 | 鳥類標識調査 | テント・幕営 |
| 183 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割 | 日帰り |
| 184 | 9 | 11 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 11 | | 11 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 185 | 10 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室 | 5 | | 5 | | 10 | 不成績造林地に侵入した広葉樹の種組成の調査 | 影森自炊宿舎 |
| 186 | 10 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室 | | | 10 | | 10 | 不成績造林地に侵入した広葉樹の種組成の調査 | 影森自炊宿舎 |
| 187 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室 | | 6 | 3 | | 9 | 不成績造林地に侵入した広葉樹の種組成の調査 | 影森自炊宿舎 |
| 188 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用 | 日帰り |
| 189 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 自動撮影カメラのメディア交換とメンテナンスおよび入川林道における天空写真撮影 | 日帰り |
| 190 | 10 | 3 | 東京大学農学部 | | 3 | | | 3 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 191 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 2 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 192 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 2 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 193 | 10 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 6 | 6 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベース構築(第3期) | 川俣自炊宿舎 |
| 194 | 10 | 1 | 東京都市大学 知識工学部 自然科学科 | 3 | 10 | | | 13 | 自然科学科事例研究(1) | 日帰り |
| 195 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割 | 日帰り |
| 196 | 10 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性・サワグルミの形態生態調査 | 日帰り |
| 197 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 6 | 9 | 6 | | 21 | 人工林試験地調査 | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 198 | 10 | 1 | 埼玉県水産研究所 | 5 | | | | 5 | 在来魚の精子を導入したヤマメ放流用種苗の開発 | 日帰り |
| 199 | 10 | 1 | 三峯山博物館 | | | | 2 | 2 | 野生動物調査 | 日帰り |
| 200 | 10 | 1 | 東京大学大学院総合文化研究科国際環境科学機構 | 1 | 10 | | | 11 | 国際環境科学コース「環境科学フィールドワーク2」実習 | 日帰り |
| 201 | 10 | 1 | 日本女子大学 理学部物質生物科学科 | | 2 | | | 2 | シダ植物カラクサシダ配偶体の成長動態解析及び微環境の長期モニタリング | 日帰り |
| 202 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 8 | | | 8 | 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」現地講義 | 外部宿泊 |
| 203 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | 8 | | | 8 | 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」現地講義 | 川俣学生宿舎(食事あり) |
| 204 | 10 | 1 | 日本テレビ放送網株式会社 報道局 映像取材部 | | | | 11 | 11 | 秩父事故・日本テレビ社員慰霊登山のため | 日帰り |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|-------------------------------|-----|----|----|-----|----|--------------------------------------|-------------|
| 205 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | | 1 | | 2 | シオジの結実に関する研究 | 日帰り |
| 206 | 10 | 4 | 東京女子大学 数理学科情報理学専攻 | 4 | 4 | 4 | | 12 | 小型哺乳類捕獲調査 | 川俣自炊宿舎 |
| 207 | 10 | 4 | 千葉大学園芸学研究科 | 4 | 12 | | | 16 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 栃本自炊宿舎 |
| 208 | 10 | 2 | 東京大学農学部 | | 2 | | | 2 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 209 | 10 | 12 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | | | 12 | | 12 | 落葉広葉樹の紅葉日の将来変動予測に関する研究(観測木の写真撮影) | 栃本自炊宿舎 |
| 210 | 10 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 4 | | 4 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 211 | 10 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 212 | 10 | 2 | 首都大学東京 理工学研究科 生命科学専攻 | 4 | 2 | | | 6 | 湿生攪乱環境下における植物群集の動態解析 | 影森自炊宿舎 |
| 213 | 10 | 4 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 4 | | | 4 | 8 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 川俣学生宿舎(自炊泊) |
| 214 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 215 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 216 | 11 | 4 | 東京大学農学部 | | 4 | | | 4 | 山地河川における洪水流出の実態解明にむけた観測 | 影森自炊宿舎 |
| 217 | 11 | 12 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | | | 12 | | 12 | 落葉広葉樹の紅葉日の将来変動予測に関する研究(観測木の写真撮影) | 栃本自炊宿舎 |
| 218 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 219 | 11 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性・サワグルミの形態生態調査 | 日帰り |
| 220 | 11 | 1 | 日本女子大学 理学部物質生物科学科 | | 2 | | | 2 | シダ植物カラクサシダ配偶体の成長動態解析及び微環境の長期モニタリング | 日帰り |
| 221 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 演習林見学及びインデザイン研修 | 日帰り |
| 222 | 11 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 4 | | 4 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 223 | 11 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 224 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | | 1 | | 2 | シオジの結実に関する研究 | 日帰り |
| 225 | 11 | 4 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 12 | | 4 | 4 | 20 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材設置作業 | 栃本自炊宿舎 |
| 226 | 11 | 1 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 1 | | | | 1 | 中村英史君の修士研究の補助 | 日帰り |
| 227 | 11 | 3 | 秩父市立影森中学校 | | | | 6 | 6 | 秩父市社会体験チャレンジ事業参加のため | 日帰り |
| 228 | 11 | 1 | 国立歴史民俗博物館研究部 | 1 | | | 4 | 5 | 模型製作のためのチョウセンゴウの見学およびサンプルの採取 | 日帰り |
| 229 | 11 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 230 | 11 | 2 | 東京大学農学部国際開発農学専修 | | 2 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 231 | 11 | 3 | 千葉大学園芸学研究科 | 3 | 6 | | | 9 | シカ柵排除柵試験地でリター分解特性測定のためのリターバックを埋設する | 栃本自炊宿舎 |
| 232 | 11 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 6 | 6 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベース構築(第3期) | 川俣自炊宿舎 |
| 233 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室 | 2 | | 2 | | 4 | 「森林昆虫-共生微生物の共進化と温度反応及び気候変動から予測される動態」 | 日帰り |
| 234 | 11 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 5 | | | | 5 | 茶の山間冷涼地育種 | 日帰り |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--------------------------------|-----|----|----|-----|----|--|------------|
| 235 | 11 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | オープンデータの回収, ミヤマスカシユリの鉢の回収 | 日帰り |
| 236 | 11 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 5 | | 5 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 237 | 11 | 4 | 東京大学農学部国際開発農学専修 | | 4 | | | 4 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 238 | 11 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 2 | | | | 2 | ミズナラ結実トラップの試料回収 | 入川コンテナハウス1 |
| 239 | 11 | 2 | 東京大学農学部国際開発農学専修 | | 2 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 240 | 11 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 241 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 242 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用 | 日帰り |
| 243 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用 | 日帰り |
| 244 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | 1 | 2 | 山地河川の水利特性解明に向けた研究 | 日帰り |
| 245 | 12 | 1 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 3 | 3 | 伝統工芸用研磨炭に使用するホウノキに関する調査 | 日帰り |
| 246 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林利用学研究室 | 1 | 1 | | 2 | 4 | 航空レーザー測量結果を用いた路網維持管理計画 | 日帰り |
| 247 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 248 | 12 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 6 | 12 | 6 | | 24 | シカによる植生衰退が上位栄養段階の生物群集に及ぼす影響 | 栃本自炊宿舎 |
| 249 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割 | 日帰り |
| 250 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | | | 1 | | 1 | シオジの遺伝的多様性維持に河道沿いの個体が果たす役割 | 日帰り |
| 251 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 252 | 12 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 253 | 12 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 254 | 12 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性・サワグルミの形態生態調査 | 日帰り |
| 255 | 12 | 2 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | | | | 2 | 2 | モニタリングサイト1000鳥類調査 | 栃本自炊宿舎 |
| 256 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 自動撮影カメラのメディア交換とメンテナンス | 日帰り |
| 257 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | | 1 | | 2 | シオジの結実に関する研究 | 日帰り |
| 258 | 12 | 1 | 東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科 | | 2 | 1 | | 3 | 落葉広葉樹林(ブナ林(自然林)又はナラ林(二次林))の下見 | 影森自炊宿舎 |
| 259 | 12 | 1 | 埼玉県環境科学国際センター | 1 | | | | 1 | オープンデータの回収, ミヤマスカシユリの鉢の設置 | 日帰り |
| 260 | 12 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 4 | | 4 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 261 | 12 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | | | 1 | | 1 | 落葉広葉樹の紅葉日の将来変動予測に関する研究 | 日帰り |
| 262 | 12 | 2 | 東京大学農学部国際開発農学専修 | | 2 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--------------------------------|-----|----|----|-----|---|--|--------|
| 263 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 2 | | 2 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 264 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 265 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 | 1 | | | | 1 | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の国際的なリスク評価に必要な基礎データの収集 | 日帰り |
| 266 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 267 | 1 | 1 | 個人 | | | | 1 | 1 | 秩父演習林所有データを利用した人工林におけるユリノキの残存率・成長速度の研究 | 日帰り |
| 268 | 1 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性・サワグルミの形態生態調査 | 日帰り |
| 269 | 1 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 270 | 1 | 1 | 奥秩父山塊イヌワシ調査グループ | | | | 3 | 3 | 奥秩父地域における大型猛禽類の生息実態調査 | 日帰り |
| 271 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 272 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 273 | 1 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 274 | 1 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 5 | | 5 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 275 | 1 | 2 | 国立歴史民俗博物館研究部 | 2 | | | 6 | 8 | 模型製作のためのチョウセンゴウの採取 | 日帰り |
| 276 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 277 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター | 3 | | | | 3 | 徐先生(海南大学)の秩父演習林と公開講座視察 | 日帰り |
| 278 | 1 | 1 | 特定非営利活動法人バードリサーチ | | | | 1 | 1 | モニタリングサイト1000鳥類調査 | 栃本自炊宿舎 |
| 279 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | | 9 | 9 | 公開講座「秩父演習林の哺乳類」 | 日帰り |
| 280 | 1 | 1 | 日本女子大学 理学部物質生物科学科 | | 2 | | | 2 | シダ植物カラクサシダ配偶体の成長動態解析及び微環境の長期モニタリング | 日帰り |
| 281 | 1 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 4 | | 4 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 282 | 1 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 283 | 1 | 1 | 株式会社 野生動物保護管理事務所 | | | | 1 | 1 | ニホンジカの捕獲効果実証試験 | 日帰り |
| 284 | 1 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 2 | | | | 2 | 茶の山間冷涼地育種 | 日帰り |
| 285 | 1 | 1 | 東京大学 空間情報科学研究センター | 1 | | | 1 | 2 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄塔に関する機材メンテナンス作業 | 栃本自炊宿舎 |
| 286 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 287 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 288 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験 | 日帰り |
| 289 | 2 | 1 | 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性・サワグルミの形態生態調査 | 日帰り |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|--|-----|----|----|-----|----|--|--------|
| 290 | 2 | 1 | 特定非営利活動法人 パードリサーチ | | | | 1 | 1 | モニタリングサイト1000鳥類調査 | 日帰り |
| 291 | 2 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 292 | 2 | 3 | 東京大学 空間情報科学 研究センター | 3 | | | 3 | 6 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄 塔に関する機材メンテナンス作業 | 栃本自炊宿舎 |
| 293 | 2 | 1 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 1 | | | | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響 評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 294 | 2 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 3 | | 3 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 295 | 2 | 1 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 1 | | | | 1 | オゾン計の回収, ミヤマスカシユリの確 認 | 日帰り |
| 296 | 2 | 7 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 7 | | 7 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 297 | 2 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 298 | 2 | 1 | 東京大学 空間情報科学 研究センター | 1 | | | | 1 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄 塔に関する機材メンテナンス作業 | 日帰り |
| 299 | 2 | 1 | 東京大学農学部国際開発 農学専修 | | 1 | | | 1 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動 態に及ぼす影響 | 日帰り |
| 300 | 2 | 18 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 18 | | 18 | シカによる植生衰退がリター分解と栄 養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |
| 301 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | | | 1 | | 1 | 気候変動が土壌微生物群集の変化を 通じてリター分解に及ぼす影響 | 日帰り |
| 302 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレス トのための現地情報記録転送システム の開発と運用試験 | 日帰り |
| 303 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林企 画部 | 1 | | | | 1 | 自動撮影カメラのメディア交換とメンテ ナンス | 日帰り |
| 304 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | 1 | | | | 1 | 山地河川の水利特性解明に向けた研 究 | 日帰り |
| 305 | 3 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | 3 | | | 5 | 8 | 山地河川の水利特性解明に向けた研 究 | 日帰り |
| 306 | 3 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 307 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林教 育研究センター | 1 | | | | 1 | UAVを使った大型哺乳類の直接観察 による個体数カウント手法の開発 | 日帰り |
| 308 | 3 | 1 | 新潟大学農学部附属フィ ールド科学教育研究センター | 1 | | | | 1 | シオジの開花結実特性・サワグルミの形 態生態調査 | 日帰り |
| 309 | 3 | 7 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 7 | | 7 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 310 | 3 | 2 | 東京大学大学院新領域創 成科学研究科 | 2 | | | | 2 | 文化財の森景観モニタリング | テント・幕営 |
| 311 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林企 画部 | 1 | | | | 1 | リターおよびシードトラップ落下物試料 確認とデータのとりまとめと打合せ | 日帰り |
| 312 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林富 士癒しの森研究所 | 1 | | | | 1 | 次世代森林情報基盤サイバーフォレス トのための現地情報記録転送システム の開発と運用試験 | 日帰り |
| 313 | 3 | 1 | 埼玉県茶業研究所 | 5 | | | | 5 | 茶の山間冷涼地育種 | 日帰り |
| 314 | 3 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科 | | | 2 | | 2 | ニホンジカの集団構造と地域植生の 機能特性が食性に及ぼす影響 | 影森自炊宿舎 |
| 315 | 3 | 1 | 奥秩父山塊イヌワシ調査グ ループ | | | | 2 | 2 | 奥秩父地域における大型猛禽類の生 息実態調査 | 日帰り |
| 316 | 3 | 1 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 1 | | | | 1 | ニホンジカによる森林植生への影響 評価と植生回復に関する研究 | 日帰り |
| 317 | 3 | 1 | 埼玉県環境科学国際セン ター | 1 | | | | 1 | オゾン計の設置, ミヤマスカシユリの確 認 | 日帰り |
| 318 | 3 | 1 | 三峯山博物館 | | | | 2 | 2 | 野生動物調査 | 日帰り |
| 319 | 3 | 1 | 三峯山博物館 | | | | 2 | 2 | 野生動物調査 | 日帰り |
| 320 | 3 | 1 | 東京大学 空間情報科学 研究センター | 1 | | | | 1 | 新規設置された天然林樹冠部観測鉄 塔に関する機材メンテナンス作業 | 日帰り |

2016年度 全利用者 秩父演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|------------------|-----|----|----|-----|----|------------------------------|-------------|
| 321 | 3 | 2 | 埼玉昆虫談話会 | | | | 8 | 8 | 秩父演習林及びその周辺の昆虫相データベース構築(第3期) | 川俣学生宿舎(自炊泊) |
| 322 | 3 | 16 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 16 | | 16 | シカによる植生衰退がリター分解と栄養塩循環に及ぼす影響 | 日帰り |

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 3418

利用件数 322

演習林名:田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--------------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 1 | 4 | 1 | 株式会社緑生研究所 | | | | 2 | 2 | 希少猛禽類調査 | |
| 2 | 4 | 6 | 新日本開発工業(株) | | | | 10 | 10 | 鳥類調査(東京都建設局北多摩南部建設事務所委託) | |
| 3 | 4 | 2 | 西東京市こどもの発達センターひらぎ分室ひよっこ | 4 | | | 12 | 16 | 散策 | |
| 4 | 4 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少猛禽類の繁殖状況確認 | |
| 5 | 4 | 2 | 東京大学生態調和農学機構 | 2 | 10 | | | 12 | 緑地環境実地実習 | |
| 6 | 4 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 造林学の講義で使用される枝の採取 | |
| 7 | 4 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | 14 | | | 15 | 造林学実験 | |
| 8 | 4 | 1 | 東京大学森林風致計画学研究室 | | 3 | | | 3 | 五月祭の植木市 | |
| 9 | 4 | 1 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | | 12 | 1 | | 13 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの育成 | |
| 10 | 4 | 2 | 東京大学秩父演習林 | 2 | | | | 2 | 材腐朽に関する研究 | |
| 11 | 4 | 2 | 個人 | | | | 2 | 2 | 樹木から発生する音の調査, 土と木を伝播する音の調査 | |
| 12 | 4 | 4 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | 4 | | | 7 | 竹の実生苗の成長と土壌の物理性の関係 | |
| 13 | 4 | 1 | 東京大学国際植物材料科学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | Study on the properties of cellulose nano fiber from different plant species | |
| 14 | 4 | 1 | 東京大学森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | スギに共生するアーバスキュラー菌根菌の共生機能に関する研究 | |
| 15 | 4 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 16 | 4 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 17 | 4 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 130 | 130 | 見学 | |
| 18 | 4 | 1 | 田無ひまわり保育園 | 4 | | | 21 | 25 | 散策 | |
| 19 | 5 | 1 | 株式会社緑生研究所 | | | | 2 | 2 | 希少猛禽類調査 | |
| 20 | 5 | 3 | 新日本開発工業(株) | | | | 3 | 3 | 鳥類調査(東京都建設局北多摩南部建設事務所委託) | |
| 21 | 5 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少猛禽類の繁殖状況確認 | |
| 22 | 5 | 1 | 千葉演習林ボランティア会 Abies | | | | 11 | 11 | 見学, 交流会 | |
| 23 | 5 | 1 | 秩父演習林ボランティア「しおじの会」 | | | | 17 | 17 | 見学, 交流会 | |
| 24 | 5 | 1 | 元気で歩こう会 | | | | 35 | 35 | 見学 | |
| 25 | 5 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少植物の移植後の繁殖状況確認 | |
| 26 | 5 | 1 | Ranzaniaの会 | | | | 12 | 12 | 自然観察会 | |
| 27 | 5 | 2 | (株)テレパック | | | | 16 | 16 | テレビ番組収録 | |
| 28 | 5 | 1 | 実践学園中学校 | 5 | | | 61 | 66 | 校外授業 中学一年 | |
| 29 | 5 | 1 | 練馬巨樹の会 | | | | 17 | 17 | 見学 | |
| 30 | 5 | 1 | 東京大学生態調和農学機構 | 1 | | | | 1 | 緑地環境実地実習 | |
| 31 | 5 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | 14 | | | 15 | 造林学実験 | |
| 32 | 5 | 1 | 東京大学森林風致計画学研究室 | | 3 | | | 3 | 五月祭の植木市 | |
| 33 | 5 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 2 | 14 | 4 | 1 | 21 | 森林動物学実験 | |
| 34 | 5 | 1 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | 1 | | | | 1 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの育成 | |
| 35 | 5 | 1 | 東京大学森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 高級菌根性きのこの栽培技術の開発 | |
| 36 | 5 | 3 | 東京大学秩父演習林 | 3 | | | | 3 | 材腐朽に関する研究 | |
| 37 | 5 | 1 | 個人 | | | | 1 | 1 | 樹木から発生する音の調査, 土と木を伝播する音の調査 | |
| 38 | 5 | 2 | 首都大学東京都環境学部自然・文化ソーリズムコース | 2 | | | | 2 | モチノキタネオナガゴバチ-寄生植物間相互作用の解明 | |
| 39 | 5 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 湿原の地層から出現したイグサの遺伝的組成の解明 | |

2016年度 全利用者 田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----------|-----|----------|---|------|
| 40 | 5 | 1 | 東京大学国際植物材料科学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | Study on the properties of cellulose nano fiber from different plant species | |
| 41 | 5 | 1 | 東京大学森林理水及び砂防工学研究室 | 3 | | | 1 | 4 | 樹木への放射性セシウムの移行に関する研究 | |
| 42 | 5 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | 1 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | |
| 43 | 5 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 44 | 5 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 45 | 5 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | | | 1 | マツ枯れの研究 | |
| 46 | 5 | 4 | 東京大学田無演習林 | 4 | | | | 4 | ピットホールトラップを使った地表徘徊性甲虫相の調査 | |
| 47 | 5 | 2 | 東京大学田無演習林 | 6 | 6 | | | 12 | 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成—子どもに伝える自然体験—」 | |
| 48 | 5 | 1 | 法政大学生命科学部応用植物学科 | 1 | 1 | | | 2 | 樹木に寄生する数種Gnomonia様菌類の分類学的所属 | |
| 49 | 5 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | | | 1 (1) | | 1 (1) | Establishment of Quantitative real-time Polymerase Chain reaction (qPCR) Technique for Detection and Quantification of Entomopathogenic Fungi in Soil | |
| 50 | 5 | 2 | 東京大学北海道演習林 | 2 | | | | 2 | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 51 | 5 | 2 | 東京大学造林学研究室 | 2 | 2 | | | 4 | コンテナ苗の育苗・植栽方法の検討 | |
| 52 | 5 | 3 | 田無ひまわり保育園 | 10 | | | 50 | 60 | 散策 | |
| 53 | 5 | 2 | 東京大学田無演習林 | 16 | | | | 16 | 演習林基盤データ委員会生物部門昆虫分野担当者会議 | |
| 54 | 5 | 1 | NPO法人birth(西東京市指定管理事業者 公園) | | | | 2 | 2 | 西東京市指定管理事業者(公園) 新任挨拶 | |
| 55 | 5 | 1 | (株)アマゾンラテルナ | | | | 2 | 2 | 短編ドキュメンタリー番組「すけっち」テレビ東京(提供・東京都)取材(第28回子ども樹木博士開催時) | |
| 56 | 5 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 173 | 173 | 見学 | |
| 57 | 5 | 1 | 西原保育園一時保育 | 2 | | | 4 | 6 | 散策 | |
| 58 | 5 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 153 | 153 | 見学 | |
| 59 | 5 | 1 | 東京大学田無演習林 | 14 | | 4 | 1 | 19 | 平成28年度田無演習林・アジアセンター合同環境整備 | |
| 60 | 5 | 1 | 練馬区立関町リサイクルセンター | | | | 30 | 30 | 見学 | |
| 61 | 6 | 1 | 株式会社緑生研究所 | | | | 2 | 2 | 希少猛禽類調査 | |
| 62 | 6 | 3 | 新日本開発工業(株) | | | | 6 | 6 | 鳥類調査(東京都建設局北多摩南部建設事務所委託) | |
| 63 | 6 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少猛禽類の繁殖状況確認 | |
| 64 | 6 | 1 | グランジオ武蔵野グランジオクラブ | | | | 17 | 17 | 見学(近隣マンションのイベント) | |
| 65 | 6 | 1 | 東京大学森林風致計画学研究室 | | 3 | | | 3 | 五月祭の植木市 | |
| 66 | 6 | 1 | 東京大学森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 高級菌根性きのこの栽培技術の開発 | |
| 67 | 6 | 4 | 東京大学秩父演習林 | 4 | | | | 4 | 材腐朽に関する研究 | |
| 68 | 6 | 1 | 個人 | | | | 1 | 1 | 樹木から発生する音の調査、土と木を伝播する音の調査 | |
| 69 | 6 | 1 | 首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース | 1 | | | | 1 | モチノキタネオナガコバチ-寄生植物間相互作用の解明 | |
| 70 | 6 | 2 | 東京大学演習林教育研究センター | 2 | 2 | | | 4 | 竹の実生苗の成長と土壌の物理性の関係 | |
| 71 | 6 | 1 | 東京大学国際植物材料科学研究室 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | Study on the properties of cellulose nano fiber from different plant species | |
| 72 | 6 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | 3 | | | 6 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | |

2016年度 全利用者 田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|------------------------|----------|----|----------|------------|------------|--|------|
| 73 | 6 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 74 | 6 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 38 | 38 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 75 | 6 | 2 | 東京大学森林動物学研究室 | 2 | | | | 2 | マツ枯れの研究 | |
| 76 | 6 | 1 | 東京大学田無演習林 | 3 | 3 | | | 6 | 全学体験ゼミナール「都市の緑のインタープリター養成—子どもに伝える自然体験—」 | |
| 77 | 6 | 7 | 東京大学北海道演習林 | 7 | | 7 (7) | | 14 (7) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 78 | 6 | 2 | 大気汚染測定運動西東京市連絡会 | | | | 2 | 2 | 二酸化窒素測定 | |
| 79 | 6 | 3 | 東京大学秩父演習林 | 6 | | | | 6 | 東京大学基盤データ整備・鳥類分野 | |
| 80 | 6 | 2 | 田無ひまわり保育園 | 10 | | | 47 | 57 | 散策 | |
| 81 | 6 | 1 | JST-国立環境研究所さくらサイエンスプラン | | | | 13 (12) | 13 (12) | 見学 | |
| 82 | 6 | 1 | (株)アマゾンラテルナ | | | | 5 | 5 | 短編ドキュメンタリー番組「すけっち」テレビ東京(提供・東京都)取材(第28回子ども樹木博士開催時) | |
| 83 | 6 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | | | | 3 | さし木したポプラの根系調査法の検討 | |
| 84 | 6 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | DNAマーカーを用いたアカマツとクロマツの雑種性の検証 | |
| 85 | 6 | 1 | 東京大学田無演習林 | 13 | 3 | 2 (2) | 2 | 20 | 平成28年度利用者交流会 | |
| 86 | 6 | 1 | 東京大学田無演習林 | 6 | 6 | | 40 | 52 | 第28回子ども樹木博士認定会 | |
| 87 | 6 | 1 | 東大ワンダーフォーゲル部OB会 | | | | 24 | 24 | 見学 | |
| 88 | 6 | 1 | 一般社団法人日本セカンドライフ協会 | | | | 14 | 14 | 見学 | |
| 89 | 6 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 2 | 2 | 見学 | |
| 90 | 6 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 68 | 68 | 見学 | |
| 91 | 6 | 1 | 東京大学生態調和農学機構 | 2 | | | | 2 | フィールド農学応用実習, 緑地環境実地実習 | |
| 92 | 7 | 2 | 株式会社緑生研究所 | | | | 4 | 4 | 希少猛禽類調査 | |
| 93 | 7 | 3 | 新日本開発工業(株) | | | | 3 | 3 | 鳥類調査(東京都建設局北多摩南部建設事務所委託) | |
| 94 | 7 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少猛禽類の繁殖状況確認 | |
| 95 | 7 | 1 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | 1 | | | | 1 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの育成 | |
| 96 | 7 | 4 | 東京大学秩父演習林 | 4 | | | | 4 | 材腐朽に関する研究 | |
| 97 | 7 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | 1 | | | 2 | 竹の実生苗の成長と土壌の物理性の関係 | |
| 98 | 7 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 湿原の地層から出現したイグサの遺伝的組成の解明 | |
| 99 | 7 | 1 | 東京大学国際植物材料科学研究室 | 2 (1) | | 1 (1) | | 3 (2) | Study on the properties of cellulose nano fiber from different plant species | |
| 100 | 7 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | 1 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | |
| 101 | 7 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 102 | 7 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 103 | 7 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | マツ枯れの研究 | |
| 104 | 7 | 5 | 東京大学北海道演習林 | 5 | | 5 (5) | | 10 (5) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 105 | 7 | 1 | 田無ひまわり保育園 | 3 | | | 7 | 10 | 散策 | |
| 106 | 7 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | | | | 1 | 造林学実験の学習材料準備 | |
| 107 | 7 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 体験ゼミ「癒しの森を創る(夏)」の講義で使用する枝の採取 | |
| 108 | 7 | 4 | 東久留米市立南中学校 | | | | 20 | 20 | 職場体験 | |
| 109 | 7 | 1 | 武蔵野市72期会 | | | | 18 | 18 | 見学 | |

2016年度 全利用者 田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|-----------------------------|-----|----------|----------|-----|----------|--|------|
| 110 | 7 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | 2 | | 1 | 4 | 科研「森林昆虫-共生微生物の共進化と温度反応及び気候変動から予測される動態予測」 | |
| 111 | 7 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | | | | 3 | クロカタビロオサムシの飼育実験 | |
| 112 | 7 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | スギ人工林における施業が土壌有機物貯留量に与える影響 | |
| 113 | 7 | 1 | 日本学術振興会 | | | | 1 | 1 | Raffaelea 属菌の病原性発現機構の解明 | |
| 114 | 7 | 1 | 東京大学生態調和農学機構 | 3 | 26 | | | 29 | フィールド農学応用実習、緑地環境実地実習 | |
| 115 | 7 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 教養学部体験ゼミナール「危険生物の知識」 | |
| 116 | 7 | 1 | 東大農場・演習林子どもサマースクール2016実行委員会 | 2 | | | 9 | 11 | 東大農場・演習林子どもサマースクール2016 | |
| 117 | 7 | 1 | 小平市シルバー人材センター | | | | 20 | 20 | 見学 | |
| 118 | 7 | 1 | 白十字八国苑寄合所あおば | | | | 5 | 5 | 見学 | |
| 119 | 7 | 1 | 多摩六都科学館 | 2 | | | 1 | 3 | 自然観察会実地踏査 | |
| 120 | 7 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 101 | 101 | 見学 | |
| 121 | 7 | 2 | 東京大学演習林教育研究センター | 2 | 2 (2) | | | 4 (2) | 短期留学生の林業実習(苗畑) | |
| 122 | 7 | 1 | リヨン第一大学 | | 2 | | | 2 | 見学 | |
| 123 | 7 | 1 | 東京大学演習林企画部 | 1 | | | | 1 | 作業協力 | |
| 124 | 8 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少猛禽類の繁殖状況確認 | |
| 125 | 8 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | | | | 1 | 造林学実験 | |
| 126 | 8 | 1 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | 1 | | | | 1 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの育成 | |
| 127 | 8 | 3 | 東京大学秩父演習林 | 3 | | | | 3 | 材腐朽に関する研究 | |
| 128 | 8 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | 1 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | |
| 129 | 8 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 8 | 8 | 動物調査会 | |
| 130 | 8 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会、植物調査会 | |
| 131 | 8 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | マツ枯れの研究 | |
| 132 | 8 | 4 | 東京大学北海道演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 133 | 8 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | 1 | 1 | | 3 | コンテナ苗の育苗・植栽方法の検討 | |
| 134 | 8 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | さし木したポプラの根系調査法の検討 | |
| 135 | 8 | 4 | 東京大学演習林教育研究センター | 4 | | | | 4 | クロカタビロオサムシの飼育実験 | |
| 136 | 8 | 1 | 日本学術振興会 | | | | 1 | 1 | Raffaelea 属菌の病原性発現機構の解明 | |
| 137 | 8 | 1 | 日本大学文理学部 | 1 | 1 | | | 2 | 植物ウイルス相の解明 | |
| 138 | 8 | 1 | 東大農場・演習林子どもサマースクール2016実行委員会 | 3 | | | 36 | 39 | 東大農場・演習林子どもサマースクール2016 | |
| 139 | 8 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 3 | 5 | | | 8 | 教養学部全学自由研究ゼミナール「昆虫と節足動物の生物学」に関連した昆虫の野外実習 | |
| 140 | 8 | 1 | 特定非営利活動法人かるがも花々会 | | | | 8 | 8 | 見学 | |
| 141 | 8 | 1 | 西東京市立住吉小学校 | 5 | | | | 5 | 生活科見学 | |
| 142 | 8 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 95 | 95 | 見学 | |
| 143 | 8 | 1 | 中野区立緑野小学校 | 5 | | | | 5 | 生活科見学 | |
| 144 | 8 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 全方位カメラの学習 | |
| 145 | 9 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 2 | 14 | 4 | 1 | 21 | 森林動物学実験 | |
| 146 | 9 | 1 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | 1 | | | | 1 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの育成 | |
| 147 | 9 | 1 | 東京大学秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 材腐朽に関する研究 | |

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 148 | 9 | 2 | 東京大学演習林教育研究センター | 2 | 2 | | | 4 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | |
| 149 | 9 | 1 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 8 | 8 | 動物調査会 | |
| 150 | 9 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 151 | 9 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | マツ枯れの研究 | |
| 152 | 9 | 4 | 東京大学北海道演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 153 | 9 | 2 | 東京大学造林学研究室 | 2 | 2 | 3 | | 7 | コンテナ苗の育苗・植栽方法の検討 | |
| 154 | 9 | 1 | 府中市自然環境調査委員会 | | | | 17 | 17 | 見学 | |
| 155 | 9 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | クロカタビロオサムシの飼育実験 | |
| 156 | 9 | 2 | 日本学術振興会 | | | | 2 | 2 | Raffaella 属菌の病原性発現機構の解明 | |
| 157 | 9 | 5 | 日本大学文理学部 | 5 | 5 | | | 10 | 植物ウイルス相の解明 | |
| 158 | 9 | 1 | 多摩六都科学館 | | | | 67 | 67 | 小学生(西東京市立本町小学校4年生)を対象とした野外観察プログラム(校外学習)の実施 | |
| 159 | 9 | 1 | 東久留米市立中央中学校 | | | | 2 | 2 | 職場体験 | |
| 160 | 9 | 1 | 練馬巨樹の会 | | | | 23 | 23 | 樹木の観察, 合唱の練習 | |
| 161 | 9 | 1 | ビーフェア田無保育園 | 1 | | | | 1 | 散策 | |
| 162 | 9 | 1 | 都市計画道路田無3・4・7を考える会 | | | | 1 | 1 | 西東京市公民館市民企画事業「森がささえる私たちの生活」 | |
| 163 | 9 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 64 | 64 | 見学 | |
| 164 | 9 | 1 | 東京大学田無演習林 | 11 | 9 | | | 20 | 東京大学推薦入学者の演習林見学 | |
| 165 | 9 | 1 | 東久留米市立西中学校 | | | | 3 | 3 | 職場体験 | |
| 166 | 10 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | 14 | | | 15 | 造林学実験 | |
| 167 | 10 | 1 | 東京大学秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 材腐朽に関する研究 | |
| 168 | 10 | 1 | 個人 | | | | 1 | 1 | 樹木から発生する音の調査, 土と木を伝播する音の調査 | |
| 169 | 10 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | 3 | | | 6 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | |
| 170 | 10 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 171 | 10 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 38 | 38 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 172 | 10 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | | | 1 | マツ枯れの研究 | |
| 173 | 10 | 5 | 東京大学北海道演習林 | | | 5 (5) | | 5 (5) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 174 | 10 | 1 | 田無ひまわり保育園 | 4 | | | 24 | 28 | 散策 | |
| 175 | 10 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | さし木したポプラの根系調査法の検討 | |
| 176 | 10 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | ボイスレコーダーを用いた鳥類のさえずり調査 | |
| 177 | 10 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | クロカタビロオサムシの飼育実験 | |
| 178 | 10 | 2 | 日本大学文理学部 | 2 | 2 | | | 4 | 植物ウイルス相の解明 | |
| 179 | 10 | 3 | 東久留米市立中央中学校 | | | | 6 | 6 | 職場体験 | |
| 180 | 10 | 1 | 西東京市立住吉小学校 | 5 | | | 110 | 115 | 生活科見学 | |
| 181 | 10 | 1 | 多摩六都科学館 | | | | 120 | 120 | 西東京市立けやき小学校5年生に向けた観察会の実施 | |
| 182 | 10 | 1 | 健康ウォーク+1 | | | | 30 | 30 | 散策 | |
| 183 | 10 | 2 | 自由学園初等部 | 4 | | | 36 | 40 | 生活科見学 | |
| 184 | 10 | 4 | 西東京市立ひばりが丘中学校 | | | | 28 | 28 | 職場体験 | |
| 185 | 10 | 3 | 東久留米市立西中学校 | | | | 9 | 9 | 職場体験 | |
| 186 | 10 | 1 | 個人 | | | | 4 | 4 | 見学 | |
| 187 | 10 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 写生 | |
| 188 | 10 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少植物の移植後モニタリング | |
| 189 | 10 | 2 | 早稲田大学理工学術院 | | | 4 | | 4 | 環境モニタリングロボットの長期運用に関する研究 | |

2016年度 全利用者 田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|---------------------|-----|----|------------|-----------|------------|--|------|
| 190 | 10 | 1 | 京都大学フィールド科学教育研究センター | | | 1 | | 1 | 窒素負荷に伴う土壌酵素活性の把握 | |
| 191 | 10 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 森林生態圏管理学の講義で使用する枝の採取 | |
| 192 | 10 | 1 | アジア生物資源環境研究センター | 5 | | 19 (15) | | 24 (15) | 環境調和特別演習 持続可能な農林畜水産業 1, 環境負荷(サクラサイエンスプラン) | |
| 193 | 10 | 1 | 野火止親和会 | | | | 14 | 14 | 散策 | |
| 194 | 10 | 1 | ディサービス ぼぼたん | | | | 5 | 5 | 散策 | |
| 195 | 10 | 1 | 西武学園文理小学校 | 2 | | | | 2 | 校外学習(植物の学習) | |
| 196 | 10 | 1 | 東京大学田無演習林 | 7 | 4 | | 86 (1) | 97 (1) | 第29回子ども樹木博士認定会 | |
| 197 | 10 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 125 | 125 | 見学 | |
| 198 | 10 | 2 | 西東京市立田無保育園 | 5 | | | 13 | 18 | 散策 | |
| 199 | 11 | 2 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | 2 | | | | 2 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの育成 | |
| 200 | 11 | 1 | 東京大学秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 材腐朽に関する研究 | |
| 201 | 11 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | 1 | | | 2 | 竹の実生苗の成長と土壌の物理性の関係 | |
| 202 | 11 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | 1 | | | 2 | ニホンジカの植食圧が樹木実生の動態に及ぼす影響 | |
| 203 | 11 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 204 | 11 | 9 | 東京大学北海道演習林 | | | 9 (9) | | 9 (9) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 205 | 11 | 1 | 東京大学造林学研究室 | 1 | 1 | 2 | | 4 | コンテナ苗の育苗・植栽方法の検討 | |
| 206 | 11 | 2 | 東京大学演習林教育研究センター | 2 | | | | 2 | さし木したポプラの根系調査法の検討 | |
| 207 | 11 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | クロカタビロオサムシの飼育実験 | |
| 208 | 11 | 1 | 日本大学文理学部 | 1 | 1 | | | 2 | 植物ウイルス相の解明 | |
| 209 | 11 | 1 | 練馬区立関町リサイクルセンター | | | | 26 | 26 | 見学 | |
| 210 | 11 | 1 | ビーフェア田無保育園 | 5 | | | 35 | 40 | 散策 | |
| 211 | 11 | 1 | わあーく! わかば | | | | 14 | 14 | 散策 | |
| 212 | 11 | 2 | 早稲田大学理工学術院 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 環境モニタリングロボットの長期運用に関する研究 | |
| 213 | 11 | 1 | D・Bウォーキングクラブ | | | | 27 | 27 | 散策 | |
| 214 | 11 | 1 | 西武学園文理小学校 | 7 | | | 60 | 67 | 校外学習(植物の学習) | |
| 215 | 11 | 1 | アトリエの会 | | | | 18 | 18 | 水彩画スケッチ | |
| 216 | 11 | 1 | 西東京市立田無保育園 | 3 | | | 6 | 9 | 散策 | |
| 217 | 11 | 2 | 東京大学田無演習林 | 4 | | 1 | | 5 | シカ嗜好性・非嗜好性樹種に含まれる二次代謝物質の分析 | |
| 218 | 11 | 1 | 早稲田大学理工学術院 | | 2 | | | 2 | 環境モニタリングロボットの視覚機能に関する研究 | |
| 219 | 11 | 1 | NPO法人市民の図書館・公民館こがねい | | | | 1 | 1 | マツボックリの分譲 | |
| 220 | 11 | 1 | シリブカガシの里親 | | | | 1 | 1 | シリブカガシドングリの採集 | |
| 221 | 11 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 105 | 105 | 見学 | |
| 222 | 11 | 1 | 東京大学教養学部理科2類 | | 1 | | | 1 | ALESS講義の実験試料の提供(CO ₂ , エチレンのイチョウ, モミジの紅葉に対する影響) | |
| 223 | 12 | 1 | 東京大学秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 材腐朽に関する研究 | |
| 224 | 12 | 3 | 個人 | | | | 3 | 3 | 樹木から発生する音の調査, 土と木を伝播する音の調査 | |
| 225 | 12 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 226 | 12 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 33 | 33 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 227 | 12 | 5 | 東京大学北海道演習林 | | | 5 (5) | | 5 (5) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 228 | 12 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | さし木したポプラの根系調査法の検討 | |
| 229 | 12 | 2 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | 2 | 2 | 1 | 6 | 科研「森林昆虫—共生微生物の共進化と温度反応及び気候変動から予測される動態予測」 | |

2016年度 全利用者 田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|---------------------------|----------|----|----------|-----------|-----------|--|------|
| 230 | 12 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | クロカタビロオサムシの飼育実験 | |
| 231 | 12 | 2 | 日本学術振興会 | | | | 2 | 2 | Raffaelea 属菌の病原性発現機構の解明 | |
| 232 | 12 | 2 | 大気汚染測定運動西東京市連絡会 | | | | 2 | 2 | 大気汚染測定 | |
| 233 | 12 | 2 | 東京大学田無演習林 | 3 | | 1 | 1 | 5 | シカ嗜好性・非嗜好性樹種に含まれる二次代謝物質の分析 | |
| 234 | 12 | 2 | 京都大学大学院人間・環境学研究所生物環境動態論分野 | 2 | | 2 | | 4 | 共通圃場実験に基づく豪州ヒノキ複合種の形質変異の遺伝的基盤の解析 | |
| 235 | 12 | 1 | 早稲田大学理工学術院 | | | 1 | | 1 | 環境モニタリングロボットの視覚機能に関する研究 | |
| 236 | 12 | 2 | シリブカガシの里親 | | | | 6 | 6 | シリブカガシドングリの採集 | |
| 237 | 12 | 1 | さんぶ木楽会(千葉県山武郡周辺の林業女性グループ) | | | | 9 | 9 | 見学 | |
| 238 | 12 | 1 | 東京大学田無演習林 | 48 | | | 16 (1) | 64 (1) | 2016年度教職員向けリース作り体験会 | |
| 239 | 12 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 86 | 86 | 見学 | |
| 240 | 12 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 136 | 136 | 見学 | |
| 241 | 12 | 1 | 東京大学生態調和農学機構 | 3 | | | | 3 | 緑地環境実地実習 | |
| 242 | 1 | 2 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | 2 | | | | 2 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの育成 | |
| 243 | 1 | 7 | 東京大学秩父演習林 | 7 | | | | 7 | 材腐朽に関する研究 | |
| 244 | 1 | 3 | 個人 | | | | 3 | 3 | 樹木から発生する音の調査, 土と木を伝播する音の調査 | |
| 245 | 1 | 3 | 東京大学演習林教育研究センター | 3 | | | | 3 | 湿原の地層から出現したイグサの遺伝的組成の解明 | |
| 246 | 1 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 247 | 1 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 248 | 1 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | | | 1 | マツ枯れの研究 | |
| 249 | 1 | 1 | 都市計画道路田無3・4・7を考える会 | | | | 15 | 15 | 西東京市公民館市民企画事業「森がささえる私たちの生活」 | |
| 250 | 1 | 2 | 早稲田大学理工学術院 | | | 4 (2) | | 4 (2) | 環境モニタリングロボットの長期運用に関する研究 | |
| 251 | 1 | 2 | 東久留米市立下里中学校 | | | | 8 | 8 | 職場体験 | |
| 252 | 1 | 2 | 西東京市立田無保育園 | 6 | | | 12 | 18 | 散策 | |
| 253 | 1 | 1 | 東京大学生態調和農学機構 | 1 | 5 | | | 6 | 緑地環境実地実習(下見と実習) | |
| 254 | 1 | 1 | 株式会社三洋コンサルタント | | | | 7 | 7 | カラスの生息数調査(東京都環境局委託) | |
| 255 | 1 | 1 | ゆりの木クラブ | | | | 18 | 18 | ウォーキングと見学 | |
| 256 | 1 | 3 | 東京大学千葉演習林 | 12 | | | | 12 | 基盤データGIS部門によるGIS指導整備研修 | |
| 257 | 1 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 2 (1) | | | | 2 (1) | 客員准教授・徐先生の田無演習林案内 | |
| 258 | 1 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 107 | 107 | 見学 | |
| 259 | 2 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少猛禽類の繁殖状況確認 | |
| 260 | 2 | 2 | 東京大学昆虫遺伝研究室 | 2 | | | | 2 | 天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの育成 | |
| 261 | 2 | 2 | 東京大学秩父演習林 | 2 | | | | 2 | 材腐朽に関する研究 | |
| 262 | 2 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 263 | 2 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 264 | 2 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | | | 1 | マツ枯れの研究 | |
| 265 | 2 | 1 | 東京大学北海道演習林 | | | 1 (1) | | 1 (1) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 266 | 2 | 3 | 早稲田大学理工学術院 | | | 6 (3) | | 6 (3) | 環境モニタリングロボットの長期運用に関する研究 | |
| 267 | 2 | 2 | 東久留米市立下里中学校 | | | | 8 | 8 | 職場体験 | |

2016年度 全利用者 田無演習林

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|----------------------------|-----|----|----------|-----|----------|--|------|
| 268 | 2 | 1 | 西東京市立田無保育園 | 3 | | | 7 | 10 | 散策 | |
| 269 | 2 | 1 | 京都大学 | 1 | | 1 | | 2 | 森林土壌中の放射性核種の有機物への収着機構に関する研究 | |
| 270 | 2 | 1 | 製紙科学研究室 | 1 | | | | 1 | 樹木における二酸化炭素同化産物の輸送と材形成に関する研究 | |
| 271 | 2 | 1 | 東京大学田無演習林 | 5 | 9 | | | 14 | 教養学部全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」 | |
| 272 | 2 | 1 | 宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター | 1 | | | | 1 | 樹木が生産するストロゴラクトンの探索 | |
| 273 | 2 | 1 | 東京大学技術基盤センター | 1 | | | | 1 | スギ材についての情報収集・スギ玉製作と田無演習林技術職員との技術情報交流 | |
| 274 | 2 | 1 | NPO法人あるきんぐクラブ・ネイチャーセンター | | | | 11 | 11 | 見学・植物観察 | |
| 275 | 2 | 1 | 東京大学森林植物学研究室 | 1 | | | | 1 | 樹木病原菌の感染様式の解明 | |
| 276 | 2 | 1 | 東京大学田無演習林 | 7 | | | | 7 | 技術部分析技術グループ研修 土壌採集と見学 | |
| 277 | 2 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 77 | 77 | 見学 | |
| 278 | 3 | 1 | いであ株式会社 | | | | 1 | 1 | 希少猛禽類の繁殖状況確認 | |
| 279 | 3 | 2 | 東京大学秩父演習林 | 2 | | | | 2 | 材腐朽に関する研究 | |
| 280 | 3 | 2 | 個人 | | | | 2 | 2 | 樹木から発生する音の調査, 土と木を伝播する音の調査 | |
| 281 | 3 | 1 | 東京大学演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | 湿原の地層から出現したイグサの遺伝的組成の解明 | |
| 282 | 3 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 16 | 16 | 動物調査会 | |
| 283 | 3 | 2 | 東大農場・演習林の存続を願う会 | | | | 28 | 28 | 定例植物観察会, 植物調査会 | |
| 284 | 3 | 1 | 東京大学森林動物学研究室 | 1 | | | | 1 | マツ枯れの研究 | |
| 285 | 3 | 3 | 東京大学北海道演習林 | | | 3 (3) | | 3 (3) | 養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性 | |
| 286 | 3 | 2 | 西東京市立田無保育園 | 6 | | | 26 | 32 | 散策 | |
| 287 | 3 | 1 | エコプラザ西東京 | | | | 22 | 22 | 野鳥観察 | |
| 288 | 3 | 1 | 東京大学田無演習林 | 1 | | | | 1 | 放射線照射したモミの形態異常に関する研究 | |
| 289 | 3 | 1 | 株式会社グッドタイムホーム カルムコート武蔵野 | | | | 36 | 36 | 見学 | |
| 290 | 3 | 1 | 一般個人見学者 | | | | 107 | 107 | 見学 | |
| 291 | 3 | 1 | 東京大学生態調和農学機構 | 15 | | | | 15 | 総合技術研究会2017東京大学実行委員会 技術交流会 | |
| 292 | 3 | 1 | 東京大学生態調和農学機構 | 2 | | | | 2 | 里地里山エリアの整備 | |

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 4497

利用件数 292

演習林名:生態水文学研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-----------------------------|-----|----|----------|------------|------------|-------------------------------|----------|
| 1 | 4 | 1 | 京都大学霊長類研究所 社会生態研究部門 社会進化的分野 | 2 | | 1 (1) | | 3 (1) | 犬山研究林周辺に生息する食肉類の採食生態に関する基礎研究 | 日帰り |
| 2 | 4 | 5 | 京都大学霊長類研究所 社会生態研究部門 社会進化的分野 | 5 | | 5 (5) | | 10 (5) | 犬山研究林周辺に生息する食肉類の採食生態に関する基礎研究 | 日帰り |
| 3 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 5 | 5 | ギフチョウ観察 | 日帰り |
| 4 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 3 | 3 | ギフチョウ観察 | 日帰り |
| 5 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 5 | 5 | ギフチョウ観察 | 日帰り |
| 6 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | ギフチョウ観察 | 日帰り |
| 7 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 13 | 13 | 定例活動 | 日帰り |
| 8 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 13 | 13 | 自然観察会 | 日帰り |
| 9 | 4 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 13 | 13 | 自然観察会 | 日帰り |
| 10 | 4 | 3 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | 3 (3) | | 3 (3) | ナラ枯れが蒸散量に与える影響(今年度計画立案のための相談) | 赤津宿泊施設 |
| 11 | 4 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 12 | 4 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 13 | 4 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 枯死木を利用する菌類と昆虫の生態解明のための予備調査 | 日帰り |
| 14 | 4 | 1 | シデコブシの会 | | | | 29 | 29 | シデコブシの会 総会と見学コース散策 | 日帰り |
| 15 | 4 | 1 | 犬山市経済環境部環境課 | 4 | | | 21 | 25 | 「犬山の森」春のふれあい自然観察会 | 日帰り |
| 16 | 5 | 31 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | | 31 (31) | 31 (31) | インターン | 長期滞在者用宿舎 |
| 17 | 5 | 1 | 京都大学霊長類研究所 社会生態研究部門 社会進化的分野 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | 犬山研究林周辺に生息する食肉類の採食生態に関する基礎研究 | 日帰り |
| 18 | 5 | 1 | 京都大学霊長類研究所 社会生態研究部門 社会進化的分野 | 1 | | 1 (1) | | 2 (1) | 犬山研究林周辺に生息する食肉類の採食生態に関する基礎研究 | 日帰り |
| 19 | 5 | 2 | 京都大学霊長類研究所 社会生態研究部門 社会進化的分野 | 2 | | 2 (2) | | 4 (2) | 犬山研究林周辺に生息する食肉類の採食生態に関する基礎研究 | 日帰り |
| 20 | 5 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 21 | 5 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 葉を変形させる昆虫と菌類の生態解明 | 日帰り |
| 22 | 5 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 葉を変形させる昆虫と菌類の生態解明 | 日帰り |
| 23 | 5 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 葉を変形させる昆虫と菌類の生態解明 | 日帰り |
| 24 | 5 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 枯死木を利用する菌類と昆虫の生態解明 | 日帰り |
| 25 | 5 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 枯死木を利用する菌類と昆虫の生態解明 | 日帰り |
| 26 | 5 | 5 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | 5 (5) | | 5 (5) | ナラ枯れが蒸散量に与える影響(今年度計画立案のための相談) | 五位塚宿泊施設 |
| 27 | 5 | 2 | 東京大学生態水文学研究所 | 7 | 4 | 7 (2) | 22 | 40 (2) | 平成28年度利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会 | 日帰り |
| 28 | 5 | 1 | 公益財団法人ニッセイ緑の財団 | 1 | | | 4 | 5 | 森林育成に関する指導等 | 日帰り |
| 29 | 5 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 13 | 13 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 30 | 5 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 13 | 13 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 31 | 5 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 32 | 5 | 1 | シデコブシの会 | | | | 16 | 16 | シデコブシの会 春の植物調査会 | 日帰り |
| 33 | 5 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 34 | 5 | 1 | シデコブシの会 | | | | 4 | 4 | シデコブシの会 野鳥観察会の下見・打ち合わせ | 日帰り |
| 35 | 5 | 1 | シデコブシの会 | | | | 5 | 5 | シデコブシの会 中部水道企業団下見・打ち合わせ | 日帰り |
| 36 | 5 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 2 | | | | 2 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |

2016年度 全利用者 生態水文学研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|-----------------------------|-----|------------|----------|------------|------------|---|----------|
| 37 | 5 | 2 | 南山大学総合政策学部 | 11 | 32 (16) | 2 | 8 | 53 (16) | 総合政策学部学外体験プログラムA | 赤津宿泊施設 |
| 38 | 5 | 1 | 国立研究開発法人森林総合研究所関西支所 | 3 | | | | 3 | ナラ枯れ被害を受けた小流域の視察 | 日帰り |
| 39 | 6 | 30 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | | 30 (30) | 30 (30) | インターン | 長期滞在者用宿舎 |
| 40 | 6 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の採水計画立案のための視察 | 日帰り |
| 41 | 6 | 1 | 岐阜県恵みの森づくり推進課 | | | | 2 | 2 | 研究林の下見・視察 | 日帰り |
| 42 | 6 | 3 | 東京大学千葉演習林 | 12 | 72 | 24 | | 108 | 2016年度「ダムと森林」フィールドワーク | 赤津宿泊施設 |
| 43 | 6 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 44 | 6 | 5 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | 5 (5) | | 5 (5) | ナラ枯れが蒸散量に与える影響(今年度計画立案のための相談) | 五位塚宿泊施設 |
| 45 | 6 | 4 | 東京大学農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室 | 8 | 37 (4) | | | 45 (4) | 森林保全学実習・公開森林実習「森林と土砂と溪流の実習ー山から川に流れ出る土砂を測ろう」 | 赤津宿泊施設 |
| 46 | 6 | 1 | 大山研究林利用者協議会 | | | | 5 | 5 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 47 | 6 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 48 | 6 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 研究上の議論のため | 日帰り |
| 49 | 6 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 50 | 6 | 1 | 豊田森林組合総務課とよた森林学校事務局 | | | | 56 | 56 | とよた森林学校 森林セミナー | 日帰り |
| 51 | 6 | 2 | 京都大学農学研究科地域環境科学専攻森林生態学研究室 | 2 | | 6 | | 8 | ヒノキの更新特性からみたヒノキ広葉樹混交林が成立する要因の解明 | 赤津宿泊施設 |
| 52 | 6 | 1 | 生活協同組合コープあいち | | | | 4 | 4 | 森づくりの会 森の観察会 植生調査記録 | 日帰り |
| 53 | 6 | 1 | シデコブシの会 | | | | 15 | 15 | シデコブシの会 探鳥会 | 日帰り |
| 54 | 6 | 1 | 瀬戸市役所秘書課 | | | | 1 | 1 | 広報取材のため | 日帰り |
| 55 | 6 | 1 | 大山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 56 | 7 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 57 | 7 | 4 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | 1 | | 4 (4) | | 5 (4) | ナラ枯れが蒸散量に与える影響(今年度計画立案のための相談) | 五位塚宿泊施設 |
| 58 | 7 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 59 | 7 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 60 | 7 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 61 | 7 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水準備(塩ビ管の埋設) | 日帰り |
| 62 | 7 | 1 | 大山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 63 | 7 | 1 | 大山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 64 | 7 | 1 | 岡崎市環境部環境総務課 | 1 | | | 8 | 9 | 岡崎市水循環推進協議会事務局職員の現地視察 | 日帰り |
| 65 | 7 | 1 | シデコブシの会 | | | | 10 | 10 | シデコブシの会 初夏の植物調査会 | 日帰り |
| 66 | 7 | 1 | 恵みの森づくりコンソーシアム | | | | 21 | 21 | 恵みの森づくりコンソーシアム第17回勉強会 | 日帰り |
| 67 | 7 | 3 | 京都大学農学研究科地域環境科学専攻森林生態学研究室 | 6 | 3 | 3 | | 12 | ヒノキの更新特性からみたヒノキ広葉樹混交林が成立する要因の解明 | 赤津宿泊施設 |
| 68 | 7 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 69 | 7 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 70 | 7 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 71 | 7 | 1 | 瀬戸市立幡山中学校 | | | | 2 | 2 | 瀬戸社会科研究会フィールドワーク下見 | 日帰り |
| 72 | 8 | 4 | 信州大学総合理工学研究科高橋研究室 | | | 4 | | 4 | 標高傾度に応じた植物群集の機能的多様性の変化と脆弱性の評価 | 赤津宿泊施設 |
| 73 | 8 | 2 | 京都大学農学研究科地域環境科学専攻森林生態学研究室 | 2 | | 4 | | 6 | ヒノキの更新特性からみたヒノキ広葉樹混交林が成立する要因の解明 | 赤津宿泊施設 |
| 74 | 8 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 75 | 8 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 葉を変形させる昆虫と菌類の生態解明 | 日帰り |

2016年度 全利用者 生態水文学研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|---------------------------------------|-----|------------|----------|-----|------------|------------------------------|---------|
| 76 | 8 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 8 | 8 | 選木 | 日帰り |
| 77 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 生圏システム学専攻 森圏管理学研究室 | | | 1 | | 1 | 房総半島に隔離分布するアサダの保全遺伝 | 日帰り |
| 78 | 8 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | | | 2 | | 2 | 枯死木を利用する菌類と昆虫の生態解明 | 日帰り |
| 79 | 8 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 80 | 8 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 8 | 8 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 81 | 8 | 1 | シデコブシの会 | | | | 5 | 5 | シデコブシの会 中部水道企業団見学の準備 | 日帰り |
| 82 | 8 | 1 | 愛知中部水道企業団 | | | | 65 | 65 | 「水」をテーマにした親子体験教室 | 日帰り |
| 83 | 8 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 84 | 8 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 85 | 8 | 3 | 京都大学農学研究科地域環境科学専攻森林生態学研究室 | 3 | 3 | 9 | | 15 | 樹木の形質多様性の広域的評価 | 赤津宿泊施設 |
| 86 | 8 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 87 | 8 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 森林科学専攻・森林理水及び砂防工学研究室 | 10 | 40 | 3 | | 53 | 測量学実習 | 赤津宿泊施設 |
| 88 | 8 | 1 | 瀬戸市小中学校社会科研究会(瀬戸市光陵中学校) | 48 | | | 3 | 51 | 瀬戸市小中学校社会科研究会フィールドワーク | 日帰り |
| 89 | 8 | 2 | 日本陸水学会東海支部会 | 6 | 7 | 3 | 20 | 36 | 日本陸水学会東海支部会見学会 | 赤津宿泊施設 |
| 90 | 9 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 91 | 9 | 1 | 瀬戸市役所市民生活部環境課 | | | | 26 | 26 | せと環境塾2016「サイエンスキャンプin 東大演習林」 | 日帰り |
| 92 | 9 | 1 | 千葉大学園芸学研究科庭園デザイン学研究室 | | | 1 | | 1 | 修士研究のための参考としての見学 | 日帰り |
| 93 | 9 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 94 | 9 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 95 | 9 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 96 | 9 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 97 | 9 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 98 | 9 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 99 | 9 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 100 | 9 | 4 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | ナラ枯れが蒸散量に与える影響(計画立案のための資料収集) | 五位塚宿泊施設 |
| 101 | 10 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 102 | 10 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 103 | 10 | 2 | 東京大学附属演習林生態水文学研究所 | 6 | 2 | | | 8 | 研究打ち合わせ、研究林見学 | 赤津宿泊施設 |
| 104 | 10 | 2 | 東京大学農学部農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 42 | | | | 42 | 平成28年度技術職員等試験・研究研修会 | 赤津宿泊施設 |
| 105 | 10 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 106 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 107 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 9 | 9 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 108 | 10 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 109 | 10 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 枯死木を利用する菌類と昆虫の生態解明 | 日帰り |
| 110 | 10 | 1 | 一般社団法人日本環境アセスメント協会中部支部事務局 | | | | 20 | 20 | 平成28年度JEAS中部支部野外セミナー | 日帰り |
| 111 | 10 | 3 | 東京大学附属演習林生態水文学研究所 | 3 | 15 (15) | | | 18 (15) | SAUFC post congress tour | 赤津宿泊施設 |
| 112 | 10 | 1 | シデコブシの会 | | | | 3 | 3 | シデコブシの会 野鳥に関する講演会 | 日帰り |
| 113 | 10 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 8 | 8 | 間伐 | 日帰り |
| 114 | 10 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 115 | 11 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 総合科目の打ち合わせ | 日帰り |

2016年度 全利用者 生態水文学研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|---------------------------|-----|----|------------|-----|------------|----------------------------|---------|
| 116 | 11 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 117 | 11 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 枯死木を利用する菌類と昆虫の生態解明 | 日帰り |
| 118 | 11 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 119 | 11 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 120 | 11 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 121 | 11 | 2 | 東京大学生態水文学研究所 | 21 | | | | 21 | 森林GISフォーラム2016年ミニセミナーin愛知 | 赤津宿泊施設 |
| 122 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 123 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 「犬山の森」秋のふれあい自然観察会 | 日帰り |
| 124 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 125 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 犬山市民総合大学環境学部現地講義 下見 | 日帰り |
| 126 | 11 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 9 | 9 | 犬山市民総合大学環境学部現地講義 | 日帰り |
| 127 | 11 | 1 | 犬山市経済環境部環境課 | 2 | | | 24 | 26 | 「犬山の森」秋のふれあい自然観察会 | 日帰り |
| 128 | 11 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 8 | 8 | 間伐 | 日帰り |
| 129 | 11 | 1 | シデコブシの会 | | | | 8 | 8 | シデコブシの会 秋の植物調査会 | 日帰り |
| 130 | 11 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 131 | 11 | 1 | 犬山市経済環境部環境課 | 8 | | | 32 | 40 | 犬山市民総合大学環境学部現地講義 | 日帰り |
| 132 | 12 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 森林保護学研究分野 | 1 | | 2 | | 3 | 枯死木を利用する菌類と昆虫の生態解明 | 日帰り |
| 133 | 12 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 134 | 12 | 1 | 愛知県環境部自然環境課 | | | | 37 | 37 | あいち自然再生カレッジ第3回講義 | 日帰り |
| 135 | 12 | 1 | シデコブシの会 | | | | 12 | 12 | シデコブシの会 標石ツアー | 日帰り |
| 136 | 12 | 1 | 名古屋大学大学院生命農学研究科 | 1 | 38 | 1 | | 40 | 生物環境科学基盤実験実習 | 日帰り |
| 137 | 12 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 13 | 13 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 138 | 12 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 139 | 12 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 5 | 5 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 140 | 12 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 141 | 12 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 142 | 12 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 143 | 12 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 144 | 12 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 8 | 8 | 間伐 | 日帰り |
| 145 | 12 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 146 | 12 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 147 | 1 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 148 | 1 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 149 | 1 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 7 | 7 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 150 | 1 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 5 | 5 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 151 | 1 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 152 | 1 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 8 | 8 | 間伐 | 日帰り |
| 153 | 1 | 4 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | 4 (4) | | 4 (4) | 博士論文の発表資料作成のための相談 | 五位塚宿泊施設 |
| 154 | 1 | 1 | シデコブシの会 | | | | 6 | 6 | シデコブシの会 見学コース整備 | 日帰り |
| 155 | 1 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 156 | 2 | 22 | 東京大学農学生命科学研究科附属演習林 | | | 22 (22) | | 22 (22) | 博士論文作成のための相談 | 五位塚宿泊施設 |
| 157 | 2 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 158 | 2 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 科研・穴の宮表面流プロットのリター剥ぎ取り実験のため | 日帰り |
| 159 | 2 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 160 | 2 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 161 | 2 | 1 | 瀬戸市役所市民生活部環境課 | | | | 24 | 24 | せと環境塾(瀬戸市主催環境学習講座) | 日帰り |
| 162 | 2 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 163 | 2 | 1 | 猿投の森づくりの会 | | | | 8 | 8 | 間伐 | 日帰り |
| 164 | 2 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |

2016年度 全利用者 生態水文学研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|---|----|------------------------------------|-----|----|----|-----|----|-------------------------|---------|
| 165 | 2 | 2 | 東京大学教養学部 | 6 | 39 | | | 45 | 全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」 | 赤津宿泊施設 |
| 166 | 2 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 167 | 3 | 1 | 日本大学生物資源科学部 森林資源科学科森林生態 学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | ナラ枯れ枯死木からの呼吸量の試験的 測定 | 日帰り |
| 168 | 3 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 169 | 3 | 1 | シデコブシの会 | | | | 9 | 9 | シデコブシの会 定例会 | 日帰り |
| 170 | 3 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 6 | 6 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 171 | 3 | 2 | 東京大学千葉演習林 | 2 | | | | 2 | 業務打ち合わせ | 五位塚宿泊施設 |
| 172 | 3 | 1 | 東京大学千葉演習林 | 1 | | | | 1 | 豊田市受託プロジェクト実施のため | 日帰り |
| 173 | 3 | 1 | 金城学院大学薬学部薬学 科 | 1 | | | | 1 | 平成28年度の水質調査のための採水 | 日帰り |
| 174 | 3 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |
| 175 | 3 | 1 | 愛知県立一宮南高等学校 | 3 | | | | 3 | 赤津研究林の長期生態系プロットの視 察 | 日帰り |
| 176 | 3 | 1 | 犬山研究林利用者協議会 | | | | 4 | 4 | 定例自主活動 | 日帰り |

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 1713

利用件数 176

2016年度 全利用者 富士癒しの森研究所

演習林名:富士癒しの森研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|------------------------------------|----------|----|----|----------|------------|---|--------------|
| 1 | 4 | 1 | 八幡幼稚園 | | | | 4 | 4 | 7月利用の現地下見 | 日帰り |
| 2 | 4 | 1 | NPO法人アースバウンダー | | | | 6 | 6 | 山中湖村宿泊施設に滞在する中学生を対象とした環境教育プログラム実施準備のため | 日帰り |
| 3 | 4 | 1 | NPO法人アースバウンダー | | | | 6 | 6 | 山中湖村宿泊施設に滞在する中学生を対象とした環境教育プログラム実施準備のため | 日帰り |
| 4 | 4 | 1 | NPO法人アースバウンダー | 8 | | | 79 | 87 | 山中湖村宿泊施設に滞在する中学生を対象とした環境教育プログラム実施 | 日帰り |
| 5 | 4 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 4 | | | | 4 | LTERの樹木番号札付け替えおよび染色実験 | 外部宿泊施設 |
| 6 | 4 | 1 | 渋谷区教育委員会事務局 | | | | 24 | 24 | 渋谷区立小学校教職員が移動教室の実地踏査を行うため | 日帰り |
| 7 | 4 | 1 | 山中湖村役場 | 11 | | | | 11 | 演習林の見学および職員との懇談 | 日帰り |
| 8 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 1 | | | 3 | 4 | 山中湖村たて道プロジェクト打合せ | 日帰り |
| 9 | 4 | 1 | NPO法人アースバウンダー | 4 | | | 1 | 5 | 山中湖村宿泊施設に滞在する小学生を対象とした環境教育プログラム実施のための下見 | 日帰り |
| 10 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 5 | | | 4 | 9 | 春の特別ガイド「春の彩りを訪ねて」 | 日帰り |
| 11 | 4 | 1 | コラボリズム | | | | 10 | 10 | リラクゼーションを目的とするYinYOGAを提供する。 | 日帰り |
| 12 | 4 | 1 | 東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科 治山・緑化学研究室 | | 4 | | | 4 | 2林班・3林班の境の老齢カラマツ林にて、プロット作成・成長錘の使用・樹木の位置付けを行います。 | 日帰り |
| 13 | 4 | 1 | NPO法人アースバウンダー | | | | 9 | 9 | 山中湖村宿泊施設に滞在する中学生を対象とした環境教育プログラム実施準備のため | 日帰り |
| 14 | 4 | 1 | NPO法人アースバウンダー | | | | 9 | 9 | 山中湖村宿泊施設に滞在する中学生を対象とした環境教育プログラム実施準備のため | 日帰り |
| 15 | 4 | 1 | NPO法人アースバウンダー | 8 | | | 179 | 187 | 山中湖村宿泊施設に滞在する中学生を対象とした環境教育プログラム実施 | 日帰り |
| 16 | 5 | 1 | ドッグリゾート ワフ | 4 | | | 35 | 39 | 湖畔への通行・横断 | 外部宿泊施設 |
| 17 | 5 | 1 | 目黒星美学園小学校 | 4 | | | | 4 | 6月利用予定の実地踏査 | 日帰り |
| 18 | 5 | 1 | ガールスカウト東京都連盟 成人活動グループ ほほえみの会 | | | | 7 | 7 | ガールスカウトの学びの場として利用予定地の現地下見 | 日帰り |
| 19 | 5 | 1 | ドッグリゾート ワフ | 4 | | | 38 | 42 | 湖畔への通行・横断 | 外部宿泊施設 |
| 20 | 5 | 1 | ドッグリゾート ワフ | 4 | | | 34 | 38 | 湖畔への通行・横断 | 外部宿泊施設 |
| 21 | 5 | 1 | ドッグリゾート ワフ | | | | 34 | 34 | 湖畔への通行・横断 | 外部宿泊施設 |
| 22 | 5 | 1 | (株)シュリンクス | | | | 1 | 1 | 山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査 | 日帰り |
| 23 | 5 | 1 | 安田学園中学校 | 2 | | | 1 | 3 | 演習林の自然観察 | 日帰り |
| 24 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 1 | | 5 | | 6 | 森林生態圏管理学特論 | 日帰り |
| 25 | 5 | 1 | (国研)物質・材料研究機構 材料信頼性評価ユニット 腐食研究グループ | 9 (8) | | | 3 (2) | 12 (10) | 山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査 | 日帰り |
| 26 | 5 | 1 | 神奈川県立生命の星・地球博物館 | | | | 4 | 4 | 演習林内における菌類観察会の下見 | 日帰り |
| 27 | 5 | 3 | 山中湖村役場 | | | | 11823 | 11823 | 第36回スポニチ山中湖ロードレース大会に伴う参観者の利用スペース | 日帰り |
| 28 | 5 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 13 | | | | 13 | 演習林基盤データ整備委員会生物部門鳥類 鳥類調査及び担当者会議 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 29 | 5 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科・自然環境学専攻 | 4 | | 3 | 1 | 8 | 国際会議Sense of Globe Conference2016エクスカージョン | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 30 | 5 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 16 | | | | 16 | 富士癒しの森講義室お披露目会 | 日帰り |

2016年度 全利用者 富士癒しの森研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|---|-----|----|-------|-----|-------|--|--------------|
| 31 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 10 | | | | 10 | 演習林基盤データ整備委員会生物部門鳥類 鳥類調査及び担当者会議 | 日帰り |
| 32 | 6 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科・自然環境学専攻 | 4 | | 3 | 1 | 8 | 国際会議Sense of Globe Conference2016エクスカージョン | 日帰り |
| 33 | 6 | 1 | 東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科 治山・緑化学研究室 | | | 1 | | 1 | 2林班10小班の老齡カラマツ林にて、センサーの取り付け・バッテリーとボルトの配置を行います。 | 日帰り |
| 34 | 6 | 1 | ドッグリゾート ワフ | 5 | | | 39 | 44 | 湖畔への通行・横断 | 外部宿泊施設 |
| 35 | 6 | 1 | 渋谷区立長谷戸小学校 | 4 | | | 21 | 25 | 山中湖畔の見学・散策 | 外部宿泊施設 |
| 36 | 6 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 6 | 30 | 3 | | 39 | フィールド科学専修 森圏管理学実験 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 37 | 6 | 1 | NPO法人アースバウンダー | | | | 1 | 1 | 山中湖村宿泊施設に滞在する小学生を対象とした環境教育プログラム実施のための下見 | 日帰り |
| 38 | 6 | 1 | NPO法人アースバウンダー | 20 | | | 125 | 145 | 山中湖村宿泊施設に滞在する小学生を対象とした環境教育プログラム実施 | 日帰り |
| 39 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 6 | 6 | フットパス勉強会 | 日帰り |
| 40 | 6 | 2 | 神奈川県立生命の星・地球博物館 | 16 | 8 | 2 | 76 | 102 | 日本菌学会関東支部菌類観察会の実施 | 外部宿泊施設 |
| 41 | 6 | 2 | 目黒星美学園小学校 | 22 | | | 204 | 226 | 教育活動 林内散策 | 外部宿泊施設 |
| 42 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | 1 | 2 | 2 | | 5 | 農学部4年「環境設計演習」における現地実習 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 43 | 6 | 1 | 神奈川大学理学部 | 1 | | | | 1 | シラビソの水分収支・光合成特性についての成木と稚樹の比較 | 日帰り |
| 44 | 6 | 1 | 山中まちづくり委員会 | | | | 19 | 19 | 梁尻通りのベンチ等設置に関する話し合いのため | 日帰り |
| 45 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 12 | 12 | 富士癒しの森講義室地域向け内覧会 | 日帰り |
| 46 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 2 | | | | 2 | 癒しの森プロジェクト研究会 | 日帰り |
| 47 | 7 | 1 | (国研)物質・材料研究機構材料信頼性評価ユニット腐食研究グループ | 1 | | | | 1 | 山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査 | 日帰り |
| 48 | 7 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 49 | 7 | 1 | 東京大学法学部第2類 | | 6 | | | 6 | 東大馬術部合宿下見 | 日帰り |
| 50 | 7 | 2 | 丸山幼稚園 | 32 | | | 151 | 183 | 休憩・昼食・散策 | 外部宿泊施設 |
| 51 | 7 | 2 | 八幡幼稚園 | 36 | | | 128 | 164 | 夏季宿泊保育に伴い湖畔の自然に触れる体験学習 | 外部宿泊施設 |
| 52 | 7 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 6 | 6 | フットパス勉強会 | 日帰り |
| 53 | 7 | 1 | 串原へポ愛好会 | | | | 6 | 6 | クロスズメバチ類の採捕 | 日帰り |
| 54 | 7 | 2 | 立教大学文学部 | 4 | | | 6 | 10 | クロスズメバチ類の採捕 | 富士山中宿泊施設 |
| 55 | 7 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 56 | 7 | 1 | 千葉県森林インストラクター会 | | | | 5 | 5 | 野外講座のルート探査 | 日帰り |
| 57 | 7 | 5 | Graduate School of Environment Engineering and Water Resource Management (ENGEES), Strasbourg, France | | | 5 (5) | | 5 (5) | 山地・森林流域保全に関するインターンシップ | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 58 | 7 | 1 | 月江寺幼稚園 | 5 | | | 42 | 47 | 休憩と散策 | 日帰り |
| 59 | 7 | 1 | NPO法人アースバウンダー | 3 | | | 1 | 4 | 山中湖村宿泊施設に滞在する小学生を対象とした環境教育プログラム実施のための下見 | 日帰り |
| 60 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 14 | 30 | | | 44 | 全学体験ゼミ「癒しの森を創る(夏)」 | 山中寮内藤セミナーハウス |

2016年度 全利用者 富士癒しの森研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--------------------------------|-----|-----|------------|-----|------------|--|--------------|
| 61 | 7 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 62 | 7 | 1 | ボーイスカウト富士吉田2団 | | | | 14 | 14 | ボーイスカウト夏季訓練でのイカダ作りとイカダ出艇 | 外部宿泊施設 |
| 63 | 8 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 8 | | 8 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 64 | 8 | 1 | ボーイスカウト富士吉田2団 | | | | 14 | 14 | ボーイスカウト夏季訓練でのイカダ作りとイカダ出艇 | 日帰り |
| 65 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室 | 6 | 36 | 15 | | 57 | 森林動物学実験 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 66 | 8 | 1 | やまなし木質バイオマス協議会 | | | | 37 | 37 | 木質バイオマス利用に関する見学、意見交換 | 日帰り |
| 67 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 4 | | | | 4 | LTERの樹木位置図作成 | 外部宿泊施設 |
| 68 | 8 | 18 | 東京大学法学部第2類 | | 252 | | | 252 | 馬術部夏季合宿 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 69 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 10 | | 2 | | 12 | 自然エネルギー科研の研究打合せおよび施設見学 | 外部宿泊施設 |
| 70 | 8 | 8 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 8 | | 8 | 山中湖村における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 71 | 8 | 1 | 聖ヨゼフ学園小学校 | 4 | | | | 4 | 現地地下見 | 日帰り |
| 72 | 8 | 1 | 御殿場市立御殿場小学校 | 6 | | | 1 | 7 | 富士山学習、環境学習推進の参考にするため | 日帰り |
| 73 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 11 | 11 | 癒しの森講義室協議会 | 日帰り |
| 74 | 8 | 1 | 東京大学空間情報科学研究センター | 7 | | | | 7 | 科研「インターネット森林観察サイト拡充による自然学習授業案の開発」のための校外学習打ち合わせ | 日帰り |
| 75 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 4 | | | | 4 | 寒地性樹種育成試験地の毎木調査 | 外部宿泊施設 |
| 76 | 9 | 2 | 東京大学空間情報科学研究センター | 2 | | | 2 | 4 | 科研「インターネット森林観察サイト拡充による自然学習授業案の開発」のための機材加工 | 外部宿泊施設 |
| 77 | 9 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 4 | 4 | | | 8 | 学生の体験活動プログラム「癒しの森の森林管理」 | 外部宿泊施設 |
| 78 | 9 | 1 | 千葉県森林インストラクター会 | | | | 2 | 2 | NHK森に親しもう講座のための下見 | 日帰り |
| 79 | 9 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 6 | | 6 | 山中湖村における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 80 | 9 | 1 | 渋谷区立常盤松小学校 | 6 | | | 18 | 24 | 自然観察 | 外部宿泊施設 |
| 81 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻 | 1 | | | | 1 | カラマツおよびヒコサンヒメシヤラの葉の採取 | 日帰り |
| 82 | 9 | 4 | 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 | 52 | 208 | | | 260 | 工学部社会基盤学科の必修授業「フィールド演習」の対象地として利用 | 富士山中宿泊施設 |
| 83 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 11 | 11 | 第2回「癒しの森の植生調査隊」 | 日帰り |
| 84 | 9 | 1 | 東京大学農学部森林環境資源科学専修 | 3 | 6 | 5 | | 14 | レクリエーションの一環としての歩道散策 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 85 | 9 | 1 | 東京大学空間情報科学研究センター | 7 | | | | 7 | 科研「インターネット森林観察サイト拡充による自然学習授業案の開発」のための校外学習打ち合わせ | 日帰り |
| 86 | 9 | 1 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科・自然環境学専攻 | 1 | | | | 1 | インターネット森林観察サイトのメンテナンス、および竜王小学校下見同行 | 日帰り |
| 87 | 9 | 1 | 森林総合研究所多摩森林科学園教育的資源研究グループ | 1 | | | | 1 | 第2回「癒しの森の植生調査隊」における植生調査活動ビデオ記録収集 | 日帰り |
| 88 | 9 | 5 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科・自然環境学専攻 | 20 | | 55 (15) | | 75 (15) | 大学院講義「自然環境デザインスタジオ」 | 山中寮内藤セミナーハウス |

2016年度 全利用者 富士癒しの森研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|--------------------------------|------------|----------|------------|-----|------------|---|--------------|
| 89 | 9 | 1 | 茨城大学理学部 | 1 | 1 | 1 | | 3 | 茨城大学生命環境科学研究科 大気科学野外実験 | 外部宿泊施設 |
| 90 | 9 | 1 | 茨城大学理学部 | 1 | 1 | 1 | | 3 | 茨城大学生命環境科学研究科 大気科学野外実験 | 日帰り |
| 91 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 4 | 4 | 第2回癒しの森の植生調査隊追加調査 | 日帰り |
| 92 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 30 | | | 11 | 41 | 特別ガイド「キノコに親しむ」 | 日帰り |
| 93 | 10 | 9 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 9 | | 9 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 94 | 10 | 1 | 東京大学空間情報科学研究センター | 6 | | | 73 | 79 | 科研「インターネット森林観察サイト拡充による自然学習授業案の開発」のための校外学習 | 日帰り |
| 95 | 10 | 1 | 聖ヨゼフ学園小学校 | 4 | | | 67 | 71 | 体験学習レクリエーション | 外部宿泊施設 |
| 96 | 10 | 2 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科・自然環境学専攻 | 4 | | 4 | 2 | 10 | インターネット森林観察サイトのメンテナンス、および竜王小学校訪問準備・同行 | 外部宿泊施設 |
| 97 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | 4 (4) | | | 4 (4) | JASSOプログラムによる国立台湾大学学生のエクスカージョン | 日帰り |
| 98 | 10 | 1 | NPO法人アースバウンダー | 8 | | | 44 | 52 | 山中湖村宿泊施設に滞在する小学生を対象とした環境教育プログラム実施 | 日帰り |
| 99 | 10 | 1 | 串原ヘボ愛好会 | | | | 10 | 10 | クロスズメバチ類の採捕 | 日帰り |
| 100 | 10 | 3 | 岐阜県立恵那農業高等学校 | 6 | | | 12 | 18 | ゼミ参加及びクロスズメバチの調査 | 富士山中宿泊施設 |
| 101 | 10 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 12 | 40 | | | 52 | 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 102 | 10 | 1 | 東京大学アジア生物資源環境研究センター | 10 (不明) | | 17 (不明) | | 27 (19) | 環境調和特別演習「農林畜水産業と環境負荷」及び「農林水畜産業と生態系攪乱」での見学 | 日帰り |
| 103 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 3 | | 3 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 104 | 10 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 警察犬訓練 | 日帰り |
| 105 | 10 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 警察犬訓練 | 日帰り |
| 106 | 11 | 1 | NPO法人アースバウンダー | 10 | | | 134 | 144 | 山中湖村宿泊施設に滞在する中学生を対象とした環境教育プログラム実施 | 日帰り |
| 107 | 11 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 6 | | 6 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 富士山中宿泊施設 |
| 108 | 11 | 1 | 千葉県森林インストラクター会 | | | | 24 | 24 | 「NHK森に親しもう講座」による演習林散策 | 日帰り |
| 109 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 4 | 4 | 講義室打合せ | 日帰り |
| 110 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 7 | 7 | フットパス勉強会 | 日帰り |
| 111 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 2 | | 1 | | 3 | 大学院講義「森林圏管理システム学」 | 日帰り |
| 112 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 腐朽病害調査 | 日帰り |
| 113 | 11 | 2 | 三菱総合研究所 プラチナ社会センター | 8 | | | 32 | 40 | プラチナ社会研究会 森林ビジネス分科会 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 114 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター | 1 | | | | 1 | エゾマツにおけるコンテナ苗と裸苗の活着比較 | 日帰り |
| 115 | 11 | 1 | ドッグリゾート ワフ | 3 | | | 32 | 35 | 湖畔への通行・横断 | 日帰り |
| 116 | 11 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 6 | 6 | 安全作業講習会 | 日帰り |
| 117 | 11 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 警察犬訓練 | 日帰り |
| 118 | 11 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 警察犬訓練 | 日帰り |
| 119 | 12 | 1 | 第一測量株式会社 | | | | 2 | 2 | 東京電力による樹木伐採申請に伴う調査測量業務 | 日帰り |
| 120 | 12 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 薪原木搬出 | 日帰り |

2016年度 全利用者 富士癒しの森研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|-----|----|----|---------------------------------|-----------|----|----------|-----|-----------|---|--------------|
| 121 | 12 | 1 | 個人 | | | | 3 | 3 | 薪原木搬出 | 日帰り |
| 122 | 12 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 薪原木搬出 | 日帰り |
| 123 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 12 | | 14 | | 26 | 全学体験ゼミナール「癒しの森を創る(冬)」 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 124 | 12 | 1 | 第一測量株式会社 | | | | 2 | 2 | 東京電力による樹木伐採申請に伴う調査測量業務 | 日帰り |
| 125 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 8 | 4 | | | 12 | 全学体験ゼミナール「森林の魅力をマッピング～GPSを使ったオリジナル地図づくり」 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 126 | 12 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 薪原木搬出 | 日帰り |
| 127 | 12 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 薪原木搬出 | 日帰り |
| 128 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 6 (2) | 4 | 4 (2) | | 14 (4) | 学生の体験活動プログラム「癒しの森の森林管理」 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 129 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | | | | 13 | 13 | 安全作業講習会(第2回) | 日帰り |
| 130 | 12 | 1 | ドッグリゾート ワフ | 3 | | | 33 | 36 | 湖畔への通行・横断 | 外部宿泊施設 |
| 131 | 1 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科 | | | 2 | | 2 | リゾート地域における薪ストーブの利用実態と森林利用の関係性の検討 | 外部宿泊施設 |
| 132 | 1 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 4 | | | 4 | 8 | 富士癒しの森講義室の共同管理に向けた話し合い | 日帰り |
| 133 | 1 | 1 | 高知工科大学 | | | | 1 | 1 | ハリモミ見学 | 日帰り |
| 134 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 28 | | | | 28 | 特別ガイド「冬のさんぽみち」 | 日帰り |
| 135 | 2 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科・フィールド研究支援研究室 | 2 | | | | 2 | 講義室の見学と利用打合わせ、2林班の視察 | 日帰り |
| 136 | 2 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 9 | 27 | | | 36 | 全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」 | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 137 | 2 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部 | 28 (2) | | | | 28 (2) | 平成28年度 東京大学教室系技術職員研修 -地理情報とデジタル画像を活用した魅力的なマップづくり- | 山中寮内藤セミナーハウス |
| 138 | 2 | 1 | (国研)物質・材料研究機構 構造材料研究拠点 腐食特性グループ | 1 | | | | 1 | 山間部あるいは森林地帯での金属材料の腐食挙動調査 | 日帰り |
| 139 | 3 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 薪原木搬出 | 日帰り |
| 140 | 3 | 1 | 個人 | | | | 2 | 2 | 薪原木搬出 | 日帰り |
| 141 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所 | 5 | | | 6 | 11 | 富士癒しの森講義室の共同管理に向けた話し合い | 日帰り |
| 142 | 3 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 2 | | | | 2 | 研究打合せ | 外部宿泊施設 |
| 143 | 3 | 1 | 第一測量株式会社 | | | | 3 | 3 | 東京電力による樹木伐採申請に伴う調査測量業務 | 日帰り |
| 144 | 3 | 1 | 株式会社キューアイ・マネージ | | | | 3 | 3 | ホースセラピー関連下見, 乗馬設備の見学 | 日帰り |

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 15328

利用件数 144

演習林名:樹芸研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|--|-----|----|----|-----|----|---|-----------|
| 1 | 4 | 1 | エネルギー総合工学研究所プロジェクト試験研究部 | | | | 3 | 3 | バイナリー発電に関する現地調査 | 日帰り |
| 2 | 4 | 1 | 一般 | | | | 2 | 2 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 3 | 4 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林 | 1 | | | | 1 | <i>Raffaella</i> 属菌の病原性発現機構の解明 | 日帰り |
| 4 | 4 | 1 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | 1 | | 2 | 3 | アブラギリに関する搾油・伐採に関する調査研究打ち合わせ | 日帰り |
| 5 | 5 | 1 | 一般 | | | | 1 | 1 | 水生昆虫(トンボ幼虫)の調査・研究 | 日帰り |
| 6 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 山地河道の水理特性解明に向けた調査 | 日帰り |
| 7 | 6 | 2 | 日本製紙株式会社研究開発本部アグリバイオ研究所 | 2 | | | | 2 | <i>E.sumithii</i> の挿し木増殖に関する打ち合わせと挿し穂採取 | 外部施設泊 |
| 8 | 6 | 1 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | 1 | | 1 | | 2 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群集の変化 | 日帰り |
| 9 | 6 | 1 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | 1 | | 1 | | 2 | 都市森林における生息哺乳類と種間関係 | 日帰り |
| 10 | 6 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻材料・住科学講座木材物理学研究室 | 1 | | 1 | | 2 | コウヨウザン板材の乾燥特性について | 日帰り |
| 11 | 6 | 1 | 神奈川工科大学応用バイオ科学部・応用バイオ科学科 | 1 | 1 | | | 2 | パラゴムノキのゴム合成酵素系の解明 | 日帰り |
| 12 | 7 | 2 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 4 | | 4 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群集の変化 | 外部施設泊 |
| 13 | 7 | 1 | 岐阜県森林組合連合会森林整備部 | | | | 3 | 3 | 森林生態系多様性基礎調査 | 日帰り |
| 14 | 7 | 2 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 4 | | 4 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群集の変化 | 外部施設泊 |
| 15 | 7 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻材料・住科学講座木材物理学研究室 | 4 | | 2 | | 6 | コウヨウザン板材の乾燥特性について | 外部施設泊 |
| 16 | 7 | 1 | 一般 | | | | 3 | 3 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 17 | 7 | 1 | 一般 | | | | 3 | 3 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 18 | 7 | 1 | 一般 | | | | 3 | 3 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 19 | 8 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 3 | | 3 | 都市森林における生息哺乳類と種間関係 | 外部施設泊 |
| 20 | 8 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 6 | | | 6 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | 加納事務所休憩施設 |
| 21 | 8 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 80 | | | 80 | 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ・1」 | スポーティア下賀茂 |
| 22 | 8 | 1 | 一般 | | | | 6 | 6 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 23 | 8 | 1 | 神奈川工科大学応用バイオ科学部・応用バイオ科学科 | | 1 | | | 1 | パラゴムノキのゴム合成酵素系の解明 | 日帰り |
| 24 | 8 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 山地河道の水理特性解明に向けた調査 | 日帰り |
| 25 | 8 | 2 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 2 | | 2 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群集の変化 | 外部施設泊 |
| 26 | 8 | 2 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 2 | | 2 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群集の変化 | 外部施設泊 |

2016年度 全利用者 樹芸研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|-----------------------------|-----|----|----|-----|-----|----------------------------|-----------|
| 27 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻材料 | | | 2 | | 2 | ユーカリ葉に含まれる抽出成分の分析とその機能解析 | 外部施設泊 |
| 28 | 8 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 6 | | | 6 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | 加納事務所休憩施設 |
| 29 | 8 | 2 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 26 | | | 26 | 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ・2」 | スポーティア下賀茂 |
| 30 | 9 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 9 | | | 9 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | スポーティア下賀茂 |
| 31 | 9 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 39 | | | 39 | 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ・2」 | スポーティア下賀茂 |
| 32 | 9 | 1 | 神奈川工科大学応用バイオ科学部・応用バイオ科学科 | | 1 | | | 1 | パラゴムノキのゴム合成酵素系の解明 | 日帰り |
| 33 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 国際開発農学専修の森林実習の下見 | 日帰り |
| 34 | 9 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | 12 | 92 | | | 104 | 森林実習 | スポーティア下賀茂 |
| 35 | 9 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 3 | | 3 | 都市森林における生息哺乳類と種間関係 | 外部施設泊 |
| 36 | 9 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | 山地河道の水理特性解明に向けた調査 | 日帰り |
| 37 | 9 | 2 | 筑波大学生命環境科学研究科 | | | 2 | | 2 | 伊豆諸島と伊豆半島のラン科植物の送粉様式、形態の比較 | 外部施設泊 |
| 38 | 9 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 45 | | | 45 | 全学体験ゼミナール「夏版伊豆に学ぶ・3」 | スポーティア下賀茂 |
| 39 | 9 | 1 | 神奈川工科大学応用バイオ科学部・応用バイオ科学科 | | 1 | | | 1 | パラゴムノキのゴム合成酵素系の解明 | 日帰り |
| 40 | 10 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 3 | | 3 | 都市森林における生息哺乳類と種間関係 | 外部施設泊 |
| 41 | 10 | 3 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 12 | | | 12 | 体験活動プログラム「南伊豆という地域との連携に学ぶ」 | 加納事務所休憩施設 |
| 42 | 10 | 2 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 2 | | 2 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群集の変化 | 外部施設泊 |
| 43 | 10 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | 3 | | | 22 | 25 | 公開講座「チョコレートつくりを体験しよう」 | 日帰り |
| 44 | 10 | 2 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 6 | 6 | ニホンアブラギリ・シナアブラギリの実採取および搾油 | 外部施設泊 |
| 45 | 11 | 1 | 一般 | | | | 2 | 2 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 46 | 11 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 | | | 3 | | 3 | 都市森林における生息哺乳類と種間関係 | 外部施設泊 |
| 47 | 11 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 48 | 11 | 1 | 一般 | | | | 5 | 5 | 狩猟 | 日帰り |
| 49 | 11 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 50 | 12 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | | | 16 | 16 | 公開講座「林業遺産・岩樟園クスノキ林見学会」 | 日帰り |
| 51 | 12 | 2 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 6 | 6 | ニホンアブラギリ・シナアブラギリの実採取および搾油 | 外部施設泊 |
| 52 | 12 | 1 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 3 | 3 | アブラギリ・ツバキ・エゴノキの搬出および見学 | 日帰り |
| 53 | 12 | 1 | 神奈川工科大学応用バイオ科学部・応用バイオ科学科 | | 1 | | | 1 | パラゴムノキのゴム合成酵素系の解明 | 日帰り |

2016年度 全利用者 樹芸研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|----|----|---------------------------------------|----------|-----|----|-----|----------|------------------------------------|-------------------|
| 54 | 12 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 55 | 12 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学 府 環境リスクマネジメント専 攻 | | | 3 | | 3 | 都市森林における生息哺乳類と種間関 係 | 外部施設泊 |
| 56 | 12 | 2 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林企 画部 | 2 | | | | 2 | 4-5林班長期生態系プロットにおけるカ シナガ穿入調査 | 外部施設泊 |
| 57 | 12 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 58 | 12 | 3 | 一般 | | | | 15 | 15 | 狩猟 | 日帰り |
| 59 | 12 | 1 | 一般 | | | | 2 | 2 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 60 | 12 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 61 | 1 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 62 | 1 | 3 | 一般 | | | | 15 | 15 | 狩猟 | 日帰り |
| 63 | 1 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 64 | 1 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 65 | 1 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学 府 環境リスクマネジメント専 攻 | | | 3 | | 3 | 都市森林における生息哺乳類と種間関 係 | 外部施設泊 |
| 66 | 1 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学 府 環境リスクマネジメント専 攻 | | | 3 | | 3 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群 集の変化 | 外部施設泊 |
| 67 | 1 | 3 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林教 育研究センター | 9 (3) | | | | 9 (3) | 樹芸研究所の教養学部体験ゼミナール 実習の視察 | 外部施設泊 |
| 68 | 1 | 1 | 一般 | | | | 2 | 2 | 炭焼き見学 | 日帰り |
| 69 | 1 | 5 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 13 | | | 13 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶ プラス」 | 加納事務所休憩 施設 |
| 70 | 1 | 4 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 68 | | | 68 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶー熱 帯植物編ー」 | スポーティア下 賀茂 |
| 71 | 1 | 1 | 一般 | | | | 2 | 2 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 72 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 3 | | | 3 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶ プラス」 | 前月より利用(利 用終了日) |
| 73 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 17 | | | 17 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶー熱 帯植物編ー」 | 前月より利用(利 用終了日) |
| 74 | 2 | 2 | 一般 | | | | 10 | 10 | 狩猟 | 日帰り |
| 75 | 2 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林秩 父演習林 | 1 | | | | 1 | 山地河道の水理特性解明に向けた調 査 | 日帰り |
| 76 | 2 | 6 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 15 | | | 15 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶ プラス」 | 加納事務所休憩 施設 |
| 77 | 2 | 5 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 115 | | | 115 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ1」 | スポーティア下 賀茂 |
| 78 | 2 | 3 | 横浜国立大学 環境情報学 府 環境リスクマネジメント専 攻 | | | 3 | | 3 | 森林の特性に伴う枯死木依存性甲虫群 集の変化 | 外部施設泊 |
| 79 | 2 | 1 | 東京農業大学地域環境科 学部森林総合科学科造林 学教室 | 1 | 3 | | | 4 | クスノキ人工林内の環境条件が下層木 および天然更新に及ぼす影響 | 日帰り |
| 80 | 2 | 8 | 伝統工芸木炭生産技術保 存会 | | 8 | | 8 | 16 | Iターン研修 | 外部施設泊 |
| 81 | 2 | 5 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 15 | | | 15 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶ プラス」 | 加納事務所休憩 施設 |
| 82 | 2 | 4 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 100 | | | 100 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ2」 | スポーティア下 賀茂 |
| 83 | 2 | 1 | 一般 | | | | 6 | 6 | 温室植物見学 | 日帰り |
| 84 | 3 | 3 | 伝統工芸木炭生産技術保 存会 | | 3 | | 3 | 6 | Iターン研修 | 外部施設泊 |
| 85 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命 科学研究科附属演習林樹 芸研究所 | | 3 | | | 3 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶ プラス」 | 前月より利用(利 用終了日) |

2016年度 全利用者 樹芸研究所

| No | 月 | 日数 | 利用者所属 | 教職員 | 学生 | 院生 | その他 | 計 | 利用目的 | 宿泊施設 |
|----|---|----|----------------------------|-----|----|----|-----|----|-----------------------------|---------------|
| 86 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 25 | | | 25 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ2」 | 前月より利用(利用終了日) |
| 87 | 3 | 1 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林 | 1 | | | | 1 | クスノキ林土壌微生物相とニホンジカ植生に関する予備調査 | 日帰り |
| 88 | 3 | 6 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 12 | | | 12 | 全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」 | 加納事務所休憩施設 |
| 89 | 3 | 5 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 68 | | | 68 | 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ3」 | スポーティア下賀茂 |
| 90 | 3 | 1 | 伝統工芸木炭生産技術保存会 | | | | 2 | 2 | アブラギリ他来年度事業打合せ | 日帰り |
| 91 | 3 | 4 | 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所 | | 12 | | | 12 | 体験活動プログラム「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」 | 加納事務所休憩施設 |
| 92 | 3 | 1 | 一般 | | | | 9 | 9 | 温室植物見学 | 日帰り |

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 1132

利用件数 92

■各演習林所在地および連絡先■

企画部・教育研究センター

〒113-8657
東京都文京区弥生1-1-1
電話 03-5841-5497
FAX 03-5841-5494

千葉演習林

〒299-5503
千葉県鴨川市天津770
電話 04-7094-0621
FAX 04-7094-2321

清澄作業所

〒299-5505
千葉県鴨川市清澄135
電話 04-7094-0585

札郷作業所

〒292-0537
千葉県君津市黄和田畑字前沢1442-1
電話 0439-39-3122

郷台作業所

〒292-0533
千葉県君津市折木沢字相ノ沢
電話 0439-39-3121

北海道演習林

〒079-1563
北海道富良野市山部東町9番61号
電話 0167-42-2111
FAX 0167-42-2689

山部樹木園

〒079-1582
北海道富良野市字山部第一苗圃
電話 0167-39-6017

セミナーハウス

〒076-0161
北海道富良野市字麓郷市街地1
電話 080-6066-8234

田無演習林

〒188-0002
東京都西東京市緑町1-1-8
電話 042-461-1528
FAX 042-461-2302

秩父演習林

〒368-0034
埼玉県秩父市日野田町1-1-49
電話 0494-22-0272
FAX 0494-23-9620

栃本作業所

〒369-1901
埼玉県秩父市大滝3450-2
電話 0494-55-0355
FAX 0494-55-0355

大血川作業所

〒369-1907
埼玉県秩父市大滝5198
電話 0494-54-1220

影森苗畑

〒369-1871
埼玉県秩父市大字下影森764
電話 0494-23-9768

生態水文学研究所

〒489-0031
愛知県瀬戸市五位塚町11-44
電話 0561-82-2371
FAX 0561-85-2838

赤津作業所

〒489-0014
愛知県瀬戸市北白坂町1-1
電話 0561-21-1185

犬山作業所

〒484-0094
愛知県犬山市塔野地字大畔178-2

富士癒しの森研究所

〒401-0501
山梨県南都留郡山中湖村山中341-2
電話 0555-62-0012
FAX 0555-62-4798

樹芸研究所

〒415-0304
静岡県賀茂郡南伊豆町加納457
電話 0558-62-0021
FAX 0558-62-3170

青野作業所

〒415-0327
静岡県賀茂郡南伊豆町青野851
電話 0558-62-0254

演習林年報

平成29年7月7日

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
文京区弥生1丁目1番1号

印刷・製本 明誠企画株式会社

